

事項三 リットン調査団の動向

1 昭和6年12月12日 幣原(喜重郎)外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長宛(電報)

調査委員会の調査範囲は満州のみならず中国
全般におよぶべき趣旨の徹底について

第三〇九号(暗)

十日ノ理事会ニ於テ支那理事ハ委員会ノ調査ノ範囲カ満州
ニ限ラルルヤノ趣旨ヲ述ヘ居リ(貴電第四七六号2ノD)参
照尚ホ右支那理事ノ所述ニ対シ何等反駁加ヘラレサリシモ
ノト諒解ス貴電第二八六号(一)ノ経緯モ御参照相成度(又九
日倫敦發電通ハ「サイモン」外相カ同日下院ニ於テ「連盟
ニテハ委員会ノ調査範囲ヲ満州ニ制限スルノ意向ヲ有ス
ル」旨述ヘタル趣ヲ報道シ居リ尚又西国発本大臣宛電報第
二八三号「レル」外相談話末尾ノ次第モアリ関係国側ニ何
等誤解アルニ非サト思考セラルル処本件委員会カ支那ノ
全般の事情ノ調査ヲ目的トスルモノナルコトハ(満州ハ支

那ノ一部トシテ調査セラル)我方カ該委員会ヲ提唱セル根
本義ニシテ連盟側ニ於テモ充分諒解シ居ルノ筈ナルノミナ
ラス右趣旨ハ決議ニモ明白ニ表示セラレ居ル所ナリ然ルニ
万々一関係国側ニ前記ノ如キ誤解存シ惹テ委員会ノ事業カ
事実上満州ノ調査ニ止ルモノナルニ於テハ啻ニ我方ハ連盟
側ニ欺瞞サレタルコトトナリ軍及国民憤激ノ結果委員会ノ
調査ノ円滑ヲ期シ得ヘキヤ疑ハシキノミナラス連盟トシテ
モ今次事件ヲ正解スル所以ニ非サルコト累次申進ノ通ナリ
從テ我方トシテハ委員会カ調査ヲ満州ニ限り又ハ満州ノミ
ヲ詳細ニ調査シ支那本部ハ形式的調査ニテ打切りトスルカ
如キコト(九月卅日決議モ事態不拡大ニ関スル約束ノ關係
上当然排日排貨問題ヲ含ムヲ以テ委員会ノ報告ハ如何ナル
場合ニ於テモ支那全般ノ形勢ニ及フコトヲ要ス)ハ到底承
認スルヲ得サル次第ナリ
就テハ貴地ニ於テハ目下引続キ本件委員会ノ構成等ニ付協

議中ノコトニモアリ此ノ際右ノ趣旨ヲ明瞭ニシ置カレ後日
ニ至リ重大ナル紛議ヲ醸ササル様ヲメ充分御手配置相成度
在欧各大使ニ転電アリ度
米、支、奉天、広東、北平ニ転電シ支ヨリ南京ヘ転報セシ
ム

2 昭和6年12月15日 在英松平大使より
犬養外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の調査範囲に関する英外相議會

答弁につき申入れについて

第五一七号(暗)

本使十日帰任後去ル九日議會ニ於テ外相カ一議員ノ質問ニ
応シ視察委員ノ調査満州ニ限ラルル意向ナリト答ヘタル議
事録ヲ見タルカ右ハ何等ノ誤解ニ基クモノト思考シ外相ニ
念ヲ押スコト必要ト認メ会見ヲ求メタルニ漸ク今十四日會
談ノ機会ヲ得タルニ付本使ハ該委員会ハ素々貴大臣ヨリ巴
里ニ於テ本使(ニ)話サレ支那全般ニ互ル調査トシ之ヲ五
大綱目協定ヨリ分離シテ行フコトヲ提唱セラレタルニ基キ
我方ニ於テモ之ニ同意シ而モ我方ヨリ之ヲ提議シタル次第
ニシテ此ノ点ハ我理事ヨリ「ブリアン」議長ニモ明カ(ニ)

通シタル所ニシテ何等疑無キ筈ナルニ拘ラス貴大臣ノ議會
ニ於ケル答弁ハ満州ニ限ラレ居ル(モノ)ノ如キ印象ヲ与
ヘ居ルハ何等誤解ニ基クモノト思ハルル旨述ヘタル処外相
ハ不審ノ面持ニテ右答弁ヲ為シタルコトハ充分記憶シ居ラ
サルモノノ如ク巴里ニ於テ本使ニ右様ノ話ヲ為シタルコト
ハ充分承知シ居レリトテ本使ノ提示シタル議事録ヲ見直ニ
「カドガン」ヲ呼寄セ尋ネタルカ「カドガン」亦右答弁ヲ
承知シ居ラス右ハ数多ノ書面ニ対シ係官カ電報等ニ依リ作
成シタルモノノ由ニテ満州ニ限リ居ラサルコトハ「カドガ
ン」ニ於テモ亦之ヲ認メ居リ全ク手違ニ基キタルモノト思
ハルル旨述ヘタルニ付本使ハ此点ハ我ニトリテハ重大ナル
点ニシテ万一右ノ如キ誤解アルニ於テハ由々シキ問題トナ
ルヘキニ付此ノ点ヲ明カニ諒解シ置カレ度キ旨述ヘタルニ
外相モ之ヲ首肯シ右間違ノ事実ハ更ニ取調フヘキ旨申シ居
リタリ

3 昭和6年12月16日 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

調査委員の顔触れおよび費用支出問題につい
て

第四八三号（暗、大至急）

一、十四日「アブノウル」（起草委員会用務ノ為当地ニ残留中）ヲ往訪シタル際同人ハ極メテ非公式ニ申上クル次第ナリト断ハリタル上起草委員会ニテハ目下ノ処支那調査委員ヲ大体左ノ如キ顔触ト為シ度キ意向ナル処右ニ対スル日本側ノ御意見ヲモ承知シ度ク出来得ヘクンハ本件明後日頃迄ニ決定シ度キ積リニ付至急東京ニ取次キ何分ノ回答ニ接シ度シト語レリ

英国 Lord Macmillan (Law Lord)

伊国 Schanzer (前外務大臣華盛頓會議第一全權)

米国 Hines (大戦中ノ米国鉄道「ゼネラルマネージャ」ニシテ戦後度々經濟問題ニ付連盟ノ調査委員ト成レリ)

独逸 von Schnee (前東亞弗利加總督ニシテ現独逸植民協會ノ首腦者ナリ)

仏国 General Guillaumat (前「ライン」占領軍司令官北清事變當時北京ニ在リ負傷シタルモ日本軍医ノ手當ニ依リ片腕切断ヲ免レ以来日本ニ特別ノ好意ヲ有スル由)

右ニ関シ本官ハ独逸ヨリハ「ゾルフ」ヲ出スコトナリ居ル筈ナリト述ヘタル処「ア」ハ同氏ハ全ク親日ニ傾キ過キ居レリトテ反対スル者アリ結局右様ニ變更シタル次第ナリト答ヘタリ

二、尚「アブノウル」ハ過般理事会終了前非常任理事国側ヨリモ調査委員ヲ出シタキ要求アリ「ウンデン」（瑞典前外相）「チチュレスコ」（羅馬尼第十一回第十二回連盟總會議長）「カンボ」（西班牙）ノ候補者ヲ立テ旺ナル割込運動行ハレ結局「チチュレスコ」ヲ選定スルコトニナルヘキ形勢ナルカ之ニ対スル日本側ノ意向如何ト尋ネタルニ付本官ハ日本側トシテハ成ルヘク人数ノ少キコトヲ希望シ居リ殊ニ決議ニモ五人トアル次第ナルヲ以テ此際之ヲ六人トスルコトハ決議違反トナリ直ニ賛成スルコト困難ナルヘシト述ヘタル処兎ニ角右ノ点モ日本ニ取次カレ度キ旨依頼セリ

三、次テ「アブノウル」ハ委員会ノ費用ニ付テハ日支兩國ニテ分担シ貫ヒ度キ意向ナリト述ヘタルニ付本官ハ今回ノ視察員ハ連盟ヨリ派遣セラルモノニ付当然連盟ヨリ其ノ費用ヲ支弁アルコトト考ヘ居リタリト述ヘタル処

往電第四八三号ニ関シ

芳沢理事ヨリ

「ア」ハ実ハ希臘、勃牙利紛争ノ際ノ委員会ハ理事会ノ決議実行ノ為ニ任命セラレ且期間モ短カリシ為連盟ノ費用ヨリ支出シタルカ今回ノ委員会ハ性質上土耳其「イラク」問題調査委員会ト同様ノモノト認メラルニ付今回ハ後者ノ例ニ從ヒ両当事国ヨリ支出シ貫ヒタシト述ヘ且其ノ予算額ハ目下折角研究中ニモアリ且委員ノ支那滞在期間長短如何ニモ依ルコトニモアリ確カナルコトハ到底申上ケ兼ヌルモ差当リ少クトモ五十万瑞西「フラン」位ハ是非トモ必要ナルヘシト述ヘ居リタリ右「アブノウル」ノ談話中第二点ニ付テハ理事会決議ヲ楯ニ五人ヲ固執スル様努力ヲ試ミルコト然ルヘシト思考セラルル処他ノ二点ニ関スル「ア」ヘノ回答振ト共ニ至急御回電ヲ請フ

在欧米各大使、支ヘ転電セリ

4 昭和6年12月16日 ※在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛（電報）

調査委員会独国委員候補の交替および委員会
經費支出方について

第四八六号（暗）

調査委員会ノ候補顔触ヲ見ルニ英米仏伊ノ委員ハ暫ク別トシ独逸委員ハ当初「ゾルフ」ヲ指名シ我方亦同人ノ必ス受諾スヘキコトヲ予想シテ独逸委員ノ参加ニ賛意ヲ表シタルコトニモアリ今更同人ニ代リ「フォン、シュネー」ヲ推薦シ来ルコトハ頗ル不都合ノ次第トハ存スルモ抑々本委員会ノ派遣タル帝國政府ノ提議ヲ基礎トシ之ヲ盛り立テ遂ニ其ノ実現ヲ見ルニ至リタルモノニシテ愈同委員会渡支ノ場合我方ニ対シ成ルヘク有利ナル視察及報告ヲ行ハシメントセハ当初ヨリ各委員所属各政府及委員自身ヲシテ我方ニ何等惡感情等ヲ抱カシムルコト無キ様措置シ置クヲ要スヘク之カ為ニハ委員ノ顔触レ等ニ付キテモ余リ選リ好ミヲナスカ如キ拳ニ出テサル方然ルヘキカニ思考ス就テハ独逸委員ノ如キニ付テモ今更彼是苦情ヲ申立ツルコトナク此ノ際淡白ニ各委員ノ任命ニ同意ヲ与ヘラルルコト機宜ニ適スト存セラル尤モ委員數ヲ五名ヨリ六名ニ増加スルノ件ハ理事会決議ヲ變更スル次第ナルヲ以テ五人ニ限定スル様努力方然ルヘクト存ス尚委員会經費ハ最初ヨリ連盟側ニテ支出スヘ

シトノ聞込ミナリシ処今日ニ至リ当事国ニ負担セシメムト
スルハ甚タ不都合ノ次第ナルカ既ニ先例モアルコトニモア
リ且金額ハ左迄多額ニモアラサル次第ナルト支那ノ実情ヲ
調査セシメテ連盟ヲ啓発シ度キ我方思惑モアル次第アルノ
ミナラス委員会派遣案ノ発端ハ兎ニ角トシ之ヲ正式ニ理事
会ニ提案シタルハ我方ナリシ關係ニモ顧ミ支那側ニシテ半
額ヲ支出セハ我方ニ於テモ勿論支出方異存ナキ旨事務局側
ニ回答スル方大局上得策カト思考セラルルニ付右様御詮議
相願度シ尚又差当リ最少限度五十万瑞西「フラン」ニ見積
リアルモ若シ委員ノ滞在長引カハ或ハ多少ノ増額ヲ見ルヤ
計リ難キモ此ノ点ニ付テハ超過額ニ付テハ予メ例ヘハ十万
「フラン」ト固ク制限スル約束ヲナシ置ク方得策ト存ス為
念
在欧米各大使、支ヘ転電セリ

5 昭和6年12月16日 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

調査範圍は滿州を含む中国全土に互るべき趣
旨アブノールに申入れについて

第四八七号(暗、至急)

代表ノ留保ニ重キヲ置クカ又ハ今後支那側ヨリ何等申出
ヲ為シ其結果調査範圍ヲ滿州ニ限ルトカ又ハ支那本部ハ
形式的ニ調査スルト云フカ如キ結果ヲ見ルカ如キコトナ
カルヘキヤト詰問シタル処「ア」ハ前言ヲ繰返ヘシ明答
ヲ避ケ居リタルニ付本官ハ貴電御来示ノ次第ヲ再説セル
上左ノ通ヲ議長ニ取次キ後日紛議ヲ醸スコトナキ様然ル
ヘク取計ハレ度キ旨依頼シ「ア」之ヲ了承セリ(尚「ア」
ノ依頼モアリ帰来後従来ノ経緯ヲ簡單ニ叙述シ之ニ貴電
御来示ノ趣旨ヲ記載スル書物ヲ作り同人ニ送付シ置ケ
リ)
二、右「ア」ノ本官ニ対スル答弁附ニ落チサル所アリ恐ラ
ク同人ハ当初ヨリ本件直接交渉ノ衝ニ当リ居ラサリシ關
係上責任アル答弁ヲ避ケントシタルモノナラスヤトモ推
察セラレ旁早速杉村ニ電話シ「ドラモンド」ニ御来示ノ
次第ヲ申入ルル様依頼シ置キタルカ十四日夜「ド」ハ杉
村ニ対シ本件ニ関スル支那側ノ留保如何ニ拘ハラス結局
モノヲ言フハ決議ニシテ同決議中調査委員ノ視察範圍ヲ
滿州ト限り居ラサル以上同範圍ハ支那全土ニ及フヘキモ
ノニシテ此点ニ関シ同総長等ニ何等誤解ナキ旨申居リタ

貴電第三〇九号ニ関シ
(一)文書

一、理事会終了ト共ニ「ドラモンド」帰来シ爾来起草委員
会ニ於テハ「アブノール」ヲ事務総長トシ支那調査委員
会ノ件ヲ専ラ審議シ居ル趣ニ付十四日「ア」ヲ往訪冒頭
貴電ノ趣旨ヲ話シタル処「ア」ハ「サイモン」外相ノ所
説トシテ伝ヘラルル新聞電報ハ誤報ナルヘク議長初メ連
盟首脳部ニ於テ調査委員ノ調査範圍ヲ滿州ニ限ルヘシト
シ居ルモノナキモ同委員会ノ調査題目等ハ之カ任命ノ後
各委員ニ於テ本件ニ関スル理事会ノ記録ヲ精査シ且兩当
事国ヨリ調査地点及題目ニ関スル申出モアラハ之ヲ聴取
シタル上何等決定スルコトトナルヘシト答ヘタルニ付本
官ハ調査委員支那派遣ニ関シ芳沢理事ヨリ理事会ヘ申出
ノ趣旨並ニ本件ニ関スル従来交渉ノ經過ヲ述ヘタル上同
委員ノ視察範圍ハ滿州ヲモ含ム支那全土ニ互ルヘキモノ
ニシテ此点ニ関シテハ理事会首脳部ニ於テ何等誤解ナキ
コトト確信シ居ルモ万一行違テモアリタル場合ニハ結果
頗ル重大ナルヘシトテ貴電後段ノ次第ヲ更ニ説明シタル
上貴説ノ如ク調査委員ノ調査題目等ヲ同委員会任命後決
定スルモノトセハ仮ニ同委員カ理事会席上ニ於ケル支那

ル趣ナリ尚本十五日伊藤ヨリ「レゼー」ニ対シテモ同様
御来示ノ趣旨申入レシムル管
在欧米各大使、支ニ転電セリ

6 昭和6年12月16日 犬養外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長宛(電報)

中国調査委員会独国候補者選定および同委員
会の費用について

第三一三号 暗、大至急
貴電第四八三号ニ関シ
(二)文書

一、各国候補者ニ付テハ在英、米、仏、伊、独大使ヨリ当
該国候補者ニ関スル調査ノ結果電報アルヲ俟チ攻究ノ上
当方ノ意見申進スヘキ処差当リ独逸側候補者ニ付テハ最
初我方ニ於テ独逸ヲ委員中ニ加ヘサル建前ナリシモ(往
電第二二五号)「ゾルフ」博士ヲ出スヘシトノコトナリ
シニ付枉ケテ之ヲ承認セシ次第ナルヲ以テ(往電第二七
八号)矢張同博士ノ任命ヲ見ル儀在独大使発貴官宛電報
第九号前段ノ経緯ニ鑑ミ「アブノール」ト篤ト懇談アリ
度
二、右五国委員ノ外更ニ小国側委員ヲ加フルコトハ同意シ

難シ

三、我方ノ委員会派遣案提議ハ理事会首脳部ノ慫慂ニ依リ連盟ノ利益ノ為メ之ヲナシタル次第ナルノミナラス其職能ハ単ニ日支関係ノミナラス一般国際関係ニモ影響アル一切ノ事情ヲ調査スル訳ナルニ付本件費用ハ連盟ヨリ支弁スルコト主義上当然ト思考スルモ連盟ノ窮乏ニ顧ミ我方ハ寄付金トシテ之ヲ支出スルコト考慮ノ余地ナキニ非スト思考スルモ尚ホ研究ノ上何分ノ儀追電ス

英、独、伊ニ転電シ仏ニ転報アリ度、米及支ニ転電セリ

7 昭和6年12月(17日) 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

中国調査委員付事務局員の内定および委員会

一行の旅程について

第四八七号(暗)

十六日「ドラモンド」ヨリノ申込トシテ杉村ヨリ左ノ通内報アリ

一、支那調査委員会付事務局員ハ五名ニ内定シ交通部長 Haas (仏國人) 書記長トシ之ニ情報部員 Charrière (伊國人) 同 Pair (和蘭人華府会議ノ際和蘭代表部員タリ

十五日伊藤ヲシテ「レジエ」ニ対シ貴電ノ趣旨ヲ申入レ同人ノ意向ヲ尋ネシメタル処「レ」ハ先般ノ理事会決議ハ調査委員会ノ調査範囲ハ滿州ニ限ラス支那全土ニ亘ルヘキモノトノ日本側ノ主張ニ基キ作成セラレタルモノト了解シ居ルヲ以テ此点ニ付疑問ノ余地無ク少クトモ仏国政府ノ関スル限り右様承知シ居レリ而シテ決議カ右趣旨ニ依リ作成セラレタル以上一理事ノ宣言ニ依リ変更セラルルコト無キハ理事会決議カ謂ハハ合同契約ノ性質ヲ有シ全員ノ同意無キ限り変更シ得サル当然ノ帰結ナリト答ヘ更ニ仏国政府ニ於テハ調査委員会ハ滿州ニ限ラス支那全土ヲ視察スヘキモノト解シ居ル旨繰返シ述ヘ居リタリ

尚十日ノ理事会ニ於テ施肇基ハ此点ニ付留保ヲ為シタルモ同人トシテハ斯ル留保ヲ為スニ非サレハ殆ト生命ニモ影響スル次第ナリシ為ナルヘシ芳沢理事ニ於テハ右「レジエ」ノ見解ト同様ノ見解ニ基キ決議案ニ同意セラレタルモノニシテ支那側ノ解釈ハ之ヲ其自由ニ委セ差支無キモノト思考シ反駁セラレサリシ次第ナリ

在歐米各大使、支ヘ転電セリ

シ事アリ) 同 Kotze (独逸人 Dufour-Feronce ノ官房長) 政治部員 Pastuhov (「チェッコスロヴァキア」人杉村公使秘書) ヲ配属セシム

二、調査委員会ノ出発ハ委員決定後少クトモ一ヶ月位トナルヘキモ「ド」ノ予定ニテハ一月末若ハ二月中旬ナル由三、委員旅程ハ米国經由ニテ東京ニ至リ夫レヨリ上海、南京等ニ赴キ其ノ上滿州ヲ視察スル筈其後再び日本若ハ支那本部ニ赴クカハ委員会ノ自由ニ任ス外無カルヘシ

四、尚支那側ハ委員会ニ対シ盛ニ宣伝ヲ為スヘキモ本邦側トシテハナルヘク政府ノ「コントロール」セル正確ナル材料ニシテ結局ハ報告ノ材料トナルヘキモノノミヲ供給シ置カレタシ

米、支ヘ転電、英、独、伊ヘ暗送、仏ヘ転報セリ

8 昭和6年12月(17日) 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

調査委員の調査範囲に関するレジエとの談話に

ついて

第四九〇号(暗、至急)
貴電第三〇九号ニ関シ

9 昭和6年12月(17日) 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

ギョーマ將軍の調査委員辞退および委員の人数について

第五〇〇号(暗)

⁽¹⁾ 往電第四八三号ニ関シ

十二月十六日「アブノウル」本使ヲ来訪ノ上

第一、Guillaumat 將軍ハ本人トシテハ調査委員タルコトヲ希望スルモ其ノ親戚ハ將軍ノ年齢ト健康トニ顧ミテ將軍ノ支那行ニ賛成セス之カ為將軍ハ辞退ヲ申出ツルニ至リ「ブリアン」モ自分モ非常ニ失望セルモ如何トモ致シ難ク其ノ結果再び陸軍大臣ニ交渉ノ上目下ノ処候補者トナリタルハ「リオン」軍団司令官 Serigny 將軍ナリ

第二、昨日諸威及西班牙両理事ヨリ書面ヲ以テ議長ニ対シ非常任理事国ヨリ是非一名ノ委員ヲ参加セシメラレタキ旨ヲ以テ其ノ候補者トシテ往電第四八三号記載ノ三名ヲ指名シ来リタル処議長ニ於テモ之等諸國ノ切ナル希望ニ対シ無下ニモ拒絶シ難ク五名ノ委員ヲ六名ニ増加方日本ノ再考ヲ願ハレ間敷クヤト申出タリ右ニ対シ本使ハ第一

ニ付テハ「ギ」將軍ナラハ声望閥歴ニ於テ申分無く我方
ニ於テモ歡迎セル次第ナルカ同將軍ニシテ辞退スルモノ
トセハ自分モ甚タ失望セサルヲ得ス英米等ヨリ一流ノ人
物ヲ出ス以上委員會ノ首班タルヘキ人物トシテハ「ギ」
將軍位ノ人物ナラサルヘカラサル処「セ」將軍ハ此ノ目
的ニ叶フヤト尋ネタル処「ア」ハ「セ」將軍ハ欧州大戰
ニ際シテハ「ペタン」、「ギ」將軍ノ如キ地位ニアリタル
訳ニアラサルモ現ニ軍団長トシテ名声高キ人ナリ何分軍
縮會議ヲ前ニ控ヘ「ペタン」、「ウエーガン」等ノ將軍ハ
到底仏國ヲ離ルル能ハス已ムヲ得ス「セ」將軍ヲ候補者
トナシタルモノニテ話ノ落着スル迄ニハ尚一兩日ヲ要ス
ト回答シタリ

員ノ希望ノ出ツルコトナキヤト尋ネタル処右様ノコトハ絶
對ニ之無シト答ヘタルニ付本使ハ調査委員派遣ニ付テハ最
初吾人ノ聞込ミニ依レハ費用ハ事務局側ニ於テ勿論負担ス
ル筈ナリトノコトナリシニ今日ニ至リ費用ヲ兩当事國ニ負
担セシメントスル外委員ノ數モ次第次第ニ増加スルコトト
ナルハ兎ニ角最初ト多大ノ方針變更ニテ甚タ面白カラスト
述ヘタル処「ア」ハ成程其嫌アルモ委員ノ數ニ付テハ日支
兩國ニ於テ六名ニ異存ナキ以上ハ此点ニ関シ決議修正ノ手
続ヲ執ルヘシト答ヘタルニ付本使ハ仮令一名ノ増加ト雖自
分ニ於テ政府ニ請訓ノ上ニ非スンハ何分ノ回答ヲ為シ難シ
ト答ヘタル処「ア」ハ何卒至急請訓ヲ請フ旨申出テタリ
在歐米各大使、支ヘ転電セリ

本使ハ更ニ第二点ニ付本来委員ノ数ハ三人ヲ希望シタルモ⁽²⁾
其後五人トナリ決議文ハ五名ニテ通過シタル次第ニ付更ニ

昭和6年12月(18)日
在パリ田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

調査委員にゾルフ選出方懇談および委員会費

用について

ル訳ナリト述ヘタル処「ア」ハ成程決議ト異ルモ日支兩國
ニシテ異存ナクハ他ノ十二國ハ勿論同意スル筈ニテ且六名
トナレハ委員ニ付屬セシムヘキ専門家モ多少減員セシメ得
ヘシト述ヘタルニ付本使ハ六名ト為シタル後更ニ七名ニ増

第五〇一号（暗）
（六文書）
 貴電第三一三号ニ関シ
 十六日夕刻「アブノル」往訪懇談ヲ遂ケタル処「ア」ハ

一、「ゾルフ」博士ニ付テハ支那側ニ於テ強キ反対アリ当
事国ノ一方ニ於テ故障アル以上之ヲ採択スル事困難ナリ
ト存スル旨述ヘタルニ付本官ヨリ去ル理事会中本件ニ関
スル交渉ノ発端ヨリ説キ日本トシテハ「ゾルフ」出馬ノ
条件ノ下ニ独逸側参加ヲ承諾シタル次第ニシテ今ニ至リ
之ヲ變更セラルル事ハ日本トシテ頗ル面白ラストナシ
居ル次第ニ付何トカ右当方ノ申出ノ儀至急議長ニ取次キ
是非其好意的考慮ヲ迎フル様取計ハレ度キ旨述ヘタル処
「ア」ハ事ノ成否ハ確言シ難キモ右申出ノ次第ハ議長ニ
取次ク事トスヘシト答ヘタリ

二、小国委員参加ノ件ニ付テハ往電第五〇〇号芳沢理事ニ

一、小国委員参加ノ件ニ付テハ往電第五〇〇号芳沢理事ニ
対スルト同様ノ事ヲ繰返シ居リタルニ付本官ハ右ハ決議
違反タルノミナラス委員經費ノ点ニ付テモ本朝芳沢理事
ヨリ既ニ御話アリタル通り同理事ニ於テハ兩当事国ニ於
テ經費分担ノ儀帝國政府ニ稟申セラレ政府ニ於テモ右理
事ノ申出ニ對シテハ何トカ考慮アルナラント考ヘ居ル際
ニモアリ旁理事ノ數増加スル事ハ自然經費ヲ嵩ムル事ト
成リ面白カラス何レニセヨ日本政府ニ於テ明カニ之ニ同
意シ難キ旨申越アリタル以上小国側ノ思惑モサル事乍ラ

此際之ヲ思止マラシムル様取計ハレ度キ旨述ヘタル処
「ア」ハ之ヲ諒承シ当事国側ニ於テ明確ナル反対アル以
上本件ハ之ヲ止メニスル様取計フヘシト述ヘ居リタリ
「ア」ハ過日御話シタル如ク右將軍以下四氏ノ事ハ起草委
員会限りノ決定ヲ極メテ非公式ニ申上ケタル次第ナルカ本
日ニ至リ「ロード、マクミリオン」ニモ何等故障アル旨承
知シ誠ニ閉口シ居ル処ニテ米伊政府ヨリモ当方政府ヨリモ
当方ノ推薦ニ対シ未タ確答ニ接セス又仮ニ当方ニ於テ決定
ヲ見ルトスルモ当事国ノ反対アラハ当方決定通り取運フ事
出来サル事トモナルヘク旁本件決定迄ニハ尚種々ナル曲折
ヲ経ル事ト存シ居レリト述ヘ又経費ノ点ニ就テハ過日最少
限度五十万瑞西「フラン」ト申述ヘタルカ其後事務局会計
課ヨリノ申越シニ依レハ委員滞在期間ノ長短ニ依リ差異ヲ
生スヘク從テ到底確言シ難キモ仮ニ之ヲ五六ヶ月ニ見積リ
結局百万瑞西「フラン」位ヲ必要トスル事トナルナラント
ノ事ナリト語り居リタリ
在欧米各大使、支ヘ転電セリ

11 昭和6年12月(18)日 在英国松平大使より
犬養外務大臣宛(電報)

英外相の議会における答弁訂正方について

第五二三号（暗、極秘）

（二文書）

（二文書）

往電第五一七号發電後連盟宛貴電第三〇九号接到シタルカ更ニ電通ヨリ電報セラレ居リ世上ノ物議ヲ招ク虞モアリト認メタルヲ以テ十五日齋藤ヲシテ「カドウガン」ヲ往訪セシメ右ノ事情ヲ述ヘ議會閉会後ノ今日如何ナル方法ヲ適当トスルヤ存セサルモ英國政府ニ於テ然ルヘキ機會ニ斯カル誤解ヲ除去スル様措置ヲ執ラルルコト望マシキ旨ヲ申入レシメタルニ「カ」ハ本件ハ誠ニ「ブランド」ニシテ答弁書作成ノ際係官ニ於テ不用意ニ間違ヘタルモノニ相異ナク目下取調中ナルカ兎ニ角何等カノ機會ニ打消ノ方法ヲ講スヘク尚英國外務大臣ヨリ文書ヲ以テ貴方ニ答申ノ間違ナリシコトヲ通告スルコトスヘキ旨申居リタル趣ナルカ本十七日外務大臣ヨリ本使ニ対シ半公信ヲ以テ右答弁ハ理事会ニ於ケル討議趨勢ノ誤認ニ基キ事實ヲ誤リ陳述シタルモノニシテ何等英國政府ノ特定ノ態度ヲ示サントスルモノニ非ス右答弁ノ誤解ヲ招キタルコトハ自分ノ遺憾トスル処ナリ委員會ノ權限ハ決議案ノ字句ニテ明カナリトノ趣旨ノ言ヲ寄セタリ

連盟局長へ転電セリ

12 昭和6年12月18日

在イタリヤ国吉田大使より
犬養外務大臣宛（電報）

連盟調査団と中国の現状改革について

第一九八号（暗）

（¹）巴里ニ於ケル見聞ニ基キ理事会対策ニ付卑見電稟ス

連盟理事会ノ滿州問題ニ対スル当初ノ態度ハ輕率ノ誹ヲ免レスト思考スルモ十一月理事会ニ於テハ滿州ニ於ケル我カ立場並支那ノ現状ニ付相当ノ理解ヲ有スルニ至リ英仏理事其ノ他ノ首腦者ハ殆ト取捨シ難キ支那ノ政情治安維持紊乱ノ現状ニ於テ撤兵期間ヲ確定スルハ不可能ニシテ日本軍ノ馬賊討伐ノ警察的行爲モ容認スルノ外ナシ無力ノ支那ヲ相手ニスルヨリモ日本ヲ目標トシテ進ムコト連盟ノ權威ヲ維持スル所以ナリトシテ百方支那ヲ圧迫スルノ一面努メテ我主張ニ耳ヲ傾ケ連盟ノ基礎ヲ動カササル限リ何等カノ決議ニ到達セントシテ苦心セルモノノ如シ此ノ心理ハ幾多ノ難関アリシニ拘ラス一応理事会ノ決議ニ取纏メ得タル次第ニテ我對滿政策上思ヒモヨラサル天佑ト言フヘク我ハ理事会側ノ心理思潮ニ乗シテ滿州事件終局ノ帰結ニ到達セサルヘ

事項3 リットン調査団の動向

カラスト思考ス惟フニ対支調査派遣委員ノ足一度極東ニ入ラハ支那ノ暴政政情ノ腐敗ハ我事態ト對比シテ直ニ明カナルヘク日本ノ凭ルヘクシテ支那ノ頼ムヘカラサルヲ会得シテ前記理事会ノ意向ハ益々具体化スヘク之ヲ機ニシテ我對策無キニ苦シメル排日排貨運動モ之ヲ使喚セル支那政府ノ派遣委員ニ対シ警戒ノ結果自然衰退ヲ来スヘク之等ノ観点ヨリスルモ委員派遣案ハ甚タ有意義ナルノミナラス更ニ又委員派遣ノ此ノ時機ニ於テ連盟ニ対シ我ヨリ進ンテ支那問題ヲ提供シ世界經濟ノ復興東洋平和ノ大局ヨリ支那改造ハ連盟カ当然取上クヘキ重大問題ナル所以ヲ説示シ滿州問題ヨリ一層世界的大問題タル支那改造案ニ連盟ノ注意ヲ惹付ケツツ遂ニ滿蒙ニ対スル「マング」ハ連盟ヲシテ之ヲ我ニ承認セシムルノ道程ニ進ムルヲ以テ我外交ノ要諦ト思考ス連盟ニ参加スル以上支那問題ニ連盟ヲ引入レ之ヲ用ヒテ支那ノ改造ヲ企ツル抱負ナクンハ帝國ノ連盟参加ハ偶々我外交ニ支障ヲ来スコトアルノミニテ無意味ニ終ルヘク連盟カ支那問題ヲ取上クルニ於テ連盟ニ於ケル我 roleノ頗ル重大トナリ世界問題ニ於テ英仏ト伍シ毫モ譲ラサルノ地位ヲ保持スルヲ得ヘク連盟ヲ率ヒ連盟ノ名ニ於テ我支那問題ノ

解決ヲ期スルハ英仏等カ連盟ノ名ニ於テ其他世界的權威ノ保全ヲ図ルカ如クナラサルヘカラス以上卑見ハ往電第一四二五二文書
三号並往電第一六六号ニ既ニ上申シタルモ新内閣成立ノ此際滿州問題終局ノ解決ト連盟對策ニ関シテハ特新ナル工夫ト用意ヲ加ヘラレ我外交ニ一新時期ヲ画セラレンコトヲ切望ス將又此見地ヨリシテ連盟ニ対シ此際ハ帝國政府一層慎重且穩健ナル態度ヲ持セラレ度従来動モスレハ屢次ノ声明ニ反シテ錦州攻撃ヲ敢行スル鋒鋳ヲ暴露シ列國ヲシテ猜疑ノ念ニ堪ヘサラシメタルカ如キハ断シテ再ヒスヘキニ非ス我軍ヨリセハ錦州支那兵ノ如キハ鎧袖一触ノミ敢テ介意スヘキニ非サルヘク現地馬賊跳梁モ亦何程ノコトモ非サルヘク錦州ノ爭奪ニ没頭セハ連盟及米國共其輿論ニ対スル面目上我ニ対シ心ナラスモ何等カノ行動ニ出テサルヲ得サラシメ徒ニ事端ヲ繁クシテ滿州問題終局ノ帰結ヲ害スルノ虞アリ連盟ニ一路ノ退路ヲ作りテ其面目ヲ保タシメ我ハ暫ク兵ヲ按シテ形勢ヲ靜觀セハ派遣員ノ報告及支那政局自然ノ動キハ自然我ニ有利ナル形勢ヲ展開セスンハ止マスト確信ス
英、仏へ転電セリ

13 昭和6年12月(18)日 在イタリア国吉田大使より
犬養外務大臣宛(電報)

森内閣書記官長へ意見電内示方について

第二〇〇号(暗)

往電第一九八号御差支ナクハ森新内閣書記官長へ御内示ヲ
請フ

14 昭和6年12月(19)日 在独小幡大使より
犬養外務大臣宛(電報)

調査委員独国委員候補者シュネーの人物評に
ついて

第一六九号(暗)

貴電合第一九六五号ニ関シ

「シュネー」ノ履歴等ニ就テハ往電第一六〇号ヲ以テ大要
申進メノ通ニシテ其性格官僚的ナル事ハ他ノ方面ヨリモ聞
込ミタルカ本人ハ「サモア」東阿弗利加及殖民省等ニ多年
在勤シタル關係上殖民地問題ニ付テハ今尚充分ノ興味ヲ有
シ其著書ニ徴スルニ現在及近キ将来ニ於テ世界何レノ国ニ
於テモ国家主義ノ減退ヲ望ム事不可能ナリトノ思想ヲ有シ

居ル關係上日本ノ対支経略ニ付テモ或ル程度ノ理解ハ之ヲ
有スルモノノ如ク現ニ日本ハ人口増殖ノ為必然的ニ支那ニ
対シ帝國主義的方策ヲ執ルノ已ム無キヲ得サル次第ヲ述ヘ
居レリ

英、伊、連盟局長へ転電セリ

連盟ヨリ仏へ転報アリタシ

15 昭和6年12月(19)日 在独小幡大使より
犬養外務大臣宛(電報)

調査委員独国委員の人选について

第一七〇号(暗)

調査委員人選ニ関シ十七日東郷ラシテ東方局次長「シェイ
ン」ニ面談セシメタル処「シェイン」ハ往電第一五九号及
第一六〇号「マイヤー」カ本官ニ語リタルト同様ノ趣旨ヲ
述ヘタル上独逸ハ英伊等ト同様事務局側ヨリノ申出ニ応シ
「ゾルフ」ヲ筆頭トシ三名ノ候補ヲ指名セル次第ナリ其窮
極ノ決定ハ理事会議長連盟事務総長及日支両国理事ノ手ニ
アル故独逸側トシテハ表向き如何トモナシ難キモ巴里ニ於
テモ支那側カ「ゾルフ」ニ対シ反対セルニ対シ其理由ナキ
コトヲ説明シタルコトアルカ尚最近支那側ニ於テ「ゾルフ

「ゾルフ」カ当地ニ通信社ノ求メニ応シ発表セシメタル日支時局
観(十二月二日付往信普通公第二八七号ヲ以テ送付済)ニ
基キ其選任ニ反対シツアルニ対シ本日モ在柏林支那林代
理公使ニ対シ右論文ニ付反対スルコトノ理由ナキコトヲ詳
細説明シ置キタル次第ナリ打明ケテ云ヘハ支那側ニテハ
「ゾルフ」ノミナラス「ゼクト」ニ対シテモ其軍人ナル故
ヲ以テ又「シュネー」ハ殖民政策ニ興味ヲ有スル關係上滿
州ヲ一ノ殖民地視スルニアラスヤトノ觀念アリトノ故ヲ以
テ難癖ヲ付ケ居ル關係モアリ結局ノ所支那側ニ於テモ「ゾ
ルフ」ニ対スル反対ヲ撤回スルニアラスヤト考ヘ居ル次第
ナリト内話セル趣ナリ

英、伊、連盟ニ転電シ連盟ヨリ仏へ転報セシム

16 昭和6年12月(22)日 在イタリア国吉田大使より
犬養外務大臣宛(電報)

連盟調査団に中国の現状を認識方について

第二〇二号(暗)

連盟理事会カ滿州問題ヲ取上ケテ以来十一月理事会未迄ノ
経過ニ徴スルニ
(一)連盟ハ極東問題ニ於テ甚タ自己ノ無力ヲ體驗シ

(二)英仏米ハ支那ノ現情ノ腐爛救フヘカラサルヲ会得シ今回
ノ滿州事件ハ連盟ノ大局觀及列強ノ対支政策ノ一転機ヲ
画セシムルニアラサルカト思考セラルル処近ク実施ノ連
盟対支調査派遣委員ニ対シ支那ノ現情ニ付完全ナル説明
ヲ与ヘ以テ列強対支政策並ニ滿蒙問題当然ノ帰結ニ付充
分ノ理解ヲ得セシムル様帝國政府ニ於テハ直ニ万般ノ用
意ヲ備ヘラルルコト切望ニ堪ヘス或ハ既ニ研究準備ノ次
第モ有之ヘシトハ存スルモ左ニ卑見上申ス

一、支那政情ノ禍源ハ軍閥政治家ノ私闘ニアリ私闘ノ財源
ハ関余塩余専売及鉄道收入ニ存ス、之等收入監理ノ方法
ヲ立テ専ラ民治ニ充当スルノ途ヲ講スレハ諸政整頓ノ緒
ヲ得ヘシ

一、支那諸鉄道ハ近年軍閥私闘ノ具ニ供セラレ民何ノ利益
ヲ享クルナキニ近シ、諸鉄道ハ専ラ地方開発ノ民用ニノ
ミ供セシメ鉄道 demilitarization ノ方法ヲ研究スヘシ

一、舜禹唐以来支那政治ノ要ハ治水ノ術ニアリ民国以来政
争専ラニシテ治水ヲ忘ルル結果舟楫ノ利ハ惡政ノ下水災
ト化シ今夏揚子江未曾有ノ氾濫トナリ難民数十万所在土
匪横行禍ノ及フ処真ニ計リ知ルヘカラス関余塩余等ヲ直

ニ治水費ニ充ツヘキナリ

一、支那政治ノ整頓セスハ支那ノ經濟復興セス紊乱セル政情ハ列国ノ対支經濟關係ヲ破壊シ現世界不況ヲ更ニ加重シツアリ支那ノ「リコンストラクション」ハ支那一個ノ問題ニアラス世界不況ノ対策トシテ深大ノ注意ヲ要ス

一、隣邦露国ノ強手ハ外ヨリ支那現政情ヲ誘致セルニ止ラス所在飢民共匪群居ノ現情ハ露国共產黨活動ニ絶好ノ機會ニシテ列国ハ世界共產革命運動ノ将来ニ顧ミ之ヲ閑却スヘキニアラス

以上諸項目ノ検討調査ノ結果ハ自然連盟ヲシテ我国ヲ極東ノ支柱トシテ依頼セサルヲ得サラシメ世界平和極東ノ秩序維持ノ為日本ノroleヲ承認シ滿蒙問題ニ関シ一種ノ「インデイト」ヲ承認セシムル等ノ帰結ニ到達セサルヲ得サルニ至ラシムヘシ帝國政府トシテ此ノ帰結ニ到達セシムヘク専ラ派遣委員ヲ指導スルヲ要ス

英、米、仏、支ヘ転電シ独、奥ヘ暗送セリ

17 昭和6年12月(23)日 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

米国 Hines (既報米国発閣下宛往電第五六〇号参照)
在欧米各大使、支ヘ転電セリ

18 昭和6年12月(24)日 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

クロードル將軍の人物について

第五〇七号

往電第五〇五号ニ関シ

「クロードル」將軍ハ目下冒頭往電記載ノ官職ノ外植民地防禦委員會議長ノ職ニアリ年令六十、大戦前支那駐屯軍ニ勤務セルコトアリ大戦ノ初期ハ仏戦場ニ於テ旅団長及師団長トシテ転戦シ大戦ノ末期ニハ近東戦場ニ於テ軍団長トシテ戦功アリ目下ハ軍縮會議準備ニ執掌シ居ル由ニテ評判好キ將軍ナリ過般大演習ノ際ハ統監トシテ我陸軍武官等ニ特ニ好意ヲ示シタル趣ナリ

在欧米各大使、支ヘ転電セリ

19 昭和6年12月(24)日 ※在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

調査委員の調査範囲に關し確認について

調査委員の顔触れ内定について

第五〇五号(暗、至急)

往電第五〇一号ニ関シ

二十二日本件ニ関シ議長トノ連絡ニ当ル為当地ニ残留シ居ル事務局政治部員ノ内話スル所ニ依レハ其後支那調査委員ノ候補者ハ左ノ如キ顔触レトナリ其中仏国、伊国、独逸ノ候補者ニ付テハ本人並ニ關係国政府ノ承諾ヲ取付ケ唯日支兩國ノ同意ヲ得レハ確定シ得ル事ナリ居ルモ英、米ノ候補者ニ付テハ未タ確答ヲ得ス其確答アリ次第議長ヨリ五人ニ付正式ニ日支兩國政府ノ同意ヲ求ムル手續ヲ執ル積リナル趣ナリ

仏国 Général Claudel (Inspecteur Général des Troupes Coloniales, Membre du Conseil Supérieur de la Guerre)
過般ノ仏国大演習ノ統監タリシ人)

伊国 Conte Aldrovandi (伊国発閣下宛往電第一九七号

第一候補者)

独逸 von Schnee (既報往電第四八三号)

英国 Lord Lyton (第一二回總會英國第二全權、曾テ印度總督代理タリシ事アリ)

第五〇八号(暗)

芳沢理事ヨリ

廿三日本使暇乞旁「ブリアン」外相ヲ往訪ノ際貴電第三〇九号支那調査委員會調査範囲ノ件ニ言及シ本件日本側提議ノ由来及其後ノ交渉ノ経緯ニ徴シ右調査範囲ハ全支ニ亙ルモノナルコトニ付確認ヲ求メタル処同外相ハ右ハ当然ノ事ニシテ此ノ点ニ付決議ノ字句カ明瞭ナル以上支那側カ如何ナル解釈ヲ下スモ之ヲ動カスヘカラサル旨明言セリ

在欧米各大使、在支公使ニ転電セリ

20 昭和6年12月(24)日 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

ゾルフ選任不可能の事情およびシュネー推せんについて

第五〇九号(暗、至急)

往電第五〇五号ニ関シ

独逸側委員候補者トシテハ依然「シュネー」ヲ挙げ居ル処「ゾルフ」博士選任ノ件ニ就テハ往電第五〇一号本官「アブノル」ニ依頼後独逸発閣下宛電報第一七〇号末段ノ次第モアリタルニ付右直ニ杉村公使ニ通シ「ゾルフ」選任ノ儀

ニ努力方依頼シ置キタルカ事務局側ニ於テハ「ゾルフ」カ
発表シタル日支時局談（前記独逸発閣下宛電報参照）等ノ
手前同博士ノ選任ノ儀ヲ進ムルコト不能ト為シ遂ニ「シュ
ネー」ヲ推ス事トナレル趣ニテ杉村ニ於テモ「ゾ」選任ハ
最早之ヲ思止マルノ外ナカルヘシト為シ居レリ事情右ノ如
ク此ノ上我方ニ於テ「ゾ」ノ選任ヲ固執スル時ハ或ハ面白
カラサル結果ヲ生スルヤモ知レス依テ議長側ヨリ他国候補
者ト併セ「シュネー」ヲ正式ニ提議シ我同意ヲ求メ来ル場
合ニハ従来ノ経緯モアル事乍ラ枉テ之ニ同意ヲ与フル様予
メ御詮議置相成タシ

芳沢理事トモ協議ノ上右申進ス
在欧米各大使及支ヘ転電セリ

21 昭和6年12月(25)日 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛（電報）

中国代表部の事務総長あて日本軍の行動に關
する情報通告について

第五一二号
支那代表部ハ十九日付事務総長宛日本軍ノ行動ニ關スル各
種ノ情報ヲ通告セルカ其ノ要点左ノ通り

22 昭和6年12月(25)日 在独國小幡大使より
犬養外務大臣宛（電報）

ドイツ側中国調査委員候補者シュネーの人物
について

第一七四号（暗）
往電第一六九号ニ関シ
独逸側調査委員トシテハ「ゾルフ」ノ選任ヲ見ル事最モ望
マシキヲ以テ「ドラモンド」ニ対シ杉村公使ヨリ今一運動
ヲ試ミ然ルヘシト思考シ当時芳沢理事ニ右ノ旨電報シ置キ
タル次第ナル処一方「シュネー」ノ人物ニ付テハ前顯拙電
所載ノ通りナルノミナラス其後在當地日独協会会頭「ハー
ス」教授カ「シュネー」ノ知人ニ、三ニ付聞キタル処トシ
テ通報シ来リタル処ニ依レハ同人ハ滿州問題ニ付テハ日本
ニ不利益ナル意見ヲ有セサルノミナラス寧ロ有利ナル考ヲ
抱キ居レリトノ事ニモアリ且「ゾルフ」以外ノ人ニ対シ日
本側ヨリ苦情ヲ申出独逸側委員派遣ヲ拒否スル事アラハ独
逸側ニ甚タ面白カラサル感情ヲ与フル事明カナルノミナラ
ス尚又派遣セラルル者ニ対シ任命前不愉快ナル感ヲ抱カシ
ムルハ得策ナラスト思考セラルルニ付「ゾルフ」ノ選任甚

一、日本側ハ匪賊王殿忠ヲ奉天省西部警備軍司令官ニ任命
営口ニ不逞ノ徒千余名ヲ集合セシメ各人ニ月給十二弗及制
服ヲ給シ且之ニ統器三千ヲ給セリ
二、十一日午後九時日本兵百十三名重砲二門、機関銃六
門、彈藥二十四箱及軍需品ノ多量ヲ具シ天津発山海関行七
号列車ニテ北行セリ

三、十六日正午日本飛行機五台ハ通遼ニ爆彈二十六個ヲ投
下セルカ右ハ商店、電気工場、学校等ニ落下セリ
四、十六日日本庄司令官ハ奉天吉林省兩省ノ独立支那政府トノ
關係断絶ヲ宣言シ且黒竜江省政庁ノ態度變更シ熱河及内蒙
古ノ官庁モ之ニ倣フヘシト述ヘタル外奉天西部ニハ尚無秩
序分子存在スルニ鑑ミ全滿州ノ秩序及平和維持ノ任ニ当ル
日本軍ハ滿州ヨリ無秩序分子ヲ攻撃驅逐スヘシト声明セリ
五、是等ノ情報ニ鑑ミルモ日本側ハ本月十日理事会ノ決議
ニ拘ラス滿州ニ於ケル軍事占領地帯ノ拡大ヲ目論見ツツア
ル事明カナルニ付注意ヲ喚起シタシ
在欧米各大使、奉天、上海ニ転電セリ

タ困難ナル場合ハ素直ニ「シュネー」ニ賛成セラルル方然
ルヘシト思考ス
芳沢理事ヘ転電ス

23 昭和6年12月(30)日 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛（電報）

連盟中国調査委員の啓発方について

第五一四号（至急）
貴電第三二〇号ニ関シ
連盟調査委員ノ報告ノ作成ニハ結局我方ヨリ供給スヘキ材
料ニ重キヲ置カシムル様仕向クルコト肝要ナルハ申ス迄モ
ナキ次第ニテ本省ニ於テモ右方針ニ基キ準備ニ着手セラレ
タルコトト存セラレ既ニ御氣付ノコトト拝察スルモ当方思
付ノ諸点左ノ通申進ス
一、我方ヨリ提出スヘキ材料ハ支那ノ政情、国民政府ノ外
交政策、日支外交及經濟關係、土匪等ノ跳梁ノ実状、排日
排貨運動、在支外國人ノ地位、滿蒙ニ於ケル帝國權益ノ条
約及歴史の根柢等ニ付調査委員ヲシテ支那ハ所謂「オーガ
ナイズド、ピープル」ト云フヲ得ス其中央政府ハ条約遵守
ノ誠意ナク在支外國人ノ生命財産ノ安固ヲ確保スル能力ニ

欠如セルモノナルコトヲ了解セシムル様各種ノ事実ヲ叙述スル方針ニテ成ルヘク公平且正確ナル資料ヲ網羅セル調査ヲ作成シ之ヲ英仏文ニ翻訳シ置クコト（仏国委員等ハ充分英語ヲ解セサルコト御留意アリタシ）

二、日支間重要条約並ニ其付属文ノ英仏文ヲ携行ニ便ナル冊子ニ纏メ置クト共ニ各種事実ヲ説明スル此種地図（例ヘハ馬賊ノ蟠踞跳梁ノ地図等）ヲ用意シ置クコト

三、調査委員ハ短期間ニ調査ヲ遂クル要アルヲ以テ各種資料ヲ充分咀嚼スル余裕ヲ有セサルヤモ知レス依テ前調査中重要ナルモノハ其概要ヲ「パンフレット」トシテ用意シ置ク事（軍縮準備委員会最終報告C六九〇M二八九―一九三〇参照）

四、前記調査作成ニ当リテハ之ニ「プロパガンダ」ノ色彩ヲ帶ハシムル事ハ絶対ニ之ヲ避ケ何レノ方面ニ対シテモ權威アルモノタラシムル事肝要ナリ又序ヲ以テ從來発表セラレタル支那ニ関スル外国人ノ著書論文及支那政府筋ノ公表物中ノ誤謬ヲ指摘シ置ク事モ無益ノ業ニアラサルヘシ
尚視察委員ハ未タ決定ノ域ニ達セサルモ從來連盟側ヨリ推挙シ居ル顔触ヲ見ルニ何レモ最近ノ支那問題ニ付テハ深キ

レハ確定スル訳ニテ支那側ヨリハ一兩日中ニ確答アル趣ニ付日本側ヨリモ成ルヘク速ニ回答ヲ得度キ旨依頼セリ
右「リスト」ニ掲ケタル候補者ハ米国「ハインズ」ヲ除ク外全部冒頭往電記載ノ通ニシテ米国委員ニハ「マッコイ」（一九二九年「ボリビア」）「バラガイ」間紛争解決調停委員会議長）ヲ挙ケ居ル処「マ」ハ本官ノ問ヒニ対シ米国ヨリハ一流ノ政治家乃至実業家ヲ推シ度シト考ヘ国務長官ニ於テモ色々斡旋ニ努メタル次第ナルモ「ハインズ」如何ニスルモ受諾セス「マッコイ」ハ既ニ日本ニモヨク知ラレ居リ日本ニ対シ好感情ヲ有シ居ル人物ニモ有之遂ニ同人ニ決定シタル次第ナリト述ヘ居リタリ
就テハ議長ニ対スル回答振リ大至急回電アリ度シ
二、右会谈ヲ終ヘ退席セントスル際「マ」ハ本官ヲ引止メ日本軍ハ遂ニ錦州ニ入城セリトノ事ナルカ日本軍ハ該地ニ永ク居残ル積リナルヤト尋ネタルニ付右ニ付テハ未タ政府ヨリ何等申越ナキモ日本側ノ念トスルハ一ニ該地方ノ治安ノ維持ニアルヲ以テ居残ルヤ否ヤノ問題モ今後該地方ノ治安状態ノ如何ニ依ルモノト思考スル旨答ヘタル処「マ」ハ余リ感服セサル面持ニテ困ツタコトヲシデカ

智識及経験ヲ有セサルモノト認メラルルニ付我方「アッセッサー」及之カ随員等ノ選定ニハ特ニ意ヲ注カレ之ヲシテ委員ノ善導方違算無キヲ期セシメラルル様致サレ度ク將又同委員ノ觀察地点ノ選定ニ付テハ我方希望通りニハ行カサルヘキモ滿州ニ於テハ単ニ鉄道沿線而已ナラス出来得ヘクハ奥地ヲモ視察セシメラルル様仕向ケラルル事必要ナリト思考ス追テ当方ニテ蒐集シ得ル材料ハ大使館トモ打合ノ上送付致スヘシ
在欧米各大使、在支公使ヘ転電セリ

24 昭和7年1月5日 在バリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛（電報）

国際連盟中国調査委員候補者の選定等に関するマシゲリの談話について

第二号（暗、至急）
往電第五〇五号ニ関シ

一、四日「マシグリ」ノ求メニ応シ往訪セルル処「ブリアン」議長ノ命ニ依ル趣ヲ以テ支那調査委員会候補者ノ「リスト」ニ掲ケアル候補者ニ付テハ既ニ本人及関係国政府ノ承諾ヲ取付ケタルヲ以テ日支両国政府ノ同意ヲ得

サレタリトノ口吻ヲ洩ラセリ

在欧米各大使、在支公使ニ転電セリ

25 昭和7年1月5日 在バリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛（電報）

中国調査委員候補者クロードル將軍の人物について

第四号（極秘）

先年我方ノ斡旋ニ依リ渡日シ滿州其他我カ殖民地ヲ視察婦来右ニ関スル著述ヲ為シタル「モンシャルビル」教授ハ「クロードル」將軍トハ未知ノ間柄ナルカ殖民省政治局長ノ勸メニ依リ十二月三十一日同將軍ト会谈セル由ニテ其際ノ印象トシテ本官ニ語ル所ニ依レハ將軍ハ intelligent et pondéré ニ見受ケラレ何等日本ニ対シ不利ナル先入主ヲ有セス事態ヲ良ク了解シ調査委員ノ任務ハ法律論ヤ理屈ニ因ハレス事実ヲ正シク視察スルニ在リ且調査ハ支那全体ニ互ルヘキコト勿論ナルモ短期間内ニ充分ナル視察ヲ為スコト不可能ナルヘキカト述ヘ頗ル日本ニ対シ好意アル態度ヲ示シ居タル由ナリ
連盟ニ転報セリ

26 昭和7年1月(6)日 在米出淵大使より
犬養外務大臣宛(電報)

マッコイ將軍の人物に関する國務長官の推薦
について

第八号(暗)

連盟発閣下宛第二号ニ関シ
(二四文書)

五日國務長官ハ「マッコイ」任命ニ付テハ連盟ヨリ未タ申
出接到セサルモ同人ハ軍人ト言フヨリモ卓越シタル手腕ヲ
有スル政治家ニシテ是迄國際紛争調停ニ関シ経験モアリ自
分ノ最信頼シ居ル人間ナリトテ極力慫慂セリ
連盟ニ転電セリ

27 昭和7年1月(7)日 在パリ沢田連盟事務局長より
犬養外務大臣宛(電報)

中国調査委員候補者に対する諾否回電方につ
いて

第九号(暗、至急)

往電第二号ニ関シ
(二四文書)

六日事務局側ヨリノ情報ニ依レハ支那側ハ調査委員候補者

全部ニ異議無キ趣回答セル由ナルカ同日午後「マシグリ」
ヨリ電話ヲ以テ日本側ヨリモ至急回答ヲ得度旨督促アリ就
テハ折角御詮議中ノ事トハ存スルモ何分ノ御決定アリ次第
大至急御回電アリ度シ
在欧米各大使、在支公使ニ転電セリ

28 昭和7年1月(8)日 在トルコ国吉田(伊三郎)大使より
犬養外務大臣宛(電報)

マッコイ將軍の人物に関する米國大使の談話
について

第一号(暗)

米國大使ハ六日客年往電第四六号ノ通繰返シタル上「マク
コイ」將軍ハ予ノ親友ナリ軍人ナルモ常ニ國際問題ニ関与
シ正直ニシテ「レッドテープ」ヲ嫌ヒ「スチムソン」同様
「レアリスト」ナルヲ以テ彼支那ヲ見ハ便ナラント語レリ

29 昭和7年1月8日 犬養外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)

中国調査委員候補者閑歴等取調方について

第三号 暗、大至急

仏宛客年往電合第一九六五号ニ関シ

貴任國候補者ノ閑歴、人物及対日感情等詳細取調ノ上大至
急回電アリ度

訓令トシテ伊ニ転電シ参考トシテ巴里連盟ニ転電アリ度

30 昭和7年1月(10)日 在英國松平大使より
犬養外務大臣宛(電報)

リットン伯爵推薦の理由及び中国の門戸開放
と九国条約尊重方に関するサイモン外相の談
話について

別電 一月九日着在英國松平大使より犬養外務大臣宛
第一〇号

下院におけるサイモン外相の声明について

第九号(極秘)

「サイモン」外務大臣旧冬久シク旅行中ナリシ為漸ク八日
会见

先ツ外務大臣ハ今朝ノ事件ニ関シ天皇陛下ニ対スル深厚ナ
ル御見舞ヲ述ヘタルニ付本使ハ之ニ対シ謝意ヲ述ヘ次テ本
使ハ「リットン」伯爵推薦ノ理由及其性格等ヲ尋ネタルニ
外務大臣ハ同伯ヲ推薦シタルハ自分ナルカ「リ」ハ印度総

督タリシ第一伯爵「リットン」ノ嗣子ニシテ印度ヘ永ク滯
在シ「ベンゴール」ノ知事ヲ經テ東洋ノ事ニ付テハ同情的
理解ヲ有シ居リ立派ナル紳士ニシテ人格高キ人ナリ又物事
ヲ広キ見地ヨリ觀察シ得ル人ニシテ決シテ「ペダンティク」
ノ見解ヲ下ス人ニ非ス日本及支那ニハ居リタルコト無キモ
実ハ支那ニ永ク居リタル人ハ日本側ニ故障アル可ク日本ニ
永ク居リタル人ハ支那側ニ於テ承認セサル可ク從テ「リ」
伯ノ如キ人ハ此点ニ付却テ無難ナルノミナラス日本側ニ於
テ要求セラルル馬賊ノ状態支那人ノ抗日「ボーコット」ノ
調査又ハ支那ニ善良ナル政府ノ存在セサル事等ノ觀察ハ
「ベンゴール」方面ニ於テ同様ノ問題ニ付苦心シタル人ナ
レハ却テ都合宜シカル可シト思考シタル次第ナリ右様ノ理
由ニ依リ「リ」伯ハ地位ノ上ニテモ人格ノ点ニ付テモ又經
歴ニ於テモ日本側ノ承認ヲ得可キ事ヲ期待スル次第ナリト
述ヘタリ同伯ノ履歷ニ付テハ「フーズフー」ニ詳記シアル
ニ付之ヲ略記ス

(2) 次ニ本使ハ連盟軍縮會議ノ期日延期セラルル様ノコト無カ
ルヘキヤト尋ネタル処外務大臣ハ賠償會議十八日開催ノ英
國側希望ニ対シ仏國政府ニ於テハ政治的必要ノ為如何ニシ

テモ十八日ニハ出席シ兼ヌルニ付廿五日開催ノコトトシ度
キ旨主張シ已ムヲ得ス廿五日トナルヘク從テ理事会ト衝突
スルモ已ムヲ得サルヘク而シテ目下ノ如何レヨリモ軍縮会
議開催延期ノ申出無キヲ以テ二月二日開催ノコトトナルヘ
シ「ヘンダーソン」モ其ノ後健康余程恢復シタルニ付同氏
モ二日ヨリ開催ノ積リニテ其ノ準備ヲ為シ居レリ尤モ「ヘ」
ノ意見ニテハ開會後各国代表一般の演説ヲ為シ小国等ハ殊
ニ長キ演説ヲ為スヘキニ付真ニ必要ナル論議ハ一般討議ノ
後ニ起ルモノト期待シ居レリ從テ二月二日開會スルモ別ニ
差支無カルヘク考ヘ居レリト答ヘ

右會談後外務大臣ハ更ニ御相談シ度キコトアリトテ米國政
府ヨリ日本政府ニ提出セル公文ニ関シテハ既ニ御承知ノコ
トト存スルモ右公文写ハ英國政府ニ送り來リ当英國政府ニ
賛成方求メ來リタルカ自分ハ此ノ際日本政府ニ對シ同様ノ
公文ヲ送付シ之ヲ發表スルカ如キ意志ヲ有セス唯貴大使ハ
友好的ニ御話ヲ為シ次ノ点ニ関シ日本政府ノ意向ヲ確カメ
貰フコト望マシトテ先ツ滿州ニ於ケル門戸開放ニ對スル日
本ノ態度ニ付テハ十一月廿五日當國議會ニ於テ一議員ノ質
問ニ對シ自分カ答ヘタルコトアリ（別電第一〇号参照）又⁽³⁾

シト述⁽⁴⁾ヘ外務大臣ハ今一ツ全ク友人トシテ自分ノ思付ヲ述
ヘ度シトテ來ル廿五日ヨリ開カルヘキ連盟理事会ニ於テ滿
州問題又復議題帳ニ記載シアル處理事中ニハ本問題ニ付更
ニ種々非難ヲ提起スルモノ無キヤヲ恐ルル処若シ日本政府
ニ於テ右理事会席上九國條約各條項ヲ尊重スル決心ヲ聲明
セラルルニ於テハ是等ノ苦情ヲ一掃スル上ニ於テ極メテ効
果アルヘシト信シ居レリ又自分ニ於テ右日本ノ意向ヲ予メ
知リ得ルニ於テハ米國公文ニ參加スヘキ米國政府ノ要求ニ
對シ日英間ニ存スル友誼的關係ト最モ合致スル方法ニ於テ
之ヲ處理スル事ハ得ヘシト述ヘタルニ付是亦政府ニ申達ス
ヘキ旨答ヘ置キタリ

要スルニ外務大臣ハ（一）我方ニ於テ滿州ニ於ケル門戸開放主
義ヲ尊重スルコト（二）九國條約ノ各條項ヲ尊重スル決心アル
コトヲ次回理事會ニ於テ聲明センコトヲ予メ英國側ニ本使
ヲ通シ角立タル方法ニ依リ保障セラルレハ英國政府ハ議
會ニ於ケル質問ニ對シテモ日本ニ都合良キ様回答シ米國政
府ニ對シテハ公文ニ參加セサル旨ヲ答フル意向ト思ハル
ニ付至急右英國外務大臣ニ對スル回答振リ御電示アリ度シ
絶對部外ニ洩レサル様御取計ヲ請フ

十月連盟理事会ニ於テ芳沢理事カ日本國民ハ滿州ニ於テ領
土の野心ヲ有セス日本ハ滿州ニ於テ總テノ國民ノ經濟的活
動ニ對シ機會均等及門戸開放ノ主義ヲ率先尊重スルモノナ
リト述ヘラレタルコトアリ又十二月廿八日犬養總理大臣カ
門戸開放主義ヲ固持シ滿州ニ於ケル企業ニ外國ノ參加及協
力ヲ歡迎スル旨明言セラレタルコト「ロイテル」東京通信
ニ現ハレタルコトアリ英國政府ハ此等言明ニ信賴シ之ヲ疑
フ理由ヲ有セサレトモ來月議會再開ト共ニ本問題必ス提起
セラルヘキニ付予メ貴大使ヨリ日本政府ニ照會セラレ前記
屢次ノ保障ヲ確認セラルル特別ノ權限ヲ得ラルレハ議會ニ
於ケル此等ノ質問ニ對シ満足ナル回答ヲ与ヘ英國政府ニ関
スル限リ此ノ点ニ関シ日本ニ對シ最モ友誼的ニ且満足ニ処
置シ得ルコトト信ストテ我方ニ對シ頗ル好意的態度ヲ示シ
タルニ依リ本使ハ右外務大臣ノ周到懇切ナル態度ニ對シテ
ハ我政府ニ於テモ喜フ事ト思考ス右滿州ニ於ケル門戸開放
主義ニ付テハ從來日本政府ノ屢々聲明セル処ナルノミナラ
ス新政府ニ於テモ亦此点ニ重キヲ置キ居ル処ナルハ諸般ノ
情報ニ依リ本使ニ於テモ承知シ居ル次第ナルカ右御希望ノ
次第ハ直ニ政府ニ電報シ成ル可ク速ニ其回答ヲ御伝ヘスヘ

在歐米各大使、連盟ヘ転電セリ

（別電）

第一〇号（暗）

客年十一月廿五日下午院ニ於ケル「ピーターマクドナルド」
ヨリ政府ハ滿州ニ於ケル門戸開放主義維持ノ為何等措置ヲ
講シツツアリヤトノ質問ニ對シ外相ハ滿州ニ於ケル門戸開
放ハ九國條約ニ依リ保障セラレ居リ英國政府ハ最之ヲ重要
視シ從テ英國ノ同地ニ於ケル貿易ニ就テハ多大ノ関心ヲ以
テ注視シ居ル次第ナルカ今日迄ノ処右條約ノ違反アリタリ
トハ認メサル旨ヲ答弁セリ
本電同様転電セリ

31 昭和7年1月11日 犬養外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長宛（電報）

中国調査委員候補者承認について

第七号 暗、至急

往電第四号ニ関シ

支那調査委員候補者全部異議ナキ旨連盟側ニ通告アリ度
米、支ニ転電セリ

在歐各大使ニ転電アリ度

32 昭和7年1月20日

芳沢外務大臣より
在上海守屋臨時代理公使宛（電報）

調査委員啓発資料調書について

第一七号（暗）

客年本大臣発在支重光公使宛電報第四九九号ニ関シ
本省ニ於ケル調査項目ハ大体

甲、前提的事項

一、日本ノ国際社会ニ於ケル地位

二、満州問題ノ歴史的背景（張家ノ稅政ヲ含ム）

三、日本カ満州ノ開發ニ貢獻シ来リタル事実

四、自衛權ノ問題

五、満蒙治安維持問題

乙、支那全般ニ互ル事項

一、排外運動

二、支那政府ノ外国人保護能力（支那政府ノ実態、外国人被害事件、土匪及共匪ノ状況等）

三、支那ノ国際義務不履行ノ状況（国民党ノ指導精神及治外法權等ノ一方的廢棄、租界回收、不當課稅其他ノ

措置ヲ含ム）

丙、満州ニ関スル事項

一、鐵道問題

二、内地開放、商租權等ノ不実行

三、鉅業林業其ノ他ニ関スル權益侵害

四、鮮人圧迫状況

丁、参考事項

一、二十一ヶ条ノ現状及同条約ノ効力

二、九国条約及華府會議決議ノ現状

三、今次ノ事變前後ヲ比較シタル治安、匪賊、鮮人等ノ状況

四、満州ニ於ケル行政其ノ他新施設殊ニ外国關係事項等

ノ説明振

五、支那側ノ所云日本ノ不法行為ニ対スル反駁

六、満州事變ノ経緯等トナル見込ミニシテ右材料ニ依リ
連盟調査委員ニ交付スヘキモノトシテ成ルヘク前記諸
問題ニ触レ我方ノ立場ヲ概括的ニ説明セル「パンフレ
ット」ノ外個々ノ重要問題ニ就テノ説明（主トシテ右
「パンフレット」ノ付屬書トスル考ナリ）ヲ英仏文ヲ

以テ用意シ別ニ「アセスサー」ノ説明参考資料トシテ
必要ナルヘキ材料ヲ取纏メタル調書ヲ日本文ヲ以テ作

成スル方針ニテ進ミ度キニ付右御含ミ置キ相成度

北平、天津、張家口、濟南、青島、芝罘、在満各総領事及

領事ヘ本大臣ノ訓令トシテ転電セリ

本大臣ノ訓令トシテ右以外ノ在支各総領事領事及在香港総
領事ヘ転電アリタシ

33 昭和7年1月21日

杉村（陽太郎）連盟事務局
事務次長
連盟中国調査委員
会談録

杉村連盟事務局事務次長・連盟中国調査委員

会見録

杉村公使ト国際連盟支那視察委員トノ会

見録

一、一月廿一日支那視察委員

「リットン」卿（英 Lord Lytton）「クロードル」将
軍（仏 General Claudel）「フィニー」將軍（米 General
McCoy）「シナー」博士（独 Dr. von Schnee）「アル
ルドロヴァンディ」伯（伊 Count Aldrovandi）連盟

事務局ニ出頭 Lord Lytton ヲ委員長ニ推シ種々視察ニ
関スル内協議ヲ遂ク。

同日午後各委員及ヒ米國委員 McCoy 將軍ノ代理トシテ
出席セル総領事 Gilbert 氏委員ニ随行スル連盟事務局員
「ペルト」（蘭 Pel）「フオン・コツ」（独 von Kotze）
「バストホフ」（智恵古 Pastuhov）及ヒ事務局幹部並ヒ
ニ關係事務局員參集ノ席上ニテ約一時間ニ渡リ視察ノ準
備其他支那問題ノ大体ニ関スル話ヲ座談的ニナセリ。

二、右談話ハ支那理事顏惠慶ヨリ委員ニ対シ会見ノ申込ア
リタルモ今回ハ内輪ノ協議ヲ主眼トシテ參集シタルモノ
ナレハ關係當事國代表者トノ会見ハ差控ヘタシトノ理由
ニテ拒絕シタル行掛アリタルモ「ドラモンド」ノ好意ニ
テ小官ハ政治部長ノ資格ヲ以テ会談スルコトトナリタル
ヲ以テ満州事件ノ内容ニ立入り一々日本側ノ主張ヲ露骨
ニ弁護又ハ支持スルヲ止メ間接ニ我方ノ立場ヲ説明スル
ニ止メタル次第ニテ此点諒トセラレ度シ。

三、談話ノ要領ハ次ノ如シ

(イ) 支那ノ事情ハ複雑ニシテ之ヲ理解スルコト容易ナラ
ズ、日本側ヨリ各委員ニ差上ゲタル参考書類ハ何レモ

極メテ価値多キモノナレバ旅行中之ニ付キ必要ナル予備知識ヲ得ラレ更ニ現地ニ臨ンデ充分ナル視察ヲ遂ゲラルコトト致シ度シ。

(d) 支那ニ関スル議論ハ兎角一方ニ偏スル嫌アレバ全般的考察モ必要殊ニ大ナリ。例ヘバ之ヲ地理的ニ論ズル時上海ニ居住スル支那人又ハ外国人ハ上海ノ見地ヨリ支那問題ヲ論議シ北方又ハ南方ニ起リタル出来事ニ付キテハ外面ハ兎モ角内実深く関心セザルガ如キ風アリ支那が国トイフヨリモ大陸ト称スルヲ適當トシ各種ノ言語、民族ヲ網羅シ交通ノ便欠如スルモノアルトキ右ハ自明ノ理ナルコト日支両國人ガ国民性ヲ異ニシ支那ニ智者多キモ人物ニ乏シク、日本人ハ弁論文筆ノ優ニ非ザルモ実行力ニ富ム等兩者ハ同ジク亜細亞人ナルニ拘ラズ、殆ド同種族ニ非ザルガ如キ差異アリ。両國人間ニ互ニ理解シ、互ニ尊重スル念薄キハ大イニ之ニ原因スルコト支那ニ在ル外国人等ハ反動的保守的傾向ニ富ミ、二三十年前優勢ナル武力ト財力トヲ以テ支那人ニ臨ミ、思フ存分ニ其特權ヲ行使シタル彼等ノ所謂黄金時代ノ甘味ヲ忘レ得ズ之ニ反シ支那ノ青年ハ国權回復

可カラサルコト。

(e) 視察委員ハ公平ヲ旨トシ日支両國側ニ臨マサル可カラズ從テ視察終了迄ハ濫リニ意見ヲ開示セザルコト必要ナリ、否現今ハ双方トモ人心激昂シ、容易ニ人言ニ耳ヲ傾ケザル情勢ナルモ今後相当時日ヲ經過スレバ公平ナル第三者ノ意見ニ対シ深キ敬意ヲ表スルニ至ル可キヲ以テ其際ニ及ンデ意見ヲ公表スルヲ可トスベキコト。

(f) 支那ニ関スル情報ハ其出所如何ニ依ツテ極メテ正確ヲ欠クコト多キヲ以テ委員ハ日日会合シ特ニ情報ノ出所ヲ吟味シタル上相互ニ之ガ交換ヲナシ其觀察ノ正鵠ヲ失ハザル様努メラレ度キコト。

(h) 二月上旬欧州ヲ出發セバ三月十日前後ニハ東京ニ到着スベク、先ツ芳沢外相ヲ訪ヒ日本政府側ノ「プログラム」ニ依リ約一週間専ラ政府筋ト会見セラレ中休トシテ二三日間日光ニ遊ビ再ビ一週間程滯京シテ在野ノ政治家(幣原男、井上前蔵相、斎藤実子爵、石井子爵等ノ名ヲ掲ケタリ)実業家、一流ノ記者等ト会見ノ上大阪ニ向ハレ、京都、奈良ノ觀光及支那ト貿易上大ナル

運動其他二三十年ノ将来ニ於テ或ハ実現ヲ期シ得ルガ如キ妄想ヲ抱イテ西欧ノ民主主義乃至ソヴィエトノ制度ヲ其儘鵜呑トナシ冒進セントスル嫌アリ、斯ク一方ニハ二三十年前ノ過去ニ恋々タル外国人アリ、他方ニハ二三十年後ニ或ハ期待シ得ヘキコトヲ今日直ニ実現セント焦ル支那青年アリ、而シテ何人モ現在ノ事実ヲ直視之ニ基キ支那ト外國トノ關係ヲ考察セントスルモノ甚タ少キヤノ感アルハ極メテ遺憾ナレハ視察委員ニ於テハ忠実ニ此ノ現実ノ事態ヲ研究セラレ之ニ基キ實際上価値アル意見ヲ提出セラレ以テ支那及支那ト深キ關係ニ立ツ各國ノ利益増進ニ資セラレ度キコト。

(i) 右ノ目的ヲ達成スル為メ支那南北ノ各地ニ亘リ成ル可ク廣ク視察セラルルト共ニ普ユル種類及階級ノ人士ト会見セラレ支那ノ現状及支那カ今後如何ニ成リ行ク可キカニ付キ實際的觀察ヲ下スコトニ努メラレ度キコト。

(j) 支那ハ其經濟サヘ發達セハ支那及世界ヲ利スルニ足ル一大市場タル可キハ云フマデモナキモ之ガ為メニハ先ツ以テ国内ノ秩序ヲ回復シ其對外關係ヲ正常化セザル

利益關係ヲ有スル阪神実業家ト会見ヲナシ宮島等ヲ經テ四月中旬又ハ下旬長崎ヨリ上海ニ向ハルコト然ルヘク、本邦滯在中目下經濟上極メテ困難ナル状態ニアル日本ノ実情並ニ滿州問題ノ因テ起レル我國近時ノ国情ニ付キ十分ノ研究ヲ遂ゲラレ度キコト(此点各種ノ材料ニ依リ詳細ナル説明ヲ与ヘタリ)。

(k) 四月末頃南京ニ到着ノ上一二週日滯在シタル後上海ニモ相当期間滯留シ、広東訪問ガ時日不滿ノ為メ困難ナリトセバ、陸路北上北京、天津ヲ經テ六月下旬滿州ニ到着スベク奉天ヲ根拠地トシ各地ニ出張視察ヲナスコトモ一案ナレド暑氣相当敵シケレバ寧ロ大連星ヶ浦ヲ根拠地トシテ一週日又ハ十日間ヅツ滿州内地ヲ旅行シタル後大連ニ引揚ゲ、休養ノ上再ビ出張スルガ如クナス方好都合ナリト思考セラルコト。

(l) 「アッセッサ」ハ吉田大使ノ人物、経歴、力量等ヲ詳細ニ述ベ適任者ヲ得タルヲ喜ブ旨付加シタル後「アッセッサ」ハ日支各國政府ノ任命シタルモノナリト雖モ其ノ職責ハ視察委員會ノ内部ニ在ツテ日支兩國側トノ接触及連絡ヲ計ルニ存スヘキヲ以テ特定ノ專

門事項ニ付キテハ日支兩國側ヨリ出ス専門家ノ意見ヲ求メラルベキコト。

(x) 日本政府ニ於テハ委員ニ対シ有ラユル便宜ヲ計ルベク、又満鉄其他民間側ニ於テモ出来得ル限りノ款待ニ努ムベキヲ以テ種々希望モアラバ予メ申出デラレ度シ。

四、右談話ノ後委員長ハ鄭寧ナル謝辞ヲ述べ且ツ後ニ「ドラモンド」ニ対シ、大体小官ノ指示ノ如ク行動スルコト然ルベシト述ベタル由ナリ、又本邦側ヨリ提供シタル参考書類ニ対シテハ殊ニ其ノ選取ガ公平ニシテ露骨ナル宣伝振ノ跡見エサルコト一般ニ好評ヲ博シツツアリ。

五、視察委員ハ何レモ老將軍ニ非ザレバ老大家ニシテ政治家ニハ非ズ、微細ノ議論ヨリモ大体ノ觀察ニ基ク大局論ヲ挾ブヤニモ見受ケラル、從テ各委員ニ対シ日本側ノ主張徹底ニ努ムル場合当方モ成ルベク大官又ハ大頭株自ラ之ニ当リ高所大所ヨリ支那問題ニ付キ正確ナル理解ヲ得シムルニ努メラルルコト必要ト存ゼラル、詳細ナル技術的議論ハ寧ロ委員ニ随伴スル専門家又ハ事務局員ニ対シ

ルニ照ラスモ今回ノ旅行ノ機會ニ風光明眉ナル日本各地ニ遊ビ度キ希望甚ダ多キハ明ニシテ右ハ他ノ委員ニ於テモ同感ナルコト疑ナケレバ彼等ノ接伴上此点特ニ注意セラレ度シ。

八、我新聞記者及写真班ガ外客ノ横浜上陸等ノ際猛烈ナル襲撃ヲ行ヒ根掘リ葉掘リ意見ヲ求メ之ヲ發表スルコト既ニ一般公知ノ事實ナルガ委員等ガ支那側トノ關係上頗ル機微ナル任務ヲ遂行セザル可カラザル立場ニアルニ顧ミ、所謂「種取り」ヲ目的トスル記者ニ対シテハ情報部員タル隨員 Det. ランテ適宜応酬セシムルコトニ申合セ居レリ。

九、各委員等ノ履歷等ニ付キテハ既ニ詳細關係公館ヨリ報告アリタルモノト察セラルレハ之ヲ省略シ各人ニ対スル感想ヲ略述セハ次ノ如シ

(i) Lord Lytton 委員長ニ推サレタルモ決シテ統領ノ器ニ非ス、上品ナル寧ロ才子風ノ人物ニシテ曾テ總會ニ印度第一代表トシテ出席シ思切ツテ印度ノ英國ニ対スル不平ヲ公言シタルコトモアリ東洋人ノ性格ニ付キテ多少ノ了解アリ、又万事ニ付キ相当ニ融通性ヲ發揮シ

試ムル方効果大ナルベシト思考セラル。

六、各委員ハ謁見、首相又ハ外相ノ晚餐等ヲ予期シ、大礼服、勲章(我一等勲章ヲ有スル向モアリ)其他礼服ノ携帯ニ付キ、種々ニ詳細ナル質問ヲ發シタルハ真ニ意外ナリキ、「クローデル」將軍ニハ大礼服持參ノ要アルベシト述ベタルモ其他ニ対シテハ燕尾服、フロックコート(又ハモーニング)ニテ足ルベシト答ヘ置ケリ。

七、委員ハ何レモ種々ノ理由ニ依リ已ムヲ得ズ此ノ大役ヲ引受ケシモノニシテ自ラ進ンデ支那ヲ視察シ意見ヲ立テントスルガ如キ意氣アルモノ一人モ無シ且ツ日支兩國側ノ負担ヲ軽減セントノ主旨ヨリ、從者ノ同行ヲサヘ拒絕セラレタルヲ以テ何レモ甚ダ不平ノ模様ナレバ我方ニ於テハ我等ガ「サンフランシスコ」ニテ日本船ニ乗込ミタル当初ヨリ上海上陸スルマデ及ビ滿州旅行中等、其接伴ニ努メラルベキハ勿論ナルモ特ニ各委員ノ身ノ廻リヲ世話シ、旅行上支障無キ様適當ナル「ガイド」及「ボーイ」其他ヲ付セラルルコト希望ニ堪ヘズ又 Lord Lytton ガ小官ノ談話後ノ謝辞中ニ「有益且ツ愉快ニ旅行センコトヲ希望ス」ト述ベ agreeable ナル言ニ特ニ力ヲ入レタ

得ヘク、「ゴルフ」ヲ得意トス。

(ii) 「クローデル」將軍ハ所謂 Coloniaux ノ一人ニシテ團匪事件ノ當時北京救援軍ニ加ハリタル當時ヨリ支那ト關係アリ、尤モ今回支那ノ暑夏嚴シキコト衛生設備ノ不完全ナルコトヲ理由トシ医官一名ヲ帶同スルコトトナシタルヲ見レハ支那ニ関スル其知識ハ蓋シ余程時代遅ナランカトモ察セラル。事務局内支那最負ノ仏人連ハ將軍ニ二三日滞在ヲ乞ヒ支那ノ為メニ説クトコロアラントシタルモノノ如キモ將軍ハ連盟ニ対シ親シミヲ感セサルモノノ如ク殊ニ是等仏人連ト接近スルヲ好マサル様子ニテ即夜歸仏セリ。尚將軍ハ英語ヲ解セス。

(iii) 「アルドロヴァンディ」伯ハ「パリー」平和會議中伊太利代表部事務總長タリシ丈ケアリテ有能ナル外交官ラシク、在独中長岡大使ト親交アリシ由ナリ、一見平凡ニ見ユルモ用意周到ノ点其長所ラシク、共ニ會食ノ際日伊カ青年國トシテ發展ヲ運命トナス点ヲ力説シタルニ大イニ共鳴シタルモノノ如ク唯々支那ニ付テハ何等知識ヲ有セス。

(iv) Dr. Schnee トハ遂ニ親シク個人的ニ懇談スル機會ヲ

得サリシモ「デュフル」及「レント・フィンク」カ
伝フル所ニ依レハ小官ノ談話ニ対シ大ナル興味ヲ感シ
タルモノノ如シ。尚独逸側ハ支那ニ対スル貿易ノ伸張
ヲ希望シ之カ為「ボイコット」其他支那側ノ不法行為
予防上列強カ共同ノ措置ヲ執ルノ必要ヲ力説スル反面
通商上ニ於テハ門戸開放、機会均等ノ原則ヲ確守シ競
争ノ自由ヲ認メ三十年前列強カ支那分割ヲ策シタルカ
如キヲ避ケ支那市場ヲ全部トシテ国際経済ノ回復ニ資
シ度シトノ意見ヲ有シ居ルカ如キヲ以テ右御含ミ置キ
ヲ乞フ。

十、委員ニ随行スル事務局員及専門家ニ付キ略述セハ次ノ
如シ

(イ) Haas ハ松田、永井両大使ニ於テ御熟知ノ間柄ナレハ
説明ヲ省略ス。

(ロ) Pat ハ蘭人ニシテ情報部員タリ、敏腕家ヲ以テ聞エ
曾テ「ワシントン」会議ニハ特ニ蘭国政府ヨリ一時備
聘セラレテ其代表部ニ加ハリ又先年 Institute of Pa-
cific Relations ノ書記長タランコトヲ求メラレタルニ
収入不充分ナリトテ拒絶シタルコトアリ外相「プロッ

クランド」ノ信任深ク今回モ「ヘーグ」ニ赴キ親シク
其指示ヲ受クル旨申居レリ。小官トノ関係ハ極メテヨ
ク、日本側ニ対シテモ悪意ヲ有スルカ如キコトナシ。
古垣鉄郎氏ト親交アリ。

(ハ) H.V. von Kozne 独逸事務総長「デュフル」ノ輔
佐タリ(我カ原田健氏ニ相当ス)善人ニテ我方トノ関
係善シ。

(ニ) Pastuhov ハ政治部員トシテ五年以来小官ノ片腕タ
リ、国籍ハ智恵古ナルモ「ロシア」人ニシテ旧派ニ属
ス。日本側トノ関係ハ極メテ親密ナレハ万事同人ニ対
シテ折衝セラルル様希望ニ堪エス。

(ホ) 専門家 Hiam ハ「カナダ」人ニシテ鉄道ノ専門家ナ
リ、曾テ交通部ニ数年間勤続シ日本側トノ関係良好ナ
ルハ勿論、無口ナルモ善人ナリ。

34 昭和7年1月21日

芳沢外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長宛(電報)

トルコ駐在吉田大使を中国調査委員アセッサ
ーに指名について

本省 1月21日後8時発

第二一号(暗)

連盟支那調査関係

帝國政府ニ於テハ在土吉田大使ヲ連盟支那調査委員ノ我方
「アセッサ」ニ「ノミネート」スルコトニ決シ目下必要
ノ手續進行中ナルニ付右不取敢連盟側ニ通告シ置カレタシ
米及在欧各大使ニ転電アリ度
支、北平、奉天、南京、広東ニ転電セリ

35 昭和7年1月27日

在独國小幡大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州問題に関するシュネー独連盟調査委員と
の会談要領について

ベルリン 1月27日後発
本省 1月28日前着

第一八号(暗)

(1) 廿七日「フォン、シュネー」挨拶ノ為来訪セルカ其ノ際ニ
於ケル会談要領左ノ通

先ツ本使ヨリ満州問題ノ決定的解決ハ日支関係ノ改善惹テ
ハ東洋並ニ世界平和ノ増進ニ貢献スル所大ナルヲ以テ委員
会ノ任務重大ナリト前置シ次テ日支紛争ノ禍根ヲ極ムル為

ニハ区々タル感情又ハ個々ノ派生的事件ニ係ハル事無ク透
徹セル觀察力ヲ以テ高キ見地ヨリ支那一般ニ対スル調査ヲ
行ヒ惹テ同国ノ混乱状態カ世界経済ニ及ホス影響ヲ究明ス
ル要アルカ此ノ意味ニテ公平ナル同氏カ独逸代表トシテ参
加スルニ至リタルハ欣幸ノ至ナリ兩國関係悪化ノ原因ハ既
存条約殊ニ所謂一九一五年条約ノ効力ニ関シ兩國間見解ヲ
異ニシ支那側ハ無効ヲ主張シ之カ抗争ノ武器トシテ絶ヘス
日貨排斥在留邦人圧迫等ノ手段ニ依リ我ニ対シ莫大ノ精神
的物質的損害ヲ加ヘ居ルカ元々我方トシテハ何等支那ニ対
シテ領土の野心アルニ非ラス唯条約上ノ權益ヲ享受スルヲ
以テ足ル次第ナルモ右權利ニ基キ投下セル資本及日本人ノ
努力ノ成果ヲ支那側カ否認セントスルハ絶対ニ容認シ得サ
ル旨ヲ述ヘ此ノ明白ニシテ正当ナル事態ヲ支那カ認識シテ
日本ト諒解ヲ遂ケサル限り日支ノ関係ハ何時迄モ常軌ニ復
セサルヘク其ノ結果ハ聽テ今日以上ノ紛争ヲ惹起シ延テハ
東洋ノ平和ヲ乱シ世界ノ平和ヲ脅ヤカスニ至ルヘク從テ我
等ノ対支調査委員ニ期待スル所ハ之等ノ点ヲ充分念頭ニ置
キ深ク広ク事態ノ根源ニ入り研究ヲ遂ケ東洋平和ノ禍根ヲ
除去スルハ果シテ如何ノ点ニ存スルカヲ明カニセンコトニ

述へ居タリ
聯盟へ転電セリ

36 昭和7年2月4日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満洲における日本の行動などに関するウォル
ター・ヤングの談話について

奉天
本省 2月4日後着

第一九三号(暗)

満洲問題研究家「ウォルター・ヤング」ハ客年十月末北平ニ滞在中ナリシ処過般当地ニ来リタルニ依リ当館川崎主トシテ之ト接触シ啓発ニ努メタルカ「ヤング」ノ川崎ニ為シタル談話中興味アリト認メラルル諸点御参考迄左ノ通

(一)自分(「ヤング」)ハ当初満洲ニ於ケル鉄道問題調査ノ目的ニテ当地ニ来リタルモ現在ノ事態ハ最早スル研究ヲ為ス時期ニ非サルニ付之ヲ諦メ北平ニ帰ル積リナリ

(二)学良カ顧問「ドナルド」ヲ極端ニ信頼シ之ニ操ラレ居ル様ハ寧ろ滑稽ニ近シ尙自分カ連盟調査班米國委員輔佐トナルヤノ噂アルモ出来ルタケ避ケ度キ考ナリ

アリト説キタル処「シュネー」ハ一々之ヲ首肯シタル後独逸ハ日本ニ対シ政治上何等利害無ク全然中立ノ立場ニ在ルカ經濟上ニ於テハ相当利害關係ヲ有スルヲ以テ成ルヘク速ニ支那ノ秩序恢復センコトヲ希望シ居ル次第ナリ尙東洋方面ノ事情ハ「ゾルフ」等ヨリ聞込メル処鮮カラサルモ尚此ノ上現地ニ臨ミ充分ノ調査ヲ遂ケ希望ニ応スル様致シ度ク考ヘ居ル旨答ヘ次テ上海事件ニ付右ハ支那学生ノ感情ヲ益益激セシメ問題ハ益々拡大シテ満洲問題迄ニ影響シ中央政府ノ立場ヲ甚シク困難ナラシムル惧無キヤト問ヘルニ付本使ハ之ニ対シ上海問題ハ地方的ニ解決ノ方針ニテ兩國官憲ニテ折角努力中ニ付何トカ平和的ニ解決スヘク將又支那ニ於テハ学生運動ト共產党ノ活動トハ殆ト不可分ト見ル方至当ナルカ故ニ中央政府カ学生ノ勢力下ニ帰スルノ日ハ即チ支那赤化ノ日ナルヘク要スルニ我等ハ中央政府ヲ鞭撻シテ学生ノ盲動ヲ彈圧セシムルニアリト答ヘタル処彼ハ更ニ哈爾賓支那市街戦ニ言及シ満洲問題カ各処ニ飛火スルノ状態ヲ深く懸念シ居リタリ

尚同人ハ本年六十四歳頗ル温厚ナル人物ノ様見受ケラレタルカ出發ハ多分来月三日「ハーブル」発ノ事トナルヘキ旨

(三)連盟調査委員来着ノ際日支代表互ニ相手方ノ非難ニ耽ルハ面白カラサルニ付之ヲ避クル為メ兩者間ニ一種ノ紳士約定ヲ為シ置クモ一案ナルヘシ

四自分ハ今次ノ満洲ニ於ケル日本ノ行動ヲ以テ国家存立ノ必要上正当ノモノト認ム目下ノ急務ハ新政權ヲ確立シ治安維持ヲ全ウスルニアル処右新政權ノ形態如何ニ付テハ自分ハ未タ結論ヲ得ルニ至ラス

(四)「ジョンソン」公使ハ日頃自分ニ対シ米國ハ満洲ニ於テ現実ニ重大ナル利害關係無ク唯門戸開放主義及九国条約不戰条約ニ付關心ヲ有スト語リ居レリ

37 昭和7年2月9日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団のニューヨーク到着後の日程について

第五九号(至急)

支那調査委員一行ハ九日午後紐着桑港ニ直行十二日出發ノ筈ナリシ「プレジデント、クーリッジ」ヲ國務省ノ幹旋

ニ依リ十三日出發トシ同船ニ乗船三月一日横浜着ノ予定トスル事ニ旅程ヲ變更シタル趣船中ヨリ事務局宛無電アリタル由不取敢
米、支、紐着、奉天へ転電セリ
米ヨリ桑港へ転電アリ度シ

38 昭和7年2月9日 在厦門三浦(義秋)領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

マッコイ米國委員の経歴などに関する米國領
事の談話について

厦門 2月9日後発
本省 2月10日後着

第六三号(暗)

公使宛電第四四号(九日接到)ニ関シ数日前特ニ呢懇ニシ居レル米國領事「フランクリン」来(館)前後六時間ニ互リ打解ケタル談話ヲ交換シタルカ其際同領事ハ今回連盟支那調査委員ノ米國側代表トシテ人物経歴共ニ申分ナキ「マッコイ」將軍ノ選任セラレタルコトハ日本否日支ノ兩國ノ為慶賀スヘシ曩ニ同將軍ハ恰モ満洲ノ日本ニ対スルカ如キ關係ニアル「ニカラガ」ニ派遣セラレ辛酸ヲ嘗メ難局

ニ善処シタル経験アリ自分モ当時同地ニ駐在シ熟知シ居ルルカ之以上満州ノ事態ヲ能ク了解シ得ル人物ハ得難カルヘシ又「ホンジュラス」ニ対スル米國ノ政策決定ニ際シテモ「フーバー」「スチムソン」相次テ親シク視察研究ヲ遂ケタルモ更ニ為念「マ」將軍ヲ派遣シタル上最後ノ断案ヲ下シタル位ノ人物ナレハ同將軍ノ満州ニ対スル視察ハ他ノ追隨ヲ許ササルヘキノミナラス其提出スヘキ報告書ハ千鈞ノ重味アルヘシト語リタル上只米國政府ハ是等諸國ニ対シテモ強力ニ依ル最後手段ヲ用ユルコトハ極力避ケ「ニカラガ」ノ如キモ隱忍十年始メテ之カ「コントロール」ニ成功シタル次第ナリトテ強力ニ依ル政策ハ時代遅レニテ此点ハ「マ」將軍ノ方針ニモ反スヘキ旨ヲ付言シタルニ付本官ハ日本ハ満州ニ付隱忍自重スルコト既ニ二十年ヲ過キタリトテ詳細説明ヲ与ヘタル処同領事ハ斯カル複雑ナル事情ヲ了解スルハ「マ」將軍ヲ措イテ他ニナカルヘシト答ヘタリ何等御參考迄

支、上海、北平、奉天、南京、広東、福州ニ転電セリ

二、尚当日「リットン」卿ハ往訪ノ新聞記者ニ対シ本委員会設定ニ関スル連盟ノ決議ハ甚タ広汎ナルモノナルカ本会ハ万國民ノ友人タル連盟ヲ代表シ何人及何國ニモ偏セサル態度ヲ執ルモノニシテ現地視察ニ基キ成ルヘク広汎ナル基礎ノ上ニ日支兩國ノ平和条件ヲ考案セント欲スルモノナリト述ヘ且上海事件ニ付テハ連盟カ既ニ特別委員会ヲ設定セルニ願ミ本委員会ハ之ヲ調査スル意向無ク又其ノ報告書ハ出来得ヘクンハ本年九月ノ理事会ヘ提出スヘシト語リタル趣ナリ

大使、桑港、「ホノルル」ヘ転電セリ 尚貴電第四号及第七号「ホノルル」ヘ転電セリ

40 昭和7年2月12日 芳沢外務大臣より 内田(康哉) 満鉄総裁宛(電報)

満鉄囑託キニーを連盟中国調査事務に使用方
について

(暗) 国際連盟支那調査委員派遣ニ付貴社「キニー」ヲ我方「アッセッサ」補助員トシテ御差線方係ヨリ御内意伺ヒタル処本件事務ノ重要性ニ鑑ミ此際何トカ御差線願ハレマシキ

39 昭和7年2月10日 在ニューヨーク堀内(謙介)総領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団の旅程について

第二五号(暗) ニューヨーク 2月10日後発 貴電第七号ニ関シ 本 省 2月11日前着

一、九日一行当地著港ニ際シ藤村領事ヲシテ一行ニ面会間合サシメタル処「リットン」卿ハ本委員会ハ今日迄 General McCoy ノ参加無カリシ為未タ一回モ正式会合ヲ行ハス日本及支那旅程其ノ他一切ニ付今後旅行中ニ協議スル心算ナルカ「プレジデント、クーリッヂ」ニテ二月廿八日横浜著後日本ニハ少クトモ三週間滞在シ各方面ノ人士ト接触シタキ処夫レモ到着後ノ事情ニ依リ変更セラルルヤモ知レス何レ到着後日本政府当局トモ篤ト相談シタキ意向ナリ又今後旅行中何等決定スルコトモアラハ在桑港及「ホノルル」総領事館ヲ通シ東京ヘ伝達方依頼スルコトトスヘシト語リタル趣ナリ依テ藤村ハ不取敢同一行幹事 Pelt 在桑港総領事館トノ連絡方ニ付打合せ置キタリ

ヤ御依頼申進ス

41 昭和7年2月13日 在サン・フランシスコ若杉(要)総領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

本邦到着後の日程などに関するリットン委員
長との会談について

第二三号(暗) サン・フランシスコ 2月13日後発 本 省 2月14日後着

連盟支那調査委員一行ハ十三日午前八時半当地着、同十時「プレジデント、クーリッヂ」号ニテ出帆セリ本官英、仏、独、伊総領事ト共ニ一行ニ敬意ヲ払フ為出迎ヘ見送りノ際「リットン」卿及其秘書「アスター」「(アスター)卿(令息)並ニ幹事「ペルト」ト会谈ノ機会ヲ得タルカ「リットン」卿ハ本邦ニハ三週間位滞在ノ希望ナルモ紐育以来汽車中ニテハ何等纏リタル打合ヲ為スノ余裕無ク何レ航海中ニ協議ノ積リナルニ付右滞在日数モ或ハ本邦到着ノ上変更スル事トナルヤモ計ラレス本邦ニ於ケル名士等ノ会见ノ如キモ何レ船中ニテ同僚トモ打合せタル上決定ノ筈ト語リタ

ルニ付本邦ニ於テ一行旅程ノ便宜上予メ用意シ置ク方好都合トセラルル何等御希望事項等モアラハ当館又ハ「ホノルル」総領事館へ申聞ケラレタキ旨申入レタルニ対シ我方ノ好意ヲ謝シ又「ベルト」及「アスター」ノ語ル所ニ依レハ一行ハ寿府発以来昼夜兼行ノ姿ニテ途中新聞記者ヤ写真班等ニ責立テラレ送迎ニ暇無キノミナラス時局ノ形勢刻々變動シ寿府トノ連絡モ不充分ニテ情報ヲモ満足ニ入手出来サル為何等纏リタル打合ヲ為スヲ得サリシ次第ニテ本邦ニ於ケル準備等ニ付何等依頼スヘキ事項決定ノ上ハ船中ヨリ本官又ハ「ホノルル」総領事館へ無電ニテ通知スヘシト約セリ

尚一行ハ委員五名書記四名医師一名「マッコイ」將軍副官一名「タイピスト」二名何レモ機嫌良ク出発、「マッコイ」將軍ノ如キハ本官ニ対シ本邦ニハ多数ノ友人モアリ本邦到着ノ日ヲ楽ミ居ル旨語り仏、独、伊委員何レモ見送りヲ感謝シ居リタリ

当地ニ於ケル一行ノ出迎見送ハ当市市長、商業會議所代表、前記総領事其他知人ノミナリキ

「ホノルル」へ転電シ米、紐育へ暗送セリ

42 昭和7年2月13日

内田満鉄総裁より
芳沢外務大臣宛（電報）

満鉄囑託キニーを連盟中国調査事務に使用了承について

（暗）

「キニー」ノ件貴電拝承

貴意ニ副フ事ニ致シ度早速本人ト交渉ノ上御回答申上ク

43 昭和7年2月17日

在米国出淵大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

ブレークスリー教授の調査団顧問任命について

第一三〇号

先般来国務省囑託タリシ「クラーク」大学教授「ジョージ・エッチ・ブラクスリー」ハ今般在支米国公使館「スペリアル、アッシスタント」トシテ二月末出発北平へ赴クトトナレル趣ナルカ同氏ハ連盟支那調査委員ヲ補助スヘシト報セラル

44 昭和7年2月17日

芳沢外務大臣より
在上海重光公使宛（電報）

連盟調査団渡来に際しての措置について

別電

同日芳沢外務大臣より在上海重光公使宛第九一
号

吉田参与委員より調査団に提出予定の資料要旨
について

第九〇号（暗）

（三文書）

往電第一七号ニ関シ国際連盟支那調査委員ニ対シ「アッセッサ」吉田大使ノ名ヲ以テ交付スヘキ英仏両語ノ調査別電要綱ニ依リ作成中ナルカ元来委員派遣ノ目的カ国際平和及善良ナル了解ヲ攪乱スヘキ支那ノ一般情勢ヲ調査スルニ在ルヲ以テ右調査ハ主トシテ支那ノ排外運動ト不統一及動乱ノ国際関係ニ及ホス影響ヲ取扱ヒ滿蒙及上海等ニ於ケル現実ノ事件ハ故ラ之ヲ説明ノ一資料トシ間接ニ帝国ノ主張ノ正当ヲ立証スルコトシタリ

委員ノ旅程等ニ付テハ分カリ次第電報スヘキカ一行責任地着ノ際ハ右趣旨ニ準シ可然御措置アリ度猶ホ委員 hearing 等ノ際出来得ル限り当方ノ立場ヲ有利ナラシムル為メ在留民其他ノ向ヲシテ予メ通訳等ノ点ニ至ル迄各般ノ準備ヲ整

ヘサセ置カレ度殊ニ支那ノ現状中国際平和又ハ善良ナル国際了解ヲ攪乱シ又ハ攪乱ノ虞アル事実ヲ各委員ノ本国人等ヨリ篤ト説明セシムルヲ得ハ更ラニ好都合ナリ
猶申ス迄モナキ義ナカラ軍部ト充分御打合ノ上（陸海軍中央部ヨリ我方「アッセッサ」随員ニ交ル筈ナリ）区々ノ態度等コレナキ様慎重措置アリ度シ
右ニ付キ経費支出ノ要アラハ成ルヘク早日ニ申越サルル様致度シ
上海へ本大臣ノ訓令トシテ転報アリ度シ
右以外ノ在支各公館、香港、寿府、英、米、仏、独、伊へ転電スミ

（別電）

第九一号（暗）

（三文書）

往電第一七号ニ関シ

我方「アッセッサ」吉田大使ヨリ連盟委員ニ交付スヘキ調査（右往電末段ノ「パンフレット」）目下本省ニテ作成中ナルカ其要旨左ノ如シ猶ホ委員派遣ノ目的カ国際平和及其基礎タルヘキ善良ナル国際了解ヲ攪乱スヘキ支那ノ一般の実情ヲ調査スルニ在ルニ鑑ミ右調査ニハ滿蒙及上海ニ於

ケル現実ノ事件ヲ一般情勢説明ノ一資料トシテ取扱ヒタリ

左記

第一章ニ於テ支那排外運動ヲ説キ支那ノ排外賤外ノ思想ノ根底極メテ深キコトヲ沿革的ニ説明シ転シテ国民政府成立以來ノ革命外交ノ理論ト實際トヲ略述シテ其ノ狂暴性ヲ指示シ又支那排外運動惡化ノ原因トシテ第三「インターナショナル」ノ影響ト学生ノ運動参加トヲ挙ケ猶ホ之等ノ理由ヨリ外国人ノ生命財産カ国民政府成立以來甚タシキ危険ニ暴露セラレ暴動其他ノ直接行動頻々トシテ各地ニ起リタルコト其後一時小康ヲ見タルコトアルモ最近ニ至リ復又直接行動盛トナリ現ニ主トシテ日本人ノ生命財産カ暴力ニ依リ攻撃セラレ居ルコト然レトモ支那ノ排外運動ハ普遍的ニテ特定二三國ノミヲ目標トスルモノニアラサレハ支那ニ政治上經濟上ノ優越地位ヲ有スル國ハ順次ニ排斥セラレヘキコトヲ事實ニ依リテ説明シテ排外運動ニ対スル列國共通利害ノ關係ニ付特ニ注意ヲ喚起シタリ次テ支那ノ排外思想カ政府ニ依リテ公然涵養セラルルコトヲ示ス為メ排外思想涵養ノ各種ノ方法ヲアケ就中排外教材ノ採用ト國恥紀念日制度ヲ述ヘ且ツ其ノ将来ノ恐ルヘキ結果ヲモ指摘シ次ニ排外手

段トシテノ条約無視ヲ説明シテ日支諸条約ノ無視ニ及ヒ殊ニ我滿蒙權益侵害ノ各種ノ体様ヲ説明シ次イテ排外貨運動ノ狂暴性ト違法性トヲ説キ其武力ニ依ラサル敵對行為ニシテ兵力ニ依ル敵對ト実害ニ於テ異ナルコトナキヲ述ヘテ其ノ我國ニ与ヘタル損害ヲ略述シ最後ニ支那ノ排日ノ我國ノ安全ト經濟の生存トニ重大ナル脅威ナル次第ヲ主トシテ人口問題及外國貿易ノ点ヨリ立証シ我等カ此脅威ヲ外交手段ニ依リ除カントシテ百方努力シタルモ効ナキノミカ近来益益猛烈ヲ極ムルニ至リタルコトヲ指摘セリ

第二章ハ支那ノ不統一ト無秩序ノ部ナリ支那ノ不統一ヲ一九一一年以來ノ内戦ニ付キ説明シ其原因トシテ人種ノ雜多言語ノ不統一各地ニ於ケル人情風俗ノ相違交通ノ極端ナル不便等ヲ挙ケテ各地方ノ自主ヲ支那ノ常態ナリトシ更ニ不統一ヲ益々甚シカラシムル原因トシテ軍閥ノ跋扈就中手兵制度ニ依ル武力鬭爭軍閥ノ専横ト稅政匪賊ノ横行ト其組織勢力等ヲ挙ケ殊ニ南支及滿州馬賊ノ実害ヲ稍ヤ詳記シ且ツ内外人ノ受クル損害ノ莫大ナルコトノ顯著ナル実例ヲ示シタリ

終リニ第三章トシテ支那ノ不統一及無秩序カ支那ヲ内部及

外部ヨリノ崩壊ノ危険ニ暴露スルコト内部ヨリノ崩壊ノ一態様トシテ人民革命ノ政治原理ヲ説キテ統治階級ノ稅政請求カ人民ヲシテ革命ヲ欲望セシメ遂ニ其ノ實現ヲ見タル例少ナカラサルヲ示シ猶ホ滿蒙ニ於ケル新國家運動ノ如キモ張一家ノ永年ノ稅政ニ対スル反動トシテ已ムヲ得シテ滿蒙人民ノ起シタル運動ナルヲ説キタリ

次ニ支那ハ外部ヨリ崩壊セララル危険甚タ大ナルコトヲ日清戰役以後ノ歴史ニ付キ説明シテ支那就中滿蒙ニ対スル日本ノ特殊關係ハ過去ニ於テ日本ヲシテ此外部ヨリノ危険ヲ除去スヘキ必要ニ直面セシメタルコト猶ホ支那カ今日迄崩壊ヲ免カレ来リシハ主トシテ我國ノ勃興ト列國協調ノ力ニ依レルヲ説キ最後ニ支那ノ現状カ世界經濟復興ヲ妨害スヘキコト支那ノ資源ノ利用ト市場ノ開拓カ治安維持ヲ必須要件トスルコト並ニ日本カ滿蒙治安維持ニ対シ緊切最重ノ關係ヲ有シ之レカ為メ過去ニ於テ此目的ノ為メ消極積極ノ努力ヲ重ネタル次第並ニ客年十二月十日國際連盟理事會決議ニ対シ芳沢理事ヨリ匪賊討伐ニ関スル留保ヲ為シタルコトヲモ指摘シタリ

上海ヘ転報アリ度

右以外ノ在支各公館、香港、寿府、英、米、仏、独、伊ヘ転電スミ

45 昭和7年2月18日 在ホノルル岩手(嘉雄)総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

ホノルル入港のリットン委員長との会談について

ホノルル 2月18日後発
本省 2月19日後着

第六号(暗)
貴電第三号ニ関シ

調査委員一行ノ乗船「プレジデント、クーリッヂ」今十八日午前七時当地ヘ入港セルカ「リットン」卿ハ本官ノ印度在勤時代ノ旧知ナルヲ以テ同船当地到着ニ先タチ予メ無電ヲ以テ打合ノ上今午前中兩人ノミニテ極メテ打解ケタル態度ヲ以テ悠々會談ノ機会ヲ得タリ

先ツ貴電ノ御趣旨ヲ詳細申伝ヘタル処同卿ハ之ニ対シ成ルヘク永ク東京ニ滞在スルコト極東ノ事態了解上必要且ツ有益ナリトノ貴大臣ノ御意見ハ全然同感ニシテ此ノ点ニ関スル御申越ノ次第ハ深ク感謝スル所ナルモ往路ニ於ケル東京

滞在ノ予定ハ之ヲ短縮セリトテ

(一)航海中協議ノ結果作成シタル往路東京滞在仮日程ハ来ル二十九日横浜着後三月八日迄東京、九日京都、十日大阪ニ滞在ノ上十一日神戸出帆ノ「プレジデント、アダムス」ニテ上海ニ向ヒ南京ヘ赴ク予定トナシ居レリ

(二)⁽²⁾勿論本邦ニハ更ニ長期ニ互リ滞在シ親シク実状ヲ研究シ朝野ノ名士トモ会談ノ機会ヲ得タク切望シ居ル次第ナルモ往路ニ於テハ兎ニ角モ上述ノ予定トナシ南京ニ亦約十日間滞在ノ上北平ヲ経テ(南京又ハ上海ヨリ北平行ノ経路未決定)成ルヘク速ニ満州ニ向ヒ度キ所存ナル処右ノ挙措ニ出ツル所以ノモノハ之ヲ要スルニ先以テ日支両国政府当事者ヨリ現下ノ紛争解決方法ニ関シ其ノ懷抱セラルル両国間恒久平和樹立ノ基礎如何ニ関スル見解ヲモ承知シ度ク同時ニ自分等トシテハ本委員会ノ調査範圍乃至日支両国間ノ問題ニ対シ連盟トシテ如何ニ補助シ得ヘキヤノ方策等ニ関シ両国政府当事者ニ篤ト御話モ致シ置キタキ儀アリ斯シテ両国政府当局ト一般的重要事項ニ関シ各々其ノ所見ノ交換ヲ行ヒタル上ハ速ニ満州ニ赴キ実地ノ調査ニ従事シ度キ所存ニ基クモノニ外ナラスシテ其ノ上ニテ更ニ本邦ニヨリ永ク滞

ナリトモ御申聞ケアリ度キ旨述ヘタルニ同卿ハ当方ノ好意ヲ深謝スルト共ニ只今ノ処右以外何等当方ヲ煩ハスヘキ事項ナシト答ヘタリ
米ヘ転電セリ

46 昭和7年2月(22)日 在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

アース連盟事務局交通部長の出發予定について

第二六三号(暗)
往電第二〇六号ニ関シ

「ハース」ハ随員「テイラー」ヲ帶同二十三日發「プレジデント、クリーブランド」ニテ赴日ス金井モ同行ス
「ハ」一行ノ簡易通関方等御手配アリタシ

47 昭和7年2月26日 ※在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

調査委員の安全保障に関するドラモンド事務
総長の申越しについて

在ノ希望ヲ有スル次第ナリト云々

(三)⁽³⁾東京ニ於ケル宿舍ニ関シ「ダラー」汽船会社側ヨリ紹介ノ次第アリタルヲ以テ同会社ノ手ヲ通シ既ニ帝国「ホテル」ニ六室留保方手配済ナル旨ヲ語レルカ更ニ進テ同卿ハ四支那側「アセッサ」ハ顧維鈞ナリトノ新聞報ヲ見タルモ未タ何等公式ノ通知ニ接セサル処何人カ任命セラルルトスルモ出来得ヘクンハ支那側「アセッサ」ハ東京迄出向キ自分等ト同行シテ支那ヘ赴カンコトヲ希望シ居リ又日本側ノ吉田大使モ自分等ト南京ヘ同行セラレンコトヲ希望シ居ル次第ナリト語り転シテ

(四)上海最近ノ形勢如何ト問ヒタルヲ以テ本官ハ今朝ノ上海発新聞電報ニ於テハ目下日支両軍司令官ノ間ニ停戦ニ関スル交渉中ニシテ且其成立ノ見込アルヘキ旨答ヘタル処同卿ハ本委員会カ現地ニ於テ調査ヲ開始セントスル時ニ当リ上海ニ於ケル兩軍ノ戦鬪益々熾烈ヲ加フルカ如キハ最モ望マシカラサル事ニ属シ切ニ停戦交渉ノ成功センコトヲ期待スト語レリ尚会谈ニ臨ミ本官ハ同卿ニ対シ以上御話ノ次第ハ早速貴大臣ヘ電報スヘキ処之外ニ於テ同一行ノ為此際前以テ帝国政府ヘ電報シ置クヘキ何等御希望ノ事項アラハ何

第一五一号(暗)

佐藤理事ヨリ

事務総長ハ二十五日付本使宛公文ヲ以テ支那調査委員会近近極東ニ到着スヘキ処右委員会任命後発展セル極東ノ事態ハ旅行者ニトリ必シモ安全ナラサルニ付貴大使ニ於テ貴国政府ヨリ調査委員カ現地ニ於テ報道蒐集ノ際其ノ安全ニ関シ特別ノ注意ヲ払フ旨ノ保障ヲ与ヘラルル様配慮アリ度キ旨申越スト同時ニ別ニ私信ヲ以テ右公文ハ日本理事カ屢々理事会ニ於テ満州ニ於テハ鉄道線路ニ近ク多数ノ匪賊存スル旨ヲ述ヘラレタルニモ鑑ミ鉄道線路又ハ其ノ付近ニ軍隊ヲ駐屯セシメ居ル日本政府カ調査員ニ危害ノ及フコト之無キ様凡ユル手段ヲ講セラレ度キ趣旨ナルコトヲ述ヘ且九月以来ノ事態ニ顧ミ調査員ノ安全ニ付テハ日本官憲カ其ノ責ニ任セラルヘキモノト思考スルヲ以テ右公文ハ日本ニノミ之ヲ送ル次第ハ御諒解ノコトト存スル旨ヲ付加セリ
就テハ前記公文ニ対スル回答振回電アリ度シ

ジュネーヴ 2月26日後発
本省 2月27日前着

48 昭和7年2月27日 在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛（電報）

金井章次の上海滯留方要望について

上海 2月27日後発
本省 2月27日後着

第三〇四号（暗）

金井ハ目下ノ事態ニ鑑ミ当地ニ於テ各方面トノ連絡ニ当ラシメ居リ是非必要ナル処同人ハ関東軍ヨリ東京ニ於テ軍ノ行動（軍事以外）ヲ連盟委員ニ説明スヘシトノ命令ヲ受ケ居リ満鉄總裁ヨリハ外務省ノ指揮ニ從ヒ上京スヘシトノ命ニ接シタル趣ナルニ付同人ヲ当地ニ留メ連盟委員当地着ノ上之ト接触セシムルコトト致シタキニ付関係ノ向ニ右御通知ヲ請フ

49 昭和7年2月29日 芳沢外務大臣
リットン連盟調査委員会 会談録
委員長

芳沢外相・リットン委員長会談録

芳沢大臣「リットン」卿会谈録

昭和七年二月二十九日國際連盟支那調査委員一行芳沢大臣ヲ来訪ノ節委員長「リットン」卿ヨリ何等カ承リ置クコト

ニ出テタルコトヲ以テ最近ノ原因トナス次第ニテ張學良モ南方トノ妥協前ハ日本トハ親善關係ニ在リシカ右妥協後革命外交ニ引連ラレ日本ノ權益ニ手ヲ着ケ初メタル結果種々ノ出来事ヲ發生シ之カ為メ日本國論ハ非常ニ刺戟セラレタル際昨年九月ノ事變勃發ヲ見其後今日ノ如キ大火事ヲ現出セリ又上海事件ニ付テハ日本ノ居留民カ排日運動ニ困リ拔キタル矢先ニ南京、上海ノ間ニ駐屯シ居リタル十九路軍ナルモノカ一月二十八日我軍ニ向テ発砲挑発シ日支兵ノ衝突トナリタル次第ナルカ當時我陸戰隊ハ僅ニ三千余ニ過キササルニ對シ十九路軍ハ其ノ十倍余ノ兵力ヲ有シ我方ニシテ陸兵ノ増援ヲ為ササレハ陸戰隊及居留民共々ニ鑒トナル危險アリシニ付已ムヲ得ス陸兵ヲ増援スルニ至レリ日本政府トシテハ右ハ已ムヲ得ス執リタル措置ニシテ甚タ不本意トナス所ナリ然ルニ偶々當時種種ナル出来事ヨリ世界ニ誤解ヲ与ヘ殊ニ外務省係官ニ於テ列國新聞記者トノ会见ノ際種々論議ヲ戰ハセ其ノ個人的意見トシテ支那ノ重要開港場ノ周圍ニ中立地帯ヲ設定スル案ニ言及シタルコトカ外國ニ電報セラレ是又外國ニ少カラス疑惑ヲ与ヘタル模様ノ処右ハ誠ニ遺憾ナル出来

無キヤト申出テタルニ付芳沢大臣ハ

實ハ日本ハ日支紛爭當事國タル關係上貴委員等ニ對シ公平ナル調査ヲ遂ケラレンコトヲ希望スル以上ニ當方ヨリ余リ注文カ間敷キコトヲ申出ツルコトハ成ルヘク避ケ度キ考ナリ

トノ趣旨ヲ態ト答弁シタル後

左リ乍ラ貴委員等ノ御希望トアレハ一言スヘキカ支那ニ行カレタル上ハ余リ理論ニ拘泥セス現實ノ狀態ニ即シ調査ヲ遂ケラルル様希望ス

ト述ヘタルニ「リ」卿ハ

右ハ全然同感ナリ理事会決議ノ趣旨モ亦其ノ点ニ存スル次第ナリ

ト云ヘルニ付芳沢大臣ヨリ更ニ

日本ハ支那トノ親善關係ヲ成ル可ク速ニ回復センコトヲ希望スルモノニシテ今日ノ如キハ兩國ニトリ誠ニ不幸ナル事態ナリ從テ自分ハ目下右親善關係回復ニ付精々努力シ居レルカ元來斯クノ如キ事態ヲ誘發セルハ過去數ヶ年間國民政府カ所謂革命外交ナルモノヲ振廻シ暴力ニ依リ外國ニ當リ一方の行為ニ依リ條約ヲ變動スルカ如キ態度

事ナリ要スルニ世間ニハ今尚ホ種々誤解アル様子ナルカ日本政府トシテハ撤兵地域等ノ交渉ヲ成立セシメ成ルヘク速ニ上海ヨリ手ヲ引ク考ナルニ付貴委員等ノ諒解ヲ望ム

ト述ヘタルニ「リ」卿ハ克ク諒解セリト答ヘタリ

（七、二、二九、芳沢大臣口述守島記）

50 昭和7年2月 外務省調書

國際連盟中國調査委員一行氏名および略歴について

昭和七年二月

國際連盟支那調査委員一行氏名及略歴

委員五名（外ニ日支兩國ヨリ参与委員各一名）

（一）英國（委員長）

伯爵「ヴィクター」、アレキサンダー、ジョージ、ロバート、「リットン」Victor Alexander George Robert Lytton, the Earl of Lytton

一八七六年ノ生ニシテ一九一六年ヨリ一九一九年ニ至ル間英國海軍省参与官及政務次官等ニ歴任シ一九二〇年印

度省事務次官ニ任ジ一九二二年ヨリ一九二七年迄「ベンゴール」州総督タリ、其ノ間一九二五年印度總督代理タリシコトアリ

第七及第八回國際連盟總會ニ於ケル印度首席全權タリ又第十二回總會ニ於ケル英國第二全權タリキ

現ニ英國樞密院顧問官タリ。各種ノ会社ニ關係ス

(二) 仏国

「アンリー、エドゥアール、クローデル」將軍（陸軍中將）

Général de Division Henri-Edouard Claudel

一八七一年ノ生ニシテ「サンシール」陸軍大学校卒業後各地師団長、軍団長ヲ歴任シ大戰前支那駐屯軍參謀長トシテ支那ニ勤務セルコトアリ大戰ノ初期ニハ仏戰場ニ於テ旅団長及師団長トシテ転戦シ大戰ノ末期ニハ近東戰場ニ於テ軍団長トシテ戦功アリ又仏領印度支那軍司令官トシテ同地ニ於テ服務セルコトアリ、目下ハ殖民地防禦委員會議長、軍事參議官、殖民地隊兵監ノ職ニ在リ且軍縮會議準備ニ執掌シ居ル由

(三) 米国

「アフリカ」總督トナリ欧州大戰中モ在任セリ現今人民黨代議士トシテ在外独逸人同盟ノ委員長タリ。同氏ハ独逸殖民地關係ノ著書ナカラス

(四) 伊国

伯爵「ルイジ、アルドロヴァンディ、マレスコッティ

」

Comte Luigi Aldrovandi-Marescotti

一八七六年ノ生ニシテ一九〇〇年外交官生活ニ入り、大戰中在壤大使館ニ在勤シ巴里平和會議中四頭會議ニ於ケル伊国側書記官タリ後「ソフィア」「カイロ」駐在公使「プエノスアイレス」駐在大使ニ歴任シ一九二六年ヨリ一九二九年迄大使トシテ独逸ニ駐在セリ

○外ニ

「リットン」卿ノ秘書「アスター」

(Hon. W.W. Astor)

「クローデル」將軍々医「ジューヴレ」博士

(Dr. P. Jouveau) (仏国陸軍々医少佐)

「マッコイ」將軍副官「ビッドル」

(Lt. William Biddle)

「フランク、ロス、マッコイ」將軍（陸軍少將）
Major-General Frank Ross McCoy

一八七四年ノ生ニシテ陸軍大学校卒業後米國ノ政馬占領以來「ウッド」將軍ノ片腕トナリ帷幄ノ機務ニ參画シ後（一九二八年）或ハ「ニカラガ」動乱ノ際米國大統領「クーリッジ」ヨリ「ニカラガ」大統領選舉監視ヲ命セラレ或ハ（一九二九年）「ボリビア」「パラグアイ」間ノ紛争解決調停委員會議長ニ挙げラレテ大ニ政治的手腕ヲ認メラレ其功ニヨリ米國議會ハ一九三〇年特ニ拔擢進級ヲ大統領ニ進言セル結果少將ニ任命セララルニ至レリ。同將軍ハ嘗テ「ウッド」特使來朝ノ際其ノ陸軍隨員トシテ渡日シ帝國軍隊其ノ他ヲ視察シタルコトアリ又大正十二年比律賓總督幕僚長トシテ米國ヨリ赴任ノ途次関東大震災援助ノ為上海ヨリ横浜ニ引返シ米國救済委員ノ指揮ヲ取リタルコトアリ

四独逸

「アルベルト、ハインリッヒ、フォン、シュネー」博士

Dr. Albert Heinrich von Schnee

一八七一年ノ生、殖民政策家ニシテ一九二二年独領東部

「タイピスト」二名

「エルネスト、リエジョア」(Ernest Liegeois)

「ダビット、ロバート」(David Roberts)

二、隨員五名（日支兩國參與委員ノ隨員ハ未定）

(一)書記長「アース」(Robert Haas)

仏國人、國際連盟事務局交通部長、年齢四十二歳、仏國土本省出身、一九三一年中中華民國政府ヨリ交通改良事業調査ノ為メ招請ヲ受ケ渡支セルコトアリ

(二)「シャレル」(E.O. Charrère)

伊國人、國際連盟事務局情報部員

(三)「ペルト」(Adrianus Pelt)

和蘭人、國際連盟事務局情報部員、年齢四十一歳

(四)「フォン、コッツ」(H.V. von Kotze)

独逸人、國際連盟事務局情報部員

(五)「パスチュホフ」(Vladimir Pastuhov)

「チェコ、スロバキヤ」人、國際連盟事務局政治部員

三、専門家二名若クハ三名

(一)法律専門家

「ウォルター、ヤング」(C. Walter Young)

米国人、「マスター、オブ、アーツ」、「ドクター、オブ、フィロソフィー」、「ミネソタ」大学教授、極東通ニシテ満州ニ関スル著述ヲ為セリ、一九二九年第三回太平洋會議及一九三一年第四回太平洋會議ニ出席セリ、目下北平滞在中

(二) 鉄道専門家

「ハイアム」(T.A. Hiam)

加奈陀人、元連盟交通部員、現在加奈陀「ナシヨナル」鉄道会社員

(三) 経済専門家

(一名ヲ現地ニ於テ多分採用ノ由)

51 昭和7年3月10日

白根(竹介) 兵庫県知事より
芳沢外務大臣宛(電報)

国際連盟調査団一行甲子園ホテル到着について

神戸 3月10日後発
本省 3月11日前着

国際連盟支那調査委員一行ハ十日午後十一時十五分無事管下甲子園「ホテル」ニ来着セリ

件 国際連盟支那調査委員一行来阪ニ関スル

国際連盟支那調査委員一行ノ来阪ニ関シテハ内務省警保局長(貴官)通牒並ニ関係庁ヨリ通報ニ接シ注意中ノ処本月十日午後三時三十分大軌上六着ニテ奈良ヨリ来阪シ小官並ニ府市商工會議所関係者当地実業家等多数ノ出迎ヲ受ケ直ニ自動車ニテ大朝並ニ大毎ヲ歴訪挨拶ヲ述ヘタル後大阪実業家懇談会場タル東区備後町三丁目綿業会館ニ至リ(別紙(省略)参照)更ニ午後七時三十分大阪府、市、商工會議所連合主催ニ係ル歓迎晩餐会場タル東区平野町四丁目堺卯楼ニ至リ(別紙(省略)参照)午後十時四十分同所発阪神国道ヲ「ドライプ」シ宿舍甲子園ホテルニ向ケ退阪セリ而シテ同一行ノ警戒方ニ関シテハ警保局長(貴官)ノ通牒並ニ関係庁ト連絡シ時局柄警戒ヲ厳ニシタルカ何等異状ヲ認メサリキ

右及申(通)報候也

54 昭和7年3月12日

白根兵庫縣知事より
中橋内務大臣、芳沢外務大臣他宛

連盟調査団一行に対する警戒および便宜供与

52 昭和7年3月11日

白根兵庫縣知事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団一行上海に出発について

神戸 3月11日後発
本省 3月11日前着

国際連盟支那調査委員一行ハ本日午後三時十分出帆ノ「ブレジデント、アダマス」号ニテ無事上海ニ向ヘリ

53 昭和7年3月11日

斎藤(宗宜) 大阪府知事より
中橋内務大臣、芳沢外務大臣他宛

連盟調査団の大阪における行動について

外秘第三一〇号

昭和七年三月十一日

大阪府知事 斎藤 宗宜

内務大臣 中橋徳五郎殿

外務大臣 芳沢 謙吉殿

警視庁、神奈川京都兵庫奈良

各府県長官殿

関東庁警務局長殿

上海 赤木内務事務官殿

について

兵外発秘第四八八号

昭和七年三月十二日

兵庫縣知事 白根 竹介

内務大臣 中橋徳五郎殿

外務大臣 芳沢 謙吉殿

警保局長 森岡 二郎殿

警視庁、神奈川、京都、奈良

大阪、各府県長官殿

国際連盟支那調査委員ニ対スル警戒及便

宜供与方ニ関スル件

首題ノ件ニ関シテハ外務大臣(閣下)及内務省警保局長(貴官)ヨリ御通牒ノ次第モアリ警戒及便宜供与方ニ就テハ夫々計画準備(右計画並日程ニ関シテハ本月九日付兵外発秘第四七一号ヲ以テ既申報)セルガ一行ハ本月十日午後十時四十分管下西宮市外甲子園ホテルへ大阪市ヨリ来着投宿翌十一日午前十時同ホテル出発(省略)別紙日程ニヨリ六甲登山後神戸市元町一丁目民人居住区域ノ一部通称南京市場ニ立寄り日華両国民融和安穩裡ニ生活スルノ実状ヲ視察同二

時半第四突堤繫留中ノ米国汽船ブレジデント、アダムス号ニ乗船同船内ニ於テ英国代表リットン卿以下各国委員及書記長「アース」ハ神戸連合婦人会員山本節子以下六名ヨリ贈呈ノ花束及別記意見書ヲ受ケ同午後三時半出帆ノ前記汽船ニテ異状ナク上海ニ向ケ出発シタリ追テ同一行ト会見並見送者中知名内外人氏名左記ノ如シ尚前記南京街ノ視察ハ各国委員ニ対シ好印象ヲ与ヘタルモノノ如クニ有之（一行無事乗船出発ニ関シテハ内外両大臣閣下ヘハ右旨電報シ置ケリ）

右及申（通）報候也

（別紙）

記

兵庫 県知事	白根 竹介
神戸 市長	黒瀬 弘忠
神戸商工会議所会頭	岡崎 忠雄
国際連盟協会神戸支部代表者	
駐神伊太利総領事	武藤 建
	エー、ガスコー
駐神伊国領事	デイ、ジョリー

この度日支間の紛争を解決すべく常に正義と友愛の保持者である国際連盟から選ばれて真相調査のため航路遙に此の極東の地で御苦労下さいましたあなたに對しわたくしども四千万の日本女性に心からの深い感謝を捧げるものでございます

日本に御滞在の間は春未だ浅くしてわたくしどもの花さくらはその蕾固く荒き風は旅宿の窓を寒く打つたことゝ存じますその間の御見聞によつて我等日本はあなたの御国と同じ文化を持ちあなたの御国の方々と同じく平和を熱愛することを不じ山の雪の白さと琵琶湖の水の碧さと共にはつきりと印象に御止め下さいましたことゝ信じますわたくし共はあなたの公正なる御調査によつて輝しい永遠の平和を此の極東の地に招来することを固く信じます何卒あなたの御努力によりまして弾雨の下に曝されて居ります我子らを温き母のふところにかへしいとしき嬰兒をその父の胸に抱かせる日の一日も早からむことを更に切に御願するものでございます四千万の全日本女性はやなぎやうやく緑を含む神戸埠頭にあなたを御送りして親しく御礼を申上げたいの

駐神米国領事 イー、アール、デックオウア
紐育ナショナルシチー銀行神戸支店長
エー、ベルデン

ジャパン、クロニクル新聞社長

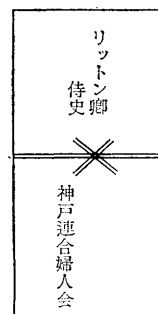
ヂー、ヂー、ヤング

別記

神戸連合婦人会

リットン卿侍史
クロードル將軍侍史
マッコイ將軍侍史
シュネー博士侍史
マレスコッティ伯爵侍史
アース閣下侍史
宛名ハ各代表別ニ書ス

宮ノ表書（金文字）



でございますがその代表として毎年万国子供の日を催し神の使のことも達によつて世界人類の親善と平和を図つて居ります神戸連合婦人会のものどもが参りましたあなたの船室にかゝる日本の花は私共女性のこゝろとしてほほ笑みつつあなたのよき航海を御守りいたしませうわたくし共はあなたの最高最善の御使命の上神さまの豊かな御恵をたれ賜らんことを御禱りいたすものでございます

一九三二年三月十一日

連盟支那調査員及随員名

A 委員

英国	ロード、リットン	Lord Lytton
仏国	ゼネラル、ヘンリー・クラウデル	Général Henri Claudel
米国	フランク・マッコイ	Major-General Frank McCoy
独国	ハインリッヒ・シュネー	Dr. Heinrich von Schnee
伊国	ルイジ・アルドロバンディ・マレスコッティ	Comte Luigi Aldrovandi-Marescotti

B 随員

仏国人 ローベル・ハアス Robert Haas (連盟交通部長)

蘭国人 アドリアン・ペルト Adrianus Pelt (連盟情報部員)

独国人 コツニ H.V. von Kotze (連盟事務次長独人デュフルノ官房長)

チェコスロバキア人 ウラヂミル・パステュホフ

Vladimir Pastuhov (政治部員ニシテ杉村公使秘書)

伊国人 シャーレル E.O. Charrère

C 其ノ他ノモノ

アスター Hon. W.W. Astor (リットン卿秘書)

ジューベレ Dr. P. Jouvelet (仏国陸軍々医少佐)

ウィリアム・ビッドル Lt. William Biddle (マッロイ少将副官)

アーネスト・リゴア Ernest Liegeois (タイピスト)

ダビッド・ロバーツ David Roberts (タイピスト)

テイラー Taylor (ハアスノ秘書)

リットン委員長の早期入満希望について

上海 3月19日後発
本省 3月19日後着

第五〇一号 (暗)

吉田ヨリ

第一〇号

客年十二月ノ理事会決議ヲ引用シ委員ノ広東、漢口等視察方勸メ居レルモ委員長ハ支那ヲ了解セリトテ南京、北平ヲ経テ満洲ニ入り度キ希望ナリ、各地視察同意方勸メ居レルモ先方好マスハ之ヲ強フルノ要ナシト存ス

57 昭和7年3月23日

※在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛 (電報)

連盟調査団の旅程ならびに入満経路について

上海 3月23日後発
本省 3月23日後着

第五四三号 (暗)

吉田ヨリ

第一三号

一、連盟調査員廿六日発、翌日南京着、四日滞在、漢口ニ

外務省 吉田大使、^(伊三郎)塩崎書記官、^(觀三)佐藤書記官、^(庄四郎)森書記官、^(正臣)好富書記官、^(秀)石川事務官、^(憲)鶴見事務官、^(金太郎)馬瀬事務官

海軍省 井ノ川大佐、^(市郎)佐藤大佐、^(久雄)渡大佐、^(藤四郎)澄田中佐

陸軍省 水池事務官

55 昭和7年3月15日

※在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛 (電報)

連盟調査団の上海到着について

上海 3月15日後発
本省 3月15日後着

第四六一号

吉田大使ヨリ

第三号

連盟調査員並ニ本使一行十四日午後八時当地着支那側ヨリハ顧維鈞、吳鉄城、「ドナルド」等多数出迎ヘタリ
南京、北平、奉天ヘ転電セリ

56 昭和7年3月19日

※在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛 (電報)

日滞在後北平ニ数日滞在ノ予定ナリ、五月一日迄ニ満洲問題ニ関シ予備報告ヲ連盟ヘ提出ノ要アルヲ以テ右ニ間ニ合フ様満洲ニ赴キ前後約三週間奉天、長春等視察ノ後日本ニ向ヒ政府ノ意見ヲ聴キタル後支那ニ戻リ同国政府ノ意向ヲ徴シ次テ北戴河又ハ青島ニ赴キ最終的報告ヲ作成スル事ニ略内定シタリ

二、漢口視察方本官提議ニ関シテハ顧維鈞ヨリ至急満洲出張ヲ勸メタルカ「リットン」ノ反問ニ対シ顧ハ漢口行反対ニ非スト答ヘタリ

三、最終的報告作成ノ場所ニ関シ支那側ハ北戴河ヲ、本官青島説ヲ述ヘタルカ委員側ハ前者ニ傾キ居レリ

四、満洲入ノ経路ニ関シ本官ハ京奉線不通ノ次第ヲ述ヘ(重光公使発奉天宛電報第一三号 (閣下宛電報第五二五号)参照)天津又ハ青島ヨリ海路ヲ勸メタルニ対シ委員側ハ不審ノ様子ニテ顧維鈞ハ満洲ノ調査ハ山海関ヨリ始ムヘシト

唱ヘ書記長「ハース」ハ任務ノ性質ニ顧ミ特別列車ヲ希望シタリ調査員ニ疑惑ヲ抱カシムルハ好マシカラサルニ付軍部トモ御協議ノ上成ルヘク鐵路満洲入御取計相成度ク汽車不通ノ理由ト共ニ至急何分ノ御回報請フ

連盟、奉天、北平、天津、青島、漢口、南京、閩東長官へ
転電セリ

58 昭和7年3月23日 ※在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

満蒙問題に関する連盟調査委員との会談内容
について

上海 3月23日後発
本省 3月23日後着

第五四五号(暗)

松岡代議士ヨリ

二十二日連盟調査委員(「マッコイ」將軍ノミ欠席)ト会
見ス、質問応答複雑多岐ニ亘リタルニ付委員側ノ質問及陳
述ハ必要ト認メラルルモノ以外総テ之ヲ省ク
前回会見終了ノ際「リットン」卿ヨリ支那ノ顔モ立テ日本
ノ合法的要求ヲモ貫キ滿蒙問題ヲ解決センコトヲ目的トシ
飯ニ第三者トシテノ立場ヨリ如何ナル案ヲ立ツヘキカト云
フ如キ考方ニテ次回会見迄ニ考慮ヲ希望ストノ注文アリ從
テ右「リットン」卿ノ希望ヲ出發点トシテ会談ス

一、前回会見以來余ノ脳漿ヲ絞リタルモ御希望ノ如キ筋途

(Disintegration)ノ道程ヲ辿リツツアリトノ結論ニ達

セリ今ヤ其崩壊ノ象徴歴然タリ

(ロ)然ルニ「ソビエツト」露西亞ハ今尚世界革命ノ夢ヲ捨
テサルモノノ如ク今日迄欧米ニ於テ失敗シ又支那ニ於
テモ些力蹟キタル感ハアリタレトモ支那ノ混沌ニ乗シ
先ツ以テ支那ノ赤化ヲ飽迄遂行シ馳テハ印度ニモ其魔
手ヲ延ハシ亜細亞ノ赤化ニ成功シタル暁之ヲ以テ再ヒ
世界革命ノ道程ニ上ラント志セルモノノ如シ外蒙カ既
ニ数年前露ノ有ニ帰シ今ヤ内蒙ニ於テ活躍シツツアリ
而シテ露西亞ハ支那ノ心臓ニ喰込ミツツアリ中部支那
ニ於ケル「ソビエツト」政治ノ及ヘル範圍ハ恐ラク日
本本土ノ六倍ナルヘシ之ト莫斯科トノ關係ノ極メテ密
接ナルハ疑ヲ容ルル余地ナク又蔣介石等ハ之ニ対シ全
ク無力ナリ又「ノボシビリスク」ヨリ「タシユケン
ト」ニ至ル鐵道ハ「パミール」高原ヲ越ヘ南シテハ直
ニ印度ヲ衝キ支那ノ西境ヲ越エテハ直ニ新疆ニ至ルノ
要衝ナリ右鐵道ノ一地点ヨリ新疆ノ首都烏魯木齊ニハ
自動車ニテ僅ニ二日ノ行程ナリ支那側カ天津ヨリ同地
ヘ至ランニハ自動車道路完成シタリトシテモ自動車ニ

ニ依ル解決案ヲ見出スコトハ余ノ智力ノ及ハサル所ナリ
トノ結論ニ達セリ滿州ノ事態ハ既ニ行過キタリ支那ノ横
暴ニ対スル我反撃ノ勢力些カ走リ過キタルヤノ感アラ
ンモ左様ナル事ハ有リ勝ノ事ナリ前回モ一言申シタル如ク
吾人ハ既ニ余リニ深ク迷宮ニ入レリ此ノ迷宮ヨリ出ツル
ノ途ヲ発見スルハ容易ナラス唯「時」ヲシテ之ヲ発見セ
シムル外致方ナカルヘキヲ惧ル貴意ニ副フ能ハサルハ誠
ニ遺憾ナリ然レ共若シ聴取セラルルノ忍耐ト時間トヲ有
セラルルナラハ滿蒙問題ヲ理解セラルルニ付幾分ノ参考
トナランカト思ハルル余ノ思付数点ヲ開陳スルコト或ハ
無益ナラサルヘシ如何ト問ヒ掛ケタルニ「リットン」卿
ハ聴取シタシト答ヘタルニ付大要左記卑見開陳セリ

二、元々滿蒙問題乃至滿蒙ニ於ケル日本ノ行動ヲ理解セン
トセハ先ツ以テ支那ノ実狀ト極東全局ノ形勢殊ニ露西亞
ノ動キヲ究ムルヲ要スル処

(イ)実ハ拙者ハ支那問題及東亞問題ヲ殆ト畢生ノ研究題目
ト為シ來レル者ナルカ支那ハ統一セラレ建設のナルヘ
キカ或ハ崩壊スヘキカトノ二個ノ疑問若ハ結論ノ間ヲ
永年彷徨セリ然ルニ近年ニ至リ遺憾ヲラ支那ハ崩壊

テ四十日以上ヲ要スヘシ露国ハ新疆ヨリ甘肅ニ入り有
名ナル海蘭鐵道ヲ實現シ支那ヲ兩断シツツ江蘇省ノ沿
岸海州ニ頭ヲ突出シ指呼ノ間海ヲ隔テ朝鮮半島及我
九州ヲ睥睨セントス政体変レリト雖露国ハ依然トシテ
旧帝政時代ノ遠大ナル計画ヲ捨テサルノミナラス今ヤ
全力ヲ挙ケテ之カ完成ニ精進シツツアリ

支那崩壊ノ傾向ト露国ノ活動トヲ併セ見殊ニ近来滿蒙ニ
於ケル支那側ノ無謀且横暴ナル行動即チ日本驅逐ノ行動
ニ想到スル時我國ハ実ニ戰慄スヘキ形勢(appalling
situation)ニ逢着セルコトヲ感セサルヲ得ス日本ハ此危
局ニ対シ昨秋以來執レル行動以外ニ如何ナル行動ヲ執リ
得タリシヤ独リ拙者ノミナラス諸君モ亦他ニ方策ナカリ
シトノ結論ニ達セラルヘキヲ信ス

三、右ニ述ヘタル露国ニ依ル外蒙古ノ獲取ニ対シテモ亦中
部支那ニ「ソビエツト」政權ノ確立セラレツツアル事實ニ
対シテモ拙者ハ寡聞ニシテ今日迄連盟ニ於テモ將又米國
初メ九国条約調印國ノ何レヨリモ抗議ヲ提出シ若ハ何等
之カ防守ノ手段ヲ講セラレタルコトアルヲ聞カス連盟又
ハ米國其他ノ列強ハ支那及露国ノ為ス所又ハ東亞攪乱ノ

目的ニ出ツル露國ノ画策ニ付テハ不問ニ付シ日本カ其ノ存在上乃至ハ東亜全局ノ保持上実ニ已ムヲ得スシテ取レル僅カ計リノ行動ニ對シテハ直ニ異議ヲ唱ヘラルト云フ意ナリヤ此ノ点ハ拙者遺憾ナカラ之ヲ了解スル能ハス

四、拙者ハ現ニ過去十年間ノ中七年間ヲ滿蒙ノ現場ニ過シタル処特ニ山本滿鉄總裁ト拙者トハ極力譲歩モ為シ又説得ヲモ試ミ平和的ニ相互ノ利害ヲ調和セント試ミ一時ハ殆ント成功ニ近ツキタルコトアルモ結局失敗セリ其ノ後滿蒙ニ於ケル日支ノ關係ハ急速度ヲ以テ惡化シ茲ニ、三年來支那人ハ包囲線ニ依リ滿鉄ヲ抹殺シ滿蒙ヨリ日本ヲ驅逐セントスルノ方略ヲ露骨ニ表ハシ來リ遂ニ昨秋ノ爆發ヲ見ルニ至レリ支那ハ素ヨリ意識シテ露西亞ヲ援助セントスルモノニハアラサルヘキモ其ノ結果ニ於テハ毫モ之ト選フ処ナシ若シ支那側ノ希望スル通り日本カ弱腰ニテ滿蒙ヨリ引下カランカ其ノ瞬間ニ於テ露西亞ハ直ニ南滿ニ迄侵入スヘキハ一点ノ疑ヲ容レス吾人ハ独リ日本ノ存立ノミナラス東亜全局保持ノ責任感ヨリスルモ斯ル事態ヲ防遏スルノ手段ヲ講セサルヲ得ス滿蒙ハ東亜全局ヲ安定スルノ鍵ナリ滿蒙一度乱ルレハ東亜全局ハ更ニ崩壞

位ヲ保持シ來リタリトノコトハ當時世界周知ノ事實ナリ然ルニ之ニ對シ當時連盟ヨリモ亦米國其ノ他ノ九ヶ國条約調印國ノ何レヨリモ嘗テ抗議アリタルヲ聞カススル過去ノ事實ニ之ヲ照ラシ宣統帝カ日本ノ援助又ハ好意ニ依リテ現ニ統治者タルコトニ依リ何レノ方面ヨリスルモ異議ヲ挾ムヘキ謂ナキカ如シ(以上ニ付更ニ立チ入りテ「リットン」卿ヨリ質問アリタルニ付)張作霖ヲ直接援助シタル場合ナキニアラサリシモ拙者ハ必スシモ直接援助ト云フ意味ニテ話シタル次第ニハアラス若シ日本ニシテ滿蒙ノ治安ヲ維持シ且ツ張作霖ニ好意アル態度ヲ持セサリシナラハ張作霖ハ早ク失脚シタルナルヘシ滿蒙ニ日本ノ「インフルエンス」無カリセハ又ハ支那ノ希望スル如ク日本カ滿蒙ヨリ手ヲ引キタランニハ滿蒙モ亦支那本土其他ノ地方ノ轍ヲ踏ミ夙ク混乱ニ陥リ今日迄ニ幾多ノ統治者起伏セシナラン此ノ視角ヨリ之ヲ觀レハ張作霖ノ地位保持モ主トシテ日本ノ御蔭ナルコト明白ナリ之ニ對シ連盟又ハ何國ヨリモ異議ヲ唱ヘラレタルコトナシ次ニ張作霖又ハ張學良ナラハ可ナリ溥儀氏(Mr. Henry Pu)ニテハ不可ナリト云フカ如キ論拠何レニアリヤ若シ

ノ速度ヲ早ムヘシ此ノ観点ニ立チ之ヲ見レハ日本ノ滿蒙ニ對スル行動ハ明瞭ニ了解シ得ヘシ

五、⁽⁵⁾滿蒙ニ對スル日本ノ関心事ハ政治的(広義ニテ国防問題ヲ含ム)及經濟的ノ二方面(「リットン」卿斯ク言フ)ナルカ經濟上ノ我權利ハ主トシテ条約ニ基ケルモノナルカ条約以外ニ事實トシテ自然ニ發達固定セル權利アリ政治ニ於テハ主トシテ国防上ノ問題ナルカ滿蒙ニ於ケル支那側ニシテ右二点ニ付日本ノ当然ナル要求ヲ容レタランニハ昨秋以來ノ事態ハ發生セサリシナラン而シテ今日ニ於テモ然リト云ハサルヲ得サル訳ナルモ(「リットン」卿斯ク言ヘルニ付)既ニ拙者ノ述ヘタル通り今日ニ於テ最早ヤ後戻リスルコト(to retrace steps)ハ恐ラク不能ナルヘシ

六、而シテ今日ノ事態ト張作霖又ハ張學良トノ下ニ於ケル滿蒙ノ事態トノ間ニ如何ナル差異アリヤ冷靜ニ之ヲ見レハ其ノ差ハ極メテ皮相ニシテ僅ニ獨立國ト云フ名称ト人物ノ差ノミ張作霖ノ下ニ於テモ實質上殆ント支那中央政府ノ支配ヲ受ケタルコトナシ張學良ノ時代ニ至リテモ亦同様ナリ殊ニ張作霖カ日本ノ行為乃至援助ノ下ニ其ノ地

夫レ事實上ノ獨立國ト獨立國ト云フ名ヲ之ニ冠シタルコトトノ差ニアリテハ余リニモ皮相ニシテ既ニ率直ニ開陳セルカ如キ東亜ノ重大危機ニ直面シ殊ニ東亜全局保持ノ鍵鑰タル滿蒙治乱ノ岐ルル瀬戸際ニ乗掛リタル今日ハ実ハ斯ル皮相ノ問題ニ拘泥スル邊ナキカ如シ此ノ鍵鑰打碎カレンカ一層混乱ニ陥ルノ外ナシ日本ハ到底之ヲ座視スル能ハス尚拙者ハ広東カ屢々獨立ヲ宣シタル事實ニ関シ連盟若ハ列強ヨリ抗議ヲ提出セラレタルコトアルヲ聞カス序ヲ以テ此先例ヲ玆ニ付言ス

七、(「リットン」卿ヨリ主要点ハ日本軍ヲ撤退スヘキヤ否ヤニアル処日本軍ヲ撤シタル場合ハ溥儀ハ失脚スルヤ否ヤ又滿蒙ノ事態ハ如何ニナルヘキヤ貴見承知シタシト問ヒタルニ付)撤兵ノ場合溥儀氏カ直ニ失脚スヘキヤ否ヤハ予見シ難シ或ハ失脚スルヤモ知レス何レニシテモ滿蒙ハ混乱ニ陥ルヘシ此点ハ既ニ指摘セルカ如ク支那ノ他ノ地方ト異ル所ナカルヘシ又撤兵スルト否トニ拘ラス將來溥儀氏カ成功スルヤ(make good)否ヤハ時力決定スヘシ要スルニ連盟若ハ米國其他ノ列強ハ混沌タル滿蒙ヲ歡迎セラルルカ將又治安ノ維持セラルル滿蒙ヲ見ンコトヲ

欲セラルルカ徹底シテ考フレハ問題ハ此ノ一点ニ帰スヘシ混沌タル滿蒙ハ延テ混沌タル東亜ヲ意味シ治安ノ維持セラルル滿蒙ハ延イテ東亜全局保持ノ希望ヲ意味ス

八、之ヲ要スルニ日本ハ東亜ニ於ケル平和維持ノ主張ヲ把持ス連盟ハ之ヲ支持セラルルカ將又東亜ヲ混沌ニ委スルコトヲ願ハラルカ右ノ点ニ於テハ日本ハ略歐洲大陸ニ於ケル仏國ノ地位ト似タリ唯仏國ハ幸ニシテ同一目的ニ向テ同盟國ヲ有スルモ日本ハ之ヲ有セス否充分ノ理解サヘ得ス所有讒誣ヲ蒙リツツ唯独力ニテ此ノ東亜ノ危局ヲ救ハントシツツアリ

九、若シ日本ノ真意及立場乃至行動ニシテ到底連盟ニ於テ理解サレス何等ノ同情サヘ得ル能ハサル歟ニハ甚タ欲セサル処ナルモ結局ハ連盟ヨリ脱退セサルヲ得サルニ至ラシカト真面目ニ考ヘツツアル有識者 (thinking people) 日本ニ可ナリ多数アリ「リットン」卿口ヲ挟ミテ曰ク日本ハ同盟者アルニアラスヤ即チ連盟ニ日本ノ支持 (ally) ヲ求メ且日本ノ安全 (security) ヲ連盟ニ繋カルルノ意ナキカ換言スレハ日本ハ之ヲ棄テテ独力ニテ日本ノ安全ノ為戦フト云フ意義ナリヤト問ヘルニ付「連盟ヲ味方

溥儀氏ヲ支ヘ得ルモノニアラス又絶対輿論ニ反シテ溥儀氏ヲ担キ出スコトスラ可能ナルモノニアラス上海ニ於テスラ支那人中溥儀氏ノ出現ヲ喜ヒ彼ヲ皇帝タラシメサリシヲ不滿ニ感シ居ル向キアリ吉林ノ熙洽ノ如キハ滿州人ニシテ最モ溥儀氏ヲ歡迎セル者ナリ臧式毅其他モ亦之ヲ歡迎セルヤニ聞キ及ヘリ現ニ支那本土ニ関シテモ天子ノ出テサル限り支那ノ和平統一及建設ハ望ミナシト云ヒ且ツ再ヒ必ツ天子ノ出現アルヘシトノ vision ヲ抱ケル輩スラアリ此ノ思想ハ五千年ノ歴史ヲ通シテ支那人ノ血管中ニ流レツツアリ一朝ニシテ斯ル思想ノ絶滅サルヘキ筈ナシ我々日本人モ亦斯ル思想ヲ有ス若シ諸君ニシテ東洋人ナランニハ之ヲ直感セラルヘシ如何ニ日本人ナレハト思想上又ハ感情上何等斯クノ如キ素地ナクシテ溥儀氏ヲ担キ得ヘキ道理ナシ

一、「リットン」卿ヨリ執拗ニ滿鉄並行線問題ヲ担キ出シ日本ニアリテモ滿州ヲ支那ノ領土ト認メラルルカ苟クモ斯ク認メラルル以上滿鉄ノミニテ独占ヲ続ケ支那ノ領土ニ於テ並行線ヲ許サスト云フカ如キハ何トシテモ支那ノ主權ト之ヲ調和シ得サルニアラスヤト再三反覆セルニ

(ally) トシ又飽迄連盟ヲモ支持センコトハ素ヨリ日本ニ於ケル識者ノ欲スル所ナリ彼等ハ好シテ連盟ヲ去ラン等ト云フコトヲ考フル者ニアラス然レトモ苟クモ連盟ニ留マルコトニ依リ日本ノ安全ヲ期シ東亜ノ全局ヲモ到底保持シ得ストノ結論ニ達シタル場合ニハ深ク躊躇シ乍ラモ其脱退ニ付真面目ニ考慮セサルヲ得サルニ至ルヘキヲ虞ル

一〇、(拙者ハ終リニ特ニ付言シ度キコトアリト告ケタル後)

(イ) 国民党ヲ当事者トセル支那ノ公然掲クル政綱又ハ主張ヨリスレハ何トシテモ日本ヲ滿蒙ヨリ叩キ出ササルヲ得ス此ノ二、三年来其銳鋒滿蒙ニ於テ著シク現ハレ来リ昨秋ノ爆発トナレル次第ナリ国民党政府ニシテ其主張ヲ擲タル限り日本トノ融和協力ノ途ナシ苟クモ国民党ノ主張ニシテ滿蒙ニ實現セラレンカ日本ハ再ヒ日露戦争ヲ遣リ直ササルヘカラス

(ロ) 溥儀氏ハ日本人ノ傀儡ナリト呼フ者アレト支那ト雖輿論アリ歐米諸國ト其表白ノ形式ヲ屢々異ニスルノミ滿蒙ニ於ケル民衆ノ意思ニ絶対反シテハ日本人ト雖永ク

付) 右ハ滿州善後談判ノ際協定シタル処ナリ滿鉄独占ノ意義ニアラス又如何ナル線カ果シテ右協定ニ依ル競争線ナルヤ又ハ滿鉄ノ利益ヲ侵害スル支線ナルカト云フコトハ事實問題ニ即シテ決定セラルヘキナリ斯ル問題ハ之ヲ抽象的ニ論スルモ詮ナシ滿蒙開發ノ程度ニモ依ルコトニテ例ヘハ二十年前並行線ナリト見ラレタル線カ其後開發ノ進展程度ニ之ヲ鑑ミ必スシモ今尚並行線ナリト云フヲ得サルヘク又滿州ヲ支那ノ領土ト認ムルトモ滿州ヲ全然支那本土ト同一視スヘキニアラス滿州ニ於ケル主權ト本土ニ於ケル主權トハ其内容モ同一ニアラス滿州ハ清朝ノ下ニハ「クラウン、ランド」若ハ private estate appanage タルニ過キス僅カニ二十数年前或ハ支那ニ併合セラレタリト云ヒ得ヘケンモ滿州人ハ「ノー」ト云フヤモ知レス若シ夫レ協定アルニセヨ支那ノ主權トスルコトヲ如何ニシテ調和シ得ルヤ「リットン」卿斯ク云フ「ト云フカ如キハ現ニ支那人ノ稱フル所ト同シク所謂凡テノ不平等條約撤廃ヲ一方的ニ斷行スヘシト云フ叫ビ乃至ハ大正四年ノ日支條約ヲ認メストノ主張ノ如キ何レモ同一轍ニ出ツルモノニシテ實ハ見方ニ依リテハ支那人ノ此ノ最後ノ

産物 (upshot) カ満州事件ナリトモ言ヒ得ヘシ連盟ハ大正四年ノ日支条約ノ効力ニ迄立入りテ論議セラルルノ意アリヤ若シ然リトセハ極メテ重大ナル事態ヲ惹起スルナルヘシ此ノ点即チ閣下ノ言ハルル点ハ直ニ条約神聖論ノ可否ノ問題ニシテ仮リニ支那人ノ主張スル如ク彼等ノ所謂不平等条約ナルモノノ一方的撤廃ヲ許サンカ極東ハ直ニ混沌ニ陥ルヘシ

追テ右会談ニ関シテハ委員側ニ対シ「デリケート」ナル諸点ニ付テハ自分ハ何等責任ナキ個人ノ地位ニ在ルニ依リ極メテ率直ニ申述フル次第ナル旨ヲ付言シ且ツ本日ノ会談内容ハ全部極秘トスルコトニ話合ヒ置キタルニ付御含ミ置キアリ度シ

会见終了ニ際シ拙者ノ旧友ニシテ極東問題ノ權威者ノ一人タル Bronson Rea 氏一昨日其主催スル Far Eastern Review 三月号ニ掲載セラルヘキ論説ノ校正刷リヲ寄セタリ昨夜一読セルニ多少首肯シ難キ個所モナキニアラサルモ大体ニ於テ吾人ノ言ハント欲スル所ヲ極メテ強調的ニ且ツ明晰ニ述ヘタル会心ノ文字ナリ委員各位ニ於テ之ヲ精読セラレンコトヲ希望スト述ヘ The highway to hostilities 及

Japan walks into trap ナルニ論説ヲ「リットン」卿ニ手交シ置キタリ尚右論説一万部広く配布ノ手配セリ奉天ニ転電シ、連盟、米、在欧各大公使、紐育、哈爾濱、吉林、南京、天津、北平、濟南、青島、漢口、廣東ニ暗送セリ

59 昭和7年3月27日 在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

中国の現状に関するリットン委員長との会談について

上海 3月27日後発
本省 3月27日後着

第五七九号(暗)

連盟調査委員一行トハ着滬以来会談ノ機会アリタルカ廿三日一行ヲ晚餐ニ招待シタル節ノ会談中左ノ点ハ委員等カ昨今支那ニ就キ考ヘ居ル事ニ触レ居ル様ニ認メラルルニ付特ニ電報ス

「リットン」卿ヨリ日本(ハ)統一セラレ鞏固且繁榮ナル支那ト混沌タル支那ト何レヲ希望セラルルヤ又支那カ立派ナル国トナル事ハ日本ノ為ニ利益ナリヤト質問アリタルニ

付本使ハ実ハ大分以前殊ニ日露戦争前頃ニハ統制アル支那ハ日本ニトリ危険ナリト考フル者アリタルハ事実ナルカ其後日本カ自分ノ力ヲ充分ニ信スルニ至リタル近来ニ於テハ少クトモ日本ノ責任アル者ハ勿論一般ニ於テモ支那ノ統一繁榮ハ何等日本ノ危険トナラサルノミナラス日本ノ繁榮ニ貢献スルモノナリト云フ事ヨク了解セラレ居リ日本政府モ御承知ノ通支那ノ統一及繁榮ニ貢献スル為努力シ来レル次第ナリト答ヘタリ「リットン」卿ハ右ハ了解セリト述ヘタル上自分ハ日本ニ於テ各方面ヨリ支那ニ対スル不平ヲ聞キタリ支那ハ条約ヲ守ラス其無政府状態ニアル政況ハ日本ノ通商及其他ノ權益ヲ害スル事殊ニ右ハ満州ニ付テハ日本ノ死活問題トシテ等閑ニ付スルヲ得ス若シ日本カ秩序ヲ維持セサレハ隣接国カ直チニ入来ル虞アル事等ニ付説明ヲ聴取セリ右ハ尤モノ事ナルカ若シ支那ノスクノ如キ状態ヲ立直シ統一繁榮シ且条約ヲ守リ責任ヲ負フ支那ヲ現出セハ日本ノ希望ハ達セラルルナルヘク右目的ノ為ニ国際連盟カ支那ヲ助力スル事ハ日本ノ希望ニモ副フ次第ナリト認メラルト述ヘタリ

之ニ対シ本使ハ右ハ理論ノ問題トシテハ正ニ其通ナリ然レ

トモ之カ実現方法ニ至リテハ困難ヲ感セサルヲ得ス今日迄ニ連盟カ支那ノ援助方法トシテ行ヒタルハ技術的の方面ニ於ケル顧問ヲ支那政府ニ供給シタル事ナリ然ルニ支那側ハ今日迄之等ノ顧問ヲ如何ニ利用シタリヤ又斯ル助力ハ果シテ如何ナル成績ヲ上ケ居レリヤ連盟ヨリノ顧問ノ外米国等ヨリモ多クノ顧問送ラレ中ニハ「ケメラ」委員会ノ如キモノモアリタルカ支那政局ノ不安定責任アル政府ノ存在セサルコト等ノ為何レモ何等成績ヲ挙げ居ラス此等ノ機関ハ凡テ単ニ支那ノ或種ノ對外宣伝ニ使用セラレ来レルニ過キス惟フニ支那ノ如キ根強キ民族ヲ擁シ長キ歴史及習慣ヲ有スル国家カ崩壊(「ディスイntenegレイション」)ノ過程ニ在ルニ当リテハ単ニ支那政府ノ統制ノ下ニ在ル外人顧問ノ力位ニテハ何トモ為シ得サルハ当然ノコトナリ支那ヲ「コントロール」スル方法例ヘハ連盟カ或國ニ対シA式又ハB式統治ヲ委任セシムルコトトモナラハ此際多少成功ノ見込アルヤモ知レサルモ之トテモ支那全体ニ対シテ実行スルコトハ必要ナル武力及經費ノ關係上困難ニシテ或一省等ヨリ之ヲ試ミ行ク外仕方ナカルヘシ日本カ隣接セル支那ノ土地ニ於テ他ノ國ニ依ル委任統治ヲ認ムルヤ否ヤハ又別ノ見地

方面ニアル旨東京以来屢々説明ヲ聞キタルカ経済方面ニ
 関スル問題ハ比較的容易ニシテ最も困難ナルハ国防上ノ
 問題ナリ此点ニ関シ具体的ニ謂ハハ如何ナル事ヲ帝国政
 府ハ欲セラルルヤト「ハ」ヨリ質問セルヲ以テ小官ハ政
 府ノ決定セル方針ハ承知セサルモ各方面ヨリ聞及ヒタル
 点ヨリスレハ満州ノ国防ハ我国ノ手ニ於テ之ヲ負担シ其
 為ニ三四ノ地点ニ我軍ヲ駐在セシムル事ヲ必要トスルヤ
 ニ承知シ居レリト述ヘタル処「ハ」ハ斯ル權利ヲ國際的
 協定ニ依リ容認セシムルハ最も困難ナル事業ニシテ若シ
 日本ノ国防上ノ危惧ナルモノハ一方張學良ノ再来ヲ防キ
 他方露國ノ来ルヘキ圧迫ニ抵抗セラルルノ御趣旨ナラハ
 或ハ不侵略條約又ハ連盟ニテ仏國陸軍ノ主張ニ基キ永年
 研究セラレタル相互援助條約ノ如キ形式ノモノニ依ラル
 ル事適當ナラスヤト思考スル旨提議シタルヲ以テ小官ハ
 右ノ方法ハ二ツトモ目下ノ形勢ニテハ実行頗ル困難ナル
 旨種々ノ理由ヲ以テ説明シタルニ「ハ」ハ此点特ニ御研
 究願ヒ度シト繰返シ述ヘタリ

(三)⁽³⁾ 支那全体ニ対スル帝国政府ノ方針ハ支那力統一セラレ国
 内平和確立シ繁榮スルコトニ賛成ナリヤ反対ナリヤ不明

ナル処此ノ点ニ関シ何等承知シ得ハ好都合ナリト「ハ」
 ヨリ申シタルニ付小官ハ此ノ点ニ関シテハ帝國政府ノ方
 針ハ支那力秩序ヲ恢復シ平和ノ下ニ繁榮ヲ来スコトハ我
 國ニ取り利益アルモノニシテ帝國政府ノ欲スル所ナリト
 ノ見解ハ數年來変ラサルモノト思考シ居レリト答ヘタル
 ニ「ハ」ハ然ラハ右ノ如キ状態ヲ支那ニ招来スル目的ヲ
 以テ國際協力ヲ必要トスル場合帝國政府ハ右ニ積極的参
 加ヲ与ヘラルルヤ否ヤト質問セリ小官ハ本問題ハ理論ノ
 問題ニアラスシテ實際問題ナルヲ以テ國際協力カ果シテ
 如何ナル形式ヲ取ルヘキモノナルヤニ依リテ決セラルヘ
 キモノナリト答ヘタル処「ハ」ハ先ツ支那内地ニ於ケル
 交通機關ノ改良ヲ計リ支那ノ行政統一商業發達ニ便ナラ
 シムルト同時ニ他方外債ノ整理ヲ行ヒ以テ支那ノ對外信
 用ヲ鞏固ナル基礎ノ下ニ置クノ二ノ事業ハ支那ノ目下ノ
 状態ヨリ見テ最も急務ニシテ之カ為先ツ連盟ヨリ専門家
 ヲ置クノ計画ヲ立案セシメ各国ノ援助ヲ以テ之ヲ実行ス
 ルニ於テハ結局支那ノ平和統一ヲ容易ナラシムル次第ナ
 ルヘシト述ヘタリ右ニ對シ小官ハ我方トシテハ支那ニ中
 央政府アリトスルモ右カ從來国民党ノ実行セルカ如キ政

ニ立ツノ要アリ從來支那ニ對スル連盟ノ措置ニ付テハ日本
 人ノ間ニ於テ大ナル不満足ヲ以テ見ルモノ多シ満州問題発
 生以来ノコトハ暫ク別トスルモ其以前ニ於テモ例ヘハ連盟
 カ支那ニ技術的顧問ヲ送レル場合連盟ハ常ニ殊更ニ日本ノ
 「インフルエンス」ヲ排除スルコトニ細心ノ注意ヲ払ヒ来
 レリ斯クシテ支那ニ送ラレ来レル顧問ハ支那ニ於テ何ヲ為
 シタリヤ彼等ノ中ノ或者ハ全ク支那ノ空氣ニ感化サレ支那
 ノ無責任ナル当局ノ為ニ政治的活動ヲ為シ支那人以上ニ排
 日的ノ行動ヲ為シタルハ顯著ナル事実ナリ斯ルコトカ支那
 ニ重大ナル利害關係ヲ有スル日本人ノ眼ニ如何ニ映リタル
 ヤハ想像ニ難カラサルヘシ要スルニ連盟等ノ顧問派遣ニ依
 リ支那ヲ救ハントスルカ如キハ殆ント望ナシト信スト述ヘ
 置キタリ

連盟、米、奉天、北平、南京、広東へ転電セリ
 連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使へ転電アリタシ

60 昭和7年3月28日 ※在青島川越(茂)総領事より
 芳沢外務大臣宛(電報)

満州問題に関するアース連盟調査団書記長と
 の会談について

第六八号(暗、極秘)

伊藤ヨリ

廿六日午後上海「カセイ、ホテル」ニ於テ「ハース」ノ求
 メニ依リ同氏ト二回ニ互リ会談ス(「ハース」ハ廿九日南
 京ニ向ツテ出發スル予定ノ由)

(一)調査委員カ満州ニ赴イテ為スヘキ第一ノ任務ハ満州ノ形
 勢ニ関スル報告ヲ出スコトナリ而シテ其提出期ハ成ル可
 ク五月一日以前トナリ居ル処其報告ノ作成方ニ関シ委員
 連中ハ目下ノ処主トシテ九月卅日ノ決議ニ立脚シ満州ニ
 於テ日本人ノ生命ノ安全、財産ノ保護カ確保セラレ居ル
 ヤ否ヤ並ニ右ノ事実ニ基キ日本軍ノ鉄道付屬地内ヘノ撤
 兵状況ニ對スル事実上ノ記述ヲ為シ右ニ對スル日支兩國
 参与員ノ説明ヲ付加シ(東京出發前「リットン」卿ヨリ
 貴大臣ニ我方説明書ノ提出方ヲ依頼シタルハ御承知ノ
 通)簡單ナル報告書ヲ作り右ニハ何等委員ノ意見ヲ開陳
 セサルコトトナスニ大体意見纏リ居レリト云フ

(二)⁽²⁾ 満州問題ニ関シ日本ノ憂慮セラルル点ハ政治及經濟ノ兩

青島 3月28日後発
 本省 3月29日前着

策ヲ継続スルモノナルニ於テハ日本ノ協力ハ全然不可能ナルヘク且又連盟ヨリ専門家ノ派遣ノ如キハ若シ派遣セラレタルモノニシテ従来ノ或モノノ如ク支那側ノ宣伝機関トナルカ如キ結果ヲ齎スニ於テハ日本ハ必スヤ之ニ反対スヘク且又右ノ如キ国際協力ニ依リ或ル政府ヲ援助スルハ内政干渉ノ非難ヲモ受クヘク支那ノ現情ニ関シ日本人ノ見ルカ如ク目下解体状態ニ向ヒツツアリトスルニ於テハ是等国際協力ノ実現ハ最困難ナルヘシト答ヘ置キタリ「ハ」ハ兎モ角是等ノ点ニ付テハ更ニ熟慮立案ノ要アルヘク少クトモ帝国政府ノ積極的協力アルニアラサレハ如何ナル案モ実行困難ナルコトハ自分モ能ク諒解シ居レリト述ヘタリ

(四)右(三)ノ兩点ニ関スル「ハ」ノ質問並意見ハ去ル廿三日重光公使開催ノ晚餐会ニ於テ隣合ヒ「リットン」卿ヨリ重光公使ニ対シ談話セル処ト殆ト同様ナリシヲ以テ小官モ亦公使ト殆ト同様ナル答弁ヲ為シタル次第ニテ或ハ調査委員ノ現下ノ意向ノ大体ヲ示スモノニアラスヤトモ思考セラルルニ付重光公使トモ協議ノ上電報ス從テ右ノ諸点ニ関シ尚委員側ニ申聞カセ置クコト適當ナリ

「リットン」ノ挨拶トシテ新聞ニ発表セラレタル要領別電第二七三号及第二七四号ノ通り

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、広東へ転電セリ

(別電)

(一)

南京 3月29日後発
本省 3月30日前着

第二七三号(別電)

一、汪精衛ノ演説要領

各位ハ上海到着後日本軍カ支那ノ人民及土地ヲ破壊シ総テノ文化経済上ノ建設ヲ灰燼ニ歸セシメタル戦跡ヲ視察セラレタルカ彈丸雨注ノ下ヨリ逃出セル避難民ハ歸ルニ途無ク学生ハ休学シ労働者ハ失業シ戦争ニ依リ死亡セル者ノ遺族ハ到ル処ニ在リ社会問題ハ益々重大ナラントス是レ一月二十八日以来上海一帯カ日本ノ侵略的戦争ニ依リ蒙ムレル一幅ノ写生ナリ各位ハ之ヲ以テ東北ノ情勢ヲ想像セラルヘシ日支兩國ハ共ニ連盟締約国ニシテ規約ニ從ヒ平和ヲ保障シ戦争ヲ避クル義務アル処今回不幸ニシテ兩國間ニ敵然タル

ト思惟セラルル点ニ付テハ御電訓相煩ハシタジ
(南京ヨリ吉田大使へ御伝ヘヲ請フ)

公使、南京、北平、奉天、連盟へ転電セリ

61 昭和7年3月29日 在南京上村総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団招待席上における汪精衛、羅文幹

の演説要旨について

別電

同日在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛
第二七三、二七四号

右汪精衛、羅文幹の演説要旨

南京 3月29日後発
本省 3月30日前着

第二七二号

往電第二七〇号ニ関シ

新聞ニ依レハ各国調査員ハ廿八日午前中林森、羅文幹、汪精衛、蔣介石ヲ歴訪シタル後鉄道部ニ於ケル汪精衛ノ午餐会ニ出席シ夜ハ華僑招待所ニ於ケル羅文幹ノ晚餐会ニ出席(我方ヨリハ吉田大使、支那側ハ各部々長及次長其他要人多数陪席)セル趣ナルカ右午餐及晚餐会ニ於ケル主人側及

戦争的行為發生セルモ支那側ハ実ニ日本ノ不断ノ攻撃ヲ受ケタル為已ムヲ得ス正当防衛ニ出テタルモノニシテ支那側ニハ何等責任無キ次第ヲ特ニ声明ス昨年九月十八日日本ノ東北占領以来支那側ハ理事会ノ決議ヲ誠意ヲ以テ受諾セルカ日本ハ敢然之ニ違背シ最近ノ連盟總會ノ決議ヲモ顧ミサルハ支那ノ領土主權ヲ破壊スルモノナルノミナラス連盟規約ヲ破壊スルモノナリ国民政府ハ総理ノ遺囑ヲ奉シ支那ノ自由平等ヲ求ムルニ努力スルモ右ハ実ニ国家及民族生存ノ必要条件ニシテ其ノ意義ハ排外ト全然異ルコトヲ注意セラレンコトヲ請フ即チ支那ハ排外ノ意思無キノミナラス各国トノ条約ヲ尊重ス素ヨリ不平等条約ノ排除ハ要求スルモ而モ一方的ニ之ヲ排除スル意思無シ不平等条約ノ排除ト平等条約ノ締結ハ支那ノ生存上ノ必要ナルニ止マラス關係各国ノ共同ノ利益ナルヲ以テ各国ハ必スヤ之ニ援助ヲ与フルモノト信ス一例ヲ挙げクレハ今回日本カ上海租界ヲ軍隊ノ上陸及作戦ノ根拠地トナセル為支那ハ防衛上莫大ナル不利益ヲ蒙リタルカ而モ支那ハ条約ヲ尊重スルカ故ニ終始租界ノ安全ヲ害セス日本軍ノ攻撃ニ対シテモ敢テ反撃セサリキ各位ハ日本ニ於テ或ハ支那人民ノ排日事実ヲ聞カレタラムモ是

等ノ事實ハ日本カ支那ヲ侵略スル行為ニ依リ激成セラレタルモノニシテ民国四年ノ二十一ヶ条問題、十七年ノ濟南惨案ニ依ル排日モ亦然リ昨年九月十八日以来支那人ノ日本ニ対スル悪感ハ日本ノ侵略行為ニ伴ヒ拡大セルモノナルヲ以テ排日ヲ除ク唯一ノ方法ハ日本カ其侵略行為ヲ廢スルニアリ支那人民ハ元來排日ノ意思ヲ有セス支那人民ノ現在ノ時局ニ対スル希望ハ領土及主權ノ完璧ニアリ故ニ最近出現セル東北ノ傀儡政府ニ対シテハ日本カ嘗テ朝鮮ヲ亡ホセルト同一遺方ト認メ飽迄之ヲ容認スル能ハス東北ニ於ケル經濟的開發ノ為ニハ支那人民ハ喜ンテ各友邦ト提携シ之カ平和的發展ヲ遂ケンコトヲ希望ス

二、「リットン」ノ挨拶

日支事變發生後支那政府ハ終始連盟ヲ信賴シ連盟亦頗ル同情ヲ表シタルカ余ハ連盟カ事件ヲ処理スルニ當リテハ決シテ國家ノ行政獨立領土保全ノ原則ヲ破壞シ又ハ之ニ違背セサルヘク若シ此原則ニ違背スルモノアラハ連盟ハ決シテ之ヲ承認セサルヘキコトヲ敢テ言ハントス

(二)

南京 3月29日後発

カ受ケタル苦痛ヲ察知セラレタルコトト思考ス、吾人ハ領土保全ノ為侵略者ニ対シテハ從來抵抗シ來レルカ今後モ自衛ノ為之ヲ繼續スヘシ尤モ吾人ハ平和ヲ願ヒ連盟決議案及現行条約中ノ公平ナル方法ニ依リ時局ノ解決ヲ希望シ且諸君ノ調査ノ結果及連盟ニ対スル諸君ノ建議ニ深ク信賴ス

二、「リットン」ノ挨拶

連盟ハ世界平和ノ柱石ナリ、今回ノ日支間ノ不幸ナル問題ニ対シ責任ヲ以テ解決ニ當ルヘシ、支那カ旧國家ヨリ一変シテ新國家トナルニハ其間必ス種々ノ困難アランモ多數ノ民衆ニシテ一心努力センカ必ス迅速ニ予期ノ成功ヲ達成シ得ヘシ

62 昭和7年3月31日

在南京上村総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団招待席上における蔣介石などの挨拶要旨について

別電

同日在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛
第二八一号

右蔣介石などの挨拶要旨

南京 3月31日後発

第二七四号(別電)

一、羅文幹ノ演説要領

諸君ハ支那ノ歴史上最モ悲惨ナル時期ニ渡來セリ諸君カ歐洲出發ノ際ニハ東北事變ハ既ニ支那領土ノ保全危殆ニ瀕スル程度迄發展セルカ其ノ後上海ニ於ケル日本ノ軍事行動ハ更ニ支那ノ社会及政治組織ノ基礎ヲ危殆ニ瀕セシメタリ支那ハ共和ノ新理想實現ニ種々ノ障碍アル事ヲ覚悟シ居ルモ鮮クトモ外來ノ危險ナキ事及各国就中隣邦ノ同情ト援助ヲ得ル事ヲ希望セルカ計ラス一隣邦ハ事前ニ予告ヲ与ヘス又國際公法及日支条約上ニ規定セル國際紛争平和解決ノ方法ニ拠ラスシテ突然兵力ヲ以テ我國ヲ攻撃セリ即チ先ツ東北ヲ襲ヒ次イテ天津ヲ攻メ更ニ上海ヲ攻撃セリ吾人ハ此ノ隣邦ニ対シ元來之ト獨立主權互尊ノ原則ニ從ヒ誠意ヲ以テ合作セン事ヲ希望セルカ計ラスモ彼ハ遂ニ斯ノ如キ尋常ナラサル舉動ニ出テタリ吾人ハ平和的態度ヲ以テ彼ノ侵略的行為ヲ變改セント希望セルカ之モ水ノ泡ニ帰セリ、諸君ハ上海ニ於テ一月二十八日以来ノ事變ノ經過ニ関シ既ニ適當ナル情報ヲ蒐集シ公平ナル眼ヲ以テ一般ノ平和ナル無辜ノ民衆

本省 3月30日前着

第二八五号

往電第二七九号ニ関シ

新聞報道ニ依レハ調査員一行ハ三十日午(脱)鐵道部ニ於テ再ヒ支那側要人ト会見日支問題ニ付意見ノ交換ヲ為セルカ支那側ヨリハ汪精衛、蔣介石、羅文幹、陳昭寬、朱家驊、陳銘樞、宋子文、陳公博、朱培德等出席セル趣ナリ三十日夜蔣介石夫妻ハ勵志社ニ於テ一行ヲ晚餐ニ招待シ各院長、部長等モ陪席セル趣ナルカ本三十一日ノ新聞ニ記載セラレタル右席上ニ於ケル主客ノ挨拶要領別電第二八一号ノ通り

本省 3月31日後着

尚新聞ニ依レハ國民政府ヨリ調査員ニ提出スル正式意見書ハ本日顧維鈞ヨリ「リットン」卿ニ交付スル趣ナリ
別電ト共ニ支、北平、天津、青島、濟南、漢口、広東ニ転電セリ

(別電)

第二八一号

南京 3月31日後発
本省 3月31日後着

別電

(一) 蔣介石ノ挨拶要旨

余ハ委員一行ト共ニ各所ヲ遊歴シ一段ト熱烈ナル歡迎ヲナス考ヘナリシモ目下日支間ニ不幸ナル事件有リテ各位ノ責任重大ナレハ之カ為時日ヲ遷延スルハ宜シカラス支那ハ元来仁義ノ国ニシテ忠厚真誠ヲ以テ交友ノ基礎トセルカ右ハ個人間ノ交際ノミナラス國際的ニモ亦然リ支那ハ古キ歴史ト優美ナル文化ヲ有シ人多ク土地広シ旧国家ヨリ新国家ニ移ル時ニアリテハ進化的遅キモ政府ト人民ハ等シク決心ヲ有シ前途ニ無限ノ希望ヲ有ス我政府ハ各位カ各地ヲ遊歴スルニ付テハ種々ノ便宜ヲ与ヘ又調査ニ関シテハ与フ限リノ材料ヲ供給シ度シ

(二) 「リットン」ノ挨拶

吾人ハ蔣委員長カ支那現在ノ英雄ニシテ支那ニ来ル以前ヨリ其ノ名ヲ聞キ及ヘリ蓋シ蔣委員長ハ支那現代ノ英雄タルニ止マラス世界ニ於ケル有数ノ軍事家タルト同時ニ名望アル政治家ナレハナリ今回一行カ東北問題ヲ調査スルニ当リテハ力ヲ尽シテ其ノ使命ヲ恥シメサラン事ヲ期シ度シ

63 昭和7年4月2日

※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞入滿に関する大橋外交部総務司長との
内談について

奉天 4月2日後発
本省 4月3日前着

第四九九号(暗、極秘)

伊藤参事官ヨリ

連盟調査員ニ対シ満州国官憲側ニ於テナスヘキ説明振ニ関シ四月一日大橋ト協議ヲナシタル際顧維鈞ノ来滿ニハ反対ナル旨話アリタルヲ以テ小官ハ日支両国ハ該委員ニ対シ諸般ノ便宜ヲ供与スルコトナリ居ルモ昨年来該委員派遣決定ノ際ニハ満州国ノ存在ヲ予想セサリシヲ以テ満州国ハ純理ヨリ我租借地並ニ滿鉄付屬地ヲ除キ支那側参与員ノ入滿ニ反対シ得ル訳合ナルモ本件ニ関シテハ連盟ノ派遣セル委員ノ参与員タル關係上機宜ノ点ヲ考慮スルノ要アルヘク若シ絶対反対ナルニ於テハ此ノ際南京政府ニ対シ同政府カ満州国ヲ「レベル、ガバーメント」ト看做ス間ハ其代表者ノ入国ヲ許可セストノ通告ヲナスモ亦一策ナルヘント述ヘタ

ルニ対シ大橋ハ軍部トモ協議ノ上長春政府トシテノ決定ヲナスヘント答ヘ別レタリ
支、北平、漢口、南京、長春ニ転電セリ

64 昭和7年4月2日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国の顧維鈞入滿拒否方針について

長春 4月2日後発
本省 4月2日後着

第一一三号(暗、至急)

貴電第二四号ニ関シ

新国家側ニ於テハ南京政府カ満州国ヲ指シテ偽国家ナリトシ独立国ノ名譽ヲ傷クルカ如キ態度アルニ対シ新興ノ理想ニ邁進シツツアル要人乃至三千万民衆ノ痛ク憤激ヲ買ヒ居ル際顧維鈞ノ来滿ハ不羈ノ徒ヲシテ乗スヘキ機会ヲ与フルニ至ルヤモ計ラレス折角新政府ニ於テ中華民國トノ間ニ速ニ円満ナル国交ノ樹立ヲ切望シ居ル折柄右ニ支障ヲ来スヘキカ如キ不祥事ノ発生ヲ憂慮シ顧ノ来滿ヲ拒絶シタキ意向ヲ有シ居リ既ニ外交部ニ於テハ右趣旨ニ依リ南京政府外交総長宛電文案ヲ作成シ最近ノ閣議ニ付スルコトナリ居ル

趣ナリ

支、南京、漢口、北平、奉天ヘ転電セリ

65 昭和7年4月4日

※在漢口坂根(華三)総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団一行の九江到着について

漢口 4月4日後発
本省 4月4日後着

第二六六号(暗)

九江発本官宛電報

第四八号

大臣ヘ転電アリタシ

第四五号

連盟調査員一行本朝当地着直ニ上陸小憩後支那街ヲ一巡シ予テ支那側ニテ準備シタル歡迎茶話会場ニ臨ミ先ツ県長ノ稍過激ニ互ル言辞ヲ弄シタル歡迎ノ辞アリ次テ「リットン」卿ノ謝辞アリ更ニ九江警備司令ヨリモ簡單ナル挨拶ヲ述ヘ散会一行ハ三々伍々町内ヲ視察シ十一時当地発漢口ニ向ケ出發シタルカ概況左ノ通
一、支那側ニ於テハ一兩日前ヨリ市内ノ見苦シキ貼紙ヲ殆

ト剝取り日々大通リヲ掃キ清メ且下水ノ如キモ多数人夫ヲ使用シ清潔ニシタルカ平素打遣リノ状態ニ比シ頗ル滑稽ニ見受ケタリ

- 二、昨日来各戸ニ国旗ヲ掲揚シ殊ニ英租界「バンド」ハ万国旗ヲ以テ飾リ立テ英文及支那文ノ歡迎幟幕ヲ張渡シタルカ排日ハ排外ニ非ス吾人ハ日本軍国主義ノ下ニ生キンヨリハ寧ロ死スルニ如カスト謂フカ如キ排日標語ヲモ多数貼布セリ
- 三、支那側ニテハ本日早朝ヨリ軍楽隊及軍隊ヲ「バンド」ニ整列セシメ尚多数市民国旗ヲ手ニシテ慇懃ニ歡迎セリ
- 四、町内ハ警察及軍隊ニテ警戒ヲ嚴ニシ一行ニ対シテハ何レモ通行ノ都度敬礼ヲ為シ好感ヲ与ヘタルヤニ見受ケラル
- 五、当地ニテハ上海事件発生以来殆ト排日「ポスター」見受ケサリシ処今回貼付シタル物ハ大多数県政府及公安局ノ物ナリシニ付小官ハ昨日午後県長ヲ往訪シ抗議シタル処先方ハ陳謝スルト共に至急剝取ラシムヘキ旨言明セリ
- 六、調査員一行ノ来着ニ依ル市面ノ変化全然無ク単ニ人多カリシニ過キス

シ」

奉天宛ニハ「別電ト共ニ哈爾濱、吉林、長春ニ転電アリタシ」ト各付記ノコト

(別電)

ト

合第九二三号(暗)

本省 4月4日後10時発

連盟調査員質問応答ノ件 (別電甲)

Final Question for Foreign Office.

- I) Have we made clear spirit in which we shall undertake investigation? Recapitulate our objects:
- a) bring two countries to point at which negotiations can proceed between them.
- b) to offer help of League to make those negotiations effective.
- 2) For this purpose we must know:
- a) what conditions would enable Chinese demand to be met regarding withdrawal of troops?
- b) what are the rights and interests which Japan

(委細郵報)

支、北平、南京ニ転電アリタシ

66 昭和7年4月4日

芳沢外務大臣より
在上海重光公使、在北平矢野参事官
他宛(電報)

連盟調査委員質問に対する我方回答について

別電

同日芳沢外務大臣より在上海重光公使、在北平矢野参事官他宛合第九二三号、合第九二四号調査委員の質問と我方回答

本省 4月4日後8時30分発

合第九二二号(暗)

連盟調査員質問応答ノ件(情報)

連盟調査委員ハ本邦滞在中本大臣等トノ意見交換ノ結果ニ基キ本邦退去ノ際別電合第九二三号ノ趣旨ノ質問ヲ残シ行キタルニ付今般吉田大使ニ対シ必要ニ応シ別電合第九二四号ノ趣旨(陸海軍モ同意済)ニ依リ口頭ニテ可然応答方電訓シ置キタリ

(寿府宛ニハ「別電ト共ニ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリタシ」

在支公使宛ニハ「別電ト共ニ上海、南京ニ転報アリタ

must secure in any settlement?

On these points we have gathered from conversations:

- I a) that troops will not be withdrawn until internal security is provided. Would Japanese be willing to withdraw if security secured temporarily by other forces?
- b) that Japan would recognise existing Chinese government for purpose of negotiation.
- II That in China proper Japan would require an undertaking by treaty not to use or allow to be used economic aggression.
- Would Japan be willing to secure that by undertaking to abstain from any form of military aggression? That in Manchuria Japan requires—Government capable of maintaining law and order, acceptance by such government of all existing treaty obligations, safeguarding in some form of its strategic interests in the event of

aggression from 3rd power.

(編注) 本電報は、奉天、広東、ジュネーヴ、米国にも發電された。

(二)

本省 4月4日後8時10分発
合第九二四号(暗)

連盟調査員質問応答ノ件(別電乙)

特ニ支那本部ト断リナキ間ハ滿州問題ニ関連セルモノト認ム

一、a、日本軍ハ滿州ノ安寧秩序カ内部及外部ヨリスル作用ニ対シ充分ニ回復維持セラルルニ非レハ即チ在滿帝国臣民ノ生命財産其他帝国ノ權益カ確實ニ安全ナル事態成立スルニ非レハ撤収セラレサルヘシ
日本ハ第三国又ハ支那本部ノ兵力ノ滿州駐屯ハ反テ事態ヲ紛糾セシムルモノト認ム

尚ホ滿州ニ於ケル治安ノ回復及維持ノ問題ハ国民政府其他支那本部ノ政權ノ同地方ニ及フコトニ反対スル新政府ノ樹立ヲ見タル最近ノ状況ニ顧ミ右状況ニ応シテ従来ノ考方ヲ改ムルコトヲ要スヘシ(注、此

ノ点ハ寿府宛往電第一四四号第六項末段ノ趣旨)

b、日本ハ現存支那政府カ現存条約ヲ忠実に遵守スルモノナル限り之ヲ交渉ノ相手方トシテ認ムヘシ

但シ滿州ニ関シテハ實際問題トシテ前記新政府ノ出現ニ顧ミ此ノ際該政府ヲ無視シ現存支那政府ト交渉スルコトハ無意味ト認ム

二、「エコノミック、アグレッション」トハ所謂対日經濟

絶交運動ヲ意味スルモノト解スル処右經濟絶交運動ハ日支間現存条約ニ依ルモ違法ナルカ右違法性ヲ確認スル意味ニ於テ必要ニ応シ日本ハ支那カ該運動ノ停止ヲ条約ニ依リ約束スルコトヲ要求スルノ意向ヲ有ス尤モ従来ノ実例ニモ徴シ日本ハ右約束不実行ノ為メ帝国臣民ノ生命財産及利益ニ重大且緊急ノ危険ヲ来スカ如キ場合ニ対スル行動ノ自由ヲ留保セサルヲ得ス

最後ノ滿州ニ関スル質問ニ対シテハ然リト答フ(但シ「トリイティ、オブリーゲーション」ノ次ニ「歴史的考慮」ヲ付加スルコト)

(編注) 本電報は、奉天、広東、ジュネーヴ、米国、漢口にも發電された。

67 昭和7年4月6日

在漢口坂根総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

排日運動に関しリットン委員長と会談について

漢口 4月6日後発
本省 4月6日後着

第二七四号(暗)

「リットン」卿来漢中吉田大使ノ斡旋ニ依リ四日午後四時ヨリ約三十分ニ互リ英総領事官邸ニ於テ自由ニ会談スル機会ヲ得タルニ付本官ヨリ当地ノ一般ノ情勢ハ日支官憲熱心協力ノ結果表面平穩ナルモ党部ノ使嗾ニ依リ潜行的排日行為今以テ熾マサル点ヲ实例ニ付説明セルニ「リットン」ヨリ日支間「ホステイリティー」ニシテ終熄セハ民衆ノ排日運動モ終熄スヘキニ非サヤト試ニ反問シ来レルニ対シ本官ハ従来当地ニ於テハ些々タル小事件ノ為度々排日排外ノ運動アリタル实例ヲ示シ右ハ全ク党部若ハ官憲ノ一部ニ於テ態々比較的無関心ナル民衆ヲ煽動又ハ脅迫シ多数ノ迷惑ヲ押切りテ実行セシムルモノニシテ從テ責任アル官憲カ真

実其積リトナレハ少クトモ当地ニテハ現在直ニ止メシメ得ヘキコトヲ説述シ更ニ地方最大ノ不幸タル共產党跋扈ノ状況ヲモ併セテ話シタル上特ニ最近用意シタル英文ノ覚書ヲ手交シ置ケルカ「リットン」卿ハ終始興味ヲ以テ傾聴シ之等ノ問題ハ何レ船中ニテ吉田大使トモ充分論議スヘシト約束シテ気持良ク別レタリ御参考迄(英文覚書写郵送ス)

支、北平、南京、天津、濟南へ転電セリ

68 昭和7年4月6日

在漢口坂根総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団の漢口到着と視察状況について

漢口 4月6日後発
本省 4月7日前着

第二七七号(暗)

往電第二七〇号ニ関シ

連盟調査員一行ノ乗船ハ四日午前八時入港シタルカ支那側ハ何成藩夏斗寅(四月二日南京ヨリ帰漢)漢口市長以下要人総出ニテ出迎ヘ波止場付近ハ軍隊軍樂隊ヲ始メ消防隊及女学生ノ団体迄モ大袈裟ニ堵列シテ歡迎セリ一行ハ全部「ターミナス、ホテル」ニ一度落着キ打合ノ午前中支那

側ヲ往訪シ正午過漢口市長ノ午餐会ニ臨ミ(各國領事列席)(脱)セルカ午後三時一行ハ「ホテル」ニ於テ当地各界代表者ヲ引見シ五時ヨリ「レース」俱樂部ニ於ケル当地外国商業會議所連合会ノ歡迎会(日本側及支那側モ全部出席)何成濬ノ招宴(各國領事臨席)ニ臨ミ翌五日ニハ一行ハ成ルヘク各自自由ノ行動ヲ執ルコトシ午前中市中ノ見物及水災地ノ視察ヲ為シ午後武漢大学及避難民收容所(武昌側)ヲ視察セルモ主客共昨年ノ大水災ヲ回顧セル外注意スヘキ演説モ無ク折柄河風激シク水上ノ交通モ便ナラス大抵ハ時間ノ大部分ヲ各自領事館ニ於テ過シ当地方面ノ事情ヲ本國領事其ノ他自國在住者ヨリ別々ニ聴取シ居タル模様ニ付相当了解スル所アリタルモノノ如シ斯クシテ一行ハ極メテ平和裡ニ昨日ト同様多数ノ見送ヲ受ケ午後九時三十分当地ヲ出発セル次第ナリ

一行滞在中支那側ハ吉田大使及隨員一行ニ対シ特ニ市立病院院長李博士以下日本語ヲ解スル接伴員四名ヲ配シテ万事周到ニ斡旋セシメタル外各種ノ宴席等ニ於テモ何等ノ蟠無ク打解ケタル態度ヲ示シ居タルカ平漢線當局ハ体面上特別列車ヲ實際用意シ居タルモ兎モ角モ再ヒ漢口ヨリ浦口ヘ引返

ト称シ居レリ

支、北平、南京、奉天、漢口へ転電セリ

70 昭和7年4月6日

三宅閣東軍参謀長より
真崎参謀次長宛(電報)

満州国の顧維鈞入満拒絶に関する南京政府宛

發送予定の電報要旨について

4月6日後3時20分発
4月6日後4時52分着

関参第二六九号(秘)

満州国政府ハ顧維鈞及其隨員カ國際連盟調査委員一行ト共ニ満州国ニ入国スルヲ拒絶スヘク左記要旨ノ電報ヲ四月九日頃調査委員一行カ北平ニ到著セル頃南京政府宛發送スル予定ナリ、御含ミヲ乞フ

左記

顧維鈞等ハ貴國ヲ代表シテ國際連盟委員ト共ニ来満ノ由ナルカ満州国ハ今後貴國ト親善關係ヲ結フ用意アリ然ルニ貴國方面ニ於テハ當國ヲ擾乱セントスル者アリテ之カ為我民衆ノ感情ヲ刺激シ居ル折柄顧一行ニシテ入満センカ或ハ不慮ノ事變ヲ惹起シ今後ノ親善關係ヲ阻止スルヤ

スコトナリタル点ト云ヒ其ノ他往電第二七四号ノ次第モアリ一行ノ当地訪問ハ相当有効ナリシコト信セラレ
公使、北平、南京、奉天、天津、濟南、九江へ転電セリ

69 昭和7年4月6日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞入満拒否に関する南京政府あて電報発
電時期について

長春 4月6日後発
本省 4月6日後着

第一二二号(暗)

往電第一一三三号ニ関シ

五日謝介石ノ語ル所ニ依レハ四日ノ閣議ニ於テ顧維鈞ノ入満ヲ拒絶スルコトニ意見一致ヲ見タルモ外交部起草ノ南京外交総長宛電報發送ノ時期ニ付テハ尚考慮中ニシテ顧ニシテ新政府側ノ意向ヲ察知シ満州入りヲ諦ムルニ於テハ其必要無カルヘク旁顧ノ北平到着ノ頃ヲ見計ヒ發送如何ヲ決スルコトセル趣ナリ然ルニ四日奉天発ノ連合ニ依リ既ニ本件ハ外部ニ知レ互ルニ至リ大橋モ既ニ斯ク周知ノ事実トナリタル上ハ南京宛前記電報ヲ發送スルモ其効果少カルヘシ

モ図リ難シ、依ツテ来満ヲ拒絶ス

71 昭和7年4月7日

※在南京上村総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国の顧維鈞入満拒絶に関する調査団委員
長の意向について

南京 4月7日後発
本省 4月7日後着

第三一一号(暗)

吉田ヨリ

第二五号

六日委員長ハ満州国ニ於テ顧維鈞拒絶ノ「ロイテル」電報ヲ示シ委員及参与委員全部満州ニ赴クカ又ハ一人モ行カサルカノ外無シ右事実ナラハ大連ヨリ上陸シ奉天ノ如キ日本政府ノ保護ノ届ク場所迄赴クカ又ハ浦潮ニ上陸シ満州ニ接近シテ調査ヲ為スノ外無ク極メテ重大問題ナリトテ本使ニ内談アリ其後当地ニテ田代発大臣宛第一二二二号接到シタルカ本件影響ノ大ナルヘキニ顧ミ見合セ方然ルヘクト存ス就テハ右ニ対スル応答振至急御回示相成度シ尚委員長ハ同氏ノ更迭ニモ同意セスト答ヘタリ

支、北平、奉天、長春へ転電セリ

72 昭和7年4月7日

※在漢口坂根総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員と中国側との折衝状況に関する
事務局員の内話について

漢口 4月7日後発
本省 4月7日後着

第二七九号(暗)

九江発本官宛電報

第五二号

大臣へ転電アリ度シ

第四八号

吉田ヨリ

五日事務局員ノ内話左ノ通

(一)予備報告ニ関シテハ双方トモ事態ヲ悪化セシメサル約束
ナルニ支那ハ排日運動ヲ続ケ又日本人ノ身体財産ヲ攻撃
セルヲ以テ軍隊ヲ撤退セントスルモ不可能ナル状況ニ在
ルコトヲ力説スルコト然ル可シ

(二)「リットン」ハ交通部天津航政局ノ排日命令ヲ示シテ南

成功ナリ

六日「リットン」ノ内話左ノ通

支那ハ困難ナル事態ニ在リ中央政府確立シ其信頼シ得ル軍
隊組織セラルル様援助セサルヘカラス
支、北平、南京へ転電アリ度シ

73 昭和7年4月8日

在南京上村総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団の南京到着とリットン委員長の新
聞記者会見について

南京 4月8日後発
本省 4月8日後着

第三一六号

連盟調査員一行ハ七日午前一時当地着各委員ハ顧維鈞ト共
ニ外交部長官邸ニ赴キ羅文幹ト約一時間会談セル趣ナルカ
一行ハ四時過津浦線ニテ北上セリ

尚八日ノ新聞ニ依レハ「リットン」卿ハ右上陸前往訪セル
新聞記者ニ対シ大要左ノ如ク語リタル趣ナリ

一、今回漢口ニ赴キタルハ上海、南京兩地ノ調査ノミニテ
ハ不充分ト認メ支那ノ中心タリ揚子江ノ要港タル漢口ヲ

京ニテ政府ニ迫リシニ支那ハ大ニ驚キ他ニ尚証拠アルカ
ヲ恐ルル様子ニテ本書類ノ真否ヲ確ムル必要アリト逃ケ
タリ

(三)支那ハ滿州ノ悪政ヲ認メ南京ヨリ良吏ヲ派シ善政ヲ施サ
ントスル旨及滿州国ハ日本ノ傀儡ナリト述ヘタリ

(四)伊委員(英モ然ラン)南京政府ノ言ハ当局自身ノ為カ
党ノ為カ判ラス同政府ハ極メテ微力ナルヲ感得セリ

(五)昨日ノ会合ニテ漢口商業會議所長ハ委員長ノ問ニ対シ
「ボイコット」ハ何時ヨリ始マリシカ知ラスト言ヒ九月
十八日前カ後カト言ヘハ同日後ハ特ニ盛ナリト答ヘ新聞
記者ハ日本ハ其租界ヨリ支那ヲ砲撃セントスルカ故ニ警
備セリト答ヘ暫クシテ共匪ノ為ナリト改メ付近ニ居ルカ
ト問ヘハ遠方ト答ヘ機関銃手榴彈ハ何故カト言ヘハ共匪
ハ近クニ在リト答ヘ又日本船ハ從來塩石炭ヲ滿州ヨリ輸
入スルニ今ヤ軍隊輸送ニ使用シ右ノ必要ノ為ニ米タラス
困難セリト述ヘ二三日前ヨリ道路ヲ修理シ兵隊巡查ニ新
調服ヲ与ヘタリト迂濶ニ告ケ「ホテル」苦力波止場人足
迄カ来ル等今日ノ会見程愚ナルモノ無シ漢口ヨリ何故平
漢線ニ依ル能ハサルカ意味明瞭ニシテ漢口視察ハ日本ノ

視察スル為ナリシカ同地ニ於テハ何成濬、夏斗寅等トモ
会談シ又建設力ノ偉大ナル事及水災後ノ復興力ノ盛ナル
ヲ見テ頗ル満足ナル印象ヲ得タリ

二、滿州方面ニテハ顧維鈞ノ同地方ニ赴ク事ニ反対シ居ル
旨報道セラルル処官辺ニハ未タ右ノ如キ情報達シ居ラス
万一斯カル事實發生セハ調査団トシテハ何レノ側ニ於テ
モ他ノ一方ノ代表ノ参加ヲ阻止スル事ヲ容認スルヲ得ス

三、(上海、南京、漢口ヲ視察シ日支問題解決ノ何等新シ
キ弁法ヲ発見セリヤトノ記者ノ問ニ対シ)今回ノ旅行ニ
於テ見聞セル処ハ調査団ノ仕事ニ益スル処甚タ多シ東京
及南京兩地ニ於テハ日支兩國当局ト会談シ又兩國人民ト
モ接触シ非常ニ刺激ヲ感シタルカ此上トモ兩國人民ハ兩
国政府及調査団ヲ信頼シテ調査ノ進行ニ便セラレ度ク現
ニ調査ノ一部ハ完了シ居レルカ東北ノ前当局ト会談後東
北ニ赴キ実地調査ヲ行フヘシ滿州側ニ於テ調査団ヲ接待
スルヤ否ヤハ別個ノ問題ニシテ目下調査団ハ日支兩國政
府ヲ認ムルノミ

支、北平、奉天、長春、漢口へ転電セリ

74 昭和7年4月8日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

顧維鈞入滿拒絕問題への日本側の対応について

奉天 4月8日後発
本省 4月9日前着

第五三七号（暗、至急、極秘）

伊藤参事官ヨリ

（六九文書）

長春発大臣宛往電第一二二一号及本官発大臣宛往電第五三一
号ニ関シ此際調査委員側ヨリ或ハ吉田参与員ヲ通シ我方ノ
幹旋ヲ依頼越スヤモ計ラレサル処我方ニ於テ輕々ニ仲介ヲ
引受クル時ハ当地方ノ空氣ニモ鑑ミ種々困難ナル問題ヲ生
スルノ虞アルニ付右ノ如キ依頼ハ受付ケス直接新國家ヲシ
テ交渉ニ当ラシムル事得策ナリト思考セラル右氣付キ迄
支、北平、南京、天津、長春へ転電セリ

75 昭和7年4月8日 吉田（伊三郎）連盟調査委員参与委
員より
芳沢外務大臣宛

顧維鈞入滿に関する委員会議事録抜萃送付に
ついで

付屬書 四月六日付顧参与委員の入滿拒否問題に関する
委員会議事録抜萃

機密支調参与第一四号

昭和七年四月八日

連盟支那調査委員参与委員
特 命 全 權 大 使 吉田伊三郎（印）

外務大臣 芳沢 謙吉殿

顧維鈞入滿ニ関スル委員会議事録抜萃送

付ノ件

南京ヨリ電報シ置キタル滿州国政府ニ依ル顧維鈞拒絕問題
ニ関シ今般連盟委員ヨリ別紙ノ通り委員会會議ノ議事録抜
萃ヲ本使ニ手交シタルニ付右写送付ス

本信写送付先 在支公使 北平 奉天 南京

（付屬書）

EXTRACT OF MINUTES OF A MEETING
OF THE COMMISSION ON BOARD

S.S. "LOONG WO"

April 6th, 1932.

The Commission discussed a report which had ap-
peared in the Chinese Press to the effect that Mr.

Hsieh Kai-Shih, claiming to be the Foreign Minister
of the Government of Manchoukuo, had intimated to
the Chinese Government that Dr. Wellington Koo would
not be allowed by them to enter Manchuria as the
Chinese Assessor attached to the Commission.

Whilst they were not prepared to pay any attention
to a newspaper report, the Commission felt that if the
report should turn out to be true it would at once
precipitate an extremely serious crisis. They could not
admit the right of any body to question the acceptability
of any of their number, and an objection to Dr. Koo
would be regarded by them as an objection to the
Commission as a whole, which they would at once
have to report to Geneva.

The Chairman was requested to ascertain, by enquiry
of both the Assessors, whether any message had either
been sent or received.

76 昭和7年4月9日 芳沢外務大臣より
在長春田代領事宛（電報）

滿州国の顧維鈞入滿拒絕に関する日本側の幹
旋振りについて

本省 4月9日後8時発

第三二二号（暗、至急、極秘）

顧維鈞入滿ニ関スル件

（七〇文書）

吉田大使來電第二二五号ニ関シ

顧維鈞ハ支那側代表者ナルモ日本側代表者タル吉田大使ト
均シク参与委員トシテ任命セラレタル上ハ客年十二月十日
ノ決議ニ依ル調査委員会ノ一員タルヲ以テ同人ノ入滿拒否
ハ独リ対支關係ニ止ラス連盟ニ対シ面白カラサル影響ヲ来
ス虞アル処新國家ハ國際條約等ノ尊重ハ勿論其他対外的ニ
穩健ナル方針ヲ執ルコトヲ主旨トシ居ル次第ニテ旁々新國
家トシテ本件ヲ荒立ツルコトハ面白カラスト思考セラル就
テハ奉天來電第五三七号ノ次第ハアルモ貴電第一二三号通
告ニシテ未タ發送セラレ居ラサルニ於テハ右發送方ヲ取止
メ又若シ發送済ナラハ新國家トシテハ顧維鈞ノ人格経歴及
張學良トノ特殊關係等ニ顧ミ同人カ滿州ニテ政治的策動ヲ
試ムルコトヲ特ニ懸念スルモノニシテ新國家当局ハ前記考
慮ニ基キ同人入滿後ノ行動ヲ監視シツツ其ノ入滿ヲ静觀ス

ヘキ旨表明スル等ノ方法ニ依リ事実上調査委員一行ノ入滿ニ支障ナカラシムル如ク取計様大橋司長ヲシテ新國家側ニ仕向ケシムル様致度尙新國家側ニ於テ顧ノ入滿ニ反対スル真相御取調ノ上至急回電アリ度

(本件我方斡旋振ハ何分ノ結果判明スル迄極秘ニ付スルコトト致度)

奉天其他必要ノ在滿公館ニ転電セラレ度
支、北平、天津、南京、寿府、米ニ転電シ北平ヲシテ吉田大使ニ転達シ又寿府ヲシテ英、仏、独、伊ニ転電セシム

77 昭和7年4月11日 ※在上海重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国の顧維鈞入滿拒絶に関する本庄司令官
より松岡代議士宛電報について

上海 4月11日前発
本省 4月11日後着

第六六六号(暗)
奉天発本使宛電報
第二九九号(至急)

本庄司令官ヨリ松岡代議士ヘ左ノ通

旨ヲ一貫セシメ置クコト望マント思考スル処「ルーター」等当地外国通信員ノ質問振ニ徴スルニ其要点ハ(一)顧ヲ「ペルソナ・ノングラタ」トスルニ在ルカ(二)本問題ニ滿州國ノ承認問題ヲ引掛ケントスルモノナリヤ(三)目下ノ世評ニ拘ハラス顧カ強イテ委員一行ト共ニ鉄道ニ依リ入滿セントスル場合例ヘハ山海関等ニ於テ其入滿ヲ実力阻止セントスルモノナリヤ等ニ在ルカ如シ是等諸点ニ対シ我方ノ応答振ニ付何分ノ儀御回示アリ度シ
公使、奉天、長春ヘ転電セリ

79 昭和7年4月11日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

大橋外交部司長の顧維鈞入滿拒絶の意向について

長春 4月11日後発
本省 4月11日後着

第一四一号(暗、至急、極秘)
⁽¹⁾貴電第三二二号ニ関シ

大橋往訪御来示ノ次第ヲ伝ヘ種々懇談シタルニ同人ノ語ル所ニ依レハ

貴信並貴電拝誦顧維鈞ノ入滿拒絶ノ件ハ既ニ滿州國政府ノ閣議ニテ決定シ居ル次第ニテ南京側カ滿州國政府ヲ以テ叛逆政府ナリトシ事毎ニ滿州國ニ不利ナル態度ヲ持スル以上滿州國ノ右決定モ充分ノ理由アリト認メ得ヘク且ツ滿州國ニテハ本件ヲ以テ支那本部ニ対スル外交ノ第一歩トシテ頗ル重要視シ居ル關係上此ノ際本官等ヨリ彼是指図カマシキ措置ヲ差控ヘ居ル次第ニテ貴電ノ御趣旨至極同感ナリ尚我方トシテハ我行政權内ニ關スル限り調査委員ノ使命遂行ニ充分ノ便宜ヲ与フヘキハ勿論ナリ

78 昭和7年4月11日 在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞の入滿問題に關し外部への応答振り指
示方依頼について

北平 4月11日後発
本省 4月11日後着

第一六二二号(暗)

顧維鈞ノ入滿問題ニ關スル先般來各方面ヨリノ質問ニ接シ居レルカ調査團着平ト共ニ愈々差迫レル實際問題ト成レルニ至レリ本件ニ關スル外部ヘノ応答振ハ日滿兩國ニ於テ趣

一、學良系タル顧維鈞來滿ノ上ハ滿州奪回ノ運動ニ付種々策動スヘキコト予見ニ難カラス在滿人心未タ安定ノ域ニ達セサル実情ナル折柄為ニ新政府反對ノ氣運ヲ醸成スルニ至ルヤモ計ラレサル上顧カ連盟委員ノ公正ナル調査ニ對シ種々邪魔ヲ入レ新國家側ニ不利ナル結果ヲ招來スルノ惧アル為顧ノ入滿拒絶ノ空氣ハ各方面ニ互リ濃厚ニシテ顧ニシテ強イテ入滿センカ事實如何ナル不祥事ノ發生ヲ見ルヤモ計ラレサル狀況ナリシヲ以テ予メ顧ノ入滿ヲ阻止シ且累ヲ連盟委員ニ及ホササル様措置スルコト却テ問題ノ惡化ヲ防ク所以ナリト思考シ大橋ニ於テ南京宛通告發送ノ「イニシアティブ」ヲ執リタル次第ナリ

二、而シテ既ニ南京宛右通告ヲ發セルノミナラス(右ニ對シテハ受取人ニ於テ受領ヲ拒絶セル旨南京電報局ヨリ通知アリタリト)新聞ヲ通シテ周知ノ事実トナリタル今日獨立國家ノ体面ヨリスルモ今更何トモ致方無ク且只サヘ外部ニ於テハ新政府ヲ目シテ日本ノ傀儡政府ナリト稱シ居ル際日本ノ斡旋ニ依リ新政府ノ方針緩和セラレタルカ如キ印象ヲ与フルコト面白カラス旁御来示ノ次第ハアルモ遺憾ナラ顧ノ入滿拒絶ノ方針ハ變更ヲ許ササル次第ナ

三、尤モ顧ニ於テ委員一行ト共ニ大連ニ上陸スル場合顧カ日本ノ行政権下ニ在ル滿鉄沿線ニ旅行スルコトニ付テハ新國家トシテ兎ヤ角云フヘキ筋合ニ非サルモ（實際ハ滿鉄沿線ニ於テモ相当ノ危険アルヘク日本側ニ於テ慎重ナル警戒ヲ要ス）一步沿線ヲ離レテ奧地ニ入込ム場合ハ斷乎トシテ阻止スル所存ナリ但聯盟委員自体ニ對シ調査上出来得ル限りノ便宜ヲ供与スヘキコト勿論ナリ

四、大橋トノ会谈叙上ノ通ニシテ將又当方面一般ノ空氣ヨリスルモ新國家トシテ当初ノ方針ニテ進ムノ外無シト存セラル尚軍司令官ヲ始メ滿州滞在中ノ田中大使、伊藤参事官ニ於テモ右方針ニ関シ同様ノ意見ヲ抱キ居レリ

北平ヲシテ吉田大使ニ轉達シ、聯盟ヨリ英、仏、独、伊ヘ轉電アリタシ

支、北平、天津、南京、連盟、米、在滿各領事（間島ヲ除ク）ヘ轉電セリ

80 昭和7年4月(12)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛（電報）

顧維鈞入滿拒否問題に関するリットン委員長

て

北平 4月12日後発
本省 4月12日後着

第一六六号

(1) 十一日張學良ノ連盟調査員招宴ニハ吉田大使及隨員本官及館員並ニ英米仏独伊ノ各公使館主要館員ノ外顧維鈞、張作相等各要人多數参列セルカ席上学良ノ演説左ノ通り

中国々民ハ此ノ困難ニ処シテ連盟及各国カ極力平和公正ノ方法ニ依リ中日間紛糾ヲ解決シ兩國關係ヲ常軌ニ入ラシメ得ヘキヲ確信ス諸君ノ成功ハ即チ極東ト世界ノ成功ナリ中国ハ元平和ヲ愛好スル国ニシテ日本ノ理由ナキ侵略以来依然連盟規約ヲ絶対ニ遵守シ来レリ然ルニ日本ハ一切ノ盟約、公約ヲ無視シテ東北ヲ奪取シ又上海ヲ擾乱セリ其經過狀況ハ既ニ諸君ノ熟知セラルル処ナリ外交上ノ事項ニ関シテハ国民政府ニ於テ諸君ニ對シ御伝ヘ濟ミニテ余ノ贅言ヲ要セサルモ余ハ久シク東北ニ在リタルヲ以テ重要ノ数点ニ付申上クヘシ

一、東三省ハ由来中国ノ一部ニシテ既ニ悠久ノ歴史アリ人種上、政治上、經濟上何レモ内地ト分離不能ノ關係ニ有

よりの通報について

第三四七号
十一日事務総長ハ「リットン」卿ヨリノ通報トシテ左ノ通り各理事宛通告セリ

Commission has seen statement in press to effect that its Chinese assessor Dr. Wellington Koo would not be authorised to enter Manchuria. Commission has discussed this eventuality and has thought it well to inform its two assessors that should this information be confirmed a serious situation would in its opinion arise inasmuch as Commission can not allow its composition to be called in question. Any objection to its Chinese assessor would be regarded by Commission as directed against itself and it would immediately inform League.

土ヲ除ク在欧米各大使及支ヘ轉電シ北平、奉天、長春ヘ轉電セシム

81 昭和7年4月12日 在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査団招宴における張學良の演説について

リ四億ノ中国民モ從來東三省ヲ中国ノ一部ト認メ居ル事河北山東ト異ル事無シ東三省ヲ中国ノ一部ニ非スト詐称シ或ハ是ヲ使喚シテ非法政府ヲ設立セシメ中国ノ他ノ部分ト分離セシムルハ領土的野心ヲ包蔵セルモノニシテ九国公約ノ中国領土保全ノ原則ニ反ス

(2) 二、中国ハ現在改革期中ニ在リ政治上經濟上社会上種々ノ變化ヲ發生シ居レル事正ニ十九世紀ノ独仏及日本ノ革新ト異ル事無シ此ノ改革期中必ス種々紛糾ノ現象アル事各国皆然リ中国ノミ特例タル能ハス且ツ中国国土ハ欧州ト日本ヲ併セタルモノヨリ大ニシテ人口ハ全欧州ト等シク其ノ政治上、經濟上、社会上ノ全部ノ改革經過中種々ノ困難アルハ当然ナリ日本人カ中国ヲ非統一國家ト誹謗スルハ故意ニ事実ヲ隱蔽シテ世界ノ視聽ヲ困惑セシムルモノナリ

三、中日紛糾ノ真正ナル原因ハ日本カ中国ノ社會經濟ノ進歩ト政治ノ漸次統一セントスルヲ嫉視スルニ依リ日本ハ從來東三省ヲ奪取セント考ヘ居リ其ノ主要政策ハ鐵道政策トス実ニ日支紛爭ノ根源ハ鐵道問題ニ在リ「リットン」卿ハ南京ニ於テ広大ナル領土ヲ有スル支那ノ困難ハ

鉄道其他交通機関ノ不足セルニ起因スト述ヘラレタルカ
東北人民ハ領土開発ノ為自ラ鉄道ヲ修築シ産業教育交通
各方面ニ大ナル進歩ヲナセルカ此ノ経済的並ニ社会的発
達向上ハ大部分支那人努力ノ産物ナリ右ノ事実及余カ常
ニ支那統一ノ為中央ト協調シ来レル事日本ノ反感ヲ誘発
シ遂ニ東北侵略トナレリ

四、最後ニ諸君カ混乱ノ現場ニ赴カルル事ハ中国人及世界
ノ平和愛好者ニ正義及平和ハ暴力ニ対シ最後ノ勝利ヲ齎
スヘキ事ヲ確信セシムルニ与リテ力有リ吾人ハ連盟ノ將
来及世界平和ノ為日支問題カ諸君ノ公平ナル精神ト賢明
ナル尽力ニ依リ解決セラレム事ヲ希望ス余ハ支那側カ公
平ナル精神ヲ以テ為サルル調査員ノ解決案ニ応諾スヘキ
ヲ信ス諸君ノ調査ニ付テハ余ハ情報蒐集ニ助力シ度ク諸
問題ニ付隔意無キ意見ヲ交換スヘシ調査員ノ一員タル
「ス」博士ハ其ノ著「独逸植民ノ過去及将来」ノ卷末ニ
「虚偽ハ一時成功スヘキモ真理ト正義ノ不断ノ要求ニハ
遂ニ勝チ得ヘカラス又偉大ニシテ教養有リ勤勉ニシテ平
和ヲ愛スル人民ノ發展及生存ノ意思ヲ抑止スルヲ得ス」
ト述ヘラレタルハ至言ナリ云々

83 昭和7年4月12日

芳沢外務大臣より
※在北平矢野参事官宛(電報)

顧維鈞入滿問題に関するリットン委員長への
説明について

第六七号 暗、極秘至急

長春宛往電第三六号ニ関シ
(八五文書)

吉田大使へ

差当リ「リットン」卿ニハ「我方トシテハ理事会ノ決議ヲ
尊重シ且調査委員カ支那側参与委員ヲ同行シテ入滿セムコ
トヲ希望スル見地ヨリ何トカ便法発見方折角斡旋中ナル」
旨ヲ告ケ置カレ度

支、奉天、長春、南京、米、寿府ニ転電シ奉天ヲシテ問島
ヲ除ク在滿各領事ニ又寿府ヲシテ、英、仏、伊、独ニ転電
セシメタリ

天津ニ転電アリ度

84 昭和7年4月12日

芳沢外務大臣より
在奉天森島総領事代理宛(電報)

連盟調査委員の費用支出について

本省 4月12日発

支、奉天、天津、哈爾濱、長春、吉林へ転電セリ

82 昭和7年4月12日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

付属地外における顧維鈞の保護について

奉天

本省 4月12日後着

第五七三号(暗、至急極秘)

北平発大臣宛電報第一六四号ニ関シ

同電末段吉田大使御意見ノ次第アルモ付属地内ニ於ケル警
備ニ関シテモ現地ノ実情上本官等ニ於テ充分ノ注意ヲ用ヒ
居ルハ往電第五六九号ノ通ニシテ他方長春発閣下宛電報第
一四一号大橋司長ノ懸念セル事情ニ就テモ本官ニ於テ聞込
(七九文書)
ノ次第モアリ我方ニテ付属地外ニ於ケル保護ヲ約シタル上
万一ノ事故アルニ於テハ其結果反テ我方ノ不利益トナルヘ
キ虞モアリ付属地外ノ保護ニ関シ申出アル場合ニハ我方ノ
担任スヘキ筋合ニアラサルノ趣旨ヲ以テ拒否セラルル方賢
明ノ策ト信ス

支、北平、長春ニ転電セリ

第一八二号(暗)

調査委員費用ニ関スル件

貴電第五〇号ニ関シ

支那本土ニ於ケル接待振ヲ参酌スル要アルモ大体左記ノ

「ライン」ニテ吉田大使ト打合ノ上可然御措置相成度

(一)関東州及滿鉄沿線ニ於ケル「ホテル」及食事以外ノ諸費

用ハ往電第一三三三号ニ準シ滿鉄ニテ負担スル様同社側ニ
申聞ケ置キタルカ其ノ旨東京支社ヨリ電報ノ答尤モ滿鉄
沿線ニテモ新国家側ノ招待ニテ遊覧スルカ如キ場合ノ費
用ヲ日本側ニテ持ツコトハ之ヲ避ケ度

(二)滿鉄沿線以外ニ付テハ左ノ通り

(イ)前記往電第一三三三号ニ準シ原則トシテ新国家側ニテ負
担スルコト尤モ貴見ノ如ク新国家ニテ負担方ヲ困難ト
スルカ又ハ委員一行カ新国家ヲシテ負担セシムルコト
ヲ肯セサルニ於テハ委員一行ニ於テ之ヲ負担スルコト
(ロ)但シ滿鉄カ特別車ヲ提供スル場合ニハ其ノ費用ハ滿鉄
ニテ負担スルコト(此点モ申聞ケスミ)又我領事館所
在地ニ於テハ自動車代及荷物運搬代等ハ領事館ノ接待
トシテ外務省ニテ負担スルコト

貴電ト共ニ訓令トシテ長春其ノ他關係領事館ニ転電アリ度
北平ニ転電セリ

85 昭和7年4月12日 芳沢外務大臣より
在長春田代領事宛(電報)

満州国の顧維鈞入満拒絕に関する日本側の斡
旋調停について

別電 同日芳沢外務大臣より在長春田代領事宛第三七
号 右斡旋調停について

本省 4月12日後10時35分発

第三六号 暗、極秘至急

顧維鈞入満ニ関スル件

貴電第一四一号ニ関シ
(七九文書)

満州国側ノ支那側参与委員入満拒否ハ其ノ立場上一応尤モ
ト存スルモ更ニ翻テ考フルニ新國家ノ前途ニ取リテモ大局
上却テ有利ナラサルヤニ認メラルノミナラス我方ニ於テ
ハ調査委員会ノ調査ノ結果ニ付世間ノ疑惑ヲ招クカ如キコ
トナキ様寧ロ支那側参与委員ノ同行入満ヲ希望スル次第ニ
シテ且帝國政府ハ客年十二月十日理事会決議ニ依リ調査委
員会(支那参与委員カ同委員会ノ構成分子タルコト本大臣

發長春宛電報第三二二号ノ通りナリ)ノ任務遂行ニ対シ各般
ノ便宜ヲ供与スヘキコトヲ約束シ居ル一方從來我方ハ連盟

ニ対シ現下ノ過渡的事態ニ於テ我方ハ単ニ帝國臣民ノ生命
財産ノ保護ニ止ラス満州地方ノ一般的治安維持ノ責務ヲ有
スル旨ヲ主張シ来リタルヲ以テ我方トシテハ調査委員会一
行カ租借地及付屬地外ニ出シル場合ニ於テモ我方ノ実力ノ
及フ限りハ之ニ保護ヲ与フル義務アルニ付(尚ホ調査委員
会寿府出發直前「ドラモンド」ヨリ満州ニ於テハ鐵道線路
ニ近ク匪賊等跳梁シ居ル趣ナルニ付テハ鐵道線路又ハ其付
近ニ軍隊ヲ駐屯セシメ居ル日本側ニテ調査委員一行ニ保護
ヲ与ヘラレ度旨申越シタルニ付我方ニ於テハ前記主張ニ顧
ミ我方ノ実力ノ及フ地域ニ於テハ我方トシテハ満州国ノ態
度如何ニ拘ラス前記保護ヲ与ヘサルヘカラサル破目ニアル
次第ニテ旁々出來得ル限りノ保護ヲ与フヘキ旨回答セル經
緯モアリ)此ノ際満州国側ヲシテ前記我方ノ立場ヲ考慮シ
長春發本大臣宛電報第一三八号ノ主義ハ依然トシテ固持ス
ルモ顧維鈞等カ調査委員会ノ一行トシテ我方保護ノ下ニ奉
山鐵道ニ依リ入満スルコトニ對シテハ妨害等ヲ加フルコト
ナク單ニ監視的態度ヲ以テ其ノ行動ヲ靜觀スルニ止メシム

ルコトトシ以テ實際上調査委員会ノ任務遂行ニ支障ナキ様
致度処本件ニ関シテハ陸軍中央部ニテモ同意見ニテ当方ト
打合ノ上別電第三七号ノ通り関東軍ニ電報セルニ付テハ右
御舍ノ上大橋司長其他新國家側ト篤ト懇談ヲ遂ケ結果折返
シ回電アリ度尚ホ田中大使貴地滞在中ナラハ右懇談方同大
使ニ依頼セラレ度

別電ト共ニ支、北平、天津、南京、連盟、米ニ転電シ北平
ヲシテ吉田大使ニ転達シ又連盟ヲシテ英、仏、独、伊ニ転
電セシメタリ

別電ト共ニ間島ヲ除ク在満各領事ニ転電アリ度

(別電)

本省 4月12日発

第三七号 暗、至急極秘

顧入満ニ関スル件

別電

満州國政府ノ顧維鈞入國拒絶ハ同政府ノ立場上尤モノコト
ト信スルモ帝國トシテハ客年十二月十日理事会決議ニ依リ
調査委員ノ任務遂行ニ便宜ヲ供与スヘキコトヲ約束シ居ル
ノミナラス調査委員ヲシテ満州ノ事情ヲ公正ニ判断セシム

ル為メ支那側参与委員ノ満州入國ヲ希望スヘキ立場ニアル
ヲ以テ此ノ際我方ハ積極的措置ニ出テ外務側ノ努力ニ依リ
満州國政府ト支那政府トノ間ヲ斡旋シ支那側参与委員ノ満
州入國ヲ可能ナラシムル如ク調停シ且之ヲ調査委員会側ニ
通報スル如ク処理セラルル旨ニ付承知置アリ度
外務省ト協議スミ

86 昭和7年4月13日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
芳沢外務大臣宛(電報)

リットン調査団への便宜供与に関する臨時理
事会の決定について

別電

同日着在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より芳沢
外務大臣宛第三五三三号
便宜供与に関するリットン委員長よりドラモン
ド事務総長宛電報について

第三五二二号

十二日午後「タルディユー」議長ノ下ニ臨時会開催先ツ議
長ヨリ別電第三五三三号「リットン」卿ヨリ事務総長宛ノ電
報ヲ披露シ各理事共異議ナク之ヲ承認夫々出先官憲ニ對シ
必要ノ措置ヲ執ルコトニ決シ次テ壤地利、洪牙利、希臘、

勃牙利四国救済ニ関スル財政委員会ノ報告ノ審議ニ移リ過般ノ倫敦會議參列国代表者ヲシテ財政委員会及事務局關係當局ト連絡研究ノ上五月理事会ニ報告セシムルコトヲ決議シ散会セリ

米、支へ転電シ、在欧各大使へ郵報セリ

(別電)

第三五三号

客年十一月二十一日ノ理事会ニ於テ伊国理事ハ連盟調査委員會ニ対シ現地ニ於テ凡ユル便宜ヲ供与シ且現場ニ在ル伊国人ハ凡テ其調査ニ付援助ヲ与フヘシト述ヘタルカ本委員會ハ現地ニ代表者ヲ有スル他ノ理事国カ同様ノ便宜ヲ与ヘラルコト及必要ニ応シ右趣旨ノ訓令ヲ在北平各自国公使及在滿州各領事ニ発スヘキコトヲ信シテ疑ハス

87 昭和7年4月13日

在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

張學良演説に対するリットン委員長の答辞大要について

北平 4月13日後発
本省 4月14日前着

ニ貴下ニ対シ本件ニ付連盟ノ援助協力ヲ保障スルモノナリ前電通り転電セリ

88 昭和7年4月13日

※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞入滿に関するリットン委員長の態度および顧の保護について

北平 4月13日後発
本省 4月13日後着

第一七二号(暗、至急極秘)

吉田大使ヨリ第三三号

伊藤ヨリ

十三日「リットン」卿ニ対シ顧入滿問題ニ関連シ滿州ノ状況ヲ説明シタル処同卿ハ調査委員ハ理事会決議ニ基キ日支両政府以外トハ交渉セス滿州ニ於ケル保護ハ日本政府其實ニ任スヘキモノナルコトヲ主張シ滿州国政府ノ存在並同政府ノ支那代表入滿反対通告等ハ眼中ニ置カサル様子ナリシヲ以テ小官ヨリ更ニ我方ハ租借地付屬地並ニ軍隊占領地ニ於テハ保護ヲ与フルハ勿論ナルモ其以外ノ地域ニ於テハ滿州国政府責任ニ当ル可ク滿州政府存在ノ事実ヲ全然否認シ

第一七〇号

往電第一六六号ニ関シ

學良演説ニ対スル「リットン」卿ノ答辞大要左ノ通り

貴下ノ欲待ト興味アリ且重要ナル演説ニ対シ感謝ス「ス」博士ノ言ハ其著書中如何ナル前後關係ニ於テ為サレタルヤハ知ラサレトモ貴下ハ巧ニ之ヲ援用シタリ生存ノ意思及發展ノ權利ハ各国民ノ当然有スル処ニシテ平和条約ハ一定ノ条件ノ下ニ連盟各国ニ之ヲ保障ス余ハ天津ニ於テ連盟ハ世界ニ於ケル新シキ力即チ組織アル法ノ力ナリト述ヘタルカ連盟ハ又各国ニ対スル保障ニシテ弱者ハ強者ノ侵略ニ対シ保障サレ強者ハ其暴力ノ自制ノ為名譽及正当ナル所有權ヲ喪失スルコトナキヲ保障サル右保障ヲ有効ニスル為ニハ連盟ハ各国ヲシテ之ニ信頼シ連盟ヲ利用シ凡ユル紛争ニ付其判決ニ服スル様導カサルヘカラル処余等ハ今回日支双方ヨリ右信頼ノ保障ヲ得テ大ニ満足シ居レルモノナルカ紛争ニ直接關係アリ且有力ナル貴下自身ヨリ今夕吾人ニ信頼ストノ言ヲ聞ケルハ特ニ重要ナルコトナリ貴下ハ中国ハ目下大ナル困難ト戦ヒツアル処其ノ成功ハ極東平和ノ保障ナリト述ヘラレタルハ至言ナリ余ハ衷心其ノ成功ヲ祈ルト共

顧入滿反対ヲ全然顧慮セサル如キ同卿ノ態度ハ或ハ理事会決議ノ純理解釈ヨリスレハ理由アルヤモ計ラレサルモ事実ヲ無視スル賢明ナル策ニ非サルコトヲ反覆シタルモ「リットン」卿ハ(一)支那参与員ナクシテハ入滿セサルコト(二)日本ハ委員保護ニ当ルノ責任アリトノ意見ヲ固守シ恰モ日本軍ハ滿州全部ヲ占領シ到ル処治安維持ヲ為シ居ルヲ以テ我方ニ於テ其意志タニ有ラハ支那参与員ヲモ保護シ得ル筈ニテ危険等有リ得ストシ繰返シ説明スルモ滿州ニ於ケル事実上ノ形勢ヲ考察スル事ヲ欲セス若シ支那参与員ニ関シ何等不祥事有ラハ右ハ帝國政府ノ責任ナリトノ意見ヲ開陳セリ滿州国政府ノ意志表示アリタルニ拘ラス委員長ノ意向右ノ如キヲ以テ帝國政府ニ於テハ我方保護供与ノ責任地域ヲ明確ニセラレ後日問題ノ起ラサル様御配慮願ヒタシ支、南京、奉天、長春、連盟局長ニ転電セリ

89 昭和7年4月13日

※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞入滿に関するリットン委員長の態度および委員一行の入滿経路について

第一七三三号（暗、至急極秘）

北平 4月13日後発
本省 4月14日前着

吉田ヨリ第三四号

（ハハ文書）

本官発大臣宛電報第三三三三号ニ関シ

伊藤トノ談話直後「リットン」ハ日本側ハ如何ニ説明スルトモ日本ハ満州国ヲ「コントロウル」セルカ又ハ「アドバイス」セルモノナリトノ余ノ考ヘヲ変スル能ハサルヘク自分ハ満州国ニ於ケル支那人ヲ怖レス（トテ問題ハ在滿邦人ナル事ヲ暗示シ）日本政府ニシテ欲スルナラハ満州何レノ地ニテモ委員一行ニ保護ヲ与ヘ得ル筈ナリ若シモ山海関通過不可能ナラハ他ノ経路ヲ申出テアリタシト本使ニ語レリ支、南京、奉天、長春、局長ニ転電セリ

90 昭和7年4月13日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

顧維鈞の入満に関し警戒および入満経路について

奉天 4月13日後発
本省 4月13日後着

第五七九号（暗、至急、部外極秘）

満州国側ノ情報ヲ綜合スルニ顧維鈞ニシテ飽ク迄調査員ト共ニ山海関ヨリ入込マムトスルニ於テハ満州国側トシテハ山海関ノ次駅辺ニ於テ同人ヲ列車ヨリ引下スコトナルヘキヤニ推察セラルル処右様ノ場合ニハ日本側憲兵警官等カ全然之ニ干与セサルハ勿論ナルモ斯ノ如キハ此ノ際面白カラサルニ依リ調査員側ニ対シ大連經由方適當ニ仕向ケラル方然ルヘキヤニ存セラル
支、北平へ転電セリ

91 昭和7年4月13日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

顧維鈞入満に関する警戒保護および入満経路について

長春 4月13日後発
本省 4月14日前着

第一四八号（暗、極秘）

（ハ五文書）
貴電第三二六号ニ関シ

御訓令ノ趣旨ヲ体シ駒井大橋トモ熟議ヲ重ネタルモ結局新国家側トシテハ既ニ南京宛電報発送後ノ今日今更既定方針

ノ変更ヲ許ササル由ニテ此ノ上ハ顧ニシテ奉山鉄道ニ依リ入満スル場合国境ニ於テ満州国側官憲ニ依リ引降サルルカ如キ事態ヲ生スヘキヲ以テ我方ノ実力ニ依リ保護入境セシメ其ノ満州滞在中引続キ嚴重警戒保護ノ任ニ当ルカ或ハ大連ニ上陸シテ満鉄付属地内ニ止マルノ外ナシト存セラル右ハ御趣旨ニ副ハサル次第ニ付遺憾ナルモ明朝田中大使御来長ノ筈ナレハ更ニ重ネテ御懇談ヲ願フ事トシ不取敢本官会談ノ結果電報ス

支、北平、天津、南京、連盟、米、間島ヲ除ク在満州各領事へ転電セリ

92 昭和7年4月13日

橋本（虎之助）関東軍参謀長より
小磯陸軍次官宛（電報）

顧維鈞入満問題に関する関東軍の態度について

4月13日後4時30分発
4月13日後7時25分着

（極秘）

関参六七六

陸満六九四号返。顧維鈞入国阻止問題ニ関シ軍ハ大体ニ於

テ傍觀主義ヲ採ルモ満州国ニ対シテハ左ノ如ク要望スル事トセリ

（一）支那兵ノ入国ヲ阻止スルコトハ当然ナルモノト信スルモ顧維鈞ノ阻止ハ満州国ノ自由意志ニ存スヘシト考ヘアリ但シ縦令警察等ヲ以テ下車ヲ要求スルコトアリトスルモ錦州以西ニ於テ実施スルコトヲ適當トスヘシ

（二）満州国軍隊ノ一部ヲ増遣スルコトハ軍トシテ妨ケス

（三）北寧線、奉山線ノ直通列車運転ニ関シテハ平素連絡要領ニテ足ルヘク今回特別ニ変更スルノ要ナカルヘシ、尚一行ノ警戒等ニ関シテハ軍ハ從來ノ関係上満州国ノ依頼ニ応シ便宜ヲ与フヘキモ満州国ノ主権ニ対シテ公正ナル立場ノ下ニ相当尊重スルノ主義ニテ進ム所存ニシテ此ノ際連盟ニ忠実ナルノ余リ反ツテ中華民國ニ加担シ満州国ヲ圧迫シ若シクハ之ヲ輕視スルカ如キ態度ヲ絶対ニ避クル予定ナリ、連盟ニ公正ナル満州ノ觀察ヲ為サシムル件ニ就テハ充分努力スヘシ
不 出

93

昭和7年4月13日

芳沢外務大臣より
在長春田代領事宛（電報）

日本軍の顧維鈞一行保護について

別電 同日芳沢外務大臣より在長春田代領事宛第四〇号

右に関する関東軍より陸軍中央部宛電報について

本省 4月13日後5時20分発

第三九号 暗、至急

顧維鈞入満拒絶問題

往電第三六号ニ関シ

(八五支書)

本件ニ付外務陸軍中央部ノ意見一致シ居ルハ冒頭往電ノ通リナル処十二日朝関東軍ヨリ陸軍ニ別電第四〇号ノ趣旨ノ電報アリタル趣ナルニ右御含ノ上関東軍側トモ密接ナル連絡ヲ保チ支那参与委員ヲ含ム調査委員一行カ奉山鉄道ニ依リ安全ニ入満シ得ル様御尽力相成度

別電ト共ニ訓令トシテ奉天ニ転電セリ

別電ト共ニ在支公使、北平、天津、寿府、米ニ転電シ支ヲシテ南京ニ寿府ヲシテ英、仏、伊、独ニ転電セシメタリ別電ト共ニ奉天、間島ヲ除ク在満各領事館ニ転電アリタシ

(別電)

本省 4月13日後5時40分発

第四〇号 暗、至急

顧維鈞入国拒絶問題

顧維鈞入満ノ件ニ付満州国ハ相当強硬ノ態度ヲ有シ居リ軍トシテハ之ニ異見ヲ挟ム次第ニ非サルモ只我方勢力地域ニ於ケル顧維鈞一行ノ保護ニ関シ軍トシテ万全ノ処置ヲ講スルモノニ付為念

94 昭和7年4月14日

※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

調査委員会一行の日本側による保護および入

満経路について

北平 4月14日後発
本省 4月14日後着

第一七四号(暗、大至急、極秘)

吉田ヨリ

第三五号

一、十四日朝貴電第五七号申入レタルニ委員長ハ寿府ヨリ回訓アリ(一)長春日本領事ノ好意ニ依リ一行人名先方ニ通知方請求シ(二)日本政府カ約束通り委員一行ノ保護及便宜供与ヲ為スコトヲ期待スル旨ヲ後刻書面ニテ通告スヘキニ付日本政府ヨリ保護ニ付回示アリ次第公文回答アリタ

シト云ヘリ依テ本使ハ右回答迄十六日出発ノ予定延期方申出テ委員長長諾セリ

二、委員長ハ日本政府ニ対シ「フルコンフィデンス」ヲ有スルモ若シ政府ニ於テ一行ヲ保護シ得サルニ於テハ支那軍隊カ国際軍隊ノ保護ヲ受ケルノ外ナカルヘキモ紛糾ノ原因トナリ日本政府ノ承諾シ得サルヲ知レリト語レリ
三、中央ト満州トノ間ニハ非常ニ意見ノ逕庭アルモノノ如ク鉄道付属地外ハ勿論内ト雖モ絶対安全ヲ期シ難キヲ恐ルル位ニテ事極メテ重大ニ付委員一行(顧維鈞ヲ含ム)ハ海路大連ヲ経テ入満セシムルコト然ルヘク山海関經由絶対不可能ト信ス

95 昭和7年4月14日

※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞の入満および委員会一行の保護問題に

ついて

北平 4月14日後発
本省 4月14日後着

第一七六号(暗、至急極秘)
吉田ヨリ

第三七号

伊藤ヨリ

「ハース」ノ求メニ応シ十四日午前会谈ス「ハ」ハ本朝ノ「リットン」吉田会见ト重複ノ嫌アルモ問題ノ性質上誤解ヲ防止スル為赤裸々ニ申上クル要アリト前置シ(一)顧入満問題ニ関シ明確ナル解決付キ委員カ其希望ニ依リ至ル所ニ於テ調査ヲ為シ得ル為必要ナル保護ヲ得ラルコト明瞭トナラサル限り当地ヲ出発セス(二)日本軍隊ハ満州各地ニ在ルヲ以テ日本政府ニ於テ決意セラルルニ於テハ委員カ何処ニ至ルモ委員全体(顧ヲモ含ム)ノ保護ハ日本軍隊ヨリ供与セラレ得ル筈ナリ委員会トシテハ昨年十二月理事会決議ニ基キ日本側ノ保護ヲ確信シ満州ニ於テ調査ヲ為シ度キ希望ナリト述ヘタルヲ以テ小官ヨリ昨日「リットン」ニ述ヘタルト同様今日満州ニ於ケル実際ハ十二月理事会当時ニ比シ變更アリタルコト並ニ日本軍隊ハ至ル所ニ駐在シ居ル次第ニハ非ス且長春政府ハ必スシモ日本政府ノ意思ニ従フモノニ非サルヲ以テ同政府カ顧ノ入満ニ反対声明ヲ為シ居ル以上之ヲ阻止スルコト困難ナル旨ヲ縷々説明シタルモ「ハ」ハ長春政府カ日本政府ト同一体若クハ其出店ニ非スト云フコ

トハ天下何人モ之ヲ信用セス若シ仮ニ然ラストスルモ調査委員カ入滿ノ上各方面ノ便宜ヲ得調査ヲ為シ得ルコトモナラハ長春政府ノ公平ナル態度ヲ天下ニ示シ同政府ノ為ニモ好印象ヲ与ヘ利益ナルヘシ從来日本政府カ滿州ニ於ケル其ノ在留民ノ生命財産保護ノ為各地ニ軍隊ヲ出動セシメタル声明ノ趣旨ニ則リ日本政府ノ主張ニ依リ成立シタル連盟調査委員ヲモ必要ナル地方ニ於テ日本軍隊ニテ保護セラルル様日本政府ニ御願シ度キ所存ナリト述ヘタリ小官ヨリハ右「ハ」ノ所説ニ対シ誤謬ヲ反駁シ想像ノ足ラサル所以ヲ説明シ尚滿州国ノ成立ハ十二月十日理事会決議ニ予見セサリシ事態ノ發生ナルヲ以テ右新事態ニ依ル委員会ノ行動自体ノ変更如何ニ関シ更ニ理事会ノ指図ヲ仰ク方時宜ニ適セサト「サゼスト」シタルニ「ハ」ハ委員会ノ依頼ニ対シ我方ニ於テ好意的準備ヲ加ヘサル時ハ或ハ右様ノ措置ニ出ツル考ナルモ右ハ遠隔ノ寿府ニ於テ滿州国問題全般ニ互ル議論ヲ開始スル端ヲ開キ頗ル面白カラサルヲ以テ成ルヘク避ケ度ク右ノ措置ニ出ツル以前先ツ委員一行（願ヲ含ム）ノ入滿並ニ其ノ安全保障確保方ヲ是非政府並関係ノ向ニ依頼セラレ度キ旨申出アリタリ

奉天、長春、南京、支、連盟へ転電セリ

96 昭和7年4月14日

※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛（電報）

最終報告書作成地について

北平 4月14日後発
本省 4月15日前着

第一七八号（暗）

吉田ヨリ

第三九号

十三日午後調査委員ハ最終報告書作成ノ場所ニ関スル本使ノ意見ヲ求ムル為會議ヲ開催シタルカ本使ハ北戴河ハ同地一帯カ張学良滿州攪乱ノ策源地ナルコト（三月二十三日付往信第八号参照）並ニ各種施設ノ欠如シ居レルコトヲ詳細説明シテ之ニ反対スル旨反覆スルト共ニ青島及星ヶ浦ヲ推奨シ置ケリ

支、奉天、青島ニ転電セリ

97 昭和7年4月14日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員の入滿経路について

第五八二号（暗）

本官発北平宛電報

第八四号（至急）

奉天 4月14日前発
本省 4月14日後着

滿州国側ニテハ支那側北寧列車ヲ其ノ儘奉山線内ニ入ルル事絶対禁止ニ決定シ連盟調査員一行同線經由入滿ニ際シテハ山海関ニ於テ奉山側列車ニ乗換ヘサシムルコトトセル趣ナリ

大臣、支、天津、長春へ転電セリ

98 昭和7年4月14日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

顧維鈞の入滿問題および入滿経路について

奉天 4月14日後発
本省 4月14日後着

第五八三号（暗、大至急、極秘）

本官発長春宛電報第三九号ニ関シ

一、累次電報御来示ノ次第アルモ滿州国側ノ態度強硬ニシテ願カ奉山線ニ依リ入滿ノ場合国境付近ニ於テ滿州国官

憲ニ引卸サルヘキハ長春發閣下宛電報第一四八号ノ外諸般ノ情勢ニ照シ疑ヲ容レス又關東軍ノ態度ニ関シ長春宛

貴電第四〇号ノ次第アルモ關東軍内訓ハ顧維鈞入滿拒否ハ全然滿州国外交部ノ發意ニ係リ軍ノ関知スル処ニアラ

ス外交部最初ノ外交駆引トシテ黙認スヘキモ入国後ハ軍ノ関スル限り保護ヲ加フヘントノ立場ヲ持シ居リ（關第三四六一号）且顧入滿ト一般的治安維持トハ全然別個ノ問題ナリトノ見地ノ下ニ長春宛貴電第三七号陸軍ヨリノ電報ニ対シテモ軍トシテハ大体ニ於テ傍觀主義ヲ取り單ニ滿州国ニ対シ大体

（一）支那兵ノ入国ヲ阻止スルハ当然ナリ

（二）顧維鈞ノ阻止ハ滿州国ノ自由意思ニ存ス但シ警察等ヲ以テ下車ヲ要求スルコトアルモ錦州以西ニ於テ行フヲ適當トス

（三）錦州方面ニ滿州国軍ノ一部ヲ増遣スルコトハ妨ケス

（四）警戒等ハ從來ノ關係上滿州国ノ依頼ニ応シ便宜ヲ与フトノ諸点ヲ要望シ居ル次第ナル旨回電シ居レリ（關參第六七六号）

二、元來顧ノ入滿拒否ハ前記ノ通滿州国外交部ノ發意ニ係

ル所我方出先官憲ニ於テ今日迄之ヲ默認シ来レルハ満州
 国側ニ対シ間接ニ之ヲ承認シ来レルモノト認メ得ヘク外
 交部ヨリ南京宛電報發送後ノ今日ニ至リ改メテ満州国側
 ニ方針ノ変更ヲ強フルハ成立後間モナキ新国家ニ対スル
 我方ノ威信ヲ失スルコト多大ニシテ昨今新国家反抗ノ気
 勢台頭ノ徴アルニ鑑ミ大局上殊更面白カラスト存ス且軍
 トシテモ傍觀主義ヲ執リ来レル手前モアリ旁長春發閣下
 宛電報第一四一號^(七九文書)ノ次第ニモ鑑ミ冒頭貴電御訓令ノ通取
 運フハ現地官憲トシテハ殆ント其可能性ヲ認ムルヲ得ス
 三、事情前記ノ通ナルニ依リ長春發閣下宛電報第一四八號^(九一文書)
 申進ノ通り我方ノ實力ニ依リ保護入境セシメントスル案
 ノ如キモ奉山線ノ入境ニ関スル限り其実現性ナキコト明
 白ト認メラレ此際ノ措置トシテハ往電第五七九號^(九〇文書)ノ通大
 連上陸視察区域ヲ滿鉄付屬地内ニ限定スルノ外ナシト存
 スルニ付至急右様御取計方切望ニ堪ヘス
 寿府ヨリ在欧各大使ヘ転電アリタシ
 支、北平、天津、寿府、米、間島ヲ除ク在滿各領事ニ転電
 セリ

現場ニ赴カス錦州辺ニテ一行ヲ待合ス様軍側ト話合中ナ
 リ

連盟ヨリ前電ノ通転電アリタシ
 前電ノ通転電セリ

100 昭和7年4月14日 在長春田代領事より
 芳沢外務大臣宛(電報)

満州国の顧維鈞入滿拒絶の態度について

別電 四月十五日在長春田代領事より芳沢外務大臣宛

第一五一号

顧維鈞入滿拒否に関する満州国側の理由表明に
 ついて

長春 4月14日後発
 本省 4月15日前着

第一五〇号(暗、至急、極秘)

本十四日田中大使来長駒井大橋本官同席ノ上協議ノ結果顧
 維鈞ノ入滿拒否ノ方針ハ絶対変更ヲ許ササルモ顧ニ代フル
 ニ新国家側ニ於テ承認シ得ヘキ人物ヲ以テスルニ於テハ再
 考ノ余地アル旨別電第一五一号ノ如キ電報ヲ謝介石ヨリ直
 接在北平「リットン」卿宛發送セリ

99 昭和7年4月14日 在奉天森島總領事代理より
 芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞の入滿問題および入滿経路について

奉天 4月14日後発
 本省 4月14日後着

第五八六号(暗、至急)

往電第五八三号ニ関シ

一、軍側ト打合セタルモ軍側ニテハ今日ニテハ態度ヲ変更
 シ難ク大体左記ノ方針ヲ採ル事ニ決定セル趣ナリ
 (一) 国境付近ニ於テ満州国軍憲等ト中華民國軍憲等トカ護
 衛上円滿妥協交替セス戦闘ヲ開始スルカ如キ場合ハ治安
 維持ヲ全フスル為両者共武装解除ヲ断行スルノ用意ヲ整
 フ

(二) 右ノ場合連盟調査員ニ対シ充分保護ノ手段ヲ講ス

(三) 正当ナル満州国警察権ノ行使ニハ干渉セス

本官ニ於テハ累次電報ノ通り大連上陸ヲ最善ノ策ト信ス
 ルモ奉山線入滿ノ際我軍又ハ憲兵ノ眼前ニ於テ不祥事発
 生スルトキハ自然日本側カ渦中ニ捲込マルヘキ惧モ有リ
 調査委員入滿ノ際ニハ我軍及憲兵ハ勿論日本側出迎者モ

支、北平、天津、南京、連盟、米、在滿州各領事ヘ転電セ
 リ

(別電)

Choshun, April 15th a.m.

Received, April 15th p.m., 1932.

Gaimudajin, Tokio.

No. 151. (Urgent)

We desire to extend our hearty welcome to your
 Commission which, we learn, is soon to visit Manchuria
 and we wish to receive you not only with courtesies
 but offer facilities in an aid to the fulfilment of your
 great mission. However, we feel free to ask that you
 will recognize the fact that our refusal to admit Mr.
 Koo Weichun, China's Assessor to your Commission,
 and his staff into our boundaries, as telegraphed recently
 to Mr. Lo Wen-kan of Nanking Government, is simply
 based on the sovereign right to guard peace and order
 within the borders of our state. Mr. Koo whose peculiar
 relation with the former military regime in Manchuria

is widely known, is, as we are informed, planning to take advantage of his coming with your Commission into Manchuria in carrying out sinister designs upon us with co-operation of the remnants of the old regime who are still found in large numbers in our country.

In view of these facts you will appreciate the step that we have taken, and understand our firm attitude on the issue.

I can state, however, that should some other suitable Assessor acceptable to us be substituted we would not be loath to the reconsideration of the matter.

Tashiro.

101 昭和7年4月14日

芳沢外務大臣より
※在北平矢野参事官宛(電報)

顧維鈞問題に伴ない調査委員一行の大連經由満方リットンに申入れについて

別電 同日芳沢外務大臣より在北平矢野参事官宛第七〇号
右申入れについて

ノト思考セラルルニ就テハ叙上ノ次第御含ノ上「リットン」卿ニ対シ別電第七〇号ノ通り申入レラレ此際委員一行ヲシテ大連ヲ經由セシムル様御取計相成度

陸軍ト協議スミ

別電ト共ニ奉天、長春、支、南京、天津、連盟、米ニ転電シ奉天ヲシテ長春ヲ除ク必要ノ在満領事ニ又連盟ヲシテ英、仏、伊、独ニ転電セシメタリ

(別電)

本省 4月14日後8時30分発

第七〇号 暗、至急

顧入満ニ関スル件

顧維鈞入満問題ニ関シテハ我方ニ於テ目下折角満州国側ノ説得ニ努メ調査委員一行カ予定ノ通り奉山線ニヨリ入満シ得ル様諒解取付方尽力中ナル処結局右満州国側ノ諒解ヲ取付ケ得ルトスルモ之カ為メニハ相当時日ヲ要スヘシト思考セラルルニ就テハ調査委員側カ予定期日ヲ余リ遅レスニ入満スルコトヲ希望スルニ於テハ寧ロ此際大連經由ニテ一先付属地ニ入ルコトトシ爾後ハ現地ノ治安状況等ヲモ参酌シ関東軍保護ノ下ニ出来得ル限り予定計画通り満州各地ニ出

第六九号 暗、至急

本省 4月14日後8時30分発

顧入満ニ関スル件

往電第六七号ニ関シ
(八三文書)

吉田大使

(八五文書)

長春宛往電第三六号ニテモ御承知相成ルヘキ通り帝国政府ハ連盟其他中外ニ対シ我方ニ於テハ単ニ帝国臣民ノ生命財産ノ保護ニ止ラス満州全般ノ治安維持ノ責務ヲ負担シ居リ從テ満州国側警備力ノ不充分ナル現下ノ実状ニ於テハ付属地外駐屯ノ帝国軍ノ撤収ハ不可能ナリトノ主張ヲ宣明シ来リ居リ且右我方ノ主張ハ帝国軍満州内地駐兵ノ現状ヲ持續スルト共ニ将来万一支那本部等ヨリ軍隊侵入シ来ルカ如キ場合我軍ニ於テ之カ阻止手段ヲ執ル為メ重要ナル理論的根底ヲナスモノナルニ付此際各般ノ困難ヲ忍ビテモ我軍保護ノ下ニ調査委員ノ任務遂行ニ出来得ル限り支障ナカラシメムコトヲ希望シ居ル次第ニテ旁々新国家側ノ説得ニ極力努力シ居ルモ何分南京宛通牒直後ノコトトテ其ノ面目問題モアリ無理ニ之ヲ押シ付クル訳ニモ行カサル一方委員一行カ此際直チニ山海関ヨリ入満スルコトハ相当ノ危険ヲ伴フモ

張スルコトトスル方当面ノ面倒ヲ避クルト共ニ不慮ノ事件ノ發生ヲ防キ實際的ニ目的ヲ達スル所以ナリト思考ス

102 昭和7年4月15日

※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞入満問題に伴ない調査委員一行の海路

大連經由方折衝について

北平 4月15日後発
本省 4月16日前着

第一八四号(暗、大至急、極秘)

吉田ヨリ

第四二号

十五日午前十時委員会ハ本使ノ出席ヲ求メ出発期日及入満経路ニ付テ相談アリタルニ付本使ハ政府ニ於テハ顧維鈞問題ニ関シ折角弁法ヲ講スル為斡旋中ナルモ其結果ヲ待ツ時ハ相当ノ時日ヲ要スヘキヲ以テ調査委員(顧維鈞ヲ含ム)ハ寧ロ天津ヨリ海路大連ニ赴クコト適切ナルコト及人員収容上十九日又ハ二十日天津出帆ノ奉天丸(同船ハ上海航路船ナルモ特ニ天津ニ差向クルコトニ大連汽船ト打合済)ヲ取ルコト便ナルヘキ旨ヲ説キタルカ委員長ハ海路ハ手間取

ルトテ拒絶セリ然ルニ長春、奉天発電報ニ依ルモ鉄道ニ依ル時ハ問題ノ起ルヘキコト想像ニ難カラサルヲ以テ本使ヨリ我軍ニ於テハ出来得ル限り一行ノ保護ニ努ムヘキモ山海関ヨリ錦州ニ到ル間ニハ我軍隊駐屯セス何等事故ノ発生セサルヲ保シ難キコトヲ説明シ重ネテ海路ヲ取ルコトヲ奨メタルモ頑トシテ肯カス一応山海関迄北寧側列車ニテ赴キ同地ニテ山奉側列車ニ乗換ヘルコトトシテ山海関ヲ出発シ得ヘキ日時ヲ奉天ニ確ムルコトトシ同十時半辞去シタリ右会见後間モ無ク貴電第六九号ニ接シタルカ委員長会議中ノ為会見スルヲ得サリシヲ以テ直ニ「ハース」ニ貴電第七〇号御訓電ノ趣旨ヲ述ヘ委員長長ニ傳達方申入レタル処偶々同人ノ手許ニ顧維鈞反対ノ滿州国外交総長謝介石委員長宛電報（長春發貴大臣宛第一五一号ト同文）接到シ居リタルカ同人ハ此事態ヲ無視シテ事ヲ決シ得サルヘク滿州側ニ於テハ連盟委員ノ入滿ニハ歡迎シ居ル次第ナルヲ以テ陸路ヲ採リ「アセッサ」等ハ船ニテ大連ニ赴クコトモ考ヘラル何レニスルモ我方申入ノコトハ委員長長ニ取次クヘキ旨述ヘタリ尚本使ヨリ委員側ニ於テ海路ニ同意ナラハ目下青島ニ在ル驅逐艦ヲ天津辺ニ回航方依頼ノ儀考慮中ナルコトヲモ述

ヘ置キタリ
奉天ヨリ長春ヲ除ク必要ノ在滿領事ヘ又連盟ヨリ英、仏、伊、独ヘ転電アリタシ
奉天、長春、支、南京、天津、連盟、米ニ転電セリ

103 昭和7年4月15日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）
滿州国の顧維鈞入滿拒絶に関する田中大使の意見具申について

第一五五号（暗、極秘）
（都吉）
田中大使ヨリ
長春領事宛貴電第三六号ニ関シ
十四日長春着直ニ大橋ト懇談セリ本件ニ関スル滿州国ノ態度ニハ相当理由アリ殊ニ顧維鈞ハ必ス辛辣ナル攪乱運動ヲナスヘク其ノ入國ハ滿州国ハ勿論日本ニ取リテモ甚タ有害ト認メラルルニ付往電第一五一号ノ通り「リットン」卿ヘ直接打電シ滿州国ノ正直ナル態度ヲ明カニシ幸ニ顧ヲ更迭セハ後任者ニ対シテハ大抵ノ所ニテ折合フヘキコトトシ置

長春 4月15日後発
本省 4月15日後着

ケリ本使ノ見ル所ニ依レハ連盟トシテノ大目的ハ滿州ノ実状調査ニ在ルヲ以テ其ノ目的ヲ達成スル為地方ニ存在スル權力ノ意向ヲ尊重スヘキハ当然ニシテ滿州国ノ独立ヲ認メサルハ已ムヲ得ストスルモ地方權力トシテノ存在ヲモ無視シ万事日本ニ責任ヲ執ラシメントスル遺方ハ甚タ無理ナリ解決案トシテハ租借地及付屬地ノミヲ旅行セシムルカ如キハ甚タ姑息ニシテ右目的ヲ達成スル所以ニ非ス寧ロ日支双方共ニ参加委員ノ同行ヲ遠慮シ彼等ノミニテ随意ニ調査セシムルノ方法ヲ執ルコト最モ適當ナルヘント信ス

支、北平、天津、奉天、南京ヘ転電セリ

（欄外注記3）（欄外注記2）
（欄外注記）

- 1 顧ノ行動取締ト入國問題トハ別ナリ行動後追放更ニ妙
- 2 連盟ニ対スル日本ノ立場ハカカル次第第二アラス
- 3 故ニ入國ヲ許シ監視スレハ可ナリ

104 昭和7年4月15日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）
ハルビン方面における連盟調査団への保護警備について

長春 4月15日後発

第一五六号
田中大使ヨリ
本使北滿視察ノ結果連盟調査委員一行ノ哈爾濱方面ニ於ケル保護警衛ニ付テハ大ニ懸念無キ能ハス近頃頻發セル爆彈事件鉄道破壊事件等ニ依リ示サルルカ如ク茲一、二箇月間ニ頗ル不穩ナル潜行運動起リツツアルハ明ナルカ哈爾濱市中ノ警察機關ハ從來ヨリ腐敗シ居リ最近我顧問ヲ入レタルモ日尚浅ク効能ヲ發揮シ居ラス又東支沿線警備力近頃甚タ不安ナルハ東支当局ハ勿論滿州国当局モ認メ居リ此事態ノ改善ニハ尚相当ノ時日ヲ要スヘク而シテ我軍隊ノ哈爾濱駐屯ハ大局ノ保護ニ任スルノミニシテ何等警察的機能ヲ期シ難ク又東支沿線ノ警備ニモ関与シ得ヘキ地位ニ在ラス依テ連盟委員一行カ日本カ軍隊ヲ駐屯セシメ居ル故ヲ以テ北滿地方モ安心ナリト思惟セハ誤解生スヘク事實帝國ノ對外關係ヲ困難ニ陥ラシメントスル此種分子ノ策動無キヲ保シ難ク又若シ彼等カ右ヲ決行セントスル場合如上ノ事情ヨリシテ我方トシテハ之カ防遏必シモ可能ナラス旁右事情ハ連盟委員一行ニ対シ漸次了解セシメ置クコト必要ナルヘント信

本省 4月15日後着

ス
支、北平、奉天、哈爾濱、連盟へ転電セリ

105 昭和7年4月16日 ※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員一行の入満経路に関する折衝に
ついて

北平
本省 4月16日前着

第一八六号(暗、大至急 極秘)

吉田ヨリ第四三三号

往電第四二二号ニ関シ

十五日午後六時半ヨリ委員会ト協議シタルカ委員長ノ求メ
ニ依リ北平宛電第六七号及第七〇号御回訓ノ趣旨ヲ披露
シタル上意見ノ交換ヲ為シ委員長ハ尚陸路ヲ執ルコトニ傾
キ居リタルモ結局今朝佐藤ヨリ海軍省宛請訓シタル駆逐艦
使用方ニ関スル回電ヲ待チ更ニ会合スルコトナレリ
奉天ヨリ長春ヲ除ク必要ノ在満領事へ又連盟ヨリ英、仏、
伊、独へ転電アリ度シ
奉天、長春、支、南京、天津、連盟、米ニ転電セリ

(イ)山海関ニテ奉山側ノ機関車ト付換ヘルコト

(ロ)山海関ニテ奉山側ノ乗務員(往電第二三三号参照)ヲ乗
込マシムルコト但シ北寧側乗務員ハ列車ニ留マリテ運

転上必要ナル「アドバイス」ヲ与フルコト

(ハ)「コック」其他ノ使用人ハ依然列車ニ留マルコト

(ニ)奉天滞在中ハ列車ヲ満鉄駅内ニ留メ置クコト

四、委員ハ関係官憲ニ於テ列車及従業員ノ世話並ニ安全ヲ
確保スル為必要ナル一切ノ措置ヲ講スルコトヲ期待ス

五、委員ハ満州ニ於ケル諸官憲ニ於テ以上ニ同意セラルル
ヤ否ヤヲ大至急承知シタシ

委員側ハ非常ニ出発ヲ急キ居ルニ付右委員側ノ申出ニ対ス
ル関係方面ノ意向並ニ若シ右ニテ差支ナクハ何日当地ヲ出
発セシメ然ルヘキヤ大至急回電アリタシ

大臣ヨリ陸海軍大臣ニ転報アリタシ

大臣、支、長春、連盟、関東長官へ転電セリ

107 昭和7年4月16日 ※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団の満州地区視察方法に関し問合せ
について

106 昭和7年4月16日 在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員一行の入満方に関する委員側の
申出について

北平 4月16日後発
本省 4月16日後着

第一八九号(暗、大至急)

本官発奉天宛電報第二八号

吉田ヨリ

本日調査委員側ヨリ左ノ通申出ニ接シタリ

一、委員ハ支那側トノ間ニ浦口、北平間ニテ乗用セル列車
ヲ「チャーター」シ之ヲ奉天迄及同地滞在中使用シ得ル
様取極ヲナセリ

二、北平、奉天間ノ旅行ニ付テハ委員団ノ一部並ニ日支両
国ノ参与委員及随員ハ海路大連經由ニ依リ又委員団ノ他
ノ一部及書記局ハ山海関經由列車ニ依ラシメタキ意向ヲ
有ス

三、山海関以東ノ旅行及列車使用ノ細目ニ付テハ北寧側ト
協議ノ結果左ノ案ヲ提議ス

第一九二号(暗、至急極秘)

北平 4月16日後発
本省 4月16日後着

吉田ヨリ

第四五号

鉄道付属地外ノ視察ニハ日支双方ノ参与委員トモ連盟委員
ト同行セサルコト一案ナルカ右ノ如キコト問題トナリタル
場合同意シ然ルヘキヤ至急御回電相成リタシ

尚満州ニテハ委員側ニ於テ参与員ナシニ支那語ヲ良クスル
外国人ヲ使用シ要人其ノ他ト会见スル模様ナリ

奉天、長春、支、連盟局長へ転電セリ

108 昭和7年4月16日 林関東庁警務局長より
有田外務次官、堀切拓務次官他宛

連盟調査団あて不穩文書送付について

関機高支第五七五〇号ノ二

昭和七年四月十六日

関東庁警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿

外務次官殿
内務省警保局長殿
指定庁府県長官殿

国際連盟調査員宛不穩文書

四月十一日開原県城内緑野洋行方干江及大盛号止宿万国敬
ノ兩名ヨリ在北平抗日会幹事盧乃更同王華日ノ兩名ヲ經由
国際連盟調査員宛左記訳文ノ如キ不穩文書ヲ郵送セルヲ滿
州国郵便物検閲中ノ開原憲兵分遣隊ニ於テ発見押収シ差出
人内偵捜査中ナリ

記

国際連盟調査員諸氏ニ呈ス

余ハ中華民國ノ立場ニ於テ公道ヲ支持シ人類ノ苦痛ヲ解決
スヘキ重大使命ヲ有スル国際連盟調査員諸氏ニ向ヒ玆ニ数
句ヲ費シ日本ノ鉄蹄下ニ蹂躪セラレ將ニ亡国奴タラントス
ル者ノ最後ノ言葉ト致サン

1、日本ハ理由ナク中国ニ出兵シタルニ国際連盟ハ何故ニ
速ニ日本ヲ懲戒セサルヤ
2、残虐無道ノ日本軍ハ凡有暴虐手段ヲ弄シ世界ノ平和ヲ
擾乱セントシツツアルニ拘ラス国際連盟ハ何故一言ノ公

シテ撤兵ヲ肯セサルハ明白ナル事実ナリ

10、日本ハ東北各地ニ投資並ニ移民ヲ計画スル外日本ノ三
大財閥三井、三菱、住友等ヲシテ投資セシメントシツツ
アリ

国際連盟ニ対スル希望

1、国際連盟ハ其ノ職權ニ依リ背約国ヲ懲戒スヘシ
2、公道ヲ支持シ世界ノ平和ヲ維持スヘシ
3、日本ヲ牽制シ中国ノ領土内ヨリ即時撤兵セシムヘシ
4、日本ニ中国側一切ノ賠償ノ責任ヲ負担セシメラレタシ
5、斯ル不祥事件ノ再発ナキ様保証セシメラレタシ

東北民衆最後ノ言葉

1、中日問題ハ国際連盟ニ一切ヲ委嘱スルヲ以テ最短期間
ニ解決セラレンコトヲ要望ス
2、国際連盟ハ公平無私ノ態度ヲ以テ速ニ中日問題ヲ解決
シ中国側ニ好結果ヲ得レハ異議ナシ然ラサレハ東北三千
万民衆ハ飽ク迄日本ト生死ヲ決セントス

3、吾々ハ刀下ニ死ストモ日本ノ亡国奴タラサルヲ誓フ

(編注) 関機高支第五七五〇号の一は見当らない。

正ナル言語ヲ述ヘサルヤ

3、道徳ヲ重シ仁義ヲ論シ信義ヲ守ル老大中華民國人民ハ
国際連盟規約ノ欺瞞ヲ受ケ甘シテ亡国奴タランヨリ寧ロ
戦死スルヲ喜フ

4、余ノ最モ緊要ナル声明ハ滿州国ノ成立ハ完全ニ日本ノ
一手ニ製造セラレ東北三千万民衆ハ一人トシテ之ヲ讚美
スル者ナシ且執政ヲ初メ政府要人ハ何レモ武器ヲ擬シテ
脅迫セラレ止ムナク各県ニ土地商租ヲ命シタル事ナリ

5、各県(村)ノ土地商租ヲ日本ノ保障下ニ三十年間ノ期
限付キニテ鮮人ニ許可シタルヲ以テ彼等亡国民ハ任意ニ
各地ヲ横行シ我國民ヲ脅迫シ農耕地ヲ占拠シツツアリ

6、同化教育ヲ廃シ史実ヲ抹消シ日本語ヲ必須課目トシテ
教育ヲ施シ吾々ヲシテ祖国ヲ忘却シ日本民族ニ同化セシ
メントシツツアリ

7、東北ニ於ケル大新聞六社ノ編輯權ハ日本人ノ掌握シ
我國民ヲ夢幻状態ニ麻痺セシメツツアリ

8、門戸開放機會均等ノ自滅的政策ヲ唱導シツツアルカ其
ノ真意ハ三歳ノ童子モ之ヲ看破シアリ

9、日本人ハ匪賊ヲ煽動シ各地方ヲ騷擾ニ陥レ之ヲ口実ト

109 昭和7年4月(17)日

※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員一行の入滿方に関し政府の意向
問合せについて

北平

本省 4月17日前着

第一九一号(暗、大至急)

吉田ヨリ

第四四号

北平発奉天宛往電第二八号ニ関シ
(一〇六文書)

右案ニテ纏リタル場合政府ニ於テ御異存ナキコトト存スル
モ万一然ラサル場合ニハ大至急奉天宛電報ヲ請フ
奉天、長春、支、連盟ヘ転電セリ

110 昭和7年4月(17)日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員一行の列車使用について

奉天

本省 4月17日後着

第五九六号(暗)

本官発北平宛電報

第八八号
吉田大使へ

北平発本官宛電報第二八号ニ関シ

満州国側ニ対シテハ電話ニテ当地軍並当館ヨリ協議セルモ其意見甚タ強硬ナルカ如ク目下長春ニテ関係各部間ニ打合中ナルカ当地奉山滿鉄其他ト協議セル結果不取敢左ノ通

(一)満州各地視察ノ為津浦線特別列車ヲ使用スル事ハ当地滿鉄其他ニ於テ既ニ特別列車ノ準備ヲ整ヘタルコトニモアリ同意スルヲ得ス

(二)委員団ノ一部及書記局カ陸路来滿スルコトハ何等異存ナシ(少クトモ支那側参与員及其隨員ハ大連經由ノ事ト了解ス)

(三)山海関以東ニ支那側列車引込ノ問題ニ付テハ元来他線ノ車輛ヲ使用スル場合ニハ技術上事前ニ充分細目ノ打合ヲ遂クルニ非サレハ運行ノ安全ヲ保障シ得サルモノナル処曩ニ奉山側ヨリ北寧側ニ対シ此点ニ関シ協議ヲ求メタルニ対シ北寧ハ何等相談ニ応セサリシノミナラス右申込ヲ受領セル旨ノ回答サヘモナシ居ラス(北平宛往電第八五号参照)奉山ハ已ムナク特別列車ノ準備一切ヲ整ヘ十五

奉天 4月17日後発
本省 4月17日後着

第五九七号(暗、至急、極秘)

本官発北平宛電報第八九号

(一〇六文書)
往電第八八号ニ関シ

吉田大使へ

北平発本官宛電報第二八号ノ(一)ハ委員側ニ於テ同列車ヲ滿鉄沿線旅行等ニモ使用セントノ意味ナルニ於テハ冒頭往電

(一)滿鉄側ノ意向ハ尤ノ次第二シテ右ハ滿鉄ノ權威ニ関スル問題ナルノミナラス滿鉄側ハ既ニ特別列車ヲ準備シ居ル関

係ヨリ云フモ本官トシテハ本件幹旋方不可能ト思考シ居ル処軍部ニテモ本官ト同様ノ所見ニ付右ノ点為念委員側ニ御

確メ相願ヒ度ク尚滿州国側ニ於テハ国内ノ治安紊乱ノ懸念ヨリ顧維鈞入滿反対ノ決意甚タ強ク其ノ租借地及付属地内

立入ニ付キテモ日本政府ニ阻止方意志表示ヲナシタリトノ聞込モアリ旁北平発大臣宛電報第一九二号付属地外視察ノ

際ニハ日支双方参与員及隨員ノ同伴取止メラレル方賢明ナルヤニ思考セラル

大臣、公使、長春、連盟ニ転電セリ

日早朝当地ヲ出發セシメタルカ其後北平来電第二四号接到シタルニ付右列車ハ錦州ニ於テ待機シ居レリ(食堂車ノミハ食料品買入レノ為帰奉セリ)右様ノ事情経緯モアリ両鉄道技術者間ニ事前ノ協議モナク津浦線列車ヲ関外ニ乗入ルコトハ不可能ナリ

尚当地奉山側ヨリ特別列車ヲ山海関迄差廻ハスニハ北平出發四十八時間以前ニ通知ヲ受クルニ非サレハ諸般ノ準備ヲ整ヘ兼ヌル由ナリ從テ若シ委員カ二十日ニ北平出發(遅クモ第一百列車)スヘキコトカ十八日午後六時頃迄

ニ当方ニ判明スレハ二十日夕刻迄ニ列車ヲ山海関ニ差廻シ二十一日朝同地ヲ出發スル様手配スルヲ得可シ(山海関出發ノ時間カ朝八時頃ナルヲ要スルハ往電ノ通)

大臣、支、長春ニ転電セリ

111 昭和7年4月17日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員一行の列車使用に関する滿鉄側の意向および滿州国側の顧維鈞入滿反対について

112 昭和7年4月17日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞入滿拒絕問題処理に關し大橋司長と連絡方について

第五九八号(暗、至急、極秘)

本官発北平宛電報

第九〇号

吉田大使へ

北平発本官宛電報第二八号ニ関シ

連盟調査員入滿ノ件ニ関シテハ屢次往電ノ通り軍部ニ於テハ大体傍觀主義ヲ執リ居ルノミナラス元来顧維鈞入滿拒絕ハ滿州国外交部ノ「イニシアチーブ」ニ出テ今後ノ展開如何モ主トシテ外交部側ノ意向ニ左右セラルル処大ナリト認

メラル本官トシテハ勿論軍側ト協力シ折角幹旋中ナルモ本件ニ関スル電報ハ今後直接長春領事館宛宛電相成方好都合ニシテ若シ御同意ナルニ於テハ大橋司長宛トシテ御打電相成方問題ノ円滑ナル処理ヲ得ル所以カト察セラル

尚冒頭貴電ハ当館ニハ十六日夜接到セルモ長春ニハ十七日午後六時ニ至ルモ到着シ居ラス当館ヨリ便宜電話伝達シ置ケル実情ニ付長春宛電報ハ当館經由トセラルル方迅速ト認メラル僭越乍ラ内部ノ機微ナル關係モアリ卑見御参考迄大臣ニ転電セリ

113 昭和7年4月16日 在北平永津（佐比重）公使館付武官 輔佐官より 真崎参謀次長宛（電報）

張學良軍の満州における活動振り等連盟調査

委員に説明について

4月16日後5時25分発
4月16日後7時50分着

北平第六一九号（秘、其一、其二）

十六日吉田大使、渡大佐立会ノ上公使館付武官代理永津、酒井兩中佐ノ名ニ於テ小官ヨリ張學良一派カ義勇軍ト称スル兵匪ヲ操縦シ在滿日本軍ヲ脅迫シ一般秩序ノ破壊ヲ策シアルコト及北滿ニ於ケル赤露ノ秘密運動ニ関シ一般觀察ヲ述ヘ「リットン」以下委員ノ注意ヲ喚起シ置キタリ尚細部ハ奉天日本軍憲ヨリ説明スル所アルヘキ旨付加シ置キシニ

就キ注意ヲ望ム

本説明ニ関シ委員側ヨリハ何等質問無カリシモ米國委員「マッコイ」將軍ハ先日会见セシ天津軍竹内参謀ヲ小官ト感違イ天津事件殊ニ其ノ便衣隊ノ行動ニ就テ質問シ得ルヤト尋ネタリ依ツテ吉田大使渡大佐ヨリ其当局ハ小官ニアラサル旨ヲ注意センタメ話ハ打切りトナリシモ更ニ此点米國側ヨリ調査スルナランニ就キ注意ヲ望ム
「クロウデル」將軍カ特ニ我等日本一行ニ対シ親密ノ態度ヲ表ハサレアルハ愉快ナリ

114 昭和7年4月17日 謝（介石）満州国外交部総長より 芳沢外務大臣宛

満州国の顧維鈞入滿拒絶理由について

顧維鈞入滿拒絶理由ニ関スル件

外交部照会第一号

以書翰致啓上候陳者最近國際連盟調査員一行來滿セムトスル旨聞知致候処我満州国ハ該調査員ノ來滿ニ対シテハ異議ヲ表示セサルモ只顧維鈞ノ入國ニ対シテハ其ノ何レノ方面ヨリ來ルヲ問ハス断シテ承認シ難キ所ニ有之候表面ヨリ之ヲ觀レハ顧等カ貴國実力下ノ滿鉄付屬地ヨリ進入スル場合

若シ我國內治安ニ影響スル言動無キニ於テハ我方異議ヲ唱フルハ穩当ナラサルカ如キモ事実上旧軍閥ノ余孽ハ到處ニ跳梁シ我國內治安ヲ擾乱シ且張學良ノ心懷測リ難ク貴國ト連盟トノ關係ヲ紛糾セシメ收拾スヘカラサルノトキニ當リ已ニ多数ノ便衣隊ヲ滿州ニ潜入セシメ我國內治安ヲ紊乱シ且調査委員ノ安全ヲ脅威セムト聞キ斯ノ如キ緊吃ナル情勢下ニ於テ若シ顧維鈞等ヲシテ付屬地内ニ滞留セシメハ我國內治安維持上必ス重大ナル惡影響アルハ甚タ明瞭ニシテ諱ムヘカラサルモノナルヲ以テ滿州国ハ是ニ鑑ミテ速ニ貴國ヨリ顧等ニ対シ付屬地ヨリ入境スルハ相当ノ考慮ヲ加フヘキコトヲ注意セラレ之ヲ阻止セラルル様希望致候若シ顧等カ尚頑迷ニシテ悟ラス來滿シ擅ニ付屬地ヨリ一步ヲ越ユル場合ニハ我方ハ只断然タル処置ヲ執リ実力ヲ以テ之ヲ阻止スヘク此ノ場合ノ我方行動ニ関シテハ貴國ニ於テ以上ノ事情ヲ諒察セラレ之ヲ掣肘セラレサルコト切望ニ堪ヘサルトコロニ有之候

査スルニ貴國カ現在我國內ニ駐兵スルハ我方ノ要求ニ基キ善鄰ノ義ニ依リ我地方ノ安寧ヲ保全セラルルモノニシテ今若シ我國治安ヲ紊乱スルヲ以テ使命ト為セル旧軍閥ノ爪牙

タル顧等ヲ援助シ深ク我國腹地ニ入ラシムルハ貴國駐兵ノ旨趣ト甚タ相背馳スルトコロニシテ貴國ハ万々此ノ矛盾セル挙ニ出テサルヘキハ固ヨリ我國政府ノ深ク信シテ疑ハサル所ナルモ右御諒承ノ上可然御配慮相成度此段照會得貴意候 敬具

大満州国大同元年四月十七日

満州国外交部総長 謝 介石

大日本帝国外務大臣 芳沢 謙吉殿

115 昭和7年4月18日 ※在北平矢野参事官より 芳沢外務大臣宛（電報）

連盟各調査委員の満州国に対する感触について

て

北平 4月18日前発
本省 4月18日前着
第一九五号（暗、至急極秘）

吉田ヨリ

第四七号

伊藤ヨリ

上海以来ノ情報ヲ綜合スルニ連盟調査員中仏國委員ハ常ニ

我方ニ有利ナル態度ヲ有シ（原田ノ情報ニ依レハ支那側モ右ヲ承知シ居レリト）伊国委員ハ時々親日態度ヲ表示スルニ反シ米国委員ハ多クノ場合我方ノ政策ヲ批評シ英國委員ハ公平ノ態度ニ出テント努メ居レリ「ペパン」ノ旅行中得タル情報ニ依レハ漢口ニ於テ同地在留英國人ヨリ支那側カ不当ニシテ日本ノ態度ノ致シ方無カリシ旨ヲ「リットン」卿ニ陳述セル為同卿ハ鮮カラス之ニ動カサレ居ル様子ニテ北平着迄ハ米國ヲ除キ委員連ハ大体我方ニ有利ナル形勢ナリシト言フ

然ルニ顧維鈞問題生シテ以来各委員ハ我方ニ対シ鮮カラス「イリテイト」シ居ルコト事実ニシテ往電第一七二号ノ通小官ヨリ満州國ノ存在ヲ説明シタルニ対シ「リットン」卿カ頗ル不満足ノ意ヲ表示シタルハ書記局ニテモ注意セラレ居ルコトハ「ハース」ヨリ内話アリタル程ニテ委員連中ハ満州方面ヨリ並ニ当地ニテ得タル情報ニ依リ満州國ハ日本軍ノ「インベンション」ニシテ日本軍満州ヲ退去スレハ同國ハ消滅スヘシトノ信念ヲ有シ右ヲ反駁スルモ之ヲ信セシムルコト頗ル難事ナルヘシトハ我方ニ好意ヲ有スル一委員ヨリ注意アリタル位ナリ

第一九八号（暗、大至急、極秘）

本官発奉天宛電報

第三三三号

吉田ヨリ

北平宛電第八八号ニ関シ
(二〇文書)

御申越ノ次第ハ早速委員側ニ伝達シ置キタル処十八日午前委員長ノ求ニ応シ本使ハ顧維鈞ト共ニ会见シタルニ委員長ハ奉山側其ノ他ニ於テ特別列車ヲ奉天迄引込ミ且「ゲイジ」ノ同シ限リ各視察ニ之ヲ使用スルコトニ反対セラルルハ既ニ日本政府ニ於テ出来得ル限リ便宜ヲ供与スルコトヲ約束セラレ居リ且右特別列車ハ委員側ニ於テ「チャーター」シタルモノニシテ支那ノ列車ニハ非サル点ニモ顧ミ之ヲ解スルニ苦ム所ナリ何レニスルモ明十九日夜当地出發奉天ニ向フコトト致度シト述ヘタルニ付本使ヨリ奉山側其ノ他ノ反対理由ヲ色々説明シタルモ委員長ハ兎ニ角大至急奉山側ニ伝ヘラレタル上諸否問合セラレ度キ旨申出タリ奉山側等ノ意見ハ尤モナルモ当方ニ於テ飽ク迄之ヲ固執スルニ於テハ徒ニ問題ヲ紛糾セシムルノミナルニ付更ニ奉山側等ニ対シ好意的考量ヲ求メラレ結果大至急回電アリ度シ

右様ノ次第ニテ満州ニテハ満州國官憲ハ之ヲ認メス唯個人トシテ聴取ヲナス如キ措置ニ出ツヘク且長春ヨリ先ハ顧參与員ノ旅行ニ関シ委員会ハ日本政府ニ対シ其ノ軍隊ノ保護ヲ求ムヘク若シ軍隊其保護ヲ与ヘサルニ於テハ日本軍ハ日本政府ノ命令ニ服従セサルコトヲ立証スルコトナリ尚更満州國力軍隊ノ力ニテ出来タルコトヲ明瞭ナラシムルモノナリト報告セント欲スル委員多数ナル由日本ニ好意ヲ有スル一委員ヨリ内報アリタリ

之等ノ点ハ委員入滿後直ニ實際問題トナルヘキニ付心得置クヘキ点至急御訓電ヲ請フ
奉天ニ転電シ長春ニ転電セシム
連盟ヨリ英、米、独、伊、仏、露ニ転電セシム
公使、南京、連盟ニ転電セリ

116 昭和7年4月18日

在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛（電報）

調査委員の奉天へ出発に關し奉山鉄道側の意向問合せについて

北平 4月18日後発
本省 4月19日前着

大臣、公使、長春へ転電セリ

117 昭和7年4月18日

在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員特別列車の奉天引入れおよび顧維鈞の陸路入滿問題について

北平 4月18日後発
本省 4月18日後着

第二〇〇号（暗、極秘）

本官発奉天宛電報

第三五号

吉田ヨリ

十八日午前「リットン」トノ会谈後（観三）「ハース」ニ対シ支那側随行者ノ多数ナルハ当方ノ非常ニ当惑セル処ニシテ宿泊其他警護ノ点ヨリスルモ是非トモ最少限度ニ削減スルヲ要スル旨申入レタルニ同人ハ右ハ却々面倒ナルモ委員長ヨリ顧維鈞ニ対シ話シ居ル処ニシテ自分モ出来ルタケ努力スヘシト述ヘ次イテ特別列車奉天引入レニ対スル奉山側ノ反対ハ甚タ困惑セル処ナルカナルヘク先方ノ同意ヲ得ル様尽力セラレタシト述ヘタルヲ以テ今日ノ委員長御希望

ノ次第ハ奉天ヘ電報シ置キタルカ貴方ノ御考ハ列車ヲ奉天ニ引入レ後同地ニ其儘止メ置クノミニシテ例ヘハ大連行等満鉄線路ノ旅行ノ場合ニモ右列車ヲ使用スル考ニ非サルヘク果シテ然ラハ到底満鉄側等ニ於テ同意セサルヘシト言ヒタルニ差当リ奉天行ヲ希望セル次第ニシテ満鉄線上ノ旅行ノ問題ニ付テハ今日決定シ置ク要無カルヘシト語レリ尚顧維鈞カ陸路ヲ取ルコトニ対シテハ実ハ別段公報アリタル次第ニ非サルモ自分カ間接ニ聞キタル処ニ依レハ若シ顧維鈞カ陸路ヲ取ルコトナレハ彼ノ身辺ハ相当危険ナリトノ噂アリト内話シタルニ「ハース」ハ右ハ充分承知シ居レリト語レリ

大臣、支、天津、長春、連盟ヘ転電セリ

118 昭和7年4月18日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞の満鉄付属地入り防止を満州国より要請について

長春 4月18日後発
本省 4月18日後着

第二六〇号

(脱?)ノ奥地入ヲ幫助セラルル事ハ貴方駐兵ノ趣旨ト背馳スル所以ナルヲ以テ貴方ニ於テ万右ノ如キ態度ニ出テラレサルヘキ事満州国政府ノ信シテ疑ハサル処ナリ

(編注) 全文は一二四文書参照

119 昭和7年4月18日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員一行の入満に関する満州国の態度について

長春 4月18日後発
本省 4月18日後着

第一六一号(暗)

本官発北平宛電報

第一号(至急)

吉田大使へ

(一六文書)

貴官発奉天宛電報第二八号ノ趣旨新国家側ニ伝ヘタル処其首脳部ハ連盟委員一行ノ入満ニ関シ未タ何等直接ノ通知若ハ挨拶ニモ接シ居ラス現ニ一行ニ対スル累次ノ照会電報ニ対シテモ回答ヲ寄セサルノミナラス満州国ニ対シ間接的ニモ何等ノ申出無キカ如キハ余リニモ新国家ノ満州ニ於ケル

国際連盟調査員一行ハ近ク大連經由来満ノ由伝ヘラルル処調査員ノ入来ニ関スル限り満州国トシテ異議無キモ顧維鈞ノ入国ハ其何レノ方面ヨリスルヲ問ハス之ヲ承諾スル能ハス之カ貴方実力ノ下ニ有ル満鉄付属地ニ入リ来タル場合彼等カ進テ我国内治安ニ影響ヲ及ホスカ如キ言動無キ以上満州国トシテ一見異議ヲ唱フヘキニアラサルカ如キモ我国治安ノ攪乱ニ没頭シツアル旧軍閥ノ余孽到ル処ニ跳梁シ且張学良ハ連盟ト貴方トノ関係ヲ紛糾セシムル目的ヲ以テ満州国ノ治安ヲ案シ調査員ノ安全ヲ脅スヘク多数ノ便衣隊ヲ派遣セリトノ警報頻リナル現下ノ情勢ニ於テ斯ノ如キ人物ノ付属地内滞在ノ事実其事カ我国内治安維持ニ重大ナル悪影響ヲ来スヘキ事明白ナルニ鑑ミ満州国ハ此ノ際貴方ニ於テ彼ノ付属地入り防止方ニ対シ相当ノ考慮ヲ加ヘラレン事ヲ希望ス我方ハ若シ彼カ右ノ事情ヲ顧ミス入満シ一步ニテモ付属地外ニ出ル場合ニハ直ニ実力ヲ以テ之ヲ阻止スルノ決意ヲ有スルニ付右御了承ノ上其際貴方ニ於テ我方行動ヲ掣肘セラレサランコトヲ希望ス

蓋シ貴方カ我国内ニ駐兵セラレ我方亦之ヲ希求スル所以ハ奥地ニ於ケル治安カラサル為ナルニ拘ラス我治安案乱

事実上ノ権力タル存在ヲ無視スル態度ニシテ承服スル能ハス此ノ上ハ連盟一行カ直接新国家側ニ対シ何等カノ形式ニ依リ入満挨拶ヲ為ササル限り一行ノ申出ニ対シテモ考慮ヲ払フ余地無シト称シ居レリ御参考迄

120 昭和7年4月(19)日 ※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞の入満経路および中国側随員の削減方について

北平 4月19日前着
本省

第二〇一号(暗)

吉田ヨリ

第四九号

北平発奉天宛電報第三三三号ニ関シ

(一六文書)

十八日午前「リットン」及顧維鈞ト会見ノ節

一、顧ハ鐵路赴奉スヘキ訓令ヲ南京ヨリ受ケタル旨述ヘタルニ対シ「リ」ハ大イニ驚キ理由ヲ質シタルニ顧ハ客年十二月十日ノ決定ニ基キ日本政府ノ便宜供与ヲ期待スト答ヘタリ「リ」ハ右ハ日支両国ノ約束ナルモ満州国ハ此

ノ決議ニ拘束セラレスト駁シ其ノ再考ヲ求メシニ願ハ既
ニ右請訓シ居レリト答ヘタリ

二、支那側ハ随員トシテ約三十五名ヲ委員側ニ通告シ右ニ
対シ我方ヨリ極力減員ヲ求メ「リ」ハ願ニ対シ滿州ニ於
テハ委員ハ証拠蒐収ニ止マリ討議ヲ為スニ非サルヲ以テ
多人數ノ不必要ヲ説キシニ願ハ滿州ニ於テハ日本側ハ参
与員随員ノ外各種機関ヲ有シ居レルヲ以テ多數専門家ヲ
有シ得ヘキモ此ノ便宜ヲ有セサル支那側ハ相当随員ヲ同
行スル必要アリト陳弁セリ之ニ対シ本使ハ極度ニ削減方
主張セリ

奉天ヨリ長春ニ転電アリ度シ
公使、奉天、連盟ニ転電セリ

121

昭和7年4月19日 ※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

我が駆逐艦に連盟調査委員便乗方リットン委
員長より申入れについて

北平 4月19日前発
本省 4月19日前着

第二〇三号(暗、至急)

吉田ヨリ

第五一号

貴電第七号ニ関シ

(ママ、一〇五文書参照)

往電第四九号ノ通委員長ハ一行一部ノ我駆逐艦便乗ヲ願ヒ
タリ艦隊行動ノ都合アルヘキモ機微ノ本件処理ノ必要上本
使ノ責任ニテ之ヲ引受ケタリ右ノ事情海軍側ヘ説明ノ上謝
意申入ヲ請フ

122

昭和7年4月19日 ※在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞の身边保護などに関するリットン委員
長の内話について

北平 4月19日後発
本省 4月19日後着

第二〇四号(暗)

吉田ヨリ

第五二号

十八日午後「リットン」ノ内話左ノ通

一、特別列車ヲ仕立テ支那人給仕料理人ヲ使用スルハ顧維
鈞カ生命ニ危険ヲ感セル為ノ余ノ考案ニシテ奉天ニテ列

車ニ入レ身边ヲ保護セン為ニシテ余自身ノ為ナラハ使用
人カ日支何レニテモ可ナリ誤解ナキヲ請フ

二、調査ハ支那人ノ徘徊スヘキ列車内ニテセス中立国領事
館ニテ為サン

三、願ハ飽迄陸路ヲ固執セハ余ハ大連ニ渡ルヤモ知レス或
ハ両参与員及其随員ヲ北平ニ残シ委員ノミ滿州ニ赴キ先
方ト了解ヲ付ケ呼寄スルモ一策ナラン(本使ハ願カ山海
関ヲ經ハ本使一切責任ニ任セスト述ヘシニ)勿論ナリ
四、(本使ハ委員ハ新国家カ我政府ノ意ノ儘ト思ハルレハ
大ナル誤ニシテ彼等ハ独立ヲ「アッサート」セルカ故ニ
交渉困難ナル訳ナリ帝國政府ハ同国未承認ナルモ少クト
モ之ヲ地方官憲ト同視シ居ルニ委員カ同国ヲ無視スル態
度ナラハ面倒起ラント述ヘシニ)充分心得丁寧ニ振舞ハ
ン

五、伊藤氏トノ経緯ニ付テハ余誤テリ併シ彼ハ嚇セシニ付
堪ヘラレサリシナリ

六、滿州ニテハ調査多忙ニ付何地ヲ問ハス催ハ凡テ辞退ス
ヘシ

七、(本使ハ貴下ハ最近我ニ何等偏見ヲ有セスヤ最モ重大

ナル滿州問題調査ニ先立ち左様ナラハ遺憾ニ堪ヘスト述

ヘシニ)右ハ全然貴方ノ誤解ニシテ余ノ考ヘ日本ニ在リ
シ時ニ異ラス今後腹藏ナク話サレ度ク無礼ノ点アラハ請
フ恕セヨ

奉天ヨリ長春ヘ転電セシム

支、奉天ヘ転電セリ

123

昭和7年4月19日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国に対する連盟調査委員の入滿通知方に
ついて

奉天 4月19日後発
本省 4月19日後着

第六〇四号(暗、大至急)

本官発北平宛電報第九二号

吉田大使ヘ

北平発本官宛電報第三七号ニ関シ

(一)本官ニ於テハ滿州国側ニ対シ折角斡旋中ナルモ北平発大
臣宛電報第二〇一号ノ一ノ如ク顧維鈞カ鉄道ニ依リ來奉
スルコトナルニ於テハ形勢逆転シ当初ノ事態ニ還元ス

第七七号(暗) 本省 4月19日後5時発

連盟調査ト満州国トノ関係

伊藤参事官へ

吉田大使来電第三七号及第四五号ニ関シ

「ハース」ニ対スル談話ノ如ク新國家ノ成立ハ十二月十日
 理事会決議ノ予見セサリシ事態ナルモ我方ニテハ右新國家
 ノ成立ニ拘ラス其ノ警備力充塞セサル間ハ引続キ滿蒙地方
 ニ於ケル治安維持ノ責務ハ我方ニテ負担スルモノナリトノ
 建前ヲ執リ居リ右ハ我方對滿政策ノ重要ナル根底ヲナス次
 第二テ(北平宛往電第六九号冒頭)何レノ途我方ハ調査委
 員ノ同地方ニ於ケル任務ノ遂行ニ対シ出来得ル限りノ保護
 ヲ与フルヲ要スル訳ナリ然ルニ我方ニテ滿州國成立ナル新
 事態ヲ強調スル等ノ結果調査委員カ顧維鈞入國問題ニ関連
 シ其ノ行動振ニ付理事会ノ指揮ヲ仰クコトナルトキハ自
 然新國家問題自身カ此際直チニ連盟ニテ討議セララルコト
 トナリ我方トシテ得策ナラスト存ス

就テハ「ドラモンド」モ本件ハ「リットン」卿ヲシテ処理
 セシメ度意向ナリト申シ居ルニ鑑ミ(寿府来電第三五〇号

ル次第ニ付我方ニ於テ全然斡旋ノ勞ヲ執ルヲ得ス又滿州
 旅行中特別列車ヲ滿鉄線路ニ使用スルコトニ付テハ往電
 第八九号ノ通ノ事情ニテ本官ニ於テ斡旋ノ途ナク之ヲ要
 スルニ当方ニ於テ斡旋ノ勞ヲ執リ得ル最大限度ハ奉山鉄
 道ニ特別列車ヲ引込ム点ニ局限セラルヘキ処長春發北平
 宛電報第一号ノ通滿州國ニ於テハ連盟調査員カ滿州國ノ
 事実上ノ存在ヲ無視スル態度ニ対シ極度ニ憤慨シ連盟側
 ヨリ何等カノ形式ニテ滿州國ニ申入レヲ為ササル以上乗
 入問題ノ如キ枝葉問題ヲ考慮セサルコトニ決定シ居ルニ
 付北平發大臣宛電報第一六四号前段ノ通委員長等ヨリ長
 春領事ヲ通シ委員ノ氏名ヲ通報スル等然ルヘキ方法ニ依
 リ直接滿州國側ニ対シ挨拶ヲナササル限り奉山線ニ特別
 列車引込ノ件モ解決ニ至ラサルヘキコト明カナリ從テ委
 員側カ右措置ニ反対ナル場合ニハ入滿ノ道ハ海路大連經
 由ノ外ナシ

(二)冒頭貴電ノ一列車内宿泊ニ関シテハ奉天駅ハ雜踏甚タシ
 ク北平駅等ト構造ヲ異ニシ且付屬地ハ端レノ空地ニ接続
 シ居リ一行ノ出入ニ大ナル不便アルノミナラス到底警戒
 上ノ万全ヲ期シ難キニ依リ御断リ相成タシ

大臣、支、連盟、長春、天津へ転電セリ

124 昭和7年4月19日 在奉天森島總領事代理より
 芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団中国側隨員の削減について

奉天 4月19日後発
 本省 4月19日後着

第六一〇号(暗)

本官發北平宛電報

第九五号

吉田大使へ

支那側隨員甚タ多数ナル趣ノ処斯クテハ警衛上接待上不便
 鮮カラサルニ付若シ支那本部内旅行中ノ日本隨員數ニ局限
 シ得ストスルモ能フ限り少数ニ止ムル様致シタシ
 大臣、支、長春へ転電セリ

125 昭和7年4月19日 芳沢外務大臣より
 ※在北平矢野参事官宛(電報)

連盟調査委員の満州地区視察方法に關し意見
 問合せについて

末尾)我方ニ於テ此ノ上共滿州國側ノ説得ニ努ムルト共ニ
 委員側ヲシテ理事会ノ指揮ヲ求ムルカ如キ態度ニ出テシメ
 サル様仕向ケラルルコト肝要ト存ス尚ホ吉田大使来電第四
 五号ノ如ク付屬地外ノ視察ニハ日支双方ノ参与員トモ調査
 委員ニ同行セサルコトトスル考案ノ可否ニ付テハ目下折角
 攻究中ナルカ右考案ニテ円滿ニ纏ルナラハ之カ採用方考慮
 ノ余地ナキニ非スト思考シ居ル次第ナルモ該考案採用ノ結
 果後日ニ至リ日支参与員ヲ除外シタル調査ノ結果ハ不完全
 ナルモノナリトノ非難ヲ招クカ如キコトナキヤ十二月十日
 理事会決議當時ノ事情ニ通曉セラレ居ル貴官ノ意見至急回
 電アリ度

奉天、長春、支、連盟へ転電セリ

126 昭和7年4月19日 芳沢外務大臣より
 在長春田代領事宛(電報)

顧維鈞入滿問題に關する方針大橋司長に伝達
 方について

別電 同日芳沢外務大臣より在長春田代領事宛第五一
 号 右方針

第五〇号 暗、極秘至急

大橋司長ニ伝達ノ件

別電第五一号ヲ本大臣ノ伝言トシテ内密大橋司長ニ伝達セラレ度

(別電)

本省 4月19日午後11時10分発

第五一号 暗、極秘至急

大橋司長ニ伝達ノ件

一、帝國ト滿州國トノ關係ハ極メテ機微ナルモノ存シ我方トシテハ表面上新國家ノ獨立國タルコトヲ尊重シツツ而モ實際ニ於テハ新國家ヲシテ苟モ我方ノ利益ヲ無視シ又ハ我方ノ立場ト衝突スルカ如キ態度ニ出テシメサル様之ヲ指導スルヲ要スル訳ニテ右ハ政府トシテ最モ苦心シ居ル点ナルコト御想像ニ難カラサルヘク貴司長御承知ノ答ナル三月三日閣議決定ノ「（一三五文書参照）滿蒙新國家成立ニ伴フ對外關係處理要綱」ノ如キモ全ク前記考慮ニ基キ各方面熟議ノ結果作成セラレタルモノナリ然ルニ今回計ラスモ顧維鈞入滿問題ノ發生ヲ見タル次第ナル処滿州國側カ立國草創

本省 4月19日午後10時30分発

ノ際予テ札付ノ人物ニテ且張學良ト特殊ノ關係ヲ有スル顧維鈞ノ入滿策動ヲ極度ニ警戒スル心理ハ当方ノ充分ニ諒解スル所ナルモ一方我方トシテハ長春宛往電第三六号（八五文書）及北平宛往電第六九号（一〇〇文書）ノ通り調査委員一行ニ対シ必要ノ保護ヲ与フヘキコトヲ約束シ居ルノミナラス右約束ヲ満足ニ実行スルコトハ滿州問題ニ關スル我方ノ地歩ヲ有利ナラシムル所以ナリ

二、仍テ当方ニ於テハ右我方ノ立場ヲ保持シツツ滿州國ノ面目ヲモ取繕フ見地ヨリシテ北平宛往電第六九号大連廻案ヲ提議シタル結果調査委員側ニテモ之ニ傾キ來レル矢先長春來電第一六〇号（一八八文書）謝介石ノ申出ハ我方ノ立場ヲ益々困難ナラシムルモノニシテ我方トシテハ右申出ニ拘ラス日支參與員ヲ含ム調査委員一行ノ付屬地滞在ハ勿論付屬地外巡歴ニ対シテモ前記我方ノ立場ニ顧ミ極力之カ保護ニ任セサルヲ得サル次第ナル処斯クテハ日滿兩國正面衝突ノ奇觀ヲ呈スルニ至ルヘキノミナラス必ス支那側ノ乘スル所トナリ滿州問題ノ前途ニ対シ憂慮スヘキ影響ヲ來ス虞アリ然ルニ滿州國トシテハ既ニ其ノ立場ヲ充分ニ明ニシ調査委員側ニモ相當徹底セルモノト認メラルルヲ

以テ此ノ上ハ我方ノ斡旋ニ藉口シ顧維鈞等カ入滿後其ノ本來ノ使命以外ノ行動ニ出テサル様監視ヲ加ヘツツ調査委員一行カ我方保護ノ下ニ出來得ル限り滿州各地ヲ巡歴スルヲ靜觀スルノ態度ニ出ツルモ敢テ其ノ面目ヲ害スルコトモナカルヘク一方顧維鈞等ノ策動ハ我方ニテ其ノ身辺ヲ保護シツツ其ノ間隱密ニ警戒ヲ加フレハ之ヲ防止スルニ難カラサルヘシト存ス將又滿州國ニテハ顧維鈞等支那側ノモノカ調査委員ニ付随シテ入滿スレハ新國家成立前後ノ事情等簡拔ケニ同委員ニ知レ渡ルヘシトナスカ如キ懸念モ存スルヤモ知レサルモ右懸念ハ調査委員ニ於テ支那語ヲ解スル欧米人ヲ使用スレハ同様ナルヘク（北平來電第一九二号（一〇七文書）参照尚ホ調査委員側ニテハ有名ナル支那通ニテ支那語ニ堪能ナル蘭國人 De Kat Angelino ヲ呼寄セ居ル由ニテ同人ハ近日中ニ着滿ノ筈ナリト云フ）此ノ点ハ滿州國側ノ要人連ヲ予メ充分ニ指導シ置ク外ナカルヘシ

三、要之調査委員ノ取扱ハ同委員ヲシテ充分ニ滿州ノ実情ヲ觀察セシメ大局上ヨリシテ現下ノ事態ヲ是認セシムル様仕向クルコトヲ以テ重点トスヘク從テ委員連ヲシテ先

入主的偏見等ヲ去リ如實ニ滿州ノ現状ヲ觀察セシムルコト肝要ニシテ當方ニ於テハ予テ右ノ点ニ留意シ來リ調査委員ノ東京滞在中ハ勿論其他凡有ル機會ヲ捉ヘ之カ誘導ニ努メタル結果モアルヘク委員連ノ態度ハ漸次些細ノコトヲホジクラズ大局論ヲ以テ進ム傾向ニ向ヒツツアリテ我方ニ対シ比較的有利ト認メラレタル次第ナリ然ルニ委員等北京着後図ラズ顧維鈞入滿問題發生シタル為メ其態度ニ俄然變化ヲ來シタルニ見受ケラレ是迄ノ我方苦心ニ顧ミ甚タ遺憾ニ堪エサル所ナルカ過去ノコトハ致方ナシトスルモ切メテ今後ハ日滿双方ノ密接ナル連絡ノ下ニ調査委員カ愉快ニ其ノ任務ヲ遂行シ得ル様配慮スルコト緊要ト存ス曩ニ本大臣カ貴司長ノ新國家就任ニ欣然贊同ノ意ヲ表シタルハ斯種難問題發生ノ際我方ノ立場ニ通スルト共ニ軍部並新國家側トモ門滿ナル關係ヲ有スル人物ノ日滿間ニ介在スルコトニ依リ兩國ノ立場ヲ調和シ得ヘキヲ期待シタルカ為メナリ就テハ右ノ事情篤ト御舍ノ上本問題ノ円滿ナル解決ヲ見ル様御尽力アラムコトヲ切望ス尚ホ以上ノ次第駒井長官ノ含迄内示アリタシ

127 昭和7年4月(20)日 在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員一行の組別入満について

北平
本省 4月20日前着

第二〇九号(至急)

本官発奉天宛電報

第三九号

吉田ヨリ

連盟調査委員一行ハ左ノ通り組ヲ分チ入満スルコトナレ
リ

(イ)汽車ニ依ルモノ

「アルドロバンディー」、「マッコイ」、「ハース」、「カッ

ト・アンゼリノ」、「ヤング」、「コッツェ」、「シャレイル」、

「ブレイクス」、「ビドル」、「ノックス」(女)、「ラベル

ビス」(女)、「メーナード」以上十二名

(ロ)帝国駆逐艦ニ依ルモノ

「クローデル」、「シュネイ」、「パスチュホフ」、「ジュー

レイ」以上四名ノ外日本側参与員、同随員及我新聞記者

本省 4月20日前着

第二一二号

連盟調査団一行十九日午後十時半出発セリ

公使、奉天、天津、長春、連盟、関東長官へ転電セリ

129 昭和7年4月20日 在天津桑島総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団中国側随員の減員方について

天津 4月20日前発
本省 4月20日後着

第一七三号(暗)

本官発奉天宛電報

第一〇号

吉田ヨリ

北平宛貴電第九五号ニ関シ

支那側ハ当初随員三十六名入満方申出テタルヲ以テ我方ヨ
リ宿舍ノ不足並ニ警衛ノ必要上之カ減員方先方ニ申入レタ
ルカ「リットン」卿モ減員方支那側ノ説得ニ力メタル処十
九日夕方出発間際ニ至リ支那側ハ連盟側ヲ通シ二十八名
(顧維鈞ヲ含ム)入満ノ旨最終的ニ通告越セリ依テ本使ヨ

計十五名

(ハ)支那軍艦ニ依ルモノ

「リットン」、「ベルト」、「アスター」、「リエジョア」、

「ロバート」、吳秀峰以上六名ノ外支那側参与員、同随員

約二十名

二、以上何レモ十九日午後特別列車ニ依リ当地発(ロ)及(ハ)
二十日午前秦皇島ヨリ夫々軍艦ニ搭乗大連ニ向ヒ(ロ)ハ同
日午後大連着ノ予定(イ)ハ北寧列車直通困難ナルモノトシ
テ山海関ニ於テ奉山側列車ニ乗換ヘ赴奉ノ予定ナル処若
シ奉山側特別列車差向ケラルレハ右ニ依リ然ラサル場合
ニハ普通列車(多分二十一日午前四時発ナラン)ニ搭乗
センコトヲ申出テタルニ付テハ関係方面ト御打合ノ上必
要ノ保護及便宜供与方御取計相煩度シ

長春、関東庁、満鉄へ転電アリタシ

大臣へ転電セリ

128 昭和7年4月(20)日 在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団一行北平出発について

北平

リ「リットン」ニ対シ右減員方重ネテ申入レタルモ「リ」
ハ既ニ出発時間モ迫リ来リ如何トモスル能ハスト答ヘタル
ニ付本使ハ宿舍ノ不足ノ為不便ト困難トニ逢着スルコトア
リトモ致方ナキニ付右予メ御含置アリ度シト告ケタル処
「リ」ハ了解セリト答ヘタリ

大臣、支へ転電セリ

長春、関東庁、満鉄ニ転電アリタシ

130 昭和7年4月20日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞入満問題に関し芳沢外務大臣の伝言に

対する大橋司長の意見について

長春 4月20日後発
本省 4月21日前着

第一六四号(暗、極秘)

大橋ヨリ

(二六文書)

御懇電感激ノ至リナルト共ニ顧問題ノ為意外ノ御心配相掛
ケ恐縮ニ堪エス蓋シ満州側今回ノ措置ハ顧ノ人物並学良ト
ノ関係及連盟保護ノ下ニ多数ノ支那人ヲ同伴シテ大ニ氣勢
ヲ挙げ在満不平分子ヲ煽動シテ新国家ノ秩序ヲ紊シ連盟委

員ニ実物教育ヲ施サントスル奸策ヲ藏スルヤニ見受ケラレ
事實危険ヲ感シタルニ依ル外

(一) 満州国トシテ此ノ機ヲ捉ヘ独立性ヲ強調シテ世界ヲシテ
之ヲ認識セシメ一ハ以テ早晚来ルヘキ満州問題ニ関スル
國際的討議ニ対スル日本ノ立場ヲ輕易ナラシメ二ハ新
シキ殖民地統治形式トシテノ独立國家主義ノ特徴發揮ヲ
促進セシメントシタルコト

(二) 新國家人心ハ連盟調査ノ結果日本ハ逐出サレ學良復帰ス
ヘシト云フカ如キ密使ノ撒布スル謠言ニ動カサレ調査員
ノ来滿ヲ機會ニ動搖ヲ来サントスル傾向顯著ニシテ馬占
山ノ背叛ノ如キ明カニ其ノ一表現ト看做サルルニ鑑ミ連
盟ニ対シテモ正ヲ踏シテ一步モ下ラサル態度ヲ示スコト
支那民衆ノ連盟ニ縫ラントスルノ蒙ヲ啓ク所以ナリト認
メタルコト

(三) 調査員ノ報告ハ事實ニ基キ冷静ニ作成サルヘキモノニシ
テ兎角ノ感情ニ依リ左右サルヘキモノニ非サルヘク又各
國代表者ノ報告作成ニ対スル態度ハ満州ニ於ケル事實其
モノヨリモ寧ロ其代表スル國ノ國際政策ヲ反映スルモノ
ナリト思考ス果シテ然ラハ満州国トシテ充分主張シ得ル

基調ヲ定ムルハ冷ヤカナル利害ノ打算ニシテ右報告ノ如何
ニ非ス旁日本トシテハ満州獨立ノ現状ニ立脚シテ最後迄頑
張ル腹ヲ固ムルノ外無シト思考ス卑見何等御参考迄

131 昭和7年4月20日

芳沢外務大臣より
※在奉天森島總領事代理宛(電報)

松岡・リットン会談録について

本省 4月20日後9時40分発

第二〇七号(暗)

松岡「リットン」会談録ノ件

吉田大使へ

第一〇号

貴電第四一號ニ関シ松岡氏ヨリ

上海ニ於ケル小生ト「リットン」卿一行トノ会談ハ雜誌的
ニ述ヘタルモノナルノミナラス當時該会談ヲ筆記シ居リタ
ル書記官ハ充分ナル予備知識ヲ有セサル模様ナリシニ付果
シテ正確ニ記述セシヤ懸念セラレタル一方談話ノ内容極メ
テ機微ナル問題ニ触レ居ル次第ナルニ願ミ小生ヨリ「リッ
トン」卿ニ対シ右会談録ハ一応小生ニテ閲覽ノ上必要ニ応
シ修正ヲ加ヘ度旨申入レ置キタリ然ルニ「リ」卿一行上海

根拠アル顧問問題ヲ引提ケテ帝國政府ノ意思ニ反シテ迄モ
我獨立性ヲ強調スルコトカ寧ロ右報告作成上ノ参考トナ
ルヘキコト

四 仮ニ顧問問題ノ為満州國カ今直ニ理事会ノ問題トナル場合
ニ於テモ日本ハ堂々ト獨立國タル既成事實ニ立脚シテ其
立場ヲ固守スルヲ得ヘク而シテ帝國政府ハ右ニ関スル確
乎不拔ノ腹ヲ極メラレ居ルモノト信シタルコト等ノ理由
ニ基キ右観点ニ対シテハ在滿邦人中今迄ノ処誰一人異議
ヲ唱フルモノナキ状態ニ有之旁滿州國ノ措置ハ誠ニ已ム
ヲ得サル次第ニ付御了察相煩度シ尙滿州國カ顧問等ノ付属
地外旅行ヲ阻止セントスル方針ハ既ニ声明済ニ(テ)此
際甚タ遺憾ヲ取消シ難キヲ以テ日本側ニ於テ連盟ニ対
スル義理上顧維鈞等保護ノ必要ヲ認メラルルニ於テハ多
少芝居染ミ居ルモ實力ヲ以テ滿州側ノ行動ヲ阻止スルノ
形式ヲ取ラレ本件ノ辻褄ヲ合サルルノ外無シト思考ス
要スルニ滿州問題ノ真相ハ過日「リットン」カ吉田大使ニ
句ハシタルカ如ク世間周知ノ事實ニシテ今更覆フ事困難ナ
ルヘク從テ本問題ノ解決ヲ連盟委員ノ感触若ハ其報告如何
ニ期スル能ハス又連盟ノ背後ニ控ユル諸大國カ外交政策ノ

出發迄ニ右会談録出来セサリシニ付更ニ小生ヨリ「リ」卿
ニ対シ本件会談録出来ノ上ハ吉田大使ニ交付アリ度同大使
ニハ前記会談後小生ノ手記セル「メモ」ヲ渡シ置キタルニ
付同大使ニ於テ小生ニ代リ会談録ヲ「メモ」ト比較シ必要
ニ応シ修正ヲ加ヘ再ヒ之ヲ貴下(「リ」卿)ニ御返還相致
スヘク右ニ関シ小生ハ吉田大使ニ全權ヲ与フルモノナリト
告ケ置キタル次第ナリ

就テハ「リ」卿ニ対シ松岡ニ照会セル処叙上ノ趣旨ノ返電
アリタル旨ヲ伝ヘラレ本件会談録御入手相成度

132 昭和7年4月20日

芳沢外務大臣より
在長春田代領事宛(電報)

連盟調査委員の満鉄付属地外巡視に関する措
置について

別電

同日芳沢外務大臣より在長春田代領事宛第五
号

右措置について

第五四号(暗)

調査委員入滿ノ件

本省 4月20日後10時15分発

往電第五一〇号ニ関シ

政府ニ於テ事態ノ重要性ニ顧ミ廿日協議ノ結果別電第五五号ノ通り決定シ同時ニ參謀本部ヨリ関東軍ニ対シ右決定ニ照応スル訓令ヲ発スルコトナリタリ從テ調査団（支那參事員一行ヲ含ム）カ付属地外ニ出ツルニ際シ万一満州国側ニ於テ之ニ侵害ヲ加フルカ如キ場合ニハ自然関東軍ハ実力ヲ以テ之ヲ排除スルコトナルヘキ歟斯ノ如キハ日滿兩國ニ取リテ最も好マシカラサル義ニ付此ノ際同国側ハ往電第五一〇号ニ中段ノ如ク「満州国トシテハ既ニ其ノ立場ヲ充分明ニシ調査団側モ大部分大連廻ニテ入滿スルコトニ折合ヒタルノミナラス日本側ノ熱心ナル斡旋モアルニ付此ノ上ハ顧維鈞等カ入滿後其ノ本来ノ使命ヲ逸脱スル行動ニ出テサル様嚴重監視ヲ加ヘツツ調査団一行ノ満州各地巡歴ヲ静觀スヘシ」トノ態度ヲ以テ其ノ面目ヲ保持シツツ我國ノ立場ヲ尊重スルコトトシ關係各方面協力シテ調査委員側ヲシテ愉快ナル氣持ニテ成ル可ク予定ノ通り其ノ任務ヲ遂行シ得ル様仕向クルコトトシ度キニ就テハ叙上ノ趣旨ヲ以テ満州国政府側ニ篤ト懇談ヲ遂ケラレ本件ハ此ノ辺ニテ解決スル様極力御努力相成度

連盟調査委員の奉天到着について

奉天 4月21日午後発
本省 4月22日前着

第六一五号

連盟調査員一行ノ内「マッコイ」、「アルドロヴァンディ」等十一名ハ陸路山海関ヨリ午後八時ニ又「リットン」卿以下他ノ委員隨員全部並日支參事員全部大連ヨリ午後八時廿分ニ到着セリ

転電先、支、北平、長春、哈爾濱、齊々哈爾、吉林

134 昭和7年4月21日

在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員のハルビン、チチハル視察差止めについて

ハルビン 4月21日午後発
本省 4月21日後着

第四三六号（暗）

奉天宛貴電第一九七号ニ関シ

一、連盟調査員一行ノ保護ニ付テハ当地ノ関スル限り御來訓ノ趣旨ヲ体シ軍側ト協力万全ヲ期スル所存ナリ

別電ト共ニ支、南京、奉天、北平、米及連盟ニ転電シ連盟ヲシテ英、仏、独、伊ニ転電セシム

（別電）

第五五号 暗、至急

本省 4月20日午後9時30分發

調査委員入滿ノ件（別電）

連盟調査委員ノ入滿視察ニ付テハ帝國政府ニ於テ十分ノ便宜及保護ヲ供与スルコトナリ居リ右便宜及保護ハ委員一行ト不可分ノ關係ニ在ル參事員一行ニ対シテモ之ヲ与フルノ要アル処調査団一行ハ滿鉄付属地外ニ在リテハ大凡ソ錦州、吉林、哈爾濱、齊々哈爾等ヲ巡視スルコトナリ居ルニ就テハ調査団一行満州到着後関東軍ト同一行ト合議ノ上行動予定ヲ決定シ関東軍現在ノ配置及其行動区域ニ関スル限り同軍ニ於テ十分ノ便宜及保護ヲ与フルコト致度

（編注） 本文書は四月二十日総理、海軍、外務三大臣および陸軍次官によって署名された。

133 昭和7年4月21日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

一、乍然長春以北当地迄ノ東支南部線旅行中ニ於ケル一行ノ保護方ハ如何ニ措置セラルヘキヤ当地軍側ニ確メタル所ニ依レハ万事侍從武官ノ旅行ニ準スルコトトナリ居リ即チ機關銃一挺ヲ備ヘタル警護兵一箇分隊ヲ付スル程度トナル筈ノ趣ナルヲ以テ車中ノ警戒ハ先ツ充分ナルヘキモ線路上ノ危険防止ニ付テハ考慮ヲ加ヘ居ラサルモノノ如ク左リトテ其ノ為特ニ我方兵員ヲ全線ニ配置スルコトモ実行不可能ナルヘシ（現在南部線ニ我守備隊無キコト御承知ノ通ナリ）

一、然ルニ一行ニ対スル軌外行為ハ如何ナル見當違ノ輩ニ依リテ企図セラルルヤモ計ラレス且茲数日以来入手スル各種諜報ニ顧ミ右危険ニ付テハ日支、朝鮮並赤白両系ノ露西亞人等ノ何レノ方面ヨリモ其ノ發生ヲ予想シテ線路上ノ安全確保ノ措置ヲ講スルヲ要シ之ヲ新國家側ノ護路軍路警処若ハ其ノ他ノ支那軍隊ノ手ニ委スルトセハ最近ノ東部線同様極メテ不安心ナル状態ナルヘキコト想像ニ難カラス

一、右線路及列車ニ対スル直接加害ノ危険以外ニ於テモ鐵道従業員ノ罷業ニ依リ一行乗用列車ノ運行不可能トナル

コトヲ予想セサル可カラス（往電第四三〇号ノ総罷業ハ幸ヒ実現ヲ見サリシモ其ノ後伝ヘラルル所ニ依レハ情勢決シテ樂觀ヲ許サルモノアリ）満鉄社員ノ手ニテ運転セサル可カラサルカ如キコトモナラハ甚シキ混乱ト不体裁トヲ示ス次第ナリ

一、前記困難ナル事情ハ東支西部線ニ於テ更ニ甚シキ筈ニテ而モ南部線西部線ニ於ケル万一ノ事故発生ハ表面的責任帰属ノ問題ハ別トスルモ結局日本側カ非難ヲ受クル次第ナルヲ以テ我方ハ充分ナル手段ヲ尽ス能ハサルニ拘ラス其ノ結果ニ対シ責ヲ負フノ「オークワード」ナル立場トナルヘシ

一、翻テ考フルニ調査員一行カ満州ノ事態ヲ正解スルヤ否ヤハ長春以南ニ於テ既ニ定マル可ク同地以北ノ旅行ハ謂ハハ一行ノ単ナル興味ノ問題ニ過キサルヤニモ察セラレ而モ一行ハ之カ為非常ナル危険ニ暴露シ一方我方トシテハ前述ノ如ク面白カラヌ状態ニ置カルル次第ニシテ一行カ当方面並齊々哈爾迄旅程ヲ延ハスコトハ何レノ方面ヨリ觀ルモ好マシカラスト思考セラル

一、鐵道線路ノ安全確保ニ付容易ニ適當ナル方法ヲ執リ得

支、北平、南京、奉天ニ転電セリ

136 昭和7年4月21日

芳沢外務大臣より
在英國沢田臨時代理大使宛（電報）

連盟調査団に対する満州国側の便宜供与問題

について

第四九号 暗、極秘

長春宛往電第五四号ニ関シ

二十一日英國大使來訪調査委員団ニ対シ充分ナル便宜ヲ与ヘラル様本大臣ノ斡旋ヲ求ムル旨ノ「サイモン」外相ノ伝言ヲ伝ヘタルニ付本大臣ヨリ前回御訪問ノ際ニモ御話シセシ通り我方ニ於テハ満州ニ於ケル我官憲及調査委員一行トノ間ニ絶エス連絡ヲ保持シテ連盟ノ決議通り便宜供与ノ目的ヲ達スル様努力セシカ日本側トシテハ出先軍部モ領事モ中央政府ノ意図ヲ体シ居ルニ拘ラス満州国ノ態度ニハ遺憾ノ点アリ殊ニ十八日同国外交総長ヨリノ本大臣宛來電中ニハ甚タ面白カラサル節アリテ日本政府トシテモ非常ニ心配シ居レル次第ナリ尤モ我方ノ関スル限リハ昨二十日政府部内ニ於テ熟議ノ結果予メ関東軍ト調査委員団トノ間ニ同委員団ノ満州ニ於ケル行動ニ関スル「プログラム」ニ付打合

ルコトトナリ且乗用列車ノ運行カ東支側ノ罷業等ニ依リ支障ヲ生セサルコト確實ナリト断シ得ルニ至ラハ問題ハ別トナルモ以上卑見特ニ申進ス
公使、北平、奉天、長春、吉林、関東庁ヘ転電シ齊々哈爾ヘ暗送セリ

135 昭和7年4月21日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

日中参与委員の付属地外視察差止めについて

長春 4月21日後発
本省 4月21日後着

第一六五号（暗）

貴電第五四号ニ関シ

大橋ハ本二十一日奉天ニ出張シタルニ付同地ニ滞在中ノ田中大使共篤ト懇談ヲ遂クヘキモ支那参与員一行ノ付属地外ニ出ツル事ハ新國家ノ確定議トシテ極力之ヲ阻止スヘキ事既ニ動カシ難キ形勢トナリ今トナリテハ遺憾乍ラ御趣旨ノ如ク取運フノ余地之無キカ如ク結局ハ付属地外ニ於テハ日支参与員共ニ之ヲ除外スル事ニ落付クノ外無キヤニ存セラル

セラ遂ケタル上関東軍ヨリ出來得ル限リノ保護及便宜ヲ与フルコトニ決定シ參謀本部ヨリ関東軍ニ右ノ趣旨ノ命令ヲ發送スルト共ニ在滿各領事ニ対シテモ本大臣ヨリ同一趣旨ノ電訓ヲ發送セリト述ヘタル処同大使ハ大ニ欣快トスル旨ヲ答ヘ「サイモン」モ満足スヘシト答ヘタリ尚本大臣ハ此ノ情報ハ秘密トセムコトヲ「サ」ニ伝達セラレ度ト述ヘタル処同大使ハ之ヲ諒承セリ
支、南京、北平、奉天、長春、米、連盟ニ転電シ連盟ヲシテ仏、独、伊ニ転電セシメタリ

137 昭和7年4月22日

在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員の付属地外視察への関東軍、満

州国側の対処について

奉天 4月22日前発
本省 4月22日前着

第六一六号（暗、大至急）

長春宛貴電第五四号ニ関シ

関東軍ニ対シテハ中央部ヨリ調査員一行ノ保護ニ関シ遺憾ナキヲ期セラレタキ趣ヲ以テ長春宛貴電第五五号ト同一内

容ヲ電報シ来リ居ルニ止マル処軍トシテハ南滿沿線其他軍ノ駐在地付近ニ於テハ充分保護ニ尽スヘキモ現下ノ東支沿線ノ状況ニ鑑ミ絶対安全ノ責任ヲ執ルコトハ実状不可能ナリトノ意見ニシテ付属地外即チ商埠地等ハ勿論長春以北一帯ニ於ケル滿州国側ノ実力行使ヲ絶対的ニ排除スヘキ意思ナキモノト認メラレ他方滿州国側ニテハ既ニ本件ハ屢々閣議ヲ経且外交総長ハ大橋ヨリモ寧ろ強硬ニシテ支那側参与員一行カ付属地外ニ出ルニ際シテハ飽ク迄実力阻止ノ決意ヲ有スルヲ以テ不祥事ノ発生ヲ免カレサルコト略明カナル実状ニアリ就テハ本件ハ田中大使及吉田大使ト更ニ協議ヲ尽スヘキモ右事情不取敢申進ス

連盟ヨリ英、仏、独、伊へ転電アリタシ

在支公使、南京、北平、米、連盟へ転電セリ

138 昭和7年4月22日

※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査団一行の保護および顧維鈞らの旅行制限について

奉天 4月22日後発
本省 4月22日後着

139 昭和7年4月22日

※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

リットン・張学良会談に関する情報について

奉天 4月22日後発
本省 4月22日後着

第六一八号（暗）

吉田ヨリ

第五五号

連盟調査委員ハ北平滞在中前後四回張学良ト会見シタルカ右会见ニ立会ヒタル事務局員ノ内報ニ依レハ委員長ハ学良ニ対シ滿州問題解決ニ関スル同人ノ意向ヲ質シタル処学良ハ自分トシテハ之ニ答フル能ハス唯中央政府ノ命ニ従フノミト述ヘタル趣ナルカ次テ学良ハ委員長ニ対シ調査委員ハ滿州ニ対スル日本従来ノ侵略政策並（所謂田中男爵ノ「プラン」ナルモノヲ示シ）日本ハ滿州占領後進テ遠大ナル侵略計画ノ遂行ニ着手スヘキコト等ヲ予メ充分考量ニ入レラレタル後調査ヲ開始セラレンコトヲ希望スル旨述ヘタル処委員長ハ連盟ハ滿州ノ現状調査後解決策ヲ見出サントスルモノニシテ其調査ニ先チテ予メ係争国ノ一方ヲ侵略国ト看

第六一七号（暗、大至急、極秘）
（一三七文書）
往電第六一六号ニ関シ

二十二日当館ニ於テ関東軍参謀長及幕僚田中吉田兩大使大橋司長及本官等集合協議シタル処同席上軍側ヨリ大体

(一)調査団一行（顧維鈞一行ヲ除ク）ニ対シテハ充分保護ニ尽クスヘキモ東支線ニ付テハ同地方ノ実情ニ鑑ミ絶対安全ノ責任ヲ取り難ク又吉長、洮昂、奉山等滿鉄以外ノ鉄道ニ付テハ概ネ保護シ得ルト思考スルモ万全ヲ期シ難シ
(二)顧維鈞一行ニ関スル限リニ於テハ若シ一步ナリトモ付属地外ニ出テ危険ニ遭フトモ軍部トシテハ傍觀的態度ヲ執リ何等措置セス但奉勅命令ノ出ツル場合ハ勿論此限ニ非ス

ト言明スル所アリタリ尚滿州国ノ態度ハ冒頭往電ノ通りニシテ変更ニ由ナキ趣ニ付不祥事ノ発生防止ノ為ニハ顧一行ノ付属地外立入及長春以北ノ旅行ヲ中止セシムルノ外途ナシト思考セラレ乍遺憾長春宛電第五四号御訓電ノ御趣旨ニ副フコト至難ト認メラル

連盟ヨリ英、仏、独、伊ニ転電アリタシ

支、北平、南京、長春、米、連盟へ転電セリ

140 昭和7年4月22日

※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員の滿州国に対する輕視態度是正について

奉天 4月22日後発
本省 4月23日前着

第六一九号（暗）

田中大使ヨリ

連盟調査団ニ付テハ屢次ノ奉天領事發電報等ニ依リ御承知ノ通ナルカ特ニ本件ニ重キヲ置カルルト察セラルルニ依リ本使気付ノ点左ニ申進ス

一、顧維鈞が治安上最も有害ナルハ本使が満州国要人ニ接触スルニ從ヒ益々感得セル所ニシテ満州国ノ發達ヲ支持スヘキ立場ニ在ル日本トシテハ主義上同情セサルヲ得ス。特ニ満州国側ノ主張ハ独り大橋ノミナラス一般ニ強硬ニシテ若シ日本ノ威圧ニ依リ当初ノ態度ヲ改メ顧ヲシテ調査団ト共ニ自由ニ行動セシムルカ如キ事有ラハ満州国ハ日本ノ傀儡ナルコトヲ証明スルノミナラス満州国要人ノ一般民衆ニ對スル威信失墜シ日本ノ立場ニモ不利ナル影響ヲ及ホスヘク斯カル重大ナル結果ニ顧ミ假令多少調査団側ノ一時的感情ヲ害スルモ本件ニ付テハ調停ノ余地乏シキ次第ナリ。

又本使ノ接触セル外国人側ハ顧維鈞拒絶ノ当然ナルヲ認メ居リ調査団側モ漸次事態ノ已ムヲ得サルヲ了解シ来レリト認メラルヲ以テ格別惡影響無カルヘシ。

二、更ニ實際方面ニ付見ルニ軍ハ大局ノ治安維持ニ任スルノミニシテ個人的保護ハ付屬地外ニ於テハ満州国ノ警察力ニ依ルノ外無キ処右警察力ハ猶不充分ナルヲ免レス從テ長春以北ニ於テハ本使が曩ニ報告セシ如ク又其後ノ情報ニ依ルモ如何ナル不測ノ変事無キヲ保シ難ク調査団ニ

多少ノ危険ヲ覚悟セシメ置く必要アリ特ニ顧維鈞ヲ伴フコトハ全然不可ニシテ已ムヲ得スンハ日支兩國委員ノ同行ヲ遠慮セシムルノ外無シ此点ニ付テハ關東軍及満州国側モ全然本使ト同意見ナルコト明白トナレリ依テ吉田大使ニ今ヨリ右事情ヲ調査団ニ了解セシメ置く様勧告セリ。

三、曩ニ申進メタル通り調査団が満州ニ於ケル權力ノ存在ヲ認ムルコト調査ノ使命遂行上当然且必要ナル処從來我方参加委員モ余リ此点ヲ重視セス啓発不充分ト思ハレ又調査団モ承認問題等ニ拘泥シ満州国側ヨリ出テタル懇切ナル挨拶等ハ総テ黙殺シ成ルヘク日本ノミニ責任ヲ取ラシメ満州国ノ存在ヲ無視セントスルノ態度ヲ示シ満州国政府側ハ極度ノ不快ヲ感シ居レリ此儘ニテハ長春ニ赴クモ要人ハ全部面会セサルヘク調査団ハ立往生シ其感情ノ余波ハ日本ニ累ヲ及ホスヘキコト明ナリ然ルニ一方ニ於テハ満州国側ハ警備及接待ニ付夫々部署ヲ定メ準備ヲ整ヘ誠意ヲ示シツツアリ依テ本使ハ吉田大使ニ對シ調査団ニ對シ適當ノ理解ヲ与ヘ權力ノ存在ヲ認識セシメ満州国側ニ相當ノ礼讓ヲ示スコト調査団ノ為ニモ亦日本ノ為ニモ必要ナルコトヲ力説シツツアリ右ハ調査団が結局如何

ナル報告ヲ為スヘキヤハ予測シ難キモ満州ニ於テ支那本部ト關係無キ別箇ノ權力カ存在スル事實ヲ承認セシムルコトカ公正ナル報告ヲ為サシムル基礎条件ナリトスル本使ノ堅キ信念ニ出テタルモノナリ恐ラク調査団ニ於テモ何トカ弁法ヲ案出スルナラント思ハル。

長春、哈爾賓、齊々哈爾、吉林ニ転電セリ。

141

昭和7年4月22日 在天津桑島総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国官憲の山海関における顧維鈞一行に對する入国阻止計画について

天津 4月22日後発
本省 4月22日後着

第一七七号(暗)

満州国民政部警務司外事課長洪公余ハ松本幸介ト偽名シ邦人平田愛吉、遠藤某等日支人十六名ヲ同伴シ連盟調査団接伴役ト称シ十七日以来山海関ニ滞在中ノ処其ノ言動ニ不審ノ廉アリシヲ以テ内査シタルニ同人等ハ満州国ノ密令ヲ受ケ顧維鈞等支那側隨員ノ入国阻止ヲ目的トスルモノニテ顧ノ来関ヲ待ツテ先ッ入滿拒絶ノ宣言書ヲ突付ケ肯セサレハ

強力ニ訴ヘントスル計画ヲ為シ居ルコト判明シタルニ付同地出張中ノ警察官ヲシテ懇々説諭ヲ加ヘシメ置キタルカ同人等ハ二十一日朝調査団一行ヨリ一汽車遅レ貨物列車ニテ奉天ニ向ケ山海関ヲ引揚ケタリ。

公使、北平、奉天ヘ転電セリ。

142

昭和7年4月22日 芳沢外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛(電報)

連盟調査団に對する満州国側の便宜供与方に關する仏国大使の申入れについて

第一七六号(暗)

本大臣宛英宛電報第四九号ニ関シ
(二三六文書)

二十二日仏国大使來訪冒頭電報英国外使ト同趣旨ノ申入レヲナシタルニ付英国外使ニ對スルト同様応酬シ置キタルカ其ノ際同大使ハ英仏兩國政府カ本件申入ヲ為スニ至レルハ「スチムソン」カ「サイモン」及「タルジュ」ニ懲罰シタル結果ナル旨内話セリ御参考迄。

米、支、南京、北平、奉天、長春ニ転電セリ
英仏独伊ニ転電アリ度

143

昭和7年4月22日

謝満州国外交部総長より
芳沢外務大臣宛

顧維鈞の入満拒絶に関する満州国の態度表明
について

拜啓陳者久シク御尊容ニ接セス遙カニ奉敬慕候時下春暖ノ
候益々御清穆ノ段慶賀ノ至リニ御座候
曩ニ吾人満州新国家組織ニ際シテハ閣下ノ種々懇篤ナル御
援助ヲ蒙リ候段独リ介石深ク謝意ヲ表スルノミナラス三千
万民衆ニ於テ均シク感謝ニ勝ユサル所ニ御座候
今回ノ国際連盟調査団来満ニ際シテハ介石ハ民国ニ打電シ
顧維鈞氏ヲ拒絶致シ候一方本月十七日閣下ニ照会致シ置候
通り一定不易ノ態度ヲ取ルニ決シ居リ候查スルニ本問題ハ
表面ヨリ之ヲ観レハ専ラ顧氏ヲ拒絶スル目的ノミニ在ルカ
如キ観アルモ然シ介石ニ於テハ実ニ其ノ間ニ深意ヲ存スル
次第ニ有之候間茲ニ謹ンテ之ヲ閣下ニ開陳致度候元来中国
人民ノ心理ハ凡テ欧米ヲ崇拜シ日本ヲ卑棄シ今回国際連盟
調査団ノ渡来ニ当リ南京政府及張學良ノ輩ハ極力宣伝スル
ニ皆上海問題満州問題ヲ以テシ若シ国際連盟ノ一臂ノ力ヲ

得ハ日本ニ於テ手足ヲ措ク所無カルヘシト為シ居リ而シテ
満州国ハ新国家タリト雖モ其ノ実人民ノ普通心理ハ大体中
国人民ト相同シキ次第ニシテ其ノ日本ヲ信賴スル心ハ極メ
テ薄弱ニ御座候即チ敝国在廷ノ諸公ノ如キモ貴国ノ真意ヲ
能ク徹底了解スル者幾人有ルヘキカ介石ハ国家ノ重任ヲ負
ヒ深ク杞憂ヲ抱クモノニ有之若シ我満州国民ヲシテ貴国ノ
誠意ヲ明瞭セシムル能ハスシテ尚欧米ヲ以テ無上ノ權威ト
看做スニ於テハ吾人国内ノ治平ヲ求ムルモ不可能ナルノミ
ナラス且ツ張氏父子ノ覆轍ハ将ニ踵ヲ旋サスシテ至ランコ
トヲ恐ルルニ付適々顧氏来満ノ一事ニ因ツテ特ニ敵詞ヲ以
テ拒絶シ強硬ノ態度ヲ執ルニ決シ一ツハ国際連盟ノ以テ特
ムニ足ラサルヲ見セシメ中国人民ヲシテ欧米崇拜ノ痴想ヲ
覚醒セシメムトシ一ハ我満州新国家カ只ニ日本ノ協助ニ待
ツヘキコトヲ知ラシメハ即チ邦基ヲ鞏固ニスルヲ得ヘキコ
トト存セラレ表面ハ固ヨリ対外ニ属シ其ノ実全ク人民ノ心
理ヲ改変スルノ対内問題ノ為ニシテ進ンテハ我東洋ノ平和
問題ノ為メニセントスル次第ニ有之候此等委細ハ夙ニ御賢
察ノコトト存セラレ候得共茲ニ特ニ縷陳致シ候間御諒察被
下度並ニ今後隨時御援助被下円満ヲ臻サシメ我日満両国ノ

国交ヲシテ日ニ益シ親密ナラシメ以テ共存共栄ノ実恵ヲ得
東亜ノ平和ヲ保障セラレンコトヲ期シ私心感禱スル所ニ有
之候
此申進旁閣下ノ御健康ヲ祈上候 敬具

四月二十二日

謝介石謹啓

芳沢大臣閣下

144

昭和7年4月23日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞問題緩和に関する協議について

第二十六号(暗、至急極秘)
往電第六二三号ニ関シ
二十三日夕橋本参謀長田中吉田両大使及本官ヲ来訪ノ上中
央ヨリ軍側ニ対シ無線電話ヲ以テ顧維鈞問題ニ付テハ中央
ニ於テ極メテ機微ナル意見モアリ緩和ノ途ナキヤト相談ノ
次第アリタル処冒頭往電「リットン」ノ軍司令官ニ対スル
挨拶振ニモ鑑ミ先ツ調査団ヨリ新政府ニ対シ然ルヘク挨拶

連盟調査団一行に対する満州国側の強硬態度
について

第一六九号(暗)
本官発奉天宛電報
第一五号(至急)
吉田大使へ
満州国側ニ於テハ連盟委員一行ヨリ何等カノ挨拶アルコト
ト期待シ居ルニ拘ラス既ニ入満セル今日ニ及フモ何等其事
無キニ対シ頗ル不満足ニシテ一行ニ対シ付属地外ニ於ケル

警護ノ責ニ任セサルノミナラス新政府要人ハ公ノ資格ニ於テハ一切面会セスト云フカ如キ險惡ナル空氣ナリ為念大臣へ転電セリ

146 昭和7年4月23日

橋本関東軍参謀長より
真崎参謀次長宛(電報)

リットン委員長の本庄軍司令官訪問記事の掲載禁止について

4月23日 前11時50分発
4月23日 後4時45分着

関参第八二九号(秘)

四月二十三日午前リットンカ私カニ本庄司令官ヲ官邸ニ訪問ス云々ノ新聞ハ一切掲載禁止方関係各方面ニ御配慮ヲ乞フ
朝鮮、関東憲兵隊長、関東庁警務局長スミ

147 昭和7年4月23日

橋本関東軍参謀長より
真崎参謀次長宛(電報)

リットン委員長の本庄軍司令官非公式訪問について

絡ヲ取り得ラルレハ幸甚ナリ」ト申出テタリ

但シ調査委員トシテハ新政権ヲ承認スル法理上ノ権能ヲ有セサルコト明カナルモ或一部ニ於テ之ヲ新政権承認問題ト誤解セラルル虞アル事ヲ懸念シアリタリ

右ニ対シ軍司令官ハ関係方面ト相談ノ上然ルヘク取計フ旨答ヘラル尚リットン卿ハ当地ニ於ケル滞在日数ハ確定セサルモ為シ得レハ毎日若干時間懇談ヲ遂ケ度シト申シ出テ軍司令官モ快ク之ヲ諒承セラル

三、顧維鈞問題ニ関シテハ軍司令官ヨリ満州国政府側ノ意向並ニ其危険性ニ就キテ説明セラレリットン卿ハ之ヲ納得スルト同時ニ予自身トシテハ顧維鈞カ調査員ノ顧問トシテ同行シ居ル以上顧問トシテノ業務以外ノ言動ニ出ツルコトナキヲ保証ス但シ此点ハ新政権ニ了解ヲ求メ然ルヘク処置シ度シトテ極メテ慰懃ナル態度ニテ語レリ

148 昭和7年4月23日

菊池(門也)支那駐屯軍参謀長より
真崎参謀次長宛(電報)

顧維鈞の態度に関する中国学生の批判などについて

4月23日 後3時4分発

4月23日 後6時30分発
4月23日 後10時53分着

関参第八三六号(秘、其一一三)

本二十三日午前十時ヨリ約一時間半軍司令官々邸ニ於テ非公式ニ軍司令官トリットン卿ト会見セラレタルカ其談話ノ要旨左ノ如シ

一、初対面ノ挨拶ヲ交シタル後リットン卿曰ク「五月一日迄ニ予備報告提出ノ必要上日本軍隊ノ兵力ト配置ノ概要ヲ承知シ度、但シ右ハ九月三十日ノ決議ニ基キ理事会ヘ提出スヘキモノニシテ大シテ問題トナルモノニ非ス単ニ事実ヲ知レハ可ナリ而シテ之ニ関シテハ芳沢大臣ヨリ調査団ニ送付セラルル約束ナルモ未タ何等ノ通報ニ接セス」ト

二、軍司令官ハ本省ノ訓令モアリ一行ニ対スル警戒ハ勿論調査上十分ノ便宜ヲ図ル旨述ヘラレタルニリットン卿ハ「予ハ新政権ニ対シテ未タ何等ノ連絡ヲ取り居ラサル所一行ハ三週間乃至一ヶ月満州国ニ留リ調査ヲ為スコトナレハ関係各方面ノ厚意ト協力トニ拠リ其使命ヲ果タシ度、就キテハ軍司令官閣下ノ斡旋ニ依リ新政権側トノ連

4月23日 後11時25分着

天第八六一号(秘、其一二)

連盟調査団カ北平、天津地方滞在中支那官憲ノ執レル欲待振リガ其度ヲ越シテ寧ロ幫間のタリシト殊ニ顧維鈞ノ「リットン」卿ニ対スル態度カ終始主従的ニシテ一給仕ノ観アリシヲ目撃セル支那学生中ニハ支那代表者トシテノ顧ノ態度カ余リニ見苦シク支那カ如何ニ欧米人ノ指導下ニ在ルヲ甘シシ彼等ノ歛心ヲ求ムルニ汲々タルカヲ露骨ニ表示セルハ明カニ支那ノ国辱タルノミナラス黄色人種カ自ラ求メテ白色人種ノ支配下ニ屈服スルモノナリト憤慨スルモノ多ク在天津、広東系青年中ニハ支那ハ滅亡ナリト慨歎スル者サヘアリ又調査団カ北平滞在中彼等ノ態度ハ余リニ傲慢ナリシ結果今次調査団ノ来燕ハ一般住民ヲシテ反白色人種的思想ヲ喚起セシメタリトノ輿論モ見受ケラル
関東、北平、濟南、上海スミ

149 昭和7年4月24日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員との会見内容について

奉天 4月24日 後発

第六二五号（暗）

本省 4月24日後着

本官発哈爾濱、吉林、齊齊哈爾、長春宛電報

合第三二五号

二十三日午後約二時間半ニ亘リ当館ニ於テ連盟調査団一行ト会見シタル処先方ノ質問ハ諸般ノ点ニ亘リタルモ大体政策上ノ重要問題ニ触ルル処ナク主トシテ中村事件及東北四省赤化ノ実情ノ二点ニ集中シ殊ニ中村事件ニ関シテハ情報入手ノ経路交渉ノ詳細ナル経過等ニ関シ日付迄モ問合ス等微細ノ点ニ亘リタリ先方ノ話振リニ徴スルニ（一）調査団一行ハ支那ニ関スル智識極メテ尠ク領事認可状ノ不必要ナリシ点露支協定以外ニ奉露協定ノアルコト露支間ニ外交関係ナキニ拘ハラス東北四省ニ労働領事駐屯シ居ルコト等ヲ質問スル等諸般ノ点ニ於テ支那ヲ普通文明国ヲ見ル眼ニテ觀察シ居ルコト（二）滿州ニ於テハ陸軍、満鉄、領事館ノ三者対立シ居リ陸軍万能ナリトノ先入主アリト認メラレタルコト（三）東北政權ノ独立性ニ関スル觀念薄ク從テ東北四省ノ交渉事件ヲ地方限リニテ処理シ中央ニ移ササルニ付充分ノ理解ナキコト明瞭ナリシヲ以テ本官ハ諸般ノ事例ニ依リ右三点ノ

説明ニ尽シ置キタルカ一二日中再度会見ノコトトナリ居ルニ付本官ヨリ進ンテ東北政權ノ独立性及赤化ノ我国存立ニ及ホス危険等ニ付説明ノ所存ナリ
大臣、支、北平ニ転電セリ

150 昭和7年4月24日

橋本関東軍參謀長より
真崎參謀次長宛（電報）

連盟調査委員一同と本庄軍司令官との第一回

会談について

4月24日後11時0分発
4月25日前0時49分着

関参第八五四号（秘）

本二十四日連盟調査委員一同ハ軍司令官ト正式ノ会見ヲナシ二時間余ニ亘リ主トシテ付属地内外ニ於ケル軍配置ノ状況、兵匪ノ状況並滿州国軍隊ト警察ノ組織兵力及軍トノ関係ニ付詳細ナル質問ヲナシ且撤兵時機ノ見込ニ就キ質ス所アリ

之ニ対シ軍司令官ハ詳細ナル説明ヲ与ヘ撤兵時機ニ関シテハ滿州国カ内外ヨリスル擾乱ニ対シ治安能力ヲ具備スルヲ俟タサルヘカラサルヲ以テ其時機ハ成ルヘク速カナランコ

トヲ望ミアルモ目下ノ処之ヲ明言シ得サル所ナリ本件ハ事政策ニ関連スルヲ以テ政府ノ意向ヲ待ツヘキモノニシテ以上ハ予ノ私見ニ過キスト述ヘラレタリ委細文
会见ハ調査委員ニ対シ概シテ好感ト満足ヲ与ヘタルモノト認ム尚明二十五日ハ第二回ノ会見ヲナシ主トシテ事変勃発当初ノ事項ニ関シ質問アル筈

151 昭和7年4月25日

在北平矢野参事官より
芳沢外務大臣宛（電報）

于冲漢等の特使連盟調査団に日本非難との情報について

北平 4月25日後発
本省 4月26日前着

第二一六号

本官発奉天宛電報

第四五号

二十四日漢字紙ニ依レハ于冲漢、張景惠、袁金鎧等ハ曩ニ連盟調査団滯平中代表吳懷義ヲ当地ニ派シ同団ニ対シ左記九項ノ日本側ノ秕政ヲ挙ケ東北三千万人民ノ救出方ヲ訴ヘタリト云フ

一、貴団着奉後支那官民中偽国家ノ成立ヲ承認セルモノアリタルトキハ右ハ日本側ノ圧迫ニ依ルモノニシテ真ノ民意ニアラス

二、日本人ハ自己ノ犯セル東北擾乱及人民慘殺等ノ証拠ノ漏洩ヲ防ク為全部ノヲ毀滅シ且朝鮮人ヲ支那人ニ変装セシメ貴団ノ行動ヲ阻止セントス

三、日本側カ事件後慘殺セル人民ノ数ハ十万以上ニシテ奉天丈ケニテモ三万ニ及ヒ其他四洮線工夫ノ生埋メトナリタルモノ二百以上アリ

四、東北一般人民ハ決シテ日本側ニ降伏セルニアラス一時其ノ蹂躪ヲ避ケントスルニ外ナラス貴団着奉後ハ其態度ヲ変スヘシ

五、日本側ハ自分等ヲ囚徒同様ニ遇シ総ヘテノ自由ヲ奪ヒ生命スラ危険ナリ

閻沢溥、張魁恩等ノ行方不明ハ之ヲ立証ス

六、日本側ハ軍警ヲ各県ニ派シ人民所有ノ銃器ヲ没収中ナルカ右ハ人民ノ義勇軍ニ投シ反抗スルヲ防止センカ為ナリ

七、最近日本当局ハ将来世界戦争ニ備フル為ト称シ軍警三

千ヲ各県ニ派シ農産物ヲ市価ノ二十分ノ一ニテ徵発中ナルカ人民ハ之ニ耐エ得ス救国軍ニ投シツツアリ
八、日鮮移民三十万人ハ既ニ陸統東北ニ到着中ニテ任意ニ支那人所有ノ田畑ヲ占領シツツアリ
九、東北ノ教育ハ完全ニ停頓シ即チ貴団ノ来觀ニ供スル為日本側指立ノ一部小学及女学校ヲ除キ他ハ全部解散セラレ且教師数十名ハ銃殺セラレタリ
大臣、支、南京、天津、吉林、哈爾賓、長春へ転電セリ
哈爾賓ヨリ齊々哈爾へ転電アリ度シ

152 昭和7年4月25日 ※在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟事務局員に対する朝鮮人農民の陳情について

奉天 4月25日前発
本省 4月25日前着

第六三四号(暗)

吉田大使ヨリ

第五号

廿四日午前鮮人約五十名連盟事務局員ト会见(委員ハ本庄

佐ヨリ詳細ナル説明ヲナシタルカ「リットン」卿ノ質問細微ヲ極メ終了ニ至ラス明二十六日第三回ノ会见ヲナシ右北大營戰鬪經過ノ説明ニ関連シ質問アル答

154 昭和7年4月26日 ※在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

日本軍撤退に関する連盟調査委員と本庄軍司令官との問答要領について

奉天 4月26日後発
本省 4月26日後着

第六四九号(暗)

吉田ヨリ

第六〇号

四月廿四日午前調査委員ハ軍司令部ニ軍司令官ヲ往訪約二時間ニ互リ満州ニ於ケル日本軍配置ノ状況満州国ノ軍隊ノ状況同軍隊内ニ於ケル日本人顧問警察日本軍ノ撤退問題等ニ付質問ヲ試ミタルカ右ノ内日本軍撤退ニ関スル問答要領左ノ通

問、治安維持ノ略々実現スルハ何日頃ナリヤ
答、治安ハ満州国全体ニ互リ維持セラルルコト必要ニシテ

司令官ト会见ノ為留守中)何レモ支那側ノ迫害ヲ蒙リテ当地ニ避難シ来リタル農民ナルコトヲ告ケ付属地外ニ於ケル生命財産ノ不安、借地及農作ニ対スル妨害、不当課税、帰化強制等ニ関シ夫々陳情スル処アリ当初連盟側ニ於テハ本件陳情ノ真意ニ関シ多少疑念ヲ抱キ從テ種々突込ミタル質問ヲ發シタル処鮮人側ヨリ之ニ応シテ土地賃借契約書等証拠物件ヲ提示スルト共ニ各自ノ経験ヲ詳細説明スルニ及ヒ連盟側ニ於テモ鮮カラス感動ヲ与ヘタリ
支、北平、長春、吉林、哈爾賓、齊々哈爾へ転電セリ

153 昭和7年4月25日 橋本関東軍參謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

北大營戰鬪經過等に関する連盟調査委員と本庄軍司令官との会談について

4月25日後5時20分発
4月25日後11時38分着

関参八六九(秘)

連盟調査員一同ハ軍司令官ト会见シ午前十時ヨリ約二時間半ニ互リ今回事件發生當時ノ情況殊ニ北大營戰鬪經過ニ就テ訊ス所アリ最初軍司令官ヨリ大綱ヲ説明セラレ後島本中

反政府軍及馬賊ノ大集団ハ年内ニ掃蕩シ得ル見込ナリ
問、日本軍ノ付属地内撤退ハ大体何日頃ノ見込ナリヤ
答、満州国全体ニ互リ治安維持セラレ内外ヨリ攪乱セラルル惧ナキニ至ル迄撤退不可能ニシテ其ノ期日ハ今ノ処全然予測スル能ハス
問、目下ノ日本軍駐兵ノ目的ハ当初ノ目的ト異ナリタルモノナリヤ

答、付属地へ撤退ノ条件タル満州全体ノ治安維持ト日本人ノ生命財産ノ完全ナル保護トノ間ニハ密接ナル関係アリ駐兵ノ目的ニ付以前ト今ト根本ニ於テ変化ヲ認ムルヲ得ス
問、事變當時ハ治安維持ノ責任者タル支那軍無クナリシ為日本軍出動シタルモノナル処満州内ノ治安カ完全ニ維持セラルルニ至ラハ日本軍ハ撤退シ得ルヤ
答、治安カ完全ニ維持セラルレハ自分一個トシテハ撤退シ得ヘシト思考ス但スル問題ハ日本政府ノ決スヘキモノナリ
公使、北平、長春、吉林、哈爾賓、齊々哈爾へ転電セリ

155 昭和7年4月26日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州事変勃発状況に関する連盟調査委員と本
庄軍司令官との会談について

奉天 4月26日後発
本省 4月26日後着

第六五〇号(暗)

吉田ヨリ

第六一号

調査委員会ト軍司令官トノ会見ハ引続キ行ハレタルカ先ツ
委員長ヨリ九月十八日事件ニ関シ同司令官カ最初右情報ヲ
入手シタル時日、其場所並ニ其直後ニ採リタル措置等ヲ相
当突込ミテ質問シ之ニ対シ軍司令官ヨリ夫々答フル所アリ
奉天ニ於ケル軍事行動ニ関シテハ島本大隊長ヨリ北大營其
他ニ於テ入手シタル支那軍ノ日誌、宣伝「ポスター」、奉
天付近小学校ニ於テ使用シ居タル排外教科書等各種証拠物
件ヲ提示シテ事件勃発前ニ於ケル支那側ノ対日挑発的態
度、事件勃発当時ノ模様等ヲ詳細説明シタリ明廿六日更ニ
続行ノ予定

支、北平、長春、吉林、哈爾賓、齊々哈爾ニ転電セリ

156 昭和7年4月26日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の奉天における動静について

奉天 4月26日後発
本省 4月26日後着

第六五四号(暗)

吉田ヨリ

第六二号

一、連盟委員ハ廿一日夜当地着後森島総領事代理本庄司令
官其他トノ会見ヲ為シ居ル処委員側ニ於テハ特ニ軍司令
官トノ会見ヲ重要視シ居リ右ハ廿四、五両日ノ会見ニ引
続キ今後数回行ハルル見込ニシテ我方ノ説明詳細懇切ヲ
極メ居レル為相当先方ニ好印象ヲ与ヘ居ルモノト看取セ
ラル

二、予備報告提出時期モ切迫シ来レル関係モアリ既ニ当地
着前車中ニ於テ書記局員案文起草ニ取掛リ始メタルカ着
奉後書記長ノ許ニ小委員会ヲ設ケ「コツツエ」「パスチ
ュホフ」等ニ於テ起草ヲ取急キ居レル処一両日中ニ委員

支、北平、長春、連盟へ転電セリ

157 昭和7年4月26日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員提出の第一回報告書記局案内
について

奉天 4月26日後発
本省 4月26日後着

第六五七号(暗、極秘)

吉田ヨリ

第六四号

伊藤ヨリ

一、調査委員ノ提出スヘキ第一回報告(九月三十日ノ決議
ノ実行如何ニ関スルモノ)ニ関スル「ハース」ノ意見ハ電
報シ置キタルカ他方書記局員ヲ通シ我方ノ記載希望事項ヲ
申述ヘ置キタル処右報告書記局案ハ二十五日夜作製ヲ終リ
二十六日午後四時ヨリ委員ノ審議ニ移サレタリ
二、小官カ極秘トシテ得タル内示ニ依レハ右案ハ先ツ以テ
九月三十日ノ決議ヲ挙ケ両当事国ノ義務ニ付(一)軍隊ノ撤退
及(二)形勢悪化防止ニ関スル二点ヲ指摘シタル後調査団極東

会ニ付議シタル後参与委員ニ内報シ来ル見込ナリ
三、右ノ如キ重要会見予備報告ノ起草ノ事務アル外一方ニ
於テ委員ト新国家トノ接触問題並ニ之ニ関連スル顧維鈞
入満問題アリ之カ結末ヲ付クル為ニハ少クトモ玆数日ヲ
要スヘク殊ニ委員長ハ当地ニ来リテ始メテ調査ノ目的地
ニ来リタリトノ感想ヲ洩シ居ルヲ以テ旁当地滞在期間ハ
予定ノ四、五日ニ拘ラス少シク長引クモノト思ハル
四、委員長ハ北平出發当時ニ於テハ満州国ノ地位ニ一種ノ
偏見ヲ有シ満州政府ノ委員宛電報事件、奉天北平間列車
直通問題ニ付テモ我政府ニシテ欲セハ満州政府ヲ自己ノ
儘ニシ得ヘシトノ誤解ヲ有シ居タルヲ以テ我方ニ於テ説
明ニ努メタルモ入満経路列車直通ニ関シ委員側ヨリ鮮カ
ラス我儘ナル注文ヲ為シ来リ委員長ト相当不愉快ナル議
論ヲナシタルコトアリタル処当地着以来委員長モ漸次其
態度ヲ緩和シ来リ新国家側ニ対スル接触ニ就キテモ満州
政府側ニ直接何等カノ形式ニ於テ挨拶スヘキ必要ヲ認ム
ルニ至レリ
右ハ固ヨリ満州政府存在ノ事実ヲ無視シテ調査ヲ遂行シ
得サルヘキコトヲ了解セラレ来リタルニ依ル

到着以後ニ於ケル同団ノ行動ヲ叙シ此際調査団報告ノ一部トシテ日本軍ノ撤退状態ノミヲ記シ一般形勢悪化ノ事実ハ之ヲ認メサルヲ得サルカ如キモ今回ハ之ニ関シ意見ヲ述ヘストナシ満州ノ軍事状態ノ記述ニ移リ日本軍満州国軍反抗軍及匪賊ノ状況ニ関シ説明ヲ為シ居ルカ右ハ委員カ我軍司令部ヨリ供給セラレタル資料ニ依ルモノニシテ殊ニ本報告案ハ軍司令官カ委員ニ為シタル満州国軍隊及警察力ノ構成乃至我軍憲ノ之ニ対スル関係ニ関スル説明ヲ記載シアリ又満州ノ現形勢ハ匪賊ヲ除キ大体「ステイショナリー」ナルモ唯北滿ニ於テハ或軍隊ノ態度決定セサル為不安アリトセリ右記述ノ結論トシテ日本軍憲ノ意見ニ依レハ日本軍ノ鉄道付属地内撤退ハ満州現下ノ秩序及安全状態ニ鑑ミ不可能ノ状況ニアリ右撤退ハ主トシテ満州国軍隊及警察力組織実現ノ程度如何ニ繫レリトナシ何等委員会トシテ意見ヲ加ヘ居ラス

三、右報告案中改正ヲ希望スル点ニ関シテハ既ニ或委員ヲ通シ申入レ置ケル次第ナルカ本報告ハ一両日中ニ我参与委員ニ通報アルヘシト存セラル

寿府ヨリ英仏独伊米ニ転電アリタシ

159

昭和7年4月26日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国側の顧維鈞問題に対する態度やや緩和について

長春 4月26日前発
本省 4月26日後着

第一七七号(暗、極秘)

二十五日「リットン」卿ヨリ謝介石宛一行ノ視察ニ対スル便宜供与方ニ関シ挨拶ノ電報ヲ寄セ来リタルニ付新国家側ニ於テモ態度稍緩和シ来リ同日午後ノ閣議ニ於テ顧維鈞ノ入国許容方ニ関シ大要左記条件ヲ以テ考慮スルコトニ決シタル旨大橋ヨリ電(話)アリタリ

一、支那側随員ハ五名トス但新政府ノ指名スルモノタルコト

二、顧ヲ同伴スルコトヲ要スル理由並ニ顧一行ヲシテ新国家ノ治安ヲ乱シ若ハ不利益トナルカ如キ言動ヲ為サシメサルコトヲ書面ヲ以テ申入ルルコト

三、顧一行ニ対シ数名ノ監視人ヲ付随セシメ前項ニ違反シタル言動アリタル時ハ仮借ナク逮捕シ法ニ照シテ処罰ス

支、北平、南京、連盟ニ転電セリ

158

昭和7年4月26日

※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州各地朝鮮人代表の連盟調査委員に対する陳情について

奉天 4月26日後発
本省 4月26日後着

第六六五号(暗)

吉田ヨリ

第六八号

廿六日午後満州各地(安東、鉄嶺、奉天、長春)鮮人代表者四名調査委員ニ陳情申出テ委員側ヨリ「カット・アンゼリノ」之ト会见シ支那側ノ鮮人庄迫問題就中不当課税万宝山事件等ニ関シ約三時間ニ亙リ質問応答ヲ為シタル処殊ニ万宝山事件ニ関シテハ当時直接之ニ関与シタル長春鮮人居留民代表ヨリ自己ノ実歴談ヲ為シ少カラサル印象ヲ与ヘタリ「アンゼリノ」ハ委員一行ノ長春滞在中前記鮮人ヲ同道シ自ラ万宝山ニ赴キ調査シ度キ旨内話セリ

支、長春、連盟へ転電セリ

へシ

四、顧一行入国ノ上ハ相当ノ保護ヲ為スヘキモ万一ノ事故アリタル場合ニ於テモ新国家ニ於テ責任ヲ負フ能ハス

五、顧ヲシテ新聞記者等トノ会见ニ於テ為シタル新国家ノ体面ヲ傷クルカ如キ言説一切ノ取消ヲ為サシムルコト

支、北平、奉天、吉林、哈爾濱、齊齊哈爾ニ転電セリ

160

昭和7年4月26日

橋本関東軍参謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

事変初期の戦闘に関する連盟調査委員と本庄軍司令官との会談について

4月26日後6時10分発
4月26日後10時28分着

関参八八三(秘)

二十六日午前十時ヨリ約二時間ニ亙リ連盟調査委員一同軍司令官ト第三回会见ヲ行ヒ事変発生当時ニ於ケル北大營ノ戦闘経過及ヒ吉林出動迄ノ経過ノ概要ヲ聴取シ各委員ノ疑問トスル所殊ニ欧米ニ於テ闡明シ得サリシ所並ニ支那側ノ宣伝スル所等ニ関シ質問ヲ発セリ

而シテ其ノ質問ノ重ナル点ハ事件発生ノ原因カ日本側ノ計

画的行為ナラサルヤノ疑ト局地ニ於ケル北大宮ノ戦闘ヲ南満鐵道沿線一帯及ヒ吉林付近ニ迄波及セシメタル理由如何等ニ関スル点ニアリシモ之レニ對シ軍主任參謀及ヒ守備隊長等ヲ交ヘテ一々詳細ニ説明シ一同ヨク之レヲ了解セリ
二十七日モ午後二時ヨリ会見シ事變發生當時ニ於ケル軍ノ治安維持ノタメトリタル手段、水道・電氣ノ管理等ニ関シ質問スル答ナルカ今日迄ニ於ケル空氣ハ概シテ良好ナリ
尚調査委員ノ入滿問題ニ関シ昨二十五日午後一時「リットン」卿ハ謝介石ニ對シ左記電報ヲ發シ滿州國トシテモ調査委員ノ調査ニ便宜ヲ与フル旨並ニ奉天市長ヲ接待員トスル旨ヲ返電セルニツキ之レヲ契機トシテ何等カ局面轉換策ヲ講シ得ルモノト判斷セラル

左記電文（リットン發謝介石宛）

奉天到着ニ當リ余ハ連盟調査委員團ヲ代表シテ貴下ノ歡迎電文中ニ用ヒラレタル鄭重ナル言辞ハ貴下カ我々ノ訪問中我カ團ノ重要ナル行動並ニ連盟理事会ノ決議ニ依リ其ノ使命遂行ニ對シ便宜ヲ与フルタメ最善ヲ尽サル可シトノ我々ノ信頼ヲ裏書キスルモノナル事ヲ貴下ニ向ツテ確言致シ度シ

六号ノ如キ謝介石個人宛電報案ヲ示シ意見ヲ求メタリ依テ領事ヲ經テ内々滿州國側ト打合サシメタルトコロ同國側ハ同案ニ謝意ヲ述ヘアラストテ反對シ他方委員長ハ我方ニ於テ長春領事ト同案ニ関シ交渉セル事ヲ好マス同電發送ヲ見合セントシタリ依テ滿州國側ニ對シテハ同案中 Commission of inquiry that a Commission of inquiry that our appreciation of 又 welcome の後ニ which ヲ挿入シ先方ノ好意ニ對スル謝意ヲ了セシムル事ヲ以テ折合ハシメ他方伊藤ヨリ「ハース」ヲ通シ右修正案ヲ採用方試ミタリ

(三)⁽³⁾ 委員會ハ二十五日朝會合シタルカ我方ノ修正意見ニ拘ラス原案ノ儘ニテ午前十一時頃滿州國側ニ發電シタリ然ルニ委員會ニ於テハ予メ正式ニ我方ニ通知シ越サス偶塩崎ヨリ「ハース」ニ問合セシニ對シ右事實ヲ知リタル次第ニテ委員會側態度ハ不都合ナルモ本件円滿解決ノ要アリ一方長春政府ニ對シテハ右電報受諾方勸告スルト共ニ軍司令官ニ對シテハ伊藤ヨリ懇談ヲ遂ケタルカ同日夕刻長春ヨリ滿州政府閣議ニテ右電報ヲ受領スルコトニ決定シタル旨ノ通報アリ又一方軍司令官モ伊藤ニ對シ大局ニ鑑

161 昭和7年4月27日

※在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員と滿州國側の關係緩和の方策について

第六五八号（暗、至急、極秘）

奉天 4月27日後発
本省 4月27日後着

吉田ヨリ

第六五号

(一) 委員長ハ何等カノ手續ニ依リ新國家ト接觸ノ途ヲ講セン
ト欲シ廿三日午前軍司令官ノ援助ヲ求メシニ付大使橋本參謀長伊藤參事官總領事代理ト協議シタルカ他方長春ノ態度硬化セリトノ電話アリ（同地發奉天宛電報第一五号参照）委員長ヲシテ挨拶ノ電報ヲ新國家ニ發セシムルコト緊要ナリト認メ同夜「リットン」ニ長春ノ意向ヲ内話シ新國家側ニ挨拶スルハ承認問題ニ關係無キコトヲ説キタルカ委員長ハ右異議無キモ他ノ委員トモ諮ルヘキ旨ヲ述ヘタリ

(二)⁽²⁾ 次テ二十四日朝委員會ハ協議シ午後本使ニ對シ別電第六

ミ本件連盟側ノ処置ハ之ヲ荒立テテ問題トセス他ノ方法ニ依リ時局解決ヲ為スコトニ同意セリ

四長春政府ハ二十六日午後「リットン」ニ對シ右電報ヲ受領セル旨並重ネテ委員會ニ對シ便宜ヲ供与スヘキ用意アルコトヲ述ヘタル趣旨ノ書翰ヲ送ルコト並委員接待役奉天市長閻伝綏ヲシテ便宜供与方ニ對シ委員會ト接觸方訓令ヲ發スルコトナリタル由ニテ本件ハ一段落ヲ

見ルコトナレリ

(見当ラズ) 別電ト共ニ公使、長春、北平、南京、連盟ニ転電セリ

連盟ヨリ英、仏、独、伊、米ニ転電アリタシ

162 昭和7年4月27日

※在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査団の第一回報告案および本案に対する日本の態度について

第六六三号（暗、大至急極秘）

奉天 4月27日後発
本省 4月27日後着

吉田ヨリ

第六七号

伊藤ヨリ

往電第六四号末段ニ関シ
(一五七文書)

(一)内閣ニ依ルニ本件報告案ニ関スル廿六日夕ノ委員審議會ニ於テハ当方希望ノ如ク報告案中形勢悪化ノ事実云々ノ箇所ヲ改メ形勢悪化避止ノ義務カ実行セラレ居ルヤ否ヤハ未タ充分ナル情報ヲ得居ラサルヲ以テ此処ニハ之ニ触レス将来ノ報告ニ残スヘシトノ趣旨ニ變更シ又将来其ノ他細目ノ点ヲ改正シタル上廿七日午前十一時ヨリ最終審議ヲ為ス筈

(二)若シ此ノ上本件報告案ニ變更カ加ヘラルコト無シトセハ右ハ殆ト我方ノ材料ニ依リ事実ヲ記述シタルモノナルヲ以テ其ノ儘承諾スルモ多大ノ不都合無カルヘク而シテ若シ我方ニ於テ本報告ニ対シ何等意見回示ノ必要ヲ認メラルルニ於テハ右カ理事会ニ提出セラレタル際我理事ヲシテ之ヲ述ヘシムルコトモ亦一案ニシテ若シ我方意見カ奉天宛電報貴電第二一三号ノ如キモノトスレハ本件報告カ単ナル事実ノ記述ニ限ラルル以上特ニ記入ヲ強請スル程ノコトモナカルヘシト思考ス

(三)本件報告案ニ対スル右ノ如キ觀察ハ本文ヲ見タル上ナラ

テハ決定シ能ハサルハ勿論ナルモ右報告書カ何時頃我

「アッセツサー」ニ提示セラルルヤ否ヤ不明ナル上(本廿七日午後ナラントモ云フ)一度提示アリタル上ハ右ニ対スル「オブゼルバシヨ」提示期間ハ頗ル短ク其ノ為長時間ヲ要求シ得サル為速ニ我態度ヲ決定スヘキ必要ニ迫ラルルコトト存セラルルニ付(二四時間又ハ四八時間ナラント云フ)右御参考迄申進ム

在支公使、北平、南京、連盟ニ転電セリ

連盟ヨリ英、米、仏、伊、独ニ転電アリ度シ

163 昭和7年4月27日

橋本関東軍参謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

満鉄爆破地点の修理状況に関する連盟調査委員と本庄軍司令官の会談について

関参八九七(秘)

本二十七日午後二時間ニ互リ連盟調査員一行軍司令官ト会見シ鉄道爆破地点ノ修理ノ情况、事件当初交付セル布告文作製ノ経緯、奉天付近ニ於ケル歩兵第二十九連隊ノ戦闘経

過、事件発生ノ直後ニ於ケル治安維持ノ情况等ニ就キ訊ス処アリ、之レニ対シ各主任者ヨリ詳細説明シ尚各部隊ノ執リタル独断行動ニ就キ特ニ司令官ヨリ抽象的説明ヲ加ヘラレタルニ一同満足セルモノノ如ク(委細文)以上ニテ奉天方面ノ軍事ニ関スル事項ハ終了セルモノト認ム、明日ハ休憩シ廿九日午前十時ヨリ会見アル筈

164 昭和7年4月28日

※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

リットン調査団と満州国との接触問題について

第六六六号(暗)

吉田ヨリ

第六九号

往電第六五号ニ関シ
(一六二文書)

新国家トノ接触問題ニ付廿七日軍司令部ニ於テ関係者協議ヲ為シタル結果大橋ノ意向ヲモ参酌シ左ノ趣旨ヲ以テ司令官ヨリ委員長ニ挨拶スルコトナレリ

165 昭和7年4月28日

※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員と本庄軍司令官との会談中注意すべき諸点について

第六七三号(暗、極秘)

吉田ヨリ

第七三号

調査委員ハ本庄司令官ト(一)二十六日午前第三回(二)二十七日

奉天 4月28日後発

本省 4月28日後着

午後第四回会見アリ(一)ニ於テハ北大宮ノ攻撃長春及吉林ニ於ケル軍事行動等ニ関シ質問応答アリ(二)ニ於テハ委員長ノ要求ニ依リ先ツ九月十八日爆破セラレタル鉄道ノ修理ニ当リタル満鉄従業員ヨリ当時ノ模様ヲ説明シタル後主トシテ奉天城攻撃旧奉天施政機関ノ解消等ノ経緯ニ関シ質問アリ其ノ内注意スヘキ点次ノ如シ

(A)委員長ハ日本軍ノ積極行動ニ関スル質問ニ対シ軍司令官ヨリ支那ノ大軍ニ対シ少数我軍ハ移動ノ敏速ト機先ヲ制スルコト絶対必要ニシテ平素ヨリ此ノ訓練ヲ為シ居リシカ支那正規兵ニ依リ鉄道爆破セラレタルノミナラス守備隊ハ支那兵ノ攻撃ヲ受ケタルヲ以テ同隊ハ鉄道守備本来ノ任務ト平素訓練ノ趣旨トニ鑑ミ上司ノ命令ヲ俟ツコト無ク直ニ攻撃的態度ニ出テタルモノナリト説明セリ

(B)⁽²⁾委員長ハ九月十九日午前九時頃奉天ニ於テハ既ニ軍司令官ノ告示揭示セラレタリトノ説ニ対シ尋ネシニ軍ノ告示ハ

- (一)奉天憲兵隊ノモノ
- (二)軍司令官ノモノ
- (三)第二師団長ノモノ

166 昭和7年4月28日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

謝外交部総長より連盟調査団に対する電報に

ついで

別電 同日在長春田代領事より芳沢外務大臣宛第一八

四、一八五号

歓迎の意表明および注意喚起について

長春 4月28日午後
本省 4月28日後着

第一八三号(暗)

(一九五九文書)

往電第一七七号ニ関シ

連盟一行ノ挨拶電ニ対シ謝介石ヨリ廿六日別電第一八四号ノ通り回電スルト共ニ連盟一行ノ入滿ニ関連シ反動分子カ種々惡辣陰險ナル策動ヲ為シ以テ一行ノ新国家ニ対スル印象ヲ悪化セシメントシツツアル事実ニ対シ「リットン」卿ノ注意ヲ喚起シ度旨廿七日別電第一八五号ノ如キ電報ヲ発シタリ

支、北平、奉天へ転電セリ

(別電)

(一)

ノ三アリ

(一)ハ十九日正午頃新聞ニ発表シ午後二時頃揭示シ
(二)ハ十九日午後四時頃新聞ニ発表シ二十一日午後七時頃印刷終了シ

(三)ハ十九日夕刻新聞ニ発表シ二十一日以後ニ揭示シタルモノ

ナル旨説明セリ

(C)委員長ヨリ軍ハ何故地方行政機関ヲ破壊シタリヤト問ヒタルニ対シ軍ヨリ右ハ全然誤解ナル旨述ヘタル後奉天ニ於テハ市街戦ノ結果支那側要人殆ト逃走シタル為行政機関ハ事実上解消スルニ至リ人心安定ノ目的ノ為地方事情ニ精通スル邦人数名ヲ選ヒテ行政ニ当ラシメタルカ其ノ後支那側要人中漸次帰還スルモノアリ之等ニ依リ地方維持委員会組織セラルルニ及ヒ十月二十日日本側ハ之ニ行政一切ヲ譲リ全然手ヲ引キタルカ吉林、黒竜江両省ニ於テハ支那側行政機関ノ解消無ク從テ最初ヨリ日本側ニ於テ行政ニ当リタルコト無シト答ヘタリ

支、北平、長春へ転電セリ

Choshun, April 28th, p.m.

Received, April 28th, p.m., 1932.

Gaimudajin, Tokio.

No. 184

Upon receipt of your telegram of yesterday I desire on behalf of the State of Manchuria to express again our sense of welcome to your Commission and assure you our readiness to accord to you due courtesy and facilities for making your trip in Manchuria a success.

支、北平、奉天へ転電セリ

Tashiro.

U

Choshun, April 28th, p.m.

Received, April 28th, p.m., 1932.

Gaimudajin, Tokio.

No. 185

With desire of contributing to your enquiry I like to invite your attention to a sign marked in Manchuria since the coming of your Commission to the Far East

that reactionary elements in evident connivance with the former military clique in the south and with the red schemers in the north seem to be busily engaging in petty but vicious disturbances and intrigues in order to impress you unfavourably with the state of affairs in our country.

文、北平、奉天へ転電セリ

Tashiro.

167 昭和7年4月29日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査団予備報告案の内容大要について

奉天 4月29日前発
本省 4月29日前着

第六七九号(暗、大至急、極秘)

吉田ヨリ

第七四号

一、二十八日午前委員会ハ予備報告案ノ討議ヲ続ケタル処午後「リットン」ハ本使ヲ招キ該報告案ニ二案アリ其要旨同一ニテ辞句異ルノミ何レカニ確定スヘシ委員中連盟

ニ提出前参与員ニ示スヘカラスト言フ者アルヲ以テ朗読スヘシ、該報告(ハ)「ノン、コントロバーション」ナルカ若シ御異議アラハ寿府ニ於ケル帝国代表者ヨリ又ハ直接日本政府ヨリ連盟ニ申出アリタシト述ヘタリ内容大略左ノ通り

二、委員北平ニテ旧東北官憲ヨリ奉天ニテ本庄中將其他ヨリ満州事件ヲ聴取セリ問題ハ

(一)日本軍ノ鉄道付属地内ヘノ撤退ニシテ

(二)鉄道付属地外ニ於ケル日本人ノ生命財産ノ保護ニ関スル支那側ノ責任

(三)事態悪化防止ニ関スル両当事国ノ義務

ノ三ナルカ右ニ関シ未タ一切ノ情報ヲ入手スルニ至ラサルモ左ノ情報ヲ得タリトテ満州ニ於ケル日本軍ノ兵力ハ客年十二月初旬ニ於テ付属(地)内四千、付属地外八千九百、本年四月末現在ハ付属地内六千六百、付属(地)外一万五千八百ナルカ之ノ外ニ満州軍アリテ日本陸軍官憲ノ援助ニ依リ改革行ハレ居リ之カ為退職又ハ現役ノ日本將校ニシテ傭聘セラレ其ノ数増シツアリ現ニ現役將校五名、退職將校若干名顧問トナリ更ニ現役將校十五名

小部隊三万

(四)匪賊漸次増シツアリテ東支線ノ南ニ四万吉林ノ東

北ニ一万二千アリ日本軍ハ之等匪賊討伐ノ為満州政

府軍ト共同動作ヲ執リ居レリトノコトナリ

日本軍ハ未タ鉄道付属地内ニ撤退スルニ至ラス現地ノ日本陸軍官憲ハ何時満州ニ於ケル平和及秩序ノ状態カ日本軍隊ノ付属地ヘノ撤収ヲ許スニ至ルヘキヤ言明シ得スト云ヘリ該官憲ハ右撤収ハ満州国政府軍(troops described as Manchurian government army)改革ノ進捗程度ニ懸ルト考ヘ居ルカ如シト述ヘ最後ニ別電第七五号ノ章句ヲ以テ結ヒ居レリ

三、報告書案ノ内容ハ支障ナシト存セラルルモ御意見アラハ寿府宛御電訓アル様致シタシ

連盟ヨリ前電ノ通転電アリタシ

(見当ラズ)本電別電ト共ニ支、北平、南京、長春、連盟へ転電セリ

168 昭和7年4月29日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞問題解決に関する関東軍橋本参謀長と

傭聘セラルル管ナリ三月末ニ於ケル満州政府軍ノ数ハ八万五千、公安隊十一万九千ニシテ其ノ内六万ハ地方警備ニ当リ居リ日本官吏ノ援助ニ依リ警察ノ改革行ハレツツアリ北平ニテノ情報ニ依レハ九月十八日東北軍ノ兵力ハ奉天省六万、吉林省八万、黒竜江省五万、計十九万ニシテ其中奉天省ノ五万ハ其後関内ニ引揚ケタリ

日本側ノ情報ニ依レハ現在ノ兵力ハ十一万、内満州政府軍六万、外吉林ノ東北ニ日本ニ反対スル三万、外残り二万ハ義勇軍ニ加ハリシナラン満州国ヲ認メサル軍隊ハ

(一)王徳林軍三万

(二)李海青軍一万

(三)熱河ノ騎兵第九旅残部三千ノ外

(四)義勇軍有リ右義勇軍中ニハ

(イ)東北抗日義勇軍(奉天ノ西錦州ノ北)一万五千乃至二万五千

(ロ)東北国民義勇軍(主トシテ奉天付近数判明セサルモ減シツツアリ)

(ハ)熱河義勇軍(湯玉麟ノ騎兵隊三千)

(ニ)山海関付近及敦化ヨリ天宝山ニ至ル各地ニ散在スル

リットン委員長との会談について

奉天 4月29日前発
本省 4月29日後着

第六八四号（暗、極秘）

吉田ヨリ

第七六号

（一六四文書）
往電第六九号ニ関シ

（一）廿八日午前參謀長軍司令官ノ代理トシテ「リットン」ヲ往訪シ前記往電ノ趣旨ニ依リ委員ノ奉天ニ於ケル滿州国要人側トノ接触ハ端緒ニ入りタルモノト思フト述ヘタルニ委員長ハ直接長春ニ於ケル責任者ト連絡ヲ執リ顧維鈞問題ヲモ解決シ度シト述ヘタルヲ以テ參謀長ヨリ滿州側ニ於テハ一定ノ条件ニ依リテハ顧維鈞等ノ入滿ヲ許ス意向ナルカ如ク即チ其ノ隨員ノ數ヲ制限シ滿州国ノ同意スヘキ人選行ハルルコト及既ニ委員長ヨリ軍司令官ニ約セシ如ク顧維鈞及隨員カ調査ノ任務以外ノ言動ヲ為ササルヘキ保障ヲ書面ニテ為スコト等ノ条件カ基礎トナルヘシトテ右交渉ノ為代理者ヲ長春ニ派遣スル意向アリヤト聞キタルニ委員長ハ右委員會政策ニ関シ自ラ之ニ当ルヲ要スヘキヲ以テ代理ヲ派遣

事項3 リットン調査団の動向

十二月十日ノ理事会決議第五項ニ遵拠シ任命セラレタル調査委員會ハ四月二十一日奉天ニ到着シ現ニ実地調査ニ従事シツツアリ。委員會ハ極東到着以來日本及支那ノ一般の状況ニシテ委員會ノ任務ニ関係ヲ有スルカ如キモノニ付調査ヲ為シ来レリ。委員會ハ東京、大阪、上海、南京、漢口、天津、北平ヲ訪問シ兩國政府当局ト協議シ且利害関係ヲ有スル兩國多數ノ団体及各方面ノ代表者トモ會談ヲ遂ケタリ。北平ニ於テハ九月十九日以前ノ東北三省当局ノ代表者ニ會見シ奉天到着以來ハ日本總領事代理及在滿日本軍司令官本庄將軍其他ト會談シタリ

十二月十日ノ決議ニ関スル理事会議長ノ宣言ハ委員會カ現地に到着後出來得ル限リ速カニ九月三十日ノ決議中ニ規定セラレ且十二月十日ノ決議中ニ反覆セラレ居ル一定ノ約束ヲ日支兩國政府カ履行シ又ハ履行セサルニ付関係ヲ有スルカ如キ現在ノ状況ニ関シ予備報告ヲ理事会ニ提出スヘキコトヲ命令シ居レリ右約束トハ

（イ）日本政府ハ「日本臣民ノ生命財産ノ安全カ有効ニ確保セラルルニ從ヒ日本軍隊ノ鉄道付屬地内撤収ヲ出來得ル限リ速カニ統行スル」コト

スルコト困難ナリ就テハ当地ノ調査ヲ切上ケ長春ニ向ヒ度キニ付同僚ノ意向ヲ徵スヘシト答ヘタリ

（二）同日午後五時參謀長約ニ依リ「リットン」ニ會見シタルニ（本使モ同席ス）委員長ハ支那側人員ハ六名位ニ制限セシムルコトヲ得ヘク又前記保障ヲ為シ得ヘキ旨述ヘ其ノ手續ヲ問ヒシヲ以テ參謀長ハ委員ヨリ滿州国側ニ對シ一行ノ日程並顧維鈞及其ノ隨員ノ氏名ヲ含ム委員一行ノ人名ヲ電報シ且之ニ右証言ヲ付記セハ足ルヘク尤モ予メ支那側ノ隨員名ニ付長春側ト打合せ置カハ可ナリト述ヘ置キタリ連盟ヨリ英、仏、独、伊、米ニ転電アリ度シ公使、北平、南京、長春、連盟ヘ転電セリ

169 昭和7年4月30日

國際連盟調査団第一回報告書

（仮訳）

國際連盟派遣ノ支那調査委員カ昭和七年四月三十日奉天ヨリ連盟理事会ニ提出セル報告

予備報告

第一、

（ロ）支那政府ハ「日本軍隊ノ撤収カ統行セラレ且支那地方官憲及警察カ回復セラルルニ応シ付屬地外日本臣民ノ生命財産ノ安全ニ對シ責任ヲ負フ」コト

（ハ）兩國政府ハ「一切ノ事件拡大又ハ事態悪化ヲ防止スル為メ必要ナル一切ノ措置ヲ執ル」コト

之ナリ

委員會ハ未タ右等三点ニ関シ充分ナル情報ヲ提出シ得ヘキ地位ニ在ラス兩当事国ノ「一切ノ事件拡大又ハ事態悪化ノ防止」ノ約束ニ関スル考究ハ之ヲ後日ノ報告ニ留保セサルヲ得サルモ理事会ハ上記（イ）及（ロ）ニ言及セラレタル日本及支那ノ約束ニ関係アル如キ現在ノ状況ニ付迅速ナル報告ヲ待チツツアルニ顧ミ茲ニ次ノ情報ヲ送付スルモノナリ

第二、滿州ノ現状

東北三省ノ軍事の状況ニ関スル情報ハ日本陸軍当局ニ依リ供給セラレタリ右ハ五項ニ分レ前ノ三項ハ日本軍隊及之ト協力セル其他ノ部隊ニ関シ後ノ二項ハ之ニ對抗セル部隊ニ関スルモノナリ四ニ関スル情報ハ支那側ヨリモ入手セリ右ニ採用セラレタル分類ニ依リニ客年九月ノ理事会ノ予想セサリシ一ノ新事態現レ居ルコト認メラルヘシ即チ今回ノ

調査ノ題目タル事件ノ推移ニ当リ地方政權ノ改変アリ千九百三十一年十二月先ツ「治安維持委員会」カ日本側ノ援助ヲ以テ設立セラレタルカ是等委員会ハ其後千九百三十二年三月九日「滿州国政府」トシテ設立セラレタル政權ニ依リ代ラレタリ上記説明ハ日本陸軍当局ノ用フル「滿州国軍」ナル語ヲ説明スル為メ必要ナリ

一、日本軍

九月十八日現在南滿州鐵道付屬地内日本軍隊數ハ一万五百九十ト称セラル
十二月初現在數ハ南滿州鐵道付屬地内四千同付屬地外ハ千九百計一万二千九百ト称セラル
四月後半現在數ハ南滿州鐵道付屬地内六千六百同付屬地外齊々哈爾、洮南遼源鐵道、奉天山海關鐵道、哈爾濱以東東支鐵道及吉敦鐵道北段等各地方一万五千八百計二万二千四百ト称セラル

二、「滿州国軍」

日本陸軍当局カ「滿州国軍」ト指称スル軍隊ハ一部ハ九月十九日以前滿州ニ駐屯シ其後改編セラレタル支那正規軍隊ヨリ一部ハ新ニ募集セラレタル兵士ヨリ成ル

委員会カ北平ニ於テ張學良元帥ヨリ聞ク所ニ依ルニ九月十八日現在關外ニ於ケル其ノ部隊ハ非戦闘員ヲ含メ奉天省六万、吉林省八万、黑龍江省五万、計十九万ニシテ此ノ内奉天省ノ分約五万ハ其後關内ニ撤退シタル趣ナルヲ以テ關外ニ殘留スルモノ十四万トナル筈ナリ日本陸軍当局ハ現ニ關外ニ殘留スル軍隊ノ數ヲ十一万トシ此ノ内六万ハ「滿州国軍」ニ参加シ三万ハ吉林東北地方ニ殘留シ日本軍隊及「滿州国軍」ニ對抗シツツアリ約二万ハ所謂義勇軍ニ参加セルカ如シト述フ同當局ノ報スル狀況左ノ如シ

(イ)「滿州国政府」ノ権力ヲ承認セサル旧支那軍所屬部分

(一)哈爾濱東北ニ在ル部隊、推算兵力三万(支那側ノ公式ニ述フル所ニ依ルニ李杜將軍ノ指揮スル吉林自衛軍及丁超將軍ノ指揮スル東支護路軍ヨリ成ル趣)

(二)奉天西北地方ニ在ル李海青將軍ノ指揮スル部隊推算兵力一万

(三)第九騎兵旅(熱河東北境駐屯)ノ殘存部隊、推

趣ナリ本部隊ハ日本陸軍当局ノ援助ヲ以テ創設セラレタルモノナリ。退職又ハ現役ノ多數日本將校カ軍事顧問トシテ傭聘セラレ居リ其ノ數ハ増加シツツアリ是等將校ノ或ル者トノ契約ハ一年ヲ期限トセリ一日本參謀將校ハ長春ニ在ル「滿州国政府軍政部」ノ顧問ニ任命セラレタリ

本軍隊ハ主トシテ奉天、長春、洮南、齊々哈爾、敦化及東支鐵道沿線殊ニ同東部線等ノ各地方ニ駐屯シ又ハ行動シツツアリ東支東部線地方ニ於テハ現ニ「滿州国政府」ノ権力ヲ承認セサル部隊ト對抗シ居レリ「滿州国軍」ノ總數ハ三月末現在八万五千ト称セラル
現實數ハ目下是等軍隊ニ關スル情報不確実ノ為メ信憑シ難シ

三、地方警察部隊

本部隊ノ數ハ約十一万九千ト称セラレ内六万ハ地方保衛団ナリ本警察部隊ハ大体ニ於テ九月十九日以前存在セルモノノ繼續ナル趣ニテ其ノ改編ハ日本官憲ノ援助ヲ以テ行ハレツツアリ

四、日本軍隊及「滿州国軍」ニ對抗セル部隊

算兵力三千

(ロ)義勇軍

(一)奉天省西部主トシテ錦州南方ニ在ル所謂東北抗日義勇軍、推算兵力一万五千乃至二万五千
(二)主トシテ奉天付近ニ行動スル吳家興指揮ノ所謂東北國民義勇軍、本部隊ハ日本軍隊ト數次交戦シタルカ其ノ現存兵力不明

(三)熱河義勇軍、本隊ハ比較的訓練アル兵數約三千ノ部隊ニテ湯玉麟ノ指揮ニ屬シ騎兵(張學良ノ第一軍及第二軍)ノ殘存部隊ヲ含ミ熱河及奉天省境ニ於テ活動シ居ル旨報セラル

(四)若干ノ小規模ナル義勇軍、一部ハ山海關地方ニ於テ行動シ一部ハ敦化天宝山間ニ行動シ「滿州国政府」ニ反抗セル正規部隊ト連絡アリ
是等(一)乃至(四)ノ不正規部隊ノ總兵力ハ約四万ト称セラル

五、匪賊

匪賊ハ本来政治的目的ノ為メ組織セラレタルモノニ非サルカ混亂狀態ノ結果其ノ數増加セルモノノ如ク日本

側報道ニ依ルニ滿州一帯殊ニ東支鐵道以南ノ地ニ散在シ日本側推算ニテハ總數四万ト称セラル右ニ加フルニ吉林市北方及東方ニ在ル約一万二千ノ特殊匪賊部隊ハ上記四ノ(イ)ノ(ハ)ニ掲ケタル哈爾賓東北ノ支那部隊ト協力シツアル趣ナリ

上記各種部隊ノ間ニハ戰鬪頻発シ匪賊ノ襲撃、之ヲ鎮圧セントスル日本兵及「滿州国」軍隊ノ企圖、新政体擁護及反對ノ各種部隊ノ間ノ戰鬪等行ハレ其ノ結果人命ノ損失、財産ノ破壊及一般的不安ノ念ヲ生シ居レリ

第三、

委員会ハ此ノ際ハ故ラ上述セル事實及數字ニ付批判スルコトヲ差控フルモノナリ日本当局ハ現在ニテハ鐵道付屬地外ニ在ル「自国民ノ生命財産ノ安全」ヲ危険ニ陥ルルコトナクシテ撤兵スルコト不可能ナリト主張ス同当局ハ右撤兵ハ「滿州国軍」ナル軍隊ノ改編ノ進捗ニ俟タサルヘカラスト思考スルモノノ如シ支那政府ハ目下滿州ノ如何ナル地方ニ於テモ權力ヲ行使シ居ラス且最近ニ於ケル事態推移ニ徴シ同政府責任履行ノ實際問題ハ生セス滿州全般ニ平和ト安全ヲ回復シ相当程度ノ好感情ヲ招来シ得ヘキ可能且衡平ナル

テノ權利ヲ放棄スルニ等シキ觀ヲ呈シ却ツテ日本ノ為不利ナルヘシ」云々

尚軍トシテハ今次調査員ノ来滿ヲ以テ極東殊ニ滿州ノ事情ヲ欧米ニ紹介スル唯一ノ好機ナリトシ極力説明宣伝ニ努メアルモ内地新聞等ニ連盟ヲ敵視スル如キ傾向アルハ滿州問題ニ關スル限り面白カラス寧ロ之ヲ脅威スルヨリモ納得セシムルヲ可ナリト思惟ス参考迄

171 昭和7年5月1日

橋本關東軍參謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

奉天市政執行の経緯などに関する連盟調査委員と本庄軍司令官との会談について

5月1日後7時10分発
5月1日後10時30分着

関参九六九(秘)

本一日午前十時ヨリ約二時間連盟調査員一同軍司令官ト第六回会見ヲ行フ

事變發生直後ニ於ケル奉天ノ実情ト市政執行ノ経緯並ニ長春、哈市、チチハル方面トノ比較ヲ説明シ最後ニ大興、錦州、哈市方面作戦経過ノ概要ヲ説明セルニ一同ヨク納得セ

手段ニ付テハ委員会ハ其ノ最終報告ニ於テ之ヲ考究スヘシ委員会ハ来週長春ヲ訪問シ引続キ其他滿州各地ニ於ケル調査ヲ行フヘシ

170 昭和7年5月1日

橋本關東軍參謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

日本の連盟脱退説に対するリットン委員長の意見について

5月1日後7時10分発
5月1日後10時35分着

関参九六八(秘)

「リットン」卿ハ昨三十日外務省囑託川崎通訳ト対談中左記意見ヲ洩セリト云フ
何等カ参考迄通報ス

「日本ノ新聞ニ連盟脱退説ヲ散見スルモ連盟トシテハ日本ヲ庄迫スルモノニ非ラス我々カ滿州問題ヲ如何ニ解決スヘキヤニ苦心シアリ日本トシテハ今後ノ解決策ヲ如何ニスヘキヤニ就テ明確ナル意図ヲ連盟ニ提出セラルルヲ有利トスヘク連盟ハ之ニ就テ適法ヲ講スルニ吝カナラス現在ニ至リ日本カ連盟ヲ脱退スルハ「スポーツ」競技中ニ競技者トシ

ルモノノ如シ「マツコイ」將軍ハ奉天ニ於ケル市政執行ノ情態ヲ聞キタル後「小官カ曾テ玖馬遠征軍ノ指揮官トシテ「ハバナ」ニ於テ執リタル処置ト類スルモノアリ」ト述ヘ軍司令官ノ説明ニ同意セルヤノ態度ヲ示セリ
尚一行ハ軍ノ率直ニシテ開放的ナル態度ニ対シ感謝ノ意ヲ表シ概シテ好感ヲ懷キアルヤニ觀察セラル尚「リットン」ハ北滿方面視察終了後奉天ニ四日内外滞在シ此ノ間視察ノ結果ニ就キ御聴キシタシト語レリ

172 昭和7年5月2日

※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員・本庄軍司令官会談中の注意すべき事項について

奉天 5月2日後発
本省 5月2日後着

第七二一号(暗)

(1) 吉田ヨリ

第八六号

調査委員ハ本庄司令官ト四月三十日第五回及五月一日第六回会見ヲ為シタルカ其内注意スヘキ点左ノ如シ

一、軍ハ銀行、電信、電話事業等ヲ管理シタルコトアリヤ
トノ質問ニ対シ軍ヨリ一般民衆ノ福利、治安維持ノ必
要、軍ノ自衛上ノ理由ヨリ是等事業ヲ一時的ニ監視又ハ
保護シタルコトアルモ之ヲ管理シタルコトナシト答ヘ

二、軍ハ事件後占領地域ニ軍（政）又ハ戒嚴令ヲ布キタリ
ヤトノ質問ニ対シ軍ハ自衛ノ必要上奉天其他各所ヲ占拠
シタルモ右ハ占領ト称スヘキモノニ非ス又邦人ヲ市政府
ニ参与セシメ又電信、電話ヲ監視又ハ保護シタルモ軍ノ
必要ニ基キ課税徴発等ヲ為シ人民ヲ裁判処罰スル等所謂
軍政ヲ布キタルコトナク又民政ノ一部又ハ全部ヲ停止シ
テ軍ノ統制ノ下ニ置クカ如キ戒嚴ヲ命シタルコトナシ唯
現役ノ土肥原大佐ヲシテ市政ニ参与シタル邦人ヲ統制セ
シメタルコトカ軍政ヲ布キタリトノ風説ヲ生セシメタル
ニ至レルモノナルヘシト答ヘ

三、事變後奉天以外ニ於テ行政機關ヲ解消シタリヤトノ問
ニ対シ奉天以外例ヘハ吉林、長春、齊々哈爾、錦州等ニ
於テハ行政機關ハ殆ト從前ノ儘ニシテ從テ地方維持委員
会ノ成立ヲ見タルモノハ唯奉天ノミナリト答ヘ、奉天ニ
於テ軍ハ私有財産ヲ管理シタルヤトノ問ニ対シ軍ハ張学

転電セリ

173

昭和7年5月2日 奉天 5月2日午後発
※在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

顧維鈞問題の解決に関する橋本参謀長とリッ
トン委員長との会談について

第七二三号（暗、極秘）
吉田ヨリ

第八五号

一、往電第七六号ニ関シ
（六八文書）

支那側満州入ニ関シ三十日午後委員長ヨリ相当多人數ノ表
ヲ示セシモ我方ニ於テ其内ヨリ選フハ「デリケート」ナル
ヲ以テ軍ニ於テハ長春ト打合ノ上参謀長ハ委員長ト会見シ
満州国ノ条件ハ

（一）顧維鈞ヲモ含ミ六名トス尤モ外人顧問参事官書記官通訳
官「タイピスト」等ヲ標準トシテ選抜方先方ニ委ス事
（二）前記ノ者カ策動ヲナササル事ヲ申入レ委員長之ニ同意シ
タリ然ルニ「リットン」ハ一日午前電報ヲ以テ謝介石ニ

良ノ私有財産ト一般民衆ノ夫トヲ區別シ学良ノ財産ハ滿
州ヨリ北平ニ流レ行クコトヲ阻止シタルモ（但シ没収等
ハ為シタルコトナシ）一般民衆ニ對シテハ預金ノ引出シ
禁止等其ノ私有財産ニ關連シタルコトナシ唯事變後閉鎖
シタル官銀号、辺業銀行等ハ其後再ヒ開店シタル際取付
ケ防止等ノ意味ニテ銀行自體カ軍ト關係ナク一定額以上
ノ個人預金引出シヲ拒絶シタルカ之等ハ軍カ私有財産ニ
關連シタリトノ誤解ヲ生セシメタル原因ナルヘシト述ヘ
タルカ

（四、脱？）

五、夫レヨリ石原参謀ヨリ齊々哈爾、錦州、哈爾濱ニ於ケ
ル軍事行動ヲ説明シ最後ニ丁超、馬占山軍ノ一味ノ徒カ
最近学良ノ密令ニ基キ調査委員ノ来滿ノ機ニ於テ滿州攪
乱ノ計画ヲ建テ策動中ナル旨ノ情報ヲ伝ヘ之ニ對シ「リ
ットン」卿ヨリ軍ノ説明ニ依リ滿州ノ事態甚タ明瞭トナ
リタリトノ謝辞ヲ述ヘ之ニテ軍司令官トノ会談ハ一段落
トナリタルモ委員ノ北滿視察ヨリ帰奉後必要ニ依リ再ヒ
会談ヲ続クル筈

在支公使、北平、長春、吉林、哈爾濱、齊々哈爾、連盟ヘ

對シ一行ノ人名（支那側ニ付テハ顧参与員、劉崇傑（事
務總長代理）施肇基（秘書）蕭繼榮「ハッセル」及「ド
ナルド」ノ六名外ニ「サーバント」三名）ヲ通知シ且委
員ト同行スヘキ者ハ専ラ委員会ノ指示ニ從ヒ他ノ政治的
活動ヲナササルヘキ旨ヲ布達セリ

然ルニ右三名ノ從者ハ滿州側ノ知ラサル処ニ付同日午後軍
ヨリハ付屬地ハ差支無キモ長春ニ於テ問題トナリ得ヘキ旨
委員側ニ予告スル処アリタリ顧維鈞問題ハ之ニテ大體解決
セシ次第ナリ

二、残余ノ支那隨員ハ大連ニ移ル方双方ニ便ナル旨支那側
ニ申入レ置キタル処（右ノ内五名ハ三十日夕既ニ奉天ヲ退
去シタリ）

支那側ヨリ會計電信等事務上必要ナル四名当地ニ止メ度キ
旨回答セシニ付軍側ト協議ノ上之ヲ承認セリ
連盟ヨリ英仏米伊独ニ転電アリタシ
支北平南京長春連盟ニ転電セリ

174

昭和7年5月（2）日 在天津桑島總領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査団の満州問題方針に関する王克敏の

内話について

天津
本省 5月2日後着

第一八七号（暗、極秘）

東北財政委員会副委員長王克敏カ事業関係アル一邦人ニ対シ極秘ヲ以テ内話シタル処左ノ通

自分（王）ハ張學良等ト共ニ連盟調査員ト会見シ種々意見ヲ交換シタルカ調査団ニ於テハ滿州国家ノ将来ハ大体左ノ方針ニテ進ムヘキモノナリトノ意見ナリ

一、滿州国家ヲ一独立国トスルコトニハ反対ナラス但シ現在ノ政權ハ之ヲ承認スルコトヲ得ス

二、滿州国ノ統治ハ関係各国（恐ラク日、支、英、米、仏、独、伊ノ七ヶ国ナルヘシ）ヨリ選出スヘキ委員ヲ以テ組織スル最高委員会ヲシテ之ニ当ラシム委員長ハ支那人トス委員ハ各国ヨリ同数選出スヘキモ日本ノミハ一、二名余分ニ選出スルコトトシ差支ナシ

三、軍隊ハ一律裁撤シ保安隊ヲ以テ之レニ代フ

四、日本軍隊ハ全部滿鉄付屬地ニ集中スヘク猥リニ付屬地外ニ出ツルヲ許サス

治的活動ニ従事セサルヘキ事ヲ明カニシタシ』トノ要旨ヲ電報シ来リタル趣ナリ

支、南京、北平、奉天、吉林、哈爾濱、齊々哈爾へ転電セリ

176 昭和7年5月3日

※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査団第一回報告書発表について

長春 5月3日後発
本省 5月3日後着

第一九五号

吉田大使ヨリ第八八号

往電第八一号ニ関シ予備報告ハ四日午前寿府ニ於テ発表ニ付調査委員側ト打合ノ上長春ニテ英文ノ儘同日午後六時半発表スル事トセリ

177 昭和7年5月4日

※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員と謝外交部総長との会談について

て

長春 5月4日前発
本省 5月4日前着

支ヨリ上海へ転報アリタシ

支、北平、奉天、南京、長春、哈爾濱へ転電セリ

175 昭和7年5月2日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員の長春着日程とその人員について

て

長春 5月2日後発
本省 5月2日後着

第一九一号（暗）

大橋司長ヨリノ内報ニ依レハ五月一日「リットン」卿ハ謝介石ニ宛テ『二十七日ノ貴電（往電第一八五号参照）中ニ言及セラレタル事項ハ我等カ長春着後親シク会見ノ席上討議スル事ヲ得ヘシ左記人員ヨリ成ル我団ハ月曜（二日）午後七時三十分長春着ノ予定、「リットン」伯以下委員随員並ニ日本参与員一行ノ氏名及中国参与員一行トシテ顧維鈞、劉崇傑（書記長）、施肇基（書記長代理）、鮑靜安（書記官補助）、「ステノグラフィアー」顧問「ハッセイ」、「ドナルド」、「ボーイ」三名ヲ列記シ最後ニ余ハ我団ニ随伴スル人々ハ単ニ調査団ノ仕事ニ携ハルニ過キスシテ何等他ノ政

第一九九号（暗）

吉田ヨリ

第九一号

三日調査委員謝介石ヲ訪問セリ「リットン」ハ支那参与員ノ入国ニ付話度シト云ヒシニ謝ハ右ハ大橋司長ト委員側代表者トノ交渉トセント答フ

二、次テ謝ヨリ（イ）滿州国成立シタルヲ以テ委員ハ寿府出發當時ノ滿州ト現在ノ事態トヲ充分區別スルノ必要アリ（ロ）清朝ハ三百年前滿州ヨリ興リテ支那ヲ征服シタルモノニシテ支那ハ滿州ノ植民地ニ過キス後者ヲ以テ前者ノ一部ト見ルハ誤リナリ（以下二語脱）ハ無統一ナルモ滿州ニ於テハ常ニ統一アリ今ヤ漢民族ト人種ヲ異ニスル三千万ノ滿州人起チテ国家ヲ組織シタルカ其發展ヲ疑ハスト述フ

三、滿州居住民ハ支那移住者ニ非サト「リットン」質問ニ対シ本部ヨリノモノニハ季節的移民多ク滿州ニ定着スルモノハ少ナシト述ヘ

四、外国人ノ利益及外国ニ対スル債務ハ新国家成立當時ノ声明ノ如ク之ヲ尊重スヘシト答ヘタリ

支、北平、奉天、吉林、哈爾濱、齊々哈爾、連盟ニ転電セ

178 昭和7年5月4日

※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）顧維鈞の入満条件に関し満州国側大橋と連盟
調査委員側アースとの折衝について別電 同日在長春田代領事より芳沢外務大臣宛第二〇
一号

満州国の顧維鈞入国条件

長春 5月4日前発
本省 5月4日前着

第二〇〇号（暗、至急極秘）

吉田ヨリ第九二号

（一七三文書）
往電第八五号ニ関シ

二日夜橋本参謀長ニ対シ大橋ハ顧ノ入満条件トシテハ一日付委員長ヨリノ来電ノ如ク随員制限政治的策動ヲ為ササル保証ニテハ不充分ニテ長春発令第一二九号ヲ必要トスト固執シ参謀長ヨリ緩和方説得スル処アリタルモ大橋ハ既ニ右条件ハ閣議決定ヲ経タルモノナレハ直ニ変更スルコトヲ得ストシ結局満州国側ニ於テ或条件ニテ入国ヲ認ムル根本方

No. 201

From Yoshida.

No. 93 (Urgent Gokuh) (Betsuden)

The agreement between the League Commission and the State of Manchuria in regards to entry of Koo Wei-chun into Manchuria.

The State of Manchuria agrees to admit Koo Wei-chun and his assistants into its boundaries provided that the League Commission accept the following terms.

(1) The assistants to Koo Wei-chun to follow the Commission is (are) limited to five persons as to be named by the State of Manchuria.

(2) The Commission agrees to _____ the State of Manchuria a memorandum explaining the reason why the Commission have to accompany Koo and his assistants and guaranteeing that the Commission will not allow Koo and his assistants to act or speak in such a way as to affect the peace and order, or detrimental to the State of Manchuria.

針ハ変セサル事トシ満州側ト委員ノ間ニ具体的ニ直接交渉セシムル事トナレリ

（二七七文書）

三日謝介石ハ往電第九一号ノ通本問題ニ付テハ大橋ヲシテ委員代表者ト相談セシム可キ事ヲ述ヘタルカ委員長之ニ応諾セリ其ノ結果同日大橋「ハース」ト会見シ満州国ハ入国ニ絶対反対ナルモ委員会ノ任務ノ崇高ニ鑑ミ一定ノ条件ノ下ニ之ヲ認ムル事トシ度ク一日付ノ連盟委員ノ電報ノミニテハ未タ本件ハ解決シタルモノト見ルヲ得ス就テハ別電第九三号ノ取極ヲ為シ度ク尚右ハ必スシモ「アグリーメン」ト「ノ形式ナルヲ要セス委員長ヨリ謝宛ノ手紙ニスルモ宜敷ク又字句ハ固執セサルモ右ノ了解ヲ遂ケ置ク事必要ナル旨述ヘタルニ「ハース」ハ条件全部ヲ認ムル事難ク殊ニ第五項ハ不可能ナリト述ヘ四日再会スルコトセリ

連盟ヲシテ英、仏、伊、米、独ニ転電セシム

別電ト共ニ在支公使、北平、奉天、南京、連盟ニ転電セリ

（別電）

Choshun, May 4th a.m.

Received, May 4th a.m., 1932.

Gainudajin, Tokio.

(3) The State of Manchuria reserves the right to attach to the Commission a few persons who are to watch the conduct of Koo and his assistants and to arrest Koo and his assistants whenever they be found in violation of article (2).

(4) The State of Manchuria agrees to accord to the Commission including Koo due facilities for carrying out the investigation and to give it the best _____, but is unable to take responsibilities for the safety of the Commission in the course of its trip in view of the actual condition prevailing at present within its boundaries.

(5) The Commission undertakes to cause Koo to retract in his interview with press representatives all his past slanderous utterances about the statement of Commission as reported by the press.

Tashiro.

179

昭和7年5月4日

※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

満州国の性格等に関する田代領事の連盟調査
委員への説明について

長春 5月4日後発
本省 5月5日前着

第二〇四号(暗)

吉田ヨリ第九五号

田代ハ四日万宝山事件ノ経過及支那側トノ交渉顚末ヲ委員ニ説明シ当地方ニ於ケル日支良好関係カ之カ為悪化セシコトヲ述ヘタル後九月十八日事件勃発当夜ニ於ケル当地ノ状況ヲ説明シ以テ「リットン」ノ問ニ対シ新国家ノ理想ハ機会均等主義ヲ基礎トスル自由郷ノ建設ニ在リ建設日尚浅ク組織整ハサル所アルモ外間考フル如ク所謂日本ノ傀儡政府ニハ非サル旨述ヘタリ

支、北平、奉天、吉林、哈爾濱、齊々哈爾、連盟ヘ転電セリ

180 昭和7年5月4日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の日満両国要人との会見日程について

係スルモノニ就キテハ補助ヲナス趣ナリ
支奉天ヘ転電セリ

181 昭和7年5月4日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員と鄭國務總理との会谈における
重要点について

長春 5月4日後発
本省 5月5日前着

第二〇九号(暗)

吉田大使ヨリ

第一〇〇号

四日午後調査委員ハ國務院ニ總理鄭孝胥ヲ往訪シ主トシテ

- (イ)新国家ノ政体
- (ロ)経済政策
- (ハ)行政組織
- (ニ)新国家成立ノ曲折

等ニ関シ質問応答アリタルカ中注意スヘキ点左ノ如シ

- (イ)ニ関シ鄭ヨリ新国家ハ立憲制ナルモ憲法未タ制定スルニ至ラス之新国家カ先ツ治安ヲ維持シ然ル後国内ノ状況ニ応

第二〇八号(暗)

吉田ヨリ

第九九号

長春 5月4日後発
本省 5月5日前着

一、三日及四日ノ委員ノ日程左ノ通

イ、三日午前謝介石訪問(外交部)

午後土肥原少将ト会見(領事館ニテ)

ロ、四日午前田代領事訪問(領事館)

午後鄭國務院總理訪問(國務院ニテ)

尚四日午前長春付近朝鮮人代表及蒙古代表午後ハ全滿民衆代表ノ陳情アリタリ

二、連盟側ニ於テハ報告書材料等準備ヲ了シ左ノ通割当ヲ定メタル由

財政経済、「ペルト」

軍事、「コツツ」

行政、「カト・アンデリノ」

鉄道、「ハイアム」

一般政治問題ハ未確定ナルモ「ハース」及「バストホフ」トナルヘク又「ヤング」ハ右諸問題ニ就キ条約ニ関

シ憲法ヲ制定セントスルヲ以テナリ而シテ政治ノ根本方針ハ従来ノ一党專制ト排外主義トヲ排除スルニアリト述ヘタリ

(ロ)ニ関シテハ新国家ハ経済政策ノ基礎ヲ資本主義ニ置キ私有財産ノ安全確保ヲ旨トス之ヲ具体的ニ言ヘハ

(一)天然富源ノ開発(門戸開放、機会均等ノ主義ニ則ルヘク例ヘハ会社ノ如キモ株式ノ半ハ迄保管人ノ所有ヲ許スヘシ)

(二)税制ノ改革(現在塩税及関税ハ従来ノ儘ナルカ近ク旧政權ノ租税中悪税ヲ廃シ又減税スル計画ナリ)

(三)幣制ノ改革(目下中央銀行設立計画中ナルカ銀本位制ハ之ヲ維持スヘク旧政權ノ濫発シタル紙幣ハ極力之ヲ回収スヘシ)ヲ実現スヘシト答フ

(ハ)ニ関シテハ主トシテ駒井國務院總務長官及行政各部司長ノ權限ニ関シ質問応答アリ

(ニ)ニ関シテハ宣統帝ノ執政就任ノ顚末ニ関シ在滿各団体代表ハ宣統帝ニ対シ三度執政就任方願出漸ク帝ノ同意ヲ得タル次第ナル事當時鄭孝胥ハ宣統帝ノ代理トシテ前記代表ニ面会シタル事鄭孝胥ハ革命以來一切民人トノ往来ヲ絶チ

宣統帝ノ天津ニ遷ラレテ以来約七年間帝ノ師傅タリシ事等ヲ述ヘタリ

支、北平、奉天、吉林、哈爾賓、齊齊哈爾、連盟事務局長ニ転電セリ

182 昭和7年5月4日 橋本関東軍参謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

溥儀の天津脱出経緯等に関する連盟調査委員
と土肥原少将の会談について

5月4日後3時50分発
5月4日後6時30分着

関参一六(秘)

昨三日正午ヨリ約二時間長春ニ於テ土肥原少将連盟調査員一行ト会见セリ

同少将ハ調査員ノ質問ニ応シ溥儀天津脱出ニ関スル経緯、奉天市政執行ノ経緯、哈市ノ状況等ニ関シ詳細説明セルカ一同ヨク之ヲ納得セリ

調査員ハ從來土肥原カ陰謀ヲ逞ウセルカノ感ヲ抱キアリシ如キモ今回ノ会见ニ依リ氷解セルモノノ如ク觀察セラル尚天津暴動事件ニ就テハ余リ深く質問セス好結果ニ終レリ

右委員会案ニ対シ四日閣議ニテ対案ヲ練ル可ク大橋ハ閣員中ニハ強硬論多シト云ヘリ

別電ト共ニ公使、北平、奉天、南京、連盟ニ転電セリ
連盟ヲシテ英、仏、伊、米、独ニ転電セシム

(別電)

Choshun, May 5th, a.m.

Received, May 5th, a.m., 1932.

Gaimudajin, Tokio.

No. 206 (Gokuh, Very Urgent)

From Yoshida, No. 97 (Betsuden)

Mr. Shieh Chieh-shi,

Minister of Foreign Affairs of Manchukou.

Dear Mr. Shieh,

You know that in accordance with the Resolution of the Council which constituted the Commission of Inquiry, the Governments of China and Japan have each the right to nominate an assessor to assist Commission in its work; it is solely in view of this collaboration with the Commission that, Ambassador Yoshida and Dr.

183 昭和7年5月5日

※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞の入満条件に関し大橋・アース会談続
行について

別電 同日在長春田代領事より芳沢外務大臣宛第二〇
六号

顧維鈞入満に関する連盟調査団側書翰案

長春 5月5日前発
本省 5月5日前着

第二〇五号(暗、至急極秘)

吉田ヨリ

第九六号

往電第九二二号ニ関シ
(二七八文書)

四日大橋「ハース」会见ス「ハ」ハ委員会ハ「アグリーメント」ニ反対ニシテ往電第九七号別電ノ如キ文書送付ニテ解決ヲ希望シ逮捕及取消ノ二項ハ到底承認スル能ハス監視人ヲ付スルコトハ事実問題ト為シ度キ旨ヲ告ケタルニ対シ大橋ハ其ノ主張ヲ反覆シ「ハ」ノ考慮ヲ求メタルモ「ハ」ハ対案ハ委員ノ最終案ナリト述ヘ纏ラス其儘別レ満州国ハ

Wellington Koo have been appointed as Japanese and Chinese assessors; they are accompanying the Commission only in that capacity; and it is needless to point out the necessity for the Commission to remain in touch, through them, with both the Chinese and the Japanese Governments, in the interest of the good fulfilment of its mission of understanding and peace.

In particular the presence of Dr. Koo with the Commission has no other signification nor bearing in any kind. The activity of Dr. Koo is confined to its duty as an assessor of the Commission and it can be made clear that he will not engage in any other political activity, no more than any other person accompanying the Commission, which he is serving as an assessor. It is also clear that, the mission of the Commission being a mission of peace, the presence of the Commission with the two assessors and their staff will not in any way affect the peace and order anywhere nor be detrimental to any public interest.

Following our conversation I am transmitting hereafter the list of the persons chosen to accompany Dr. Koo (.....)

I am entirely confident that you will do your best, in the present difficult condition, to facilitate the carrying out of the investigation of the Commission and to permit it to receive the best protection which may provide possible.

Tashiro.

184 昭和7年5月5日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国治安維持の日本軍担当の緣由について

長春 5月5日後発
本省 5月5日後着

第二一二号(暗、極秘)

御申越ノ次第ヲ大橋ニ伝ヘ御趣旨ノ如ク取計フ事ト致シ置キタルカ本件書翰發送ノ目的ハ御推察ノ通満州国側ニ於テ日本軍方同地方ノ一般的治安維持ニ当リ居ル実情ニ付連盟委員ヨリ質問等アル可キヲ予想シ(之ニ)備フル為執リタ

ル措置ニシテ從テ右書翰(内容貴電第六六号ト同シ)ハ日付ヲ繰上ケ四月十五日トシ昨四日謝介石ヨリ軍司令官宛宛發送セリ

尚満州国側ニ於テハ連盟委員一行ヨリ未タ本件ニ関スル質問ニ接シ居ラサル趣ナリ
支、北平、奉天ヘ転電セリ

185 昭和7年5月5日

※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員に対する熙洽の応答振りについて

て

長春 5月5日後発
本省 5月6日前着

第二一五号(暗)

吉田ヨリ

第一〇四号

五日熙洽ハ委員側ノ質問ニ答ヘ
イ、事変前後吉林省政府機関ニハ変更ナキコト
ロ、租税モ張學良時代ノ軍事費捻出ヲ目的トスル附加税ヲ廃止シタル外別段変化ナキコト

関参四四(秘)

本五日長春ニ於テ連盟調査員ト満州側トノ会見情況次ノ如シ

一、午前十時ヨリ約一時間軍参謀長ヨリ北滿ニ於ケル蘇ノ活動情況ヲ説明ス、一般ニ頗ル熱心ニ聴取セリ

二、午前十一時ヨリ約三十分間執政溥儀ト会見ス、執政ハ元首トシテ謁見形式ヲ以テ握手ノ礼ヲ交ハシ調査員ノ来満ヲ歓迎スル旨ト三千万民衆ノ幸福ヲ顧念スル旨トヲ述ヘ卿等実状ヲ視察セラレンコトヲ乞フト結ヒタルカ「リットン」ハ此ノ困難ナル時局ニ際会シ御苦勞ノ事ト思フ特ニ敬意ヲ表スト挨拶シ別室ニテ杯ヲ挙ケテ互ニ健康ヲ祝シ記念撮影ノ後委員一同慰勸ノ態度ヲ以テ辞去セリ一同好感ヲ有セルモノノ如シ

三、午後二時ヨリ約一時間熙洽ト会見シ財政問題ニ就キ質問セルモ熙洽ハ書類ヲ以テ回答スヘシト応答シ次ニ財政庁長及吉林省長トナリシ経緯ヲ質シタルモ前者ハ行政委員会ノ推挙、後者ハ衆望ニ依ルト答ヘタリ又新国家ヲツクル意志ハ何時頃ヨリ起リタルカ熙洽ノ出生地ハ何処ナリヤ、吉林ニ於ケル鮮人ノ数等極メテ簡單ナル質問ヲ発

186 昭和7年5月5日

橋本関東軍参謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

連盟調査委員と執政溥儀等との会見情況につ

いて

5月5日後8時20分発
5月6日前0時50分着

シ回答亦要ヲ得テ頗ル順調ニ経過セリ

187

昭和7年5月6日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞等一行の監視問題に關し実狀報告につ
いて

奉天 5月6日後発
本省 5月6日後着

第七四九号(暗)

本官発連盟宛電報

第九号

大臣宛貴電第四五七号(合第四九四号)ニ関シ

一、同電後段支那側参与員及随員カ探偵ノ為監視ヲ受ケタ
リト云フハ我方ニ於ケル保護ノ措置ヲ誤解セルモノナリ
元來支那側ノ随員數ハ宿舍並ニ保護等ノ關係上我方ヨリ
成ルヘク少クセンコトヲ希望シタルニ拘ラス廿八名ノ多
キニ達シ其ノ中ニハ身元不明ナル従者七名ヲ含ミ居リ大
和「ホテル」ニ収容シキレス「オリエンタル、ホテル」
ニ分宿セシメタル位ナルカ当地方ノ空氣ハ相当險惡ニシ
テ滿州国側ハ付屬地境界ニ多數ノ武装警察官ヲ配置シ一

關東軍參謀長との會談について

付屬書 右會見録

機密文調参与第五五号

昭和七年五月六日

連盟支那調査委員参与委員

特命全權大使 吉田伊三郎

外務大臣 芳沢謙吉殿

調査委員ト關東軍橋本參謀長トノ會見要

旨報告ノ件

五月五日午前九時半ヨリ長春日本領事館ニ於テ連盟調査委
員ト關東軍橋本參謀長トノ會見行ハレタル処当方作成右會
見録茲ニ送付ス

本信写送付先 在華公使、北平、奉天、長春、吉林、哈

爾賓、齊々哈爾、在露大使、武市、哈

府、連盟

(付屬書)

調査委員ト關東軍橋本參謀長トノ會談

時 日 五月五日午前九時半ヨリ十時半迄

場 所 長春日本領事館

歩ニテモ付屬地ヲ出ツレハ直チニ逮捕セント意氣込居リ
又何時一行ニ対シ危害ヲ加ヘントスルモノ出ツルヤモ計
リ難キ事態ナリシヲ以テ当地警察等ハ付屬地内ニ於ケル
一行ノ身辺保護ニ付想像以上ノ苦心ヲナシタル次第ニシ
テ言語不通等ノ關係ヨリシテ右保護實施上時ニ円滑ヲ欠
キタル場合ナキニシモアラサルヘキモ大体ニ於テ無事所
期ノ目的ヲ達スルヲ得タリ「ホテル」ノ客室ニ侵入ノ事
実ハ容疑者ヲ追跡シテ室内ニ入りタルコトアル以外ニ全
然ナシ

二、同電末尾速記者ノ件ハ京城日報ノ記者カ幾分霸氣ニ驅
ラレ種取りニ右速記者ノ室ヲ訪レタル事件ヲ指スモノナ
ル処右ハ大和「ホテル」側ニ於テ同種事件ノ再発予防ノ
為嚴重取締ヲ勵行スルコトトシテ無事落着セリ尚該記者
ハ事件直後免職トシタル旨京城日報社ヨリ本官宛通報ア
リタリ

大臣、長春、公使へ転電セリ

188

昭和7年5月6日

吉田連盟調査委員参与委員より
芳沢外務大臣宛

ソ連の軍事動向に關する連盟調査委員と橋本

出席者

連盟側

委員五名「ハース」「コッツェ」「ジュヴ
レー」「ドペール」速記者「ノックス」

嬢

日本参与員側

官、好富事務官

軍部側

橋本參謀長、渡大佐、澄田中佐、藤本少
佐、片倉大尉、通訳(川崎囑託)

橋

本、最近「ソ」連邦ノ極東方面ニ於ケル兵力増加狀況

ヲ説明スルニ、事変前「ソ」連邦ハ「バイカル」

以東ニ四個師団、騎兵二個旅団、「バイカル」以
西ニ三個旅団ヲ有シ西伯利亞ニ於ケル兵力ハ合計
七個師団兵數六万五千ヲ有シ居リタリ、然ル処九

月十八日事變ノ勃発以來同国ハ滿州ノ事態ニ深甚

ナル注意ヲ払フニ至リタルカ事變後一、二箇月間

ハ(イ)東部ト西部国境ニ兵力ヲ集中シタルコト(ロ)東

支鐵道ノ輪転材料ヲ露領ニ搬入シタルコト以外ニ

ハ其ノ態度ニ特ニ大ナル變化ハナク殊ニ歐露ヨリ

兵力ヲ極東方面ニ派遣スルカ如キコトハ全然ナカ

リキ然ルニ十一月十九日日本軍カ齊々哈爾ニ進出

シテ以来「ソ」連邦ハ漸次欧露ノ兵力ヲ極東ニ移動スルニ至リ殊ニ日本カ「ソ」連邦ノ提議ニ係ル不可侵条約ノ締結ヲ応諾セサリシヨリ右軍隊移動ハ益々顯著トナレリ日本ハ齊々哈爾進出、哈爾賓出兵ノ際ニモ東支鉄道ノ利益ハ努メテ侵害セス又諸種ノ風説ニ拘ラス白系露人ヲ援助スルカ如キコトハ全然ナカリキ然ルニ其ノ後日本ノ白露援助ニ関スル風説力大ニ盛トナリ且日本カ不可侵条約締結提議ニ回答ヲ与ヘサルニ至ルヤ「ソ」連邦ノ言論界ハ露骨ニ極東増兵ヲ云為スルニ至レリ最近「ソ」連邦カ極東ニ増兵シタル数ハ「バイカル」以東三箇師団兵数二万以上ニ達セリ此等兵力ハ大部分沿海州則チ東部国境地方ニ集中セラレ西部国境ハ為ニ兵力稀薄トナリタルカ右ハ今後欧露ヨリ西部国境方面ニ対スル増兵ヲ容易ナラシメムカ為ニシテ則チ戰略的理由ニ出ツルモノナリ

以上ノ外飛行機、戦車並ニ大砲、弾薬等極東ニ輸送セラレタルモノ少カラス又海岸用重砲、火薬ニシテ「セバストポール」ヨリ海路浦潮ニ輸送セラ

橋本、

右ノ外別ニ憲兵ニ類似セル「ゲ、ペ、ウ」ノ多数欧露ヨリ極東ニ集中セラレタリ

次ニ「ソ」連邦ト関係深キ外蒙古ノ兵力ヲ述フ可シ外蒙古ノ軍隊ハ「ソ」連邦ト同一ノ主義ニ拠リ編成セラレ居リ其ノ兵力ハ現在歩兵六個連隊、騎兵一個旅団、其ノ他機関銃隊、航空隊ヨリ成リ兵力総数五、六千人ニシテ其ノ大部分ハ滿州ヲ対象トシ東部ニ配置セラレ居レリ

マッコイ、根拠地ハ何処ナリヤ

橋本、庫倫ナリ

次ニ東支鉄道沿線ニ蔭レタル赤衛軍アリ其ノ兵力ハ合計約五千ト想像セラレ哈爾濱付近ニ配置セラレ居レリ事変以来東支鉄道ノ輪転材料多数露領内ニ搬入セラレタルカ例ヘハ良好ノ機関車ハ本年三月中一二〇台中九二台搬入セラレ又貨車ハ良好ノ貨車五〇〇台中現在残ルモノ十一台又普通ノ貨車ハ八八〇台中現在残ルモノ三二台ニ過キス世間ニハ「ソ」連邦カ目下五箇年計画ノ困難ナル時機ニ在ルヲ以テ攻勢的態度ヲ取ラサル可シトノ

レタルモノアリ斯クノ如ク兵力ノ極東移動ノ結果現在浦潮「ニコリスク」等ニ於テハ学校及公衆用建物ハ素ヨリ一般民家ノ一部迄軍隊ニ依リ使用セラレ居ル状況ナリ

他方「ソ」連邦ハ「プートナー」(軍団長ニシテ日本大使館付武官タリシ者)ヲ極東軍司令官補佐トシテ極東ニ派遣シタリ

マッコイ、極東軍司令官ハ誰ナリヤ

橋本、「プリューヘル」ナリ

マッコイ、嘗テ「ボロヂン」ト共ニ支那ニ派遣セラレタル

「ガロン」ナリヤ

橋本、然リ

クローデル、「ソ」連邦ノ師団ハ兵力少ナキモノアルニ非スヤ

橋本、民兵師団ナルモノアリ右ハ幹部ノミヲ有スル特別ノ師団ナルカ其ノ兵力カ何程迄充實セラレ居ルヤ不明ナリ

渡、

「ソ」連邦ニハ正規兵ト民兵トアリ民兵師団ハ夏季ハ訓練ノ為兵力大ナルモ冬季ハ小ナリ

説アルモ同国軍隊ノ配備状況及ヒ戦車ノ如ク攻撃的要素ヲ有スルニ鑑ミ必スシモ守勢的目的ノミヲ有スルモノトハ思料セラレス

他方兵力増加ノ終リタル頃ヨリ北滿ニ於ケル裏面的策動即チ陰謀盛トナリタリ

尚茲ニ必配ナルハ反吉林軍其ノ他匪賊カ「ソ」連邦ヲ背景トシテ活躍シ居レルコトナリ要スルニ北滿ハ極東赤化ノ中心地ナルヲ以テ今後ト雖モ北滿ニ於ケル裏面的策動ハ背後ニ於ケル「ソ」連邦兵力ノ増加ト相俟テ今後益々盛トナルモノト思料セラル

189

昭和7年5月7日

在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の吉林到着と省政府代表等との

会見について

吉林 5月7日後発

本省 5月7日後着

第二六二号(暗)

連盟一行ハ支那側ノ参与員等ト共ニ七日九時三十分当地着
委員及随員ノ一部ハ直ニ本官ヲ来訪約一時間半会見ヲ遂ケ
一行ハ別ニ専門委員ヲ加ヘテ当館ヨリ多門師団長ヲ往訪シ
約一時間余会見シ昼食後午後二時ヨリ当地省政府代表ト会
見セリ又顧維鈞始メ支那側ノ一行ハ終始極メテ神妙ニ行動
シ昼食後ハ本官之ヲ当館ニ案内シ約一時間余雑談ヲ交ヘタ
リ一行ハ午後三時半当地発長春ニ向ヘリ尚午前委員一行ノ
本官ト会見中ヨリ零時三十分ニ至ル約三時間専門委員ハ別
室ニ於テ当地内鮮人民会長ノ陳情ヲ聴取セリ其内容等郵報
ス
支、北平、奉天、長春、哈爾賓、齊々哈爾、間島へ転電セ
リ

190

昭和7年5月7日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

顧維鈞の入満条件に関する大橋・アース会談
妥結について

長春 5月7日前発
本省 5月7日後着

第二一八号(暗、極秘)

成立事情等に関する説明について

長春 5月7日前発
本省 5月7日後着

合第一六八号(暗)

本官発大臣宛電報第二二一号

吉田ヨリ

第一一〇号

六日駒井ハ委員ニ会見シ

一、先ツ同氏カ二十四年位常ニ支那問題ヲ研究シ来リタル
カ支那ノ統一不可能ナルハ支那ノ民衆カ純清ナルニ拘ラ
ス支配階級カ腐敗シ居リテ専ラ私利私慾ヲ念トスル結果
ニ基クトノ結論ニ到達シタル事、支那ノ関税制度カ外国
人ノ関与ニ依リ唯一ノ完全ナル行政機関トシテ存在セル
ヲ以テ支那ノ政治的欠陥モ何人カ強キ援助ヲ与フル事ニ
依リ之ヲ除去シ得ヘク満州ニ於テモ何人カ其ノ広範ナ
ル行政機関ニ関与シテ適當ナル指導ト援助トヲ与フルニ
於テハ茲ニ完全ナル独立国ヲ構成スル事ヲ得ヘシトノ信
念ヲ抱クニ至リタリト述ヘ

二、次ニ新国家ノ行政組織ニ関シ從來各省省長カ強大ナル

吉田ヨリ

第一一〇六号

往電第九六号ニ関シ
(ハニ文書)

其後引続キ大橋ハ我方トモ打合ノ上六日数回「ハース」ト
交渉ノ結果漸ク委員側ト妥結ヲ見ルニ至リ別電一〇七号ノ
通ノ書簡ニ対シ謝介石ヨリ別電第一〇八号ノ通回答シ更ニ
(省略、二〇二文書参照)

右後者ニ対シ委員長ヨリ別電第一〇九号ノ通受書ヲ発スル
(二〇二文書参照)

コトナリタリ右ニ依リ顧維鈞問題解決スルコトナリタ
ルヲ以テ一行ハ明七日早朝吉林ニ向ケ出發スルコト決定
セリ尚顧ノ前言取消ノ点ハ最モ難問ナリシモ右ニ関シテハ
満州国側ニ於テハ入国ノ条件トセス單ニ希望トシ委員長ノ
回答ニモ之ニ「リファア」セサルコトセリ
(二七三文書)

尚又往電第八五号從者三人ハ委員長ノ書面中ニ記載セラレ
サリシモ事実之ヲ新国家委員ニ於テ黙認スルコトナレリ
別電ト共ニ公使、北平、奉天、南京、連盟ニ転電シ連盟ヲ
シテ英、仏、独、伊ニ転電セシム

191

昭和7年5月7日 在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員に対する駒井総務長官の満州国

権力ヲ有シ居リタル事カ同国ノ統一ヲ妨ケタル事実ニ鑑
ミ新国家ハ軍事、財政、交通等各方面ニ於テ強大ナル中
央集権制ヲ數クヘク又新国家ハ機会均等、門戸開放ヲ主
義トシ何レノ外国ノ領土的侵害ヲモ容認セサル万人ノ理
想郷タラシメントスト結フ

三、最後ニ委員長ノ質問ニ答ヘ新国家成立ノ顛末ニ関シ同
氏カ支那ニ新国家組織ヲ志シタルハ既ニ二十年以來ノ事
ニシテ大正五年宗社党運動ニ関係シテ寺内朝鮮總督ノ彈
圧ニ会ヒ次イテ大正十三年張作霖ノ批政顛覆ヲ目的トス
ル郭松齡事件ニ関与シテ宇垣現朝鮮總督ノ彈圧ヲ受ケタ
ル経緯ヲ述ヘタルカ殊ニ最後ノ点ハ満州国ノ成立ト帝国
政府トノ関係ニ関スル外部ノ疑念ヲ晴ス上ニ相当効果ア
リタルモノノ如ク見受ケラル

支、北平、奉天、吉林、哈爾賓、齊々哈爾、連盟へ転電セ
リ

192

昭和7年5月7日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員に対する張実業部総長の応答振
りについて

長春 5月7日前発
本省 5月7日後着

第二二二号 (暗)

吉田ヨリ

第一一一号

六日実業部総長張燕卿トノ会見ニ於テ質問ニ答ヘ

一、実(業)部ノ組織

二、旧政権ノ許シタル利権ハ合法的ニ許シセラレタルモノニ限り之ヲ認ムヘキコト

三、利権ハ日本資本ナルト否トヲ問ハス凡テ一律平等ニ取扱フヘク今後門戸開放主義ニ依リ外国資本ヲ歓迎スヘキコト

四、関税ハ新国家之ヲ管理スヘキ意向ナルモ其方法ニ付テハ目下考究中ナリ而シテ従来外債ノ担保ヲ以テ東北四省ノ義務トナリ居リタル部分ハ新国家ニ於テモ引受クヘキ事

五、輸入ニ関シテハ何レノ国ニ対シテモ均等待遇ヲ与フヘク輸出ニ関シテハ先ツ運輸ノ発達ト移民ノ奨励ニ依リ農業ヲ振興シ農産物輸出増加ヲ計ルヘキコト

六、満州ニ匪賊多キハ民カ多ク教育ナク殊ニ生活困難ノ為匪軍ニ投スル結果ナルニ鑑ミ今後大イニ実業教育ヲ発達セシメ民ヲシテ職ニ安ンセシムヘキコト等ヲ説明セリ
支、北平、奉天、哈爾濱、吉林、齊々哈爾、連盟ニ転電セリ

193 昭和7年5月7日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の石射総領事、多門師団長との

会見情況について

長春 5月7日後発
本省 5月8日前着

第二二五号

吉田ヨリ

第一一三号

委員一行ハ七日当地ヨリ吉林省着総領事館ニ於テ石射総領事ヨリ支那側ノ朝鮮人圧迫並満州ニ於ケル不逞鮮人(獨立運動者及共產党)ノ状況ノ説明ヲ聴取シ次テ師団司令部ニテ多門師団長ヨリ其關係セル軍事行動並吉林省ニ於ケル満州国軍、反吉林軍及匪賊ノ状況ニ関スル説明ヲ聴取シ吉林俱

楽部ニテ昼食ノ後同所ニ於テ吉林省政府ノ李秘書長及榮教育庁長ヨリ地方状況ヲ聴取セリ又専門委員ハ総領事館ニテ朝鮮人居留民代表及日本在留民代表者ノ陳情ヲ聴取シ又支那参与員等ハ委員等ト別行動ヲ執リ市内見物、総領事館訪問ヲ為セリ一行夕刻当地ニ帰着セリ
尚往電第一〇八号ニ関シ大橋ハ謝介石ノ個人的代表トシテ同行シタルカ今後モ一行ニ加ハル由ナリ
支、北平、奉天、南京、哈爾濱、齊々哈爾へ転電セリ

194 昭和7年5月7日 芳沢外務大臣より
※在長春田代領事宛(電報)

奉天における中国人逮捕事件に関する連盟調

査団側の密電について

本省 5月7日後9時発

第七三号 暗、極秘

奉天ニ於ケル支那人逮捕事件ニ関シ「リ

ーグ、ミッシェン」密電ノ件

吉田大使へ

極メテ確カナル情報ニ依レハ四月二十七日在奉天 League Mission ヨリ在北平 Phonette ナルモノニ「支那側参与委

195 昭和7年5月8日 ※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州国の性格等に関する連盟調査団との会談
について

長春 5月8日後発
本省 5月8日後着

第二二六号 (暗)

吉田ヨリ

第一一四号
伊藤ヨリ

調査団カ満州ニ来着以来漸時其実情ニ対シ觀察ヲ進メタルハ吉田大使ヨリノ電報ニテ御承知ノコトト存セララルル処連盟事務局側ヨリ日支問題ニ関シ隔意無キ意見ヲ交換希望シタルニ付六日「ペルト」「カテ・アンゼリノ」「ハイアム」ト打解ケテ会谈ヲ為シタルカ右ニ於テ注意スヘキ点アリ

一、「ハイアム」ハ今回ノ日支紛争ハ日本ニ採リ「ストロング、ケイス」タルハ何人モ認ムル所ナルニ連盟国トシテハ日本カ本問題ニ対シ執リタル措置振ノ上出来ナラサリシハ各方面ニテ非難シ居ル所ナリト述ヘタルヲ以テ小官ハ日支紛争ニ対スル我方従来ノ政策並ニ国民ノ対連盟觀ヲ詳細説明シタルニ「ハ」ハ此ノ点ハ今一層世間ニ周知セシムルコト肝要ナル可シト述ヘ居タリ

二、「アンゼリノ」ハ再ヒ長春政府カ必スシモ日本政府及軍部ト同一ニ非サルハ顧維鈞入滿問題ニ依リテモ表明セラレタルモ長春政府カ日本人ニ依リ動カサレ居ルモノナル事ハ疑ナク世間ヲシテ滿州国カ独立セリトノ信念ヲ得セシムルハ不可能ナル可ク若シ調査委員カ独立国ナリ等

ト報告セハ「クレジイ」ナリト評ス可シト述ヘタルヲ以テ小官ハ滿州国ノ実体ハ政府ノ説明並ニ実地調査ヨリ判斷ス可ク研究ノ進ムニ伴レ意見ヲ改ムニ至ル可シト反駁シ置キタリ

三、三人共滿州国成立セル以上日本ハ当然是ヲ承認スルニ至ル可ク日支紛争ハ益々複雑化シ其解決ヲ困難ナラシムヘシトノ意見ナリシニ付小官ハ芳沢大臣カ委員ニ述ヘラレタル通り日本ハ滿州国發展ノ成行ヲ靜觀シタル上承認不承認ヲ決定セントスルモノニシテ我カ態度ニ依リ日支紛争ノ解決ハ一層困難トナル可シトノ結論ハ直ニ得ラレサルヘシト応待シ置キタリ

四、「ハイアム」ハ日支紛争解決困難ナル理由ノ一ハ支那ニ有力ナル政府存セサル事ニアル処何等カノ方法ニ依リ日支兩國代表者ヲシテ会合セシムル事不可能ナリヤト問ヒタルヲ以テ小官ハ目下ノ形勢ニテハ日支兩國政府間外交交渉ハ殆ト絶望ニシテ或ハ兩國ニ於テ社会上重要ナル地位ヲ有スル人士ノ私的会合位ヨリ始ムルノ外ナカルヘシト答ヘ置キタリ

五、「ハイアム」ハ滿州国ニ対スル日本ノ態度未決定ナル

ト支那ノ混乱状態トニ顧ミ調査委員ハ此際的確ナル解決案ヲ提出スルカ如キ事ヲナサス今少シ極東ニ於ケル事態ノ靜定ヲ待チ更ニ方法ヲ講スル事トナス事或ハ目下ノ最良策ニ非サトモ思考シ居ルカ右ハ連盟カ世界平和ノ確保機関トシテ現状ヲ承認スルトカ又ハ日支紛争ヲ取合ハサルカ如キ意味ニ非サル事ヲ表示シ此ノ点ニ関シテハ更ニ小官ト意見ヲ交換シ度キ旨ヲ付言セリ

右ハ「エキスパート」トシテ報告書起草者ノ意見ノ一部ヲ示スモノトシテ御参考迄電報ス

支、奉天、連盟ヘ転電セリ

196 昭和7年5月8日

※在長春田代領事ヨリ
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員に対する趙立法院長の説明振り
について

長春 5月8日後発
本省 5月9日前着

第二二八号（暗）

吉田ヨリ

第一一六号

八日委員トノ会見ニテ立法院長趙欣伯ハ

一、法律修得後張作霖ノ顧問トナリ関内出兵ニ際シ保境安民ニ依ル独立地域構設ヲ勸メ其死後學良ニ対シテモ同様進言シタルモ何レモ容レラレス

二、其後奉天馮庸大学教授トナリ新政府建設ヲ画シ日本側ノ諒解ヲ求メタルニ滿州治安攪乱ヲ許サストテ拒絶セラレ失敗シ

三、事変直後時機到来ト信シ自分ノ会長タル法学研究会ヨリ各地要人ニ新国家建設意見ヲ徴シタルカ交通不便ノ為失敗シ

四、依テ奉天ニ成立ノ地方維持委員会ハ同地ニ独立政府画策シタルモ関東軍司令官ヨリ政治運動禁止令出テタル為之亦成ラス

五、十月二十日奉天市長ニ就任スルヤ密カニ約六万本ノ黄竜旗ヲ作り宣統帝ヲ推戴セントシ金梁ヲ天津ニ派シタルモ金ハ帝ニ近寄レサリシ為病ヲ得テ

六、其後帝族順着ヲ聞キ建國ヲ創メ先ツ奉天ニ政治委員会ヲ組織シテ三度使ヲ同帝ニ派シ漸ク出廬ヲ得タルコト等ヲ説明シ立法院ノ組織ニ関シ同院ハ一院制ノ議院ニシテ

各地ヨリ推薦スル二百名ノ議員ヲ以テ構成シ法律及予算ハ凡テ同院ヲ通過スルニ非サレハ決定セサルコト、同院ハ人民ノ請願ヲ受理シ政府ニ対シテ警告ヲ発スルヲ得ルコトヲ述ヘタルカ右説明ハ日本政府カ新国家建設ニ無関係ナルヲ証スルニ便ナリ

支、北平、奉天、哈爾賓、齊々哈爾、連盟へ転電セリ

197 昭和7年5月8日 橋本関東軍参謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

連盟調査委員の吉林における行動について

5月8日後2時50分発
5月8日後4時20分着

参同文

関参九一(秘)

昨七日連盟調査員一同吉林ニ到リ左ノ如ク会見シ夕刻長春ニ帰来ス

一、第二師団長トノ会見

師団長ヨリ第二師団作戦経過ノ概要、現在第二師団ト協同作戦セル吉林軍ノ状況及第二師団当面ノ反吉林軍ノ状況等ヲ説明シ頗ル順調ニ経過セリ

二、石射総領事及朝鮮人会長トノ会見

兩人共朝鮮人問題ヲ説明セルカ之レ亦好都合ニ進捗セリ殊ニ朝鮮人会長ノ談ハ委員一同ニ大ナル感動ヲ与ヘ随員「ヤング」博士ヲシテ問島ニ出張セシメ更ニ詳細調査セシムル事トナレリ

三、吉林実業厅长、财政厅長及秘書長トノ会見

会見時間僅少ノ為メ総テ簡單ニ経過シ概シテ無難ニ終レリ

尚調査委員一行ノ吉林往復ニハ滿州国側トシテハ鉄道沿線ニ所要ノ軍隊及警察ヲ配備シ日本側トシテハ歩兵一小隊ヲ列車ニ乗込マシメ警戒シタルカ総テ無難ニ経過セリ

198 昭和7年5月8日 在長春塩崎(親三)連盟調査委員参
与委員随員より
大鷹(正次郎)外務書記官宛

アンジェリノ調査員随員の経歴等について

〔マデ〕
拝謹陳者四月二十日付貴信ヲ以テ御申越ノ趣拝承早速調査委員側其ノ他ニ就キ取調ヘ候処(イ)「カット・アンジェリ」ハ調査員随員ニシテ和蘭人タル「ペルト」ノ推薦ニ依リ連盟委員側ヨリ蘭国政府ニ交渉シタルモノナルガ(ロ)同氏

公使、北平、奉天、長春、齊々哈爾、南京、連盟へ転電セリ

200 昭和7年5月9日 橋本関東軍参謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

連盟調査委員の長春発ハルビン行について

5月9日後5時0分発
5月9日後8時32分着

関参一一七(秘)

国際連盟調査員一行ハ予定ノ通り本日午前九時三十四分長春ヲ発シ哈爾賓ニ向フ

警戒ノ手配左ノ如シ

装甲列車ヲ先頭トシ我軍ヨリ歩兵一小隊滿州国側ヨリ巡警四十名警乗ス

201 昭和7年5月10日 橋本関東軍参謀長より
小磯陸軍次官宛(電報)

連盟調査委員のハルビン到着について

5月10日後0時10分発
5月10日後3時30分着

関電七四四(秘)

大鷹書記官殿

於長春
塩崎書記官

199 昭和7年5月9日 在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員のハルビン到着について

ハルビン 5月9日後発
本省 5月9日後着

第四九四号

連盟調査委員一行九日午後五時半当地着無事旅館ニ入レリ

連盟調査団一行ハ昨九日朝長春出發、同夕刻哈市ニ無事到着セリ、来滿以来今迄ニ於テ調査団ニ与ヘタル印象ハ概ネ良好ナルカ如シ調査団ハ十三、四日頃迄滞在後齊々哈爾ニ到リ洮昂線ヲ経テ十七、八日頃奉天ニ再来ノ予定北、天、朝、上、済、スミ

202 昭和7年5月10日 吉田連盟調査委員参与委員より
芳沢外務大臣宛

顧維鈞入滿問題に関する連盟調査委員長と滿
州国外交部総長間に取交されたる往復公文に

ついて

付属書 五月六日付リットン連盟調査委員長・謝滿州国
外交部総長間往復文書

機密支調参与第六四号

昭和七年五月十日

連盟支那調査委員参与委員 吉田伊三郎
特 命 全 權 大 使

外務大臣 芳沢 謙吉殿

顧維鈞入滿問題ニ関スル連盟調査委員長
及滿州国外交総長間ニ取交サレタル往復

公文ニ関スル件

本件経緯ニ関シテハ屢次電報ヲ以テ及報告置キタル通りナル処右ニ関スル往復公文写致ニ送付ス

本信写送付先 公使 北平 奉天 長春

(付属書)

ト

League of Nations
Commission of Enquiry,
Changchun,
6th, May 1932.

Dear Sir,

Mr. Haas has reported to me the result of the conversations which he held, at your wish, with Mr. C. Ohashi, concerning the question of the Chinese assessor.

You know that in accordance with the Resolution of the Council which constituted the Commission of Enquiry the Governments of China and Japan have each the right to nominate an assessor to assist the Commission in its work. It is solely in conformity with

this Resolution that Ambassador Yoshida and Dr.

Wellington Koo have been appointed as Japanese and Chinese assessors. They are accompanying the Commission only in that capacity: and it is needless to point out the necessity for the Commission to remain in touch, through them, with both the Chinese and the Japanese Governments, for the fulfilment of its mission of reconciliation and peace.

In particular, the presence of Dr. Koo with the Commission has no other significance nor bearing of any kind. The activity of Dr. Koo is confined to his duty as an assessor of the Commission, and I have already made it clear that neither he nor any other person accompanying the Commission will engage in any other political activity. I should like, further, to point out that, the mission of the Commission being a mission of peace, its presence in Manchuria with the two assessors and their staff can not in any way affect the peace and order of the districts they pass through,

nor be detrimental to any public interest.

Should, however, any public interests be detrimentally affected as a result of the action of either of the Assessors, I should of course listen to any representations that you may make to me and take such measures as may be necessary in the circumstances.

At your request I transmit herewith a list of the persons chosen to accompany Dr. Koo:

Mr. T.K. Liu, Acting Secretary-General,
Mr. T.Y. Tchiaio, Adviser,
Mr. Sze, Secretary,
Mr. Hussey }
Mr. Donald } Advisers.

I have noted your own declaration that you do not raise an objection to any of these persons.

I have every confidence that you will do your best in the present difficult conditions to facilitate the carrying out of the investigations of the Commission and to secure for it whatever protection may be necessary.

I am,
Yours sincerely,

Signed : Lytton.

His Excellency

Mr. Shieh Chieh-shi,

"Ministry of Foreign Affairs",

Changchun.

①

Changchun, 6th, May 1932.

My Lord,

In reply to your letter of May 6th, I wish to state that in consequence of the assurances you have given on behalf of the Commission the Manchukuo Government withdraws its objection to the entry of Dr. W. Koo into our boundaries. In order to help the work of your Commission we propose to attach my personal representative to accompany you to other places within the State.

We trust that Dr. Koo will find a suitable occasion

to correct the unfortunate statements which have been attributed to him against the State of Manchuria.

While the Government of Manchuria considers that the difficulty of protecting your Commission in the prevailing situation is increased by the inclusion of Dr. Koo, we will nevertheless do our best to afford protection to the entire party during its journeys in the State of Manchuria.

I have the honour to be,

My Lord,

Your obedient Servant,

Signed : 謝介石

Minister of Foreign Affairs
of the State of Manchuria.

His Excellency

The Right Honourable the Earl of Lytton,
Chairman of the Commission of Inquiry
of the League of Nations.

②

League of Nations

Commission of Enquiry,

Changchun,

6th, May 1932.

Dear Sir,

I have the honour to acknowledge receipt of your letter of May 6th, replying to my letter of same date, and I wish to state that I have no objection to your proposal concerning your personal representative.

Yours sincerely,

Signed : Lytton.

His Excellency

Mr. Shieh Chieh-shi,

"Ministry of Foreign Affairs",

Changchun.

203

昭和7年5月10日

在吉林石射総領事より
芳沢外務大臣宛

連盟調査委員に対する満州国民衆代表者の陳情について

機密公第三九一号

昭和七年五月十日

在吉林総領事 石射猪太郎

外務大臣 芳沢 謙吉殿

国際連盟調査団ニ対スル満州国民衆代表

者ノ陳情ニ関スル件

曩ニ満州国建設運動ニ従事セシ当省各団体ニ於テハ黒竜江及奉天兩省ノ各団体ト連合ノ上国際連盟調査団ニ対シ陳情セシムルコトニ話合ヲ行ヒ本月四日委員一行ヲ新京ニ往訪シ前吉林省議会議長ニシテ建国促進会吉林省各県代表タリシ同陳情代表団ノ総代表タル当地林鶴皋ヨリ本件調査団トノ会談状況本官手許ニ通報越セルニ付何等御参考迄左記ノ通致ニ訳報ス

記

満州全国民衆総代表林鶴皋以下各代表自五月四日午後四時至同日午後七時迄国際連盟調査団専門委員ト会见ス先ツ代表団ヨリ「貴委員団ハ辛苦ヲ辞セス遠ク満州国ニ来リ一切ヲ調査ス、我満州国民衆ハ衷心諸卿ヲ歓迎シ吾等四名代表ヲ推挙シテ貴団ニ普見シ以テ歓迎ノ誠意ヲ表示シ並

ニ民衆ノ声明書ヲ修具シ以テ恭シク鑒査ヲ請フ一旨ヲ述ヘ別紙ヲ手交シ次テ左ノ質問応答ヲ為セリ

問、諸君代表ノ選出方法如何

答、吉林ハ各県ノ民衆各一人ヲ挙ケ計四十二人省城ニ至リ四十二人中ヨリ四人ヲ公選シ新京ニ至リテ連盟ニ向ヒテ民意ヲ陳述ス黒竜江省ハ各県民衆ヨリ民意ヲ代表スルノ委員ヲ推挙シ每県一人ハ省城ニ至リテ民治指導会ヲ組織シ今次ハ会中ヨリ代表七人ヲ推挙シ京ニ至リテ連盟ニ向ヒテ建国ノ情況ト事変經過ヲ陳述ス奉天民衆代表三名哈爾賓代表二人興安区代表二人吉林弁法ニ照シテ民衆代表ヲ選出シ京ニ到レリ以上五処合計代表十八名ハ吉林代表林鶴皋ヲ公選シテ全国民衆總代表トナシ江省代表許蘭坡ヲ副總代表トナセリ

(委員方面モ此ノ場合合法ナリト認メタリ)

問、日本ハ何故ニ鉄道線路外ニ出兵セリヤ

答、張學良ハ外交信義ナシ故ニ日本ハ固有ノ權益ヲ保持スルカ為ニ出兵セリ

問、諸君ハ日本軍ノ駐兵ヲ願フヤ

答、吾々ノ地方ハ兵匪ノ擾乱ヲ蒙リ民ハ生活スルヲ得ス故

問、諸君ハ總テ中国人ナリ何故ニ中国ヲ脱離シテ自ラ建国ヲ行フヤ

答、民衆ハ甘シテ中国ヲ脱離スルニ非ス事変後中国政府ハ吾等ヲ顧ミサルニ因リ已ムヲ得ス新国家ヲ建ツルナリ

問、滿州国ニ對シテハ未タ列国ハ之ヲ承認セス甚タ危險ヲ感ス諸國ハ何等カ確信スル所アリヤ

答、吾等民衆ハ政府ト一致努力シ善良ナル政治ヲ完成シ經濟上發達ヲ増加シ法律ヲ修明シ各國ニ對シテ一視同仁門戸開放機會均等而シテ吾等ノ力量ヲ尽シテ國際慣例ヲ遵守セハ各友邦ハ當ニ能ク吾人ノ國家ヲ承認スヘシ將來若シ日本人ニシテ諸君ノ商業上及經濟上ノ優越地位ヲ占メ或ヒハ朝鮮人ヲシテ諸君ノ土地ヲ侵占セシメハ諸君ハ如何ナル方法アリヤ

答、日本ハ文明國ニシテ絶対ニ非合理ナル侵害ヲ吾等ニ加フルコトナカルヘシ若シ又日本或ハ朝鮮ニシテ吾カ國ニ來レハ當然一律平等ナリ仮リニ土地問題ヲ發生スルモ商租或ヒハ買取スルヲ得テ民族交易ノ性質ニ係ル私人經濟上ノ高低ニ至ツテハ乃チ智識學術ノ關係ニシテ

ニ日本軍ノ此等人民ノ保障ヲナスニ依頼セリ

問、日本ノ北滿ニ出兵セルハ何故ナリヤ

答、江省軍苑旅長ノ嫩江鉄橋ヲ炸燬セルニヨル

問、諸君ハ何故ニ滿州國ヲ建設セントスルヤ

答、以前東北ハ軍閥ノ專政ニシテ人民ハ多年圧迫ヲ受ク事變後ハ政權ノ歸スルトコロナク胡匪ハ地ニ遍ク人民ノ生命財産ハ全ク保障ナシ此ニ於テ公正ナル民意ノ國家ヲ建設シ以テ安居樂業ヲ求メント決意セリ

是レ國連ノ弱小民族ノ獨立ヲ扶助スルノ主張ニ根拠ヲ置ケリ

問、諸君ノ建國タルヤ又兵力無シ之ヲ恐レサルヤ若シ某國ノ諸君ニ對シテ宣戰スルニ於テハ如何ナル方法ヲ以テ之ニ對セントハスルヤ

答、吾等三千万民衆一般建國ヲ決心セリ各友邦若シ能ク吾等ヲ諒解セハ當然侵害ヲ加ヘサルヘシ

若シ妄リニ侵害ヲ加ヘンカ全体民衆ヲ合シテ之ト戰ヒ

万已ムヲ得サル時ニ至ツテモ假令全体ノ犠牲ヲ払フモ

又計ラサルトコロナリ現下國軍ニ對シ又相當ノ計畫アリ

若シ吾等人民ノ程度向上スレハ自ラ優越ナル地位ヲ占ムヘキナリ

問、若シ鐵道ニシテ日本ニ歸シ土地ニシテ中国ニ歸スルモ諸君ハ尚ホ愉快ナリヤ

答、絶対ニ愉快ナラス獨立國家ヲ建設スルニ非サレハ不可ナリ

問、以前張氏政權ヲ握リシ時何等カノ民意ノ機關アリシヤ以後党部ヲ設立セシヤ如何

答、先キニ省議會アリ純粹ナル人民選舉ノ議員ニシテ本省政治ニ参与セシモ張學良ノ非法解散ニ遭フニ及ンテ真正ノ民意機關ナシ其ノ立ツル所ノ党部ハ全テ是レ張氏ノ私人ニシテ民意ヲ代表スルモノニアラス

問、今次日本ハ諸君ノ立國ヲ援助シ甚大ナル力量ト金錢ノ犠牲ヲ払ヘリ將來諸君ハ如何ナル報酬ヲ之ニナサントスルヤ

答、日本ハ吾等ヲ援助シテ獨立國家ヲ建設セリ之レ我等ノ非常ニ感謝スル所ナリ而シテ報酬ノ一事ハ即チ日本ハ曾テ声明セルトコロノ既得權利ノ保護以外ニハ希圖ナシト云ヘルトホリニシテ吾等之ヲ信セリ

問、万宝山事件ハ結局何方ニ是非アリヤ

答、此ノ事件タルヤ軍閥時代ノ压制甚シク遂ニ朝鮮人ノ反感ヲ買ヒシナリ

問、従前張政權ノ執リシ當時財政ノ收支及文武官吏ノ任用ハ公正ナリシヤ否ヤ

答、張氏專政多年ニシテ中国税率ニ遵照セス各項捐税額以外ニ追徴増加シ近年商民ノ負担更ニ重ク支出方面ノ大部分ハ軍費ニ用ヒ又審計機關ナク張氏ハ隨意ニ奉票ヲ利用シ現貨及糧食ヲ買取セリ

故ニ貨幣法ハ荒廢シ人民ノ損失ハ甚大ニシテ其ノ文武官ヲ任用スルヤ制度有之ルナク試験資格ヲ論セス其ノ親戚朋友或ヒハ彼ノ好ムトコロノ者ハ挙ケテ之ヲ任用ス実ニ暗黒ナリト云フヘシ

問、官員ノ違法ノ場合法院ハ之ヲ檢挙スルヲ得ルカ軍事機關ハ司法ニ干渉スルコトナキヤ

答、文武官員ニシテ若シ軍閥ト關係アルモノ違法行為アリタル場合ハ法院ハ之ヲ不問ニ付シ人民ニシテ軍事機關ト問題ヲ發生セル場合ハ常ニ軍法ヲ用ヒ逮捕シ法律手續ヲ執ラス或ハ之ヲ拘禁シ甚シキニ至リテハ之ヲ銃殺

答、國際連盟ノ正義人道ヲ主張スルヲ請求シ早日正式ニ滿州國ヲ承認スレハ即チ一切ノ糾紛ハ立トコロニ氷解セ

ン然ラサレハ恐ラク世界的戦争ヲ惹起セン之殊ニ人類最大ノ不幸ナリ

以上

(別紙)

滿州国民衆声明書

連盟調査団ハ遠ク滿州國ニ來リ滿州國ノ各地方ノ現状ヲ調査ス我滿州國ノ民衆ハ歡迎ニ堪ヘス茲ニ新國家建設ノ理由ト貴調査団ニ対スル希望トヲ陳述シ恭シク鑒察ヲ乞フ

一、凡ソ國家成立ノ要素ハ人民ヲ以テ主体ト為ササルハナシ滿州國成立ハ乃チ三千万民衆ノ一般ノ主張ニシテ其ノ理由トスルトコロハ従前東北軍閥ハ國家ヲ以テ私有物トシ民衆ヲ視ルコト奴隸ノ如ク民衆ハ強暴ナル政權ノ下ニ屈伏スルコト二十年茲ニ於テカ今次ノ事變ハ素ヨリ信義ニ違背スルノ惡劣軍閥ノ隣邦ノ為ニ打倒ヲ被リシ所ニシテ正ニ吾民衆ノ復活ノ時ニシテ乃チ人民ノ自由自決ノ意志ニ基キ滿州ニ發祥セル前清廢帝溥儀ヲ推戴シテ元首トナシ新滿州國家ヲ建設セリ是レ新國家ノ成立ハ全滿人民ニヨリテ永久ノ幸福ヲ謀ル為メ忠誠努力ヲ以テ得タルト

スルモノスラアリ

問、張氏政治ニ対シテ好カラス諸君今次國ヲ建テ國家ヲ設立ス能ク改革スルトコロアリヤ

答、張氏ハ政治ニ対シテ良カラス人民ハ多大ノ痛苦ヲ受クルモ未タ機會ヲ得テ離脱スル能ハス今次幸ニシテ彼等ノ勢力ヲ除去シ新國家ヲ建テ人民ハ十二分ノ決心ト希望トヲ以テ法制ヲ修明シ征前ノ惡劣政治ヲ一律ニ掃倒セントス

問、吾等カ中国ノ地方ニ在リテ一般中国人ハ諸君三千万人ノ為ニ痛惜流涙スト云フノハ諸君等ノ土地人民カ均シク他人ノ手ニ歸スカ為ト云ヘルモノニシテ諸君ハ如何ナル感ヲナセルヤ

答、彼等ノ痛惜スルトコロハ芝居ヲ見ル人ノ涙ヲ流スト同様ニシテ彼等ハ未タ旧軍閥ノ殘暴ト胡匪ノ淫掠ヲ受ケタルニ非ス故ニ客觀的立場ヲ以テ吾々ヲ痛惜スルモ之又一種人情ノ常事ナリ

問、諸君ハ滿州全國民衆總代表トナル諸君ハ何等カ良方法アリテ目前ノ糾紛ヲ解決シ東亞ノ戰事ヲ避免スルヲ得ルヤ

コロノ結果ナリ

一、旧軍閥ハ專ラ私利ヲ圖リ貨幣法ヲ私用シ是ニ於テカ貨幣法ハ紊亂シ幣制又亂レ收拾スヘカラス試ミニ一例ヲ挙クレハ奉天票ハ当初ノ發行每一元二角ヲ銀幣一元ニ当ルトシ其後兌換ヲ与ヘス無限ノ巨額ヲ發行セルニヨリ價格ハ随ツテ下落セリ張學良政權ヲ握リシ時奉票ハ僅ニ二十元ニシテ始メテ銀幣一元ヲ兌換スルヲ得タリ

彼ハ竟ニ官銀號ヲ利用シ一百元及五十元ノ無価値ノ大奉票ヲ發行シ民間ノ糧食ヲ買占メ商業ヲ压迫シ市場ヲ壟斷セリ爾後發行弥多ク價格弥々低シ遂ニ一落千丈ヲ致シ復タ命令シテ法定價格ヲ規定セリ每奉票六十元ヲ銀幣一元トナシ其落価ノ損失ハ悉ク人民ノ負担ニ歸セシメタリ吉林官帖亦此ノ如シ原ト發行ノ當時二帖五百文ハ即チ現幣一元ニ兌換セルモ現在ハ五百余吊ニ下落シ江省ハ二千余吊ニ下落セリ舊ニ幣制ノ紊亂セルノミナラス且ツ商民ハ此ノ荼毒ヲ受ク尚想像スルニ堪ヘンヤ張學良大權ヲ独裁スルヤ各種ノ苛税ヲ益々重徴シ一般嗽々痛苦ノ百姓ニ対シテハ棄置シテ顧ミス又無価値ノ紙幣ヲ以テ大宗ノ糧食ヲ買占メ転売シテ利ヲ漁リ得タルトコロノ巨款ト誅求シ

テ得タルトコロノ税捐トヲ以テ軍器ヲ購入シ幾十萬ノ私兵ヲ養ヒ関内出兵ノ費用ニ充テ或ハ私財ヲ作り国家經費ノ十分ノ九ハ之ヲ軍費ニ用ヒ国民ノ幸福及産業ノ開發ヲ謀ル等ニ至ツテハ一ツトシテ顧ミス民衆塗炭ノ苦シミ實ニ筆紙ニ尽シ難シ之ヲ以テ今次ノ機会ヲ利用シ人民ノ自決ヲ求メ軍閥ノ毒手ヲ離脱シ新国家ヲ設立セシ所以ナリ

一、従前東省民意ノ機関ハ初ニ諮議局アリ次ニ省議會アリ均シク代議制度ニ係リ以テ民意ノ暢達ヲ謀レリ張作霖危禍ニ遇ヒシ後治安紊乱ヲ恐レ大局ヲ保持センカ為三省連合会ハ張學良ヲ挙ケテ東省保安總司令トナセリ(四三)原末保境安民生息ヲ休養シ以テ民治ヲ發揚セントセシモ料ラサリキ就任数月ニシテ各省民意ノ機関タル省議會ヲ全体解散シ一意寵信ノ新進ヲ引キ南方党人ト結合シ形式政治ヲ施行シ名ハ民国ト云フモ實際独裁權ハ民權ヲ殘害シ往クトコロトシテ極マラサルナシ吾々民衆ハ天賦之民權ヲ恢復セント欲セハ一民意独立国家ヲ建設セサル能ハス

一、九一八事變發生以後張學良ハ南京政府ト正當解決方策ヲ謀ラス一ハ即チ北平ニ居リテ声色ニ流連シ一ハ則チ南

排外運動ヲ掃除シ以テ世界大同ヲ期シ樂土ヲ建設スヘキナリ
玆ニ建設ニ當リ貴調査団ノ光臨ヲ得テ民衆ノ十二分ノ熱誠ヲ以テ貴國ノコノ公道ヲ秉ルヲ希望シ國際正誼ニ加フルニ援助以テセハ欣聆ニ堪ヘサルトコロナリ

滿州国民衆總代表 林 鶴 泉
滿州国民衆副總代表 許 蘭 坡
奉天省民衆代表 張 其 昌

吉林省民衆代表 劉 海 軒
謝 雨 琴
程 坤 元

黑龍江省民衆代表

富 恕 炳 宗
潘 淵 龍
閔 溥 濤
閔 燕 生

京ニ聚議シテ今ニ至ルモ計畫スル無シ吾東北民衆ヲ棄テテ顧ミス而シテ不逞ノ徒ハ又時機ヲ利用シテ兵匪ヲ結合シ地方ヲ擾乱シ名ハ義勇ト云フモ實ハ民賊ニ係リ民ハ生活スル能ハス土ニ寸淨ナシ自衛ヲ謀リ死亡ヲ救ハント欲セハ更ニ新国家ヲ建設シ法ヲ設ケテ剿撫シ以テ民命ヲ託スヘキナリ

一、滿州國ハ地大物博ニシテ各種經濟開發之可能性ヲ具備セリ従前軍閥ハ此ノ計ヲナサス只管外國ノ投資ト援助トヲ妨害セリ試ミニ貿易狀況ヲ調査スルニ中國貿易ノ三分ノ一ヲ占メ國內各種障害ヲ除去シ經濟開發ヲ奨励シ各國投資ト援助トヲ開發スルニ於テハ新國家經濟ノ前途發展ハ必ス無限ナリ而シテ經濟ノ根本ハ自當ニ強固ナルヘキニシテ新國家建設ヲ決心スル所以ナリ

一、此ノ三千万民衆ノ新國家ヲ建設スルノ理由ハ既ニ如上述ヘタルトコロニシテ但理想ハ高ケレトモ實力ハ尚弱ク相當ノ援助ヲ得ハ則チ健全發育之各種根本條件ヲ具備セル滿州ハ乃チ其ノ工商互利民衆歡樂門戸開放機會均等ノ目的ヲ達スヘキナリ友邦ノ果シテ來リテ之ヲ助クル者ハ國籍ト民族ノ區別ヲ分タス之ヲ歡迎シ従前軍閥ノ命スル

哈爾賓特一區民衆代表 楊 貫 三
興安一區民衆代表 許 永 銘
普 樂 布

204 昭和7年5月11日 在奉天森島總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

奉天における中国人逮捕事件について

奉天 5月11日後発
本省 5月11日後着

第七七四号(暗)

閣下発長春宛電報第七三三号ニ関シ

支那人カ当地大和「ホテル」ニ支那側参与員一行ヲ訪問セントシテ我警官ニ同行ヲ求メラレタル事件ハ二件アリタルノミナルカ一ハ四月廿三日周斌(Chou Pin)ナル者ニシテ取調ノ結果願参与員ニ失業ノ窮状ヲ訴ヘントシタルモノナルコト判明シ他ハ当地支那側郵便局員鄭伝箕(Cheng Chuan Chi)ニシテ廿四日随員顧執中(Koo Chih Chung)ヲ訪問セルモノナル処警官ノ問ニ対シ容易ニ身分ヲ明カニセサル等容疑ノ点アリシカ何レモ取調ノ上釈放セリ當時支

那側一行ニ対スル満州国ノ態度強硬ニシテ付属地境ニ多数ノ武装警官ヲ配シ顧維鈞ヲ逮捕セント意気込ミ居タル一方一行ノ身辺モ相当危険ニ感セラレタル実状ナリシ為我警察ハ身許明カナラサル者ノ一行ニ接近スルヲ制限シタルハ已ムヲ得サリシ次第ナルカ本件経緯ハ吉田参与員ヨリ連盟調査員側ニ説明済ノ筈ナリ

尚冒頭電報中ノ暗号電報文本省ノミ郵送ス

支、北平、南京、米、連盟、長春へ転電セリ

205 昭和7年5月11日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

北滿在住朝鮮人被害者の連盟調査団専門委員
への陳情について

ハルビン 5月11日前発
本省 5月11日後着

第四九六号(暗)

吉田ヨリ

第一一七号

十一日ヨリ師団長、総領事代理、其他満州国側トノ会见ヲ開始スル事トセリ

207 昭和7年5月11日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員に対する広瀨師団長の応対振り
について

ハルビン 5月11日後発
本省 5月12日後着

第五〇〇号(暗)

吉田ヨリ

第一一九号

十一日広瀨師団長ハ委員ノ質問ニ答ヘ哈市ヲ中心トシ約三四十軒以内ハ平穩ナルモ其以外ハ哈市ノ南方地方ヲ除ク外ハ総テ反吉林軍、匪賊等ノ跳梁甚シク殊ニ調査団ノ来滿ヲ期シ満州攪乱計画アルモノノ如ク最近二週間以内其ノ活動ハ頓ニ盛トナリタリトテ北滿ニ於ケル匪賊ノ分布状況ヲ説明シタルカ「リットン」ヨリ馬占山軍ハ予備報告中ノ官軍中ニ包含セラレ居レリヤ若クハ反軍中ニ包含セラレ居ルヤトノ質問アリ

之ニ対シ官軍トシテ算定セラレ居ル事ヲ述ヘ又軍ハ治安維持ニ任シ居レリヤトノ問ヒニ対シ軍ハ直接ニハ之ニ関与シ

尚十日専門委員「カット・アンゼリノ」ハ北滿在住鮮人代表者約三十名ノ陳情ヲ聴取シタルカ右鮮人代表中数名ノ婦人及小供アリ支那官憲及兵士ノ為ニ蒙リタル虐殺、強姦等ノ事情ヲ直接被害者ヨリ詳細述ヘ立テ鮮カラサル印象ヲ与ヘタリ

支、北平、奉天、長春、齊々哈爾、連盟へ転電セリ

206 昭和7年5月11日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の広瀨第十師団長、鮑ハルビン
市長との会見について

ハルビン 5月11日後発
本省 5月12日後着

第四九九号(暗)

吉田ヨリ

第一一八号

十一日委員ノ行動左ノ通

廣瀨第十師団長及鮑哈爾賓市長ト会见尚内務省石川事務官ヨリ専門家ニ対シ当方面ニ於ケル共產党運動ニ関シ説明スル処アリタリ

居ラス唯主要都市ノ治安維持ハ公安隊ニ於テ之レニ当リ居レルモ有力ナル日本軍ノ後援ナクンハ充分能力ヲ發揮スル能ハス此ノ意味ニ於テ軍ハ唯間接ニ之ニ貢獻シ居ル状況ナリト答ヘ又「マツコイ」ヨリ満州国軍隊ハ信頼スルニ足ラサルヲ以テ目下同軍編制替ヘ中ナル趣ノ処右編制替ヲ為スモノハ日本、日本人顧問、満州国其ノ何レナリヤト質問シタルニ対シ自分ノ聞ク処ニ依レハ編制ノ指導ハ之ヲ日本側ニ仰ク可ク目下顧問備聘中ナル趣ナリト答ヘタリ

支、北平、奉天、長春、齊々哈爾、連盟へ転電セリ

208 昭和7年5月12日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

ヤングの満州問題解決策について

ハルビン 5月12日後発
本省 5月12日後着

第五〇一号(暗)

吉田ヨリ

第一一九号

伊藤ヨリ

往電第一(一九五文書)
一四号ニ関シ

「ヤング」トモ屢々会談シタルカ

一、満州国政府ニ関シ「ヤング」ハ小官カ北平ニ於テ説明シタル処ヲ肯定シ同政府ノ要人カ必スシモ日本政府及軍ノ意ノ儘動カス從テ其傀儡ニ非サルコトハ承知シタルモ一方長春政府ノ要路ニ日本人カ立チ主要ナル事項ヲ決定シ居ルコトモ亦事実ナリト述ヘ此一見相矛盾スル二事実ニ付テハ(一)長春政府カ完全ニ日本軍ノ支配下ニ在ルハ争ハレサル事実ニシテ日本軍ハ若シ欲スレハ其意思ヲ何時ニテモ強制シ得ル地位ニ立テルヲ以テ日本政府乃至軍ハ今ヤ倥偬ノ際暫ク或程度ニ之ヲ放任シ事態ノ固定ヲ俟チツツアルカ為ナリト解釈スルカ又ハ(二)長春政府ニ圧迫ヲ加フルコトニ対シテハ日本国内ニ相当強キ反対アルニ依ルト解釈スルノ外無シト述ヘタルニ付小官ハ斯ル複雑ナル事情アレハコソ芳沢大臣モ承認問題ハ日本トシテ輕々シク決定スルヲ得サル旨述ヘラレタルナラント輕ク応答シ置キタリ

二、満州問題ノ解決方法ニ関シ「ヤング」ハ右ハ第一ニ日本ノ要求ヲ満足スルモノタルヲ要シ第二ニ支那ノ承認シ得ルモノタルヲ要シ第三ニ連盟規約ノ精神ヲ無視スルモ

答振リ請訓について

ハルビン 5月12日後発
本省 5月12日後着

第五〇二号 (暗、極秘)

吉田ヨリ

第一二〇号

伊藤ヨリ

調査団ハ来満以来各地ニ於テ満州問題ニ関スル過去及現在ノ説明ヲ求メ調査ヲ進メ居レル次第ニシテ今後齊々哈爾濱ヲ經テ奉天ニ歸ル筈ナルカ調査団ハ兩度奉天ニ於テ情報ヲ充實選採スルモノナルハ勿論各方面ヨリ聞ク処ニ依レハ満州問題ノ解決案ニ関シ本庄司令官等ト意見交換ヲ希望シ居ルモノノ如シ

調査団「エキスパート」ノ日支紛争特ニ満州問題解決案ニ関スル意見ノ大要ニ就テハ既ニ小官ヨリモ電報ノ通ナルカ從來小官ニ対シテモ屢々其意見ヲ尋ネラルルモ右ハ調査委員カ貴大臣ト談話スヘキ根本問題ナリトシテ意見ノ開示ヲ差控ヘ来リタル次第ナリ然ルニ奉天本庄司令官其他ニ対シ出先官憲トシテノ意見ヲ徴セラルル場合全然意見發表ヲ拒

ノタル可カラストノ三点ヨリ研究セサル可カラストシ其意味ニ於テ先ツ国防經濟及治安ニ関スル日本人要請ヲ認ムルコト肝要ニシテ第二ニ張學良ノ帰還等ハ問題トナラザルハ明瞭ナルモ唯満州ニ形式上支那ノ主權乃至ハ宗主權ヲ認メ例ヘハ外蒙古ニ関スルカ如キ形式ヲ執ラハ支那政府ハ満足スヘク更ニ日本ハ満州問題ニ関連シ世界ヲ攪乱スルノ意思ニ非ス從テ「ケロッグ、パクト」及連盟規約尊重ノ意思ナルコトヲ明瞭ニセラルルコトヲ得ハ天下ノ輿論(少クトモ英米)之ニ満足スヘキヲ以テ此位ノ処ニテ解決方法ヲ求ムルヨリ外無カルヘシ但シ目下ノ形勢ニテハ右ノ如キ案ニ賛成ヲ得ルコト至難ナル可シト思考スル旨述ヘタリ

「ヤング」ハ過去八ヶ月南京其他ニ於テ支那要人ト接触シ来リ支那要人ノ意向ヲ承知セル筈ナリト述ヘ居ル次第モアリ御参考ノ為電報ス
支、奉天、連盟ヘ転電セリ

209 昭和7年5月12日

※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

満州問題解決方針に関する連盟調査団への応

絶スルカ又ハ東京ニ於テ貴大臣ノ開示セラルヘキ御意見ニ対スル伏線ノ如キ形式ニ於テ何等カ述ヘ置クコト適當ナルヤノ問題ハ此ノ際特ニ考究ヲ要スル点ニシテ曩ニ斎藤博士ヲ通シ右ニ関シ御意見指示ヲ仰キ置キタル次第ナルカ調査団モ二十日頃奉天着ノ予定ニ付之ニ先立チ何分ノ御指令ヲ得度シ

尚小官ハ奉天ニ於テ調査団ニ対スル応答方準備ノ為杉下同伴十四日頃当地出發同地ニ向ヒ度希望ナルニ付右御許可ヲ請フ

奉天ヘ転電セリ

210 昭和7年5月12日

※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員に対する鮑ハルビン市長の応待

振リについて

ハルビン 5月12日後発
本省 5月12日後着

第五〇四号 (暗)

吉田ヨリ

第一二一号

十一日鮑市長ハ委員トノ会見ニ於テ主トシテ同人ノ経歴ヲ述ヘ旧奉天政權ノ同人ニ対スル庄迫殊ニ法ニ基カシテ同

人カ逮捕セラレタルコト及昨年事變後地方政權ニ依リ釈放セラレ次テ特別区行政庁長張景惠ニ依リ哈爾賓市長ニ任セラレタルコト等ヲ述ヘタルカ特ニ新國家問題ニ関シ言及スルコト無カリキ(委細郵報)

支、北平、奉天、長春、連盟ヘ転電セリ

211 昭和7年5月(13)日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の質問に対する回答振り指示方

について

付記 連盟調査委員より在奉天森島総領事代理あて提出の質問書

奉天
本省 5月13日後着

第七八二号(暗、至急)

九日吉田参与員カ長春ヨリ直接本省宛送付ノ連盟調査員ヨリ本官宛提出ノ質問要領書中左記諸点ニ付至急御回電ヲ請フ

(一)質問要領書一ノ(二)回答ノ際昨年大倉組ト学良政府トノ航空契約交渉ヲモ実例ニ援用スルコト有利ト思考スル処右ノ可否

(二)同四ノ(四)間島協約ニ関シテハ我ニ於テ支那側ノ領土權ヲ承認シタルニ対シ幾多ノ対償ヲ得居ル処本件朝鮮人ノ土地所有權ハ右ノ一ニシテ間島協約第五条ハ右土地所有權ノ存在ヲ前提トシタルモノナリト答弁シ差支ナキヤ

(三)同五ノ(一)及(二)南滿及東部内蒙古ノ意義

(四)同七ノ(一)ニ対スル本省ノ解釈

(五)同九ノ(一)ノ(a)ニ付共同調査報告ヲ委員ニ提出シ差支ナキヤ

尚三ノ(四)ニ関シ在滿各館ヨリ毎年本省ニ提出ノ商租調査報告ヲ一括提出スルコト最良ト思考スルニ付右取纏メ至急御送付相成度シ

(付記)

Questionnaire presented by
the Commission of Inquiry of
the League of Nations
to Mr. Morishima.

I. The relations between Manchuria and China Proper during the period after the Assumption of office of Marshal Chang Hsueh-liang (Until Sept. 18, 1931).

1. What has been the official position taken by the Japanese Government with respect to Manchuria as an integral part of the Chinese Republic?

2. To what degree did the Japanese Government find it necessary to deal with Marshal Chang Hsueh-liang and his administration for settlement of Sino-Japanese question? (Would it be convenient to cite concrete cases to illustrate?)

3. Might the Commission be informed whether any important Sino-Japanese agreements, as, for example, in the field of railway contracts, were negotiated by the Japanese authorities with the Government of Marshal Chang Hsueh-liang, without concurrent negotiation with the Central Government at Nanking?

4. Might the Commission be informed as to the

attitude of the Japanese Government toward the inclusion of Manchuria under the Kuomintang regime of the Nanking Government? (Statement of Japanese policy as expressed in the note of May 18, 1928, to "preserve peace and order in Manchuria". The representations of Baron Gonsuke Hayashi and Mr. Kyujiro Hayashi (Consul General, Mukden) to Marshal Chang Hsueh-liang in August, 1928 as to the flying of the Nationalist flag in Manchuria).

5. To what degree was the Government of Marshal Chang Hsueh-liang practically independent or "autonomous" from the National Government at Nanking? (Examples: (a) Administration of the Post Office, Maritime Customs, and the Salt Gabelle; (b) Educational system; (c) Appointment of Manchurian officials, military and civil).

6. In what ways, if any, did Marshal Chang Hsueh-liang, as the highest political official of the Chinese in Manchuria, assume an attitude or pursue a policy more

prejudicial to Japan's rights and interests in Manchuria than his father, the late Marshal Chang Tso-lin?

II. The Activities of the Communists in Manchuria
their relations with revolutionary movements affecting the security of Japan.

1. Since the problem of communistic activities in Manchuria naturally involves a vast amount of discussion of detailed situations, the Acting Consul-General might perhaps desire to present to the Commission a confidential memorandum on the general subject, including perhaps treatment of the following subjects; (a) the scope of Communist organisation and propaganda in Manchuria from 1925 to September 18, 1931; with special reference to evidences, if any, of a liaison with the Third International; (b) the position of the Chinese Eastern Railway in relation to dissemination of Communist propaganda?

III. The problem of Land Leasing in Manchuria.

1. In view of the provisions for permitting the

"lease" of land ("for a long term up to thirty years and unconditionally renewable") to Japanese subjects, contained in the Sino-Japanese agreements of May, 1915, is it correct to conclude "interior" of Manchuria there is no legal right for any foreigner to "purchase" land? (freehold title).

2. Would it be convenient to file with the Commission copies of governmental orders or instructions to local officials, either issued by the central Chinese authorities at Mukden or by provincial or local authorities, or both, which were issued for the purpose of restraining Chinese landowners from leasing land to Japanese subjects in accordance with the agreements for such land leases made in 1915? (Examples shortly after 1915 and more recently, especially after 1925, would be especially useful for the Commission).

3. *Sakakibara Land Lease and Peiling Railway Case*, 1929. As this case is perhaps "the most conspicuous" instance cited (Vide: Japanese Assessor's

document B. Relations of Japan with Manchuria and Mongolia p. 94) of alleged Chinese official oppression of Japanese holders of titles to land in lease, would it be possible for the Commission to receive from the Acting Consul-General a special memorandum on this case, dealing with the following points:

(a) the original land area and nature of the title possessed by the first holders of the lease in the Mukden vicinity toward Peiling and in the vicinity of the site of the present North Eastern University:

(b) An account of the negotiations, conducted by the Japanese Consulate General, Mukden, for a settlement of this case, especially during and after 1925:

(c) The Peiling railway incident, June, 1929:

(d) The present status of the lease (Since Sept. 18, 1931):

4. To what degree has the provision in the Sino-Japanese agreements of 1915 with respect to the right to lease land been actually taken advantage of by Japanese subjects in Manchuria? (Are such leases widely distributed over each of the Three Eastern Provinces?)

5. Excluding the so-called "Chientao" (Yenchu) and Hunchun areas north of the Yalu river, bordering Chosen (Korea), where there are so many Koreans, are instances of land leases obtained by Koreans in Manchuria more prevalent and extensive in land area than those possessed by Japanese?

IV. The Korean Problem in Manchuria.

1. Does the Consul General wish to present to the Commission any evidence as to oppression and ill-treatment of Koreans beyond the full account contained in the Japanese Assessor's Document B., Relations of Japan with Manchuria and Mongolia?

2. *Economic oppression*. Numerous cases of apparent discrimination against Koreans in Manchuria. Especially

through irregular taxation, registration fees and oppressive landlordism, have been reported to the Commission. Does the Consul General wish to draw the attention of the Commission to any special points in this respect?

3. *Political oppression.* (Problem of naturalization and expatriation).

- (a) What is the Japanese law with regard to the right of Koreans to emigrate into Manchuria?
- (b) What is the Japanese law with respect to the right of Koreans to change their allegiance?
- (c) Does the situation referred to under (b) conflict with the Chinese law of naturalization?
- (d) It has been reported that, in spite of the respective laws of Japan and China with regard to change of allegiance and naturalization of Koreans, many Koreans have *in fact* assumed the status of Chinese subjects in Manchuria, having conformed to Chinese local regulations

in respect to naturalization—though contrary to the law of naturalization of the Chinese Republic. Is this a fact and if so, is the number of Koreans who have thus voluntarily divested themselves of their former allegiance large? (How large?)

- (e) Would it be possible to have an expression of opinion as to what percentage of the Koreans in Manchuria before September 18 last (1) desired to become Chinese subjects; (2) to become released from Japanese consular jurisdiction; (3) and to retain their Korean allegiance to Japan?
- (f) Was the Japanese policy to favour or restrict the emigration of Koreans into Manchuria?
- (g) Would it be possible to have an expression of opinion as to whether the Japanese Government was entirely committed to a policy of prohibiting the change of allegiance of Koreans in

Manchuria? Under what conditions might it have been possible to consider alteration in the Japanese law and policy with respect to expatriation of Koreans?

4. *The Korean Question in Chientao District.* (The Sino-Japanese agreement of September 4, 1909, which established the boundary between Chosen (Korea) and China, also contained a clause recognising the right of Koreans then resident in and possessing land in the so-called “Chientao” district to continue to possess those lands). *Does the 1909 agreement with respect to “Chientao” furnish authority for the contention that the agreement itself gave Koreans the right subsequently to acquire new lands, under lease or otherwise, in this area?*

5. *Korean question and Japanese Consular Jurisdiction.*

- (a) In view of the existence of the Sino-Japanese agreement of 1909 (above referred to), does

- the Japanese Government take the position that the Sino-Japanese agreement of May, 1915, providing for the right to lease land, and for the right of residence and travel “in the interior” of South Manchuria, apply similarly to Koreans?
- (b) If applicable to Koreans, who are Japanese subjects, does Japanese consular jurisdiction which the Japanese Government interprets to include the right to station consular police “in the interior”, apply equally to the Koreans as to Japanese?
- (c) Which Government, the Chinese or Japanese, has jurisdiction over Koreans in cases involving land disputes?
- (d) On what grounds does the Japanese Government contend that the right to station Japanese consular police in Manchuria is a corollary derivable from the treaty right of extraterritoriality?

V. The Right of Travel, Residence and Conducting Business enterprises in the Interior of South Manchuria.

1. (The Sino-Japanese treaty of May 25, 1915, provided, *inter alia*, that Japanese subjects should have the right “to enter, travel and reside in South Manchuria and to carry on business of various kinds—commercial, industrial and otherwise”). May the Commission be given an authoritative official interpretation of the geographical extent of the term “South Manchuria”?

2. Similarly, how define the term “Eastern Inner Mongolia”, as used in the 1915 treaty? Does the term include Chahar? Has there ever been an agreed definition of the term as between Japan and China?

3. Are Japanese subjects entitled under the 1915 agreements with China to reside and conduct business enterprises (other than joint agricultural enterprises) in Eastern Inner Mongolia?

those places?

3. *Taxation in the South Manchuria Railway areas.*

(a) By virtue of what international agreement, if any, does the South Manchuria Railway Company possess the right to tax foreigners residing in the South Manchuria Railway areas of “railway settlement”?

(b) What is the source of the authority of the South Manchuria Railway Company to tax Chinese residing in these areas?

(c) Were the Chinese authorities entitled to levy and collect taxes on produce about to enter the South Manchuria Railway “settlements” on the ground that to refrain from doing so would have been to sanction an unfair discrimination in favour of the Japanese railway “settlements” and the South Manchuria Railway, and would have been a waiver of a right, in any event, claimed to be possessed

4. (In the Japanese Assessor's Document B., Relations of Japan with Manchuria and Mongolia, p. 87-88, instances are cited of Chinese opposition to the residence of Japanese and Koreans along the southern section of the Chinese Eastern Railway, and at other places, such as Sanhsing—on the Sungari river—in what is commonly referred to as “North Manchuria”). On what grounds does the Japanese Government contend that the right of Japanese to reside in the interior of North Manchuria is granted by China?

VI. Problem of illegal, irregular and contested Tax legislation.

1. Does the Acting Consul General wish to present to the Commission any information as to this general question beyond the material contained in the Japanese Assessor's Document B. (above)? Vide pp. 116-117.

2. With reference to Japanese subjects resident “in the interior” of South Manchuria, is there evidence that they were taxed more heavily than the Chinese in

by China?

VII. Questions relating to the South Manchuria Railway Company.

1. (The Chinese Government has contended that the South Manchuria Railway Company, in acquiring lands from local Chinese owners to be attached to the railway areas or “railway settlements”, is only entitled to acquire lands “for the use of the railway”, and that this right should be interpreted strictly). Would it be possible to present to the Commission a brief statement (oral or written) giving the Japanese interpretation of their right to created such “railway settlements” as exist, for example, in Mukden?

2. Has the “railway settlement” of the South Manchuria Railway Company in Mukden been enlarged in any way since the Incident of September 18 last? If so, might the Commission receive information as to the character of the new titles, the law applicable to the transaction, and a description of such areas?

VIII. General railway questions in Manchuria.

1. The Commission would be pleased to receive from the Acting Consul General any statement, pertinent to the principal railway question which existed as between China and Japan in Manchuria before September 18 last, and to the negotiations which have taken place on these matters, particularly in the course of 1931.

IX. Different problems which arose before September 18, 1931.

1. The Commission has received considerable information as to the occurrence of numerous so-called "cases" between Chinese and Japanese authorities in Manchuria during the period from 1925 to 1931, September 18. Would it be convenient for the Acting Consul General to supply brief statements of the following cases:

(a) Sino-Japanese enquiry into the cause of the death of Marshal Chang Tso-lin.

for the Chinese city in Antung;

(d) Cases of the manoeuvres of Japanese railway guards outside the South Manchuria Railway area at Changchun in September, 1929;

(e) Chinese oppression of the Shengking Shih Pao (Japanese-owned, Chinese-language daily paper in Mukden);

(f) Cases which arose in 1931 and before September 18.

X. Activities of Bandits after the September 18 Incident.

1. The Commission understands that the Acting Consul General desires to present certain information with regard to the activities of Chinese irregulars, called "bandits", and is very desirous of receiving any such information as the Acting Consul General may wish to present.

2. It would be especially useful if, in each instance, the Commission could be fully informed as to the origin

Although the Commission would be pleased to receive any statement which the Acting Consul General might wish to offer with respect to the circumstances associated with the death of Marshal Chang Tso-lin in June, 1928, the Commission is particularly interested to know if (a) a joint enquiry, conducted by Japanese and Chinese representatives, succeeded in establishing the real causes of the death of Marshal Chang Tso-lin and others of his party when part of his special train was wrecked where the Peking-Mukden line passes through the viaduct under the South Manchuria Railway, and (b) whether it is possible to file a copy of that report with the Commission of Enquiry.

(b) The so-called Tiehling Incident of September 25 and following, 1929;

(c) The controversy over the supply of electricity

of such bandit groups: for example, whether they were composed of disorganised Chinese soldiery, or whether they were recruited from the countryside.

XI. Damages caused to Japanese and Korean residents after the September 18 Incident.

1. Does the Acting Consul General wish to present to the Commission some statement on the subject of the damages caused to Japanese and Korean residents after the incident of September 18.

XII. Public utilities in Mukden before September 18 and March 10.

1. The Commission would be pleased to receive, either orally or written, an account of the changes which have occurred since September 18 in Mukden with respect to the control, the expansion and the alteration of the supply of public utility services outside the Japanese "railway settlement". It would be especially useful to have information on the following points included:

- (a) Charges which took place on and immediately after September 19;
 - (b) Alterations in the wireless, telegraph and telephone services;
 - (c) New franchises, if any, for water, gas and electrical services outside the Japanese "railway settlement";
 - (d) An explanation of the position of foreign advisers in the Mukden municipal administration and in the Fengtien provincial administration in Mukden;
 - (e) Contracts, if any, and for the confidential information of the Commission, pertaining to supply of equipment for such public utility development.
- XIII. Banking and Currency system since September 18th, and March 10th.
1. Would it be convenient for the Acting Consul General to supply the Commission with pertinent facts

- with respect to banking and currency system since September 18:
- (a) Liquidation or alteration in the status of the Frontier Bank and the Three Eastern Provinces Bank;
 - (b) Status of the Bank of China in Manchuria, especially in Mukden;
 - (c) Steps taken with regard to Chinese paper currencies, including the banknotes of the Frontier Bank, Three Eastern Provinces Bank, the Bank of China and the Bank of Communications;
 - (d) Issuance of new Bank of Chosen (Japanese) notes;
 - (e) Withdrawal of silver and of accounts of Chinese depositors from Mukden banks, especially by, or as related to, the former governmental regime of Marshal Chang Hsueh-liang.
- XIV. Chinese administration in Manchuria before

September 18.

1. The Commission recognises that the entire subject of the organisation and actual practice of Chinese administration in Manchuria in past years previous to last September is a very broad one. It does not wish to consume the time of the Acting Consul General with enquiries as to such detail, but would be pleased to receive any comments he might have to make on the subject, and especially glad to have any memorandum which might be placed in the hands of the Commission.

212 昭和7年5月13日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

北方向け軍隊輸送に関する米國総領事館員の
質疑について

奉天 5月13日後発
本省 5月13日後着

第七八三号(暗)

米國総領事館員十二日館員ヲ来訪シ北方ニ向ケ多数ノ軍隊輸送セラレツツアリ商人ノ貨物ハ発送ヲ中止セラレ居ル趣

聞込ミタルカ正確ナル報告ヲ為シタキニ付差支ナキ限り情報ヲ得度シト申出タリ依テ本官軍司令官ト打合セノ上館員ヲシテ内密ノ含ミトシテ米國側ニ左ノ通答ヘシメ置キタリ最近一兵団(數ヲ明言セス)ノ兵力北上セルカ右ハ最近匪賊三四万依蘭方正ヲ中心トシテ東支東部線沿線ノ治安ヲ攪乱シ居リ既ニ数次列車顛覆等ノ事件アリタル処連盟調査委員北滿旅行中絶對安全ヲ期スル為兵ヲ動カシテモ之ヲ保護スヘキ旨司令官ヨリ委員ニ約束セル経緯アリタルト高粱繁茂期ニモナレハ匪賊討伐全然不可能トナリ地方民ノ農耕全然不能ニ歸スヘキニ依リ此ノ際早目ニ匪賊討伐ヲ行フ為派兵セルモノナリ尤モ右目的ヲ達スレハ出来ルタケ速ニ右部隊ヲ撤収スル考ヘナルカ「ソ」連邦側ニ於テモ万々誤解ナキコトトハ思考スルモ軍トシテモ対「ソ」關係ハ極メテ慎重ニ考量シ派遣部隊ハ國境付近及奥地ニハ深入セシメサル方針ナリ

支、北平、哈爾賓、米、露へ転電セリ

213

昭和7年5月13日

※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員搭乗列車の嚴重警戒方について

ハルビン 5月13日前発
本省 5月13日後着

第五〇九号(暗)

齊々哈爾発本官宛電報

第七五号

過日当地軍側ハ連盟一行ノ昂々溪ニ於ケル列車乗換ニ乗シ
我方ノ行動ヲ暴露セル密書ヲ密ニ一行ニ手交スル為右密書
ヲ所持シ入齊セル馬占山ノ使者二名ヲ逮捕セル事実アル処
一行座乗ノ列車ヲ齊克線ノ中東駅ニ引込ムニハ東支昂々溪
駅付近ヨリ列車ヲ東支ノ引込線ニ入レ所定地点(中東駅)
迄逆行ノ上停車セシムル段取トナリ居ルカ此ノ間列車ノ徐
行ニ乗シ上記ノ如キ反動分子列車内ニ入込ム事ナキヲ保シ
難キニ依リ同乗ノ邦人ヲシテ列車カ所定地点ニ停車スル迄
列車ノ窓ヲ一切開カシメサル様御手配相煩度シ
大臣、奉天、長春ヘ転電アリ度シ

214

昭和7年5月14日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員に対する小松原特務機関長の説
明振りについて

件、松花江鉄橋爆破装置事件、列車顛覆事件等)ヲ説明
シタル後前記爆彈携帶犯人(赤系露人)ノ供述ニ依レハ
(イ)同人ハ特別任務班ノ一員トシテ昨年一月他ノ「コムソ
モール」員二十名ト共ニ哈府ニ派遣セラレ同地極東海
軍根拠地ニ於テ赤軍指導ノ下ニ主トシテ爆破ノ練習ヲ
為シ昨年十一月帰還シタルコト

(ロ)哈爾賓ニハ別ニ戦闘義勇団(団員二百五十名ヲ有ス)
ナル特別機関アリ共產党北滿委員会ニ属シ「テロル」
ノ実行、支那人共產黨員トノ連絡等ニ任シ居レルコト
(ハ)昨年十一月以来右特別任務班ハ戦闘義勇団及「モツ
ル」ト連絡シ「テロル」ヲ開始シタルコト

等ノ事実判明シタルカ前記「テロル」事件モ白系露人又
ハ支那官憲ノ為シタルモノニハアラスシテ露国共產党ノ
所業ナルコトハ疑フノ余地ナク右ハ日本軍ノ北滿進出ニ
脅威ヲ感シタル露国カ一方西比利亞ノ増兵、東支運轉材
料ノ露領搬入、物資買占等ニ依リ之ニ備フル一方前記「テ
ロル」ニ依リ日本ノ軍事行動ヲ妨碍セントスルニ出テタ
ルモノト思考スル旨述ヘタリ

露、支、北平、奉天、長春、齊々哈爾ヘ転電セリ

ハルビン 5月14日後発
本省 5月14日後着

第五一三号(暗)

吉田ヨリ

第一二七号

(通本題)
十三日小松原特務機関長ハ委員ニ対シ

(一)北滿ニ於ケル反吉林軍及匪賊ノ状況ヲ詳細説明シタルカ
就中支那正規兵ト匪賊トノ區別困難ナルコト黒竜江省内
ニ於テハ民間ニ約四十万ノ小銃アリ支那ニ於テハ銃器ヲ
有スルモノハ何時ニテモ匪賊トナリ又正規兵トナリ得ル
事情モアリ旁北滿ニ於ケル匪賊ノ徹底的掃蕩ハ甚タ困難
ナルヘシト説キ

(二)日本ハ目下北滿ニ於テ二ヶ師団約一万未滿ノ兵力ヲ有シ
居レルニ対シ露国ハ大戦前平時ニ於テ東支鉄道警備ノ為
二万五千ノ兵力ヲ用ヒ又東北官憲ハ事変前六ヶ旅団三万
有余ノ警備兵ヲ用ヒ居リタル事実ニ鑑ミ前記我方兵力ハ
甚タ不充分ト思考スル旨述ヘ

(三)北滿ニ於ケル共產運動ニ関シ最近ニ於ケル各種「テロ
ル」事件(哈爾賓停車場ニ於ケル爆彈携帶犯人逮捕事

215

昭和7年5月16日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟各調査委員の動向に関するクローデル将
軍の談話について

奉天 5月16日後発
本省 5月16日後着

第七九八号(暗、極秘)

伊藤ヨリ

小官出発ニ先立チ「クローデル」將軍ト雑談シタルカ其ノ
際「ク」將軍ハ

一、哈爾賓ニ於テ「マッコイ」及「ハース」等馬占山ト会
見スルノ必要ヲ主張シ自分ハ之ニ反対シタルモ結局右ハ
滿州国トノ問題ナルヲ以テ之ニ諮ル事トナリ「ハース」
カ大橋ト交渉ヲ開始セル旨述ヘタルカ右馬占山トノ会見
ハ同時ニ反吉林軍將領トノ会見ヲ意味シ北平ニテ張学良
ヨリ吹込マレタルモノナリ

二、尚「ク」將軍ハ「マッコイ」ハ来滿以来益々露ハニ
「スチムソン」ノ政策ヲ表現シ居レルカ「マ」ハ哈爾賓
ニ於テ欧米人ヲ集メ意見交換ヲ為ス外、抗日思想ヲ有ス

ル「プロテスタント」宣教師代表者ヨリ意見ヲ提出セシメタリトノ旨ヲ述ヘ次ニ

三、「シュネー」ニ関シ同委員モ亦独逸政策ノ代表者タル態度ヲ益々示シ来レル処同氏ハ来滿以來各地ノ独逸商人ヨリ其ノ日本商人ヨリノ圧迫ニ関シ多クノ陳情ヲ受ケ満州国ノ門戸開放政策ニ付批評ヲ為シ居レル事ヲ漏シタルカ「シュネー」カ長春ニ於テ「マッコイ」ヨリ調査委員ハ一国ノ代表者ニ非サル事ニ付問接審メラレタル事アルハ小官モ聞キ及ヒ居レリ

四、尚「ク」將軍ハ「リットン」ニ對シテハ非難モアル如ク殊ニ細事ヲ穿索スル癖アル為日本側ノ応答モ之ニ捉ハレ居ルカ如キ感アルモ同卿カ「オネスト」ニシテ誠意時局解決ニ苦心シ居ルハ事実ナリト為シ

五、自分ハ植民地ニ於ケル二十余年ノ經驗ニ依リ満州ニ於ケル土匪討伐ニ関シテハ多少意見アリ本問題カ頗ル厄介ナル事ヲ良ク理解シ居レリト述ヘタリ

右内話ハ「ク」將軍ノ要請モアリ絶對他ニ漏レサル様御配慮アリ度シ

ハ爾賓ニ転電シ吉田大使ニ伝達セシム

ニシテ面会スルトテモ左程ノ効果ナカル可キモ最後報告作成公平ヲ欠キタリトノ非難寿府ニテ起ル虞アルヲ以テ委員會トシテハ両方面ノ意見ヲ聴ク事任務遂行上必要ナリト思惟シ居ルモノニシテ前記満州国側ノ意向ハ了解ニ苦シム処ナリト述ヘタルヲ以テ塩崎ヨリ満州国ノ出現ハ理事会決議以後ノ新事態ニシテ満州国側トシテハ理事会ノ決議ニ何等拘束セラル事ナシトノ立場ヲ執リ曩ニ顧維鈞ヲ含ム委員一行ノ視察ニ對シ保護及便宜ヲ供与スルニ至リタルハ右決議ニ基カス満州国カ任意ニ之ヲ与フルモノナリトノ意向ヲ有セルモノノ如ク又我方トシテハ満州国ノ態度ヲ一々左右スルコト得サル事モ顧維鈞問題ノ例ニ徴シ御承知ノ通りナリト答ヘタルカ「ハース」ハ若シ満州国側ニ於テ肯ンセス又委員ニ於テ飽ク迄馬占山トノ会见ヲ必要トスルニ於テハ結局危險ヲ冒シテ呼蘭ヨリ海倫方面ニ至ルカ或ハ多少ノ時日ヲ犠牲ニシテ「チタ」ヨリ「ブラゴエスチエンスク」ニ廻ルカ何レカヲ採ルノ外ナカル可シト述ヘタル趣ナリ

支、北平、奉天、長春、齊々哈爾、連盟ニ転電シ連盟ヨリ英米独仏伊ニ転電セシム

216

昭和7年5月16日
※在ハルビン長岡總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)
馬占山との会見に便宜供与を連盟調査委員より申入れについて

ハルビン 5月16日前発
本省 5月16日前着

第五二〇号(至急極秘)

吉田ヨリ

第一三四号

十四日委員ハ馬占山(黒河又ハ海倫ニアリ)其他一、二ノ吉林軍ノ首脳ト会见スルコトニ決シ同日「ハース」ヨリ大橋ニ對シ呼蘭方面ノ旅行ニ對シ保護及便宜供与方希望シタルニ對シ大橋ハ馬ハ委員ノ来滿ヲ利用シテ反對運動ヲ為シ居ル事情モアリ此ノ際委員カ反軍タル馬ニ会见スルコトハ満州国ノ治安ニ關係シ且其ノ利益ニ面白カラサル影響ヲ与フルヲ以テ委員會ノ希望ニ応スル事ハ困難ナリト述ヘ更ニ十五日午前兩人再ヒ会见シタルカ大橋ヨリ長春政府ニ請訓シタル結果右保護及便宜供与ニハ絶對反対ナル旨回答セリ右ニ関シ「ハース」ヨリ塩崎ニ對シ馬ハ役ニ立タサル人物

217

昭和7年5月16日
在チチハル清水(八百一)領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の馬占山との会見阻止方について

チチハル 5月16日後発
本省 5月17日前着

第七五号(暗、至急)

本官発哈爾賓宛電報第七八号

往電第七六号ニ関シ

吉田大使ヘ左ノ通

委員カ馬ト会见スルコトモナラハ我方ノ立場ハ非常ノ不利ニ陥ルコト明カナルニ付一行ノ馬ニ会见阻止方極力御配慮相願ヒタシ

哈爾賓ヨリ公使、北平、吉林ヘ転電アリタシ
大臣、奉天、長春ヘ転電セリ

218

昭和7年5月16日
在チチハル清水領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員あて馬占山の密書入手について

チチハル 5月16日後発
本省 5月17日前着

第七六号（暗）

本官発哈爾賓宛電報

第七六号（至急）

吉田大使へ左ノ通

往電第七五号前段哈爾賓發大臣宛往電第五二〇号ニ関シ当
（二一七文書）

地軍側カ馬占山発ノ無電ヲ盗読シ馬カ連盟調査委員ニ密書
ヲ提出スル為王廷蘭ヲ密使トシテ昂々溪ニ送り同地ニテ右
密書ヲ委員ニ手交セントスル計画アルコトヲ知り警戒中本
月九日齊々哈爾濱潜伏中ノ王ヲ逮捕シタリ取調ノ結果同人ハ
絹地ニ清書セル左記密書ヲ所持シ居タリ

一、王廷蘭ノ身分証明書ニ、顧維鈞ニ対スル依頼状三、呼
海線借款契約四、日本軍ノ暴虐（大興戰齊々哈爾戰前後ニ
於ケル交渉経過、日支側軍事行動ノ概要、海倫ニ於ケル板
垣参謀ト馬トノ会谈要領等ヲ記ス）五、航空契約及村田顧
問ノ建言六、黒河ニ逃入セル馬ニ対シ日滿側要人ヨリ帰城
ヲ促セル電報ノ写

右密書第四ノ交渉ノ分ニハ我方ヨリ馬ハ下野ノ為張海鵬ニ
江省政權ヲ讓ルコトヲ申入レタルコトヲ記シアリ又馬ト板
垣トノ会見中ニハ滿州国ノ国防ハ日本国ニテ担任スヘシト

用ヲ拒絕セシムル等ノ方法ニテ委員ノ露領通過ニ依ル馬ト
ノ会見ヲ阻止スルノ必要アリト認ム御参考迄
哈爾賓、長春、齊々哈爾、連盟へ転電セリ

220 昭和7年5月17日

※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員と張景惠の会見について

ハルビン 5月17日前発
本省 5月17日後着

第五三三号（暗）

吉田ヨリ

第一四二号

五月十六日委員一同張景惠ト会見シ哈爾賓市ノ由来、特別
区長官及哈爾賓市長ノ権限、滿州国ヲ建国スルニ至リシ委
曲等ヲ聴取シタリ

支、北平、奉天、長春（連盟脱？）へ転電セリ

221 昭和7年5月17日

在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員の馬占山との会見阻止のための

ノ一事アリ又第五ノ村田顧問ノ建言中ニハ外交政治ニ関シ
テハ顧問ニ相談スヘシ（不明）アリテ内政干渉ト見ラルル
点多々記述シアリ馬ノ密使ハ有ユル機会ヲ利用シテ調査委
員ニ提出センカ為ニ当地ノミナラス他地方ニモ派遣シ居ル
モノニ非サト疑ハル本件密書原文ハ当地特務機関ヨリ十
四日関東軍ニ郵送シタリ

公使、北平、吉林へ転電アリタシ

大臣、奉天、長春へ転電セリ

219 昭和7年5月17日

在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員の馬占山との会見阻止について

奉天 5月17日後発
本省 5月17日後着

第八一〇号（暗）

哈爾賓發閣下宛電報第五三五号ニ関シ

連盟委員ト馬トノ会見ハ今後滿蒙ニ於ケル帝国ノ立場ニ大
ナル悪影響ヲ及ホスヘキコト馬ノ従前ノ態度ニ照シ明カナ
ル処何レノ途此際武市入ノ為ニハ東支東部線又ハ呼海線ヲ
利用スルノ外無カルヘキニ依リ滿州国ヲシテ前記鉄道ノ利

対ソ連向け滿州国側の運動について

長春 5月17日後発
本省 5月17日後着

合第一八四号（暗）

本官發大臣宛電報

第二四四号（暗）

連盟委員ト馬占山トノ会見問題ニ関シ本十七日大橋ヨリノ
内報ニ依レハ本夕同人ヨリ在哈爾賓蘇連領事ニ宛テ私信ノ
形式ヲ以テ滿州国側トシテハ右会見ニ絶対反対ニシテ蘇側
ニ於テ右会見方ニ付反逆者タル馬ニ対シ便宜ヲ供与スルカ
如キコトアラハ同国ニ対シ到底好感ヲ有シ得サルヘキ旨申
シ送リタル趣ナリ

支、北平、奉天、哈爾賓、齊々哈爾へ転電セリ

222 昭和7年5月18日

芳沢外務大臣より
在シネネーウ沢田連盟事務局長、在
米國出淵大使宛（電報）

奉天における中国人逮捕事件に関する滿州国
側の回答について

本省 5月18日後10時30分発

合第一二一七号（暗）

反満州国支那人逮捕ニ関スル件

往電合第一一六五号ニ関シ

五月十六日「ハルビン」ニ於テ「リットン」委員長ヨリ吉田大使ニ対シ「ハルビン」在住英国人ヨリ受領セル書翰ニ依レハ四月二十八日奉天ニ於テ支那人 K. C. Chang ナルモノ連盟調査員ニ関係アル其ノ友人ト会見セル処逮捕ノ上拷問セラレ居ルヤニテ生命モ危険ナルカ如キ趣ナル処右ニ付真相調査アリ度旨ノ書面ヲ寄セタルニヨリ同大使ヨリ奉天ニ照会セル結果本件支那人ハ和蘭築港公司代表者「ロバート・ド・フォス」ノ秘書張光圻ヲ指スモノノ如キ処同人ハ四月二十三日奉天大和「ホテル」ニテ挙動不審者トシテ日満官憲立会ノ上取調ヲ受ケタルモ釈放セラレ其ノ後満州国警察ハ監視ノ便宜上二十八日同人ヲ商埠地警察署付近ノ旅館ニ移シ五月一日再ヒ拘引スルニ至レルモノニシテ我方ニハ何等關係ナク尚満州国側ニ問合セタル処同人ハ近ク釈放セラルヘキ見込ナル旨回答アリタル趣ナリ本件ニ関シ支那側ニテハ来ル九月寿府ニテ一騒ヲスル計畫アルヤノ趣ナルニ付念ノ為奉天来電第七七四号ト共ニ寿府ヨリ英仏独伊

（四文書）

ニ転電アリタシ

223 昭和7年5月18日 芳沢外務大臣より
※在ハルビン長岡総領事代理宛
（電報）

連盟調査委員の馬占山との会見に関する我方方針について

本省 5月18日前8時45分発

第一一七号（暗）

連盟調査委員馬占山ト会見ノ件

貴電第五三五号及第五四〇号ニ関シ

吉田大使へ

一、齊々哈爾濱哈爾賓宛電報第七九号ニモ顧ミ委員側カ武市ニ行カサル限り馬占山トノ会見ハ不可能ト存スル処委員側カ東支東部及西部線又ハ呼海線ヲ利用セムトスル場合満州国側ニテ前記鉄道ノ利用ヲ拒絶スル（奉天来電第三二九文書
（一〇号参照）一方我方ニ於テモ哈爾濱、齊々哈爾等我軍ノ力ノ及ビ居ル土地ナラハ兎ニ角現ニ我軍カ兵匪等ノ討伐ノ為メ苦心シ居ル方面又ハ全然我カ兵力ノ及ビ居ラサル方面ニ対スル委員側ノ旅行ニ対シ保護ヲ与フルカ如

キ到底不可能ナルニ付委員側カ前記鉄道經由武市ニ赴クコトハ之ヲ差控ヘシムル外ナシト存ス

二、尤モ委員側カ例ヘハ海路ニ依リ浦潮ニ赴キ同地ヨリ蘇領經由武市ニ入ル場合我方トシテ之ヲ阻止スヘキ理由ナキモ其ノ際蘇連側査証ノ取付ニ関シ我方ノ口添ヲ求ムルカ如キハ全ク筋違ノコトニテ我方トシテ承諾シ得ヘキ限リニ非スト存ス

支、北平、奉天、長春、連盟ヘ転電シ連盟ヨリ露ニ転電セシメタリ

齊々哈爾濱ニ転電アリ度

224 昭和7年5月18日 南満州鉄道株式会社
総務部調査課

顧維鈞の満州国入国拒否問題の経過調査書

総合情報七第一七号

昭和七年五月十八日

総務部 調査課長

顧維鈞ノ満州国入国拒否問題ノ経過

一

連盟調査員ノ満州国入国ニ当ツテ満州国カラ外交部総長謝

介石ノ名ヲ以テ国民政府外交部長羅文幹宛ニ発セラレタ参

与員顧維鈞ノ入国拒否ノ通牒ハ、新興満州国ノ初外交事件トシテ満州国ノ外交手腕ヲ示ス一試金石テアツタ。同通牒ハ四月九日付電報テ送付セラレ、十日南京ニ到達シテ居ルカ、新聞紙ニ発表セラレタ右ノ通牒文ハ左記ノ通テアル。

顧維鈞ハ南京政府代表者トシテ連盟調査委員ト来満ノ由ナルカ、由来貴国ト我国トハ親善關係アルヘキモノナルニ三千万民衆ノ総意ヲ以テ当国カ独立セルニ拘ラス貴国人ハ当国政府ヲ偽政府ト称シ満州国民衆ヲ刺戟セル其ノ矢先キ顧維鈞ノ入国ハ不義ノ徒ノ乗スル所トナリテ両国親善關係ノ樹立ヲ阻害スル惧レアリ、依テ今回ハ顧維鈞ノ入国ヲ謝絶スル已ム無キニ至ル。惡シカラス御諒承ヲ乞フ。

二

満州国政府ノ右ノ通牒文カ、其ノ文書通り、単ニ不義ノ徒ニ乗スル機会ヲ与ヘナイ為ニ顧維鈞ノ入国ヲ断ルト云フ丈ノ意義ヲ有スルモノテ無イコトハ明カテアルカ、特ニ連盟調査員ノ参与員ニ対シテ為サレタコトニ付テハ通牒文ニ掲ケラレタ理由以外ニ別ニ次ノ如キ隠レタ意図ヲ包蔵スルモ

ノテアリ、現満州国ノ統治者ノ抱ク政策ノ一端カ連盟調査団ノ満州入りヲ機会トシテ実現セラルヘク試ミラレタモノト云ヒ得ル。

其ノ一ハ対内政上ノ関係カラテアル。事変以来各地ニ蟠居スル兵匪ノ地方擾乱ハ固ヨリ満州国ノ官吏ニ席ヲ列ネル者、地方紳商トシテ社会的ニ又国家的ニ重要ナル役割ヲ果サネハナラヌ者ト雖モ必スシモ満州ノ新事態ヲ承認セス、表面日本側ノ勢力ニ服シテハ居ルカ一面ニ於テ豎子何為スル者ソト云フ氣持モ多分ニ持ツテイル現状テアリ、是等ノ者ニハ調査団ノ入滿ニ當ツテ日本ノ採ルヘキ態度ハ多大ノ興味ヲ以テ迎ヘラレテ居ツタ。即調査団ノ来滿ニ依リ日本ハ直ニ褶伏スルテアラウト云フノカ、支那人間ノ通念テアツタモノノ如ク、四月初ノ馬占山ノ黑河逃亡ハ其ノ適例テアル。其他此ヲ機会トスル義勇軍ノ蜂起計画等所謂以夷征夷的ノ觀念カ在滿支那人間ニ相当根強ク瀰漫シテ居リ、此ノ如キ思想ヲ根絶シテ迷夢ヲ醒シ連盟其他諸外国ニ対スル満州国ノ威厳ヲ示シテ満州ニ於ケル統治権ヲ確立シヨウト云フノカ顧維鈞事件ノ一目的テアツタ。

其二ハ対外的ノ関係カラテアル。満州国ハ成立後間モナク

シテ独立国ノ形態ヲ具備シテ居ルコトヲ調査団自身ニモ体験セシメ度ク全世界ニモ知ラシメル上ニ於テ、満州国ノ右ノ主張ヲ貫徹セシメルコトハ甚有意義テアルト云フコトカ当局者ニ考ヘラレテ居ツタモノト認メラレル。

三

国民政府外交部ハ四月十日右通牒電報ヲ接受シタカ、直ニ電報局ヲシテ之ヲ返送セシメルト共ニ國際連盟及滯平中ノ調査団ニ報告シタ。一方日本政府ニ対シテモ「本問題ハ日本政府ノ支持ニ依ルモノテ将来調査員及支那代表カ其ノ職権ヲ完全ニ遂行スルヲ得ス又意外ノ事件ノ發生ヲ見ルコトアルモ其ノ責任ハ日本側ニ於テ負フヘキモノテアル。」トノ抗議ヲ提出シテ居ル。

連盟調査団ハ之カ為其ノ行動ニ大ナル困難ヲ感シ進退ニ窮スル立場トナツタ。参与員ノ調査団参加ハ昨年十二月十日國際連盟理事会決議ニ依リ日支兩國政府ニ於テ之ヲ指名スル權利ヲ有スルモノト規定セラレテ居リ、理論上調査団ハ同決議ニヨリ行動シツツアルモノテアルカラ、同決議以後成立シタ満州国ノ行為ニ付テハ没交渉ニ事ヲ進メ得ヘキ筈テアリ、此ノ意味ニ於テ満州国ノ顧維鈞忌避ハ支那政府カ

本年三月十二日付外交部總長ノ名ヲ以テ日英米等十七ヶ國ニ対シテ公式外交關係開始ヲ希望スル通牒ヲ發シタ。公式外交關係ヲ開始セシメルト云フコトハ即チ諸外国ヲシテ満州国ヲ承認セシメルト云フコトテアルカ、諸外国カ右ノ通牒ニ依リ現在ノ如キ國家トシテノ實質ノ完備セヌ満州国ヲ承認スルコトノ期待シ得ヘカラサルコトハ勿論テ、仮令満州国カ承認スルニ足ルヘキ實質ヲ具ヘタトシテモ錯雜シタ外交關係ハ容易ニ其ノ實現ヲ許サナイ狀況ニ在ル。從テ同通牒ハ少クモ現状ニ於テハ單ニ満州國側ノ一方行為デアリ、實質ヲ具ヘナイ一片ノ空文ニ等シク、満州國側ニ於テモ諸外国ヨリノ實質的反響ヲ期待シタモノトハ考ヘ得ラレナイカ、只満州ノ新事態ニ付テ諸外国カ著シク認識不足タトサレテ居ル現状カラハ新事態ニ關スル正確ナ認識ヲ得シメルト云フコトハ満州國当局者ニ依テ常ニ考ヘラレテ居タコトデアリ、此ノ意味ニ於テ調査団ノ入滿ハ絶好ノチャンスデアツタニ違ヒナイ。連盟自身モ又今回ノ調査団モ國際法上ニ云フ「承認」ノ權能ヲ持ツモノテアルカ否カハ別トシテ、同調査団参与員トシテ支那政府ノ任命シタ顧維鈞ノ入滿ヲ阻止シテ事實上満州國カ完全ニ支那政府ノ羈絆ヲ脱

右ノ權利ヲ拋棄シナイ限り問題トナル余地ハ無イノテアルカ、一方事實上成立シテ居ル満州國ニ対シテ眼ヲ閉ルコトモ困難テ、委員長リットンカ北平ニ於テ満州國カ飽クマテ其ノ主張ヲ撤回セサルニ於テハ調査団ハ其ノ入滿ヲ中止スルノ外アルマイト洩シタト云フモ此ノ辺ノ消息ヲ物語ルモノテアラウ。

併シ調査団側ニ於テハ参与員ノ調査団参加ハ其ノ構成上不可欠的ノモノテアルトノ見地カラ、問題ハ其ノ儘入滿後ニ持越サレルコトナリ且此ノ間ニ日本側ノ斡旋モアツテ、日本ノ勢力圈内ニ於テハ日本カ極力保護スルト云フコトテ一応ノ打開策ヲ見出し、十六日北平發ノ予定テアツタ一行ハ十九日陸路山海関ニ向ヒ山海関ヨリリットン並ニ顧及隨員ハ支那軍艦海圻テ大連ニ、其ノ他ハ日本軍艦、奉山鐵路列車テ夫々大連及奉天ニ向フコトナツタ。

一行ノ満州國ニ關スル本格的調査ハ奉天カラ著手セラレタカ、此ノ間常ニ問題トナツタノハ依然調査ニ顧維鈞ヲ随伴スルヤ否ヤテアツタ。調査団側カ從來ノ主張ヲ固持スルトスレハ現地調査ニハ必ス支那側参与員ヲ伴ハネハナラス、而モ顧維鈞ノ入國スラ拒否セラレテ居ル以上調査資料蒐集

ニ関スル国内ニ於テノ行動等ハ思ヒモ寄ラサル所テ、北平カラ未解決ノ儘持チ越シテ来タ難問題ハ奉天ニ於テモ依然解決スルニ至ラスリットンハ遂ニ本庄司令官ニ斡旋ヲ依頼スルニ至ツタ。軍司令官カ兩者ノ間ニ立ツテ如何ナル調停ノ勞ヲ執ツタカ明テナイカ、前記ノ如ク本問題ハ調査団ノ満州国ニ対スル態度ト相牽連スルモノデアリ、調査団カ事實上満州国ノ存在ヲ認メルコトカ間接ノ又主ナル目的デアルカラ、兩者ノ体面ヲ損シナイ程度ニ各其ノ主張ヲ緩和セシメテ妥協ヲ図ツタモノデアラウコトハ略想像シ得ル。此ノ結果委員長リットンハ四月廿五日外交部総長宛電報ヲ以テ

奉天着ニ当リ予ハ連盟調査団ヲ代表シテ貴下ノ歡迎電報ニ用ヒラレタル鄭重ナル言辭ハ貴下カ我々ノ訪問中我カ調査団ノ重要行動並ニ連盟理事会ノ決議ニ依ル其ノ使命遂行ニ対シ便宜ヲ供与スル為最善ヲ尽サルヘントノ我々ノ信頼ヲ裏書キスルモノナルコトヲ貴下ニ向ツテ確言シ度シ

ト述ヘ、満州国側ハ其ノ目的ヲ達シタカ、一方顧維鈞ノ入国モ、其ノ随員ヲ制限シ、顧ハ絶対ニ政治的策動ヲ行ハナ

ハルビン 5月19日前発
本省 5月19日前着

第五四八号（暗）

吉田ヨリ

第一四八号

往電第一三四号ニ関シ

（二六文書）

大橋カ絶対拒絶ヲ「ハ」ニ明言セシニ拘ラス「ハ」ハ之ヲ秘シ委員等ハ長春ノ回答ヲ待チ居レリト聞込ミシニ付十八日「リットン」ニ右ノ誤解ヲ指摘シタルニ「リ」ハ委員ト馬トノ会見取止ニ決セリト語リタリ依テ本使ハ然ラハ我政府ノ回答（往電第一四四号）無用ナラント言ヒシニ「リ」ハ代表者ノ入露ニ関シ日本ノ便宜又ハ世話ヲ請求セサルヘキモ代表カ蘇連邦經由馬トノ会見ヲ日本政府カ好マサルヤ否ヤヲ承知シ度シト述ヘタリ

尚「ヤング」其任ニ当ラントノコトニテ浦潮經由ノ場合ハ大連ヨリ出発ノ筈ナリ

閣下宛田代領事発電報第二四二号ノ次第モアリ「リ」ヘノ回答電報請フ

支、北平、奉天、長春、齊々哈爾、連盟（転電セリ

イコトヲ調査団保証シ又満州国政府ハ之カ監視ノ為顧ノ身辺ニ人ヲ付スルコトヲ容認スルニ於テハ其ノ北上差支ナキ旨調査団ニ申入レタ結果、三十日リットンヨリ外交部総長謝介石宛ニ付テハ長春滞在中改メテ相談スル旨回答シタカ、一行ノ氏名ヲ通告スルニ当ツテ支那側参与員及随員ヲ二十七名ノ多数カラ傭人ヲモ含ム總計九名ニ限定シテ随員制限ノ要求ヲ容レテ居ル。

一行ハ五月二日長春ニ到着シタカ、長春ニ於テハ主トシテ大橋外交部総務司長ト調査団書記長ハーストノ間ニ折衝カ行ハレ六日ニ至リ、前記調査団側ニ於テ顧維鈞及随員ノ政治的活動ニ付責任ヲ執ルコトト満州国政府ヨリ外交部総長ノ代表者ヲ調査団ニ随行セシムルコトトニ関スルリットン委員長及謝外交部総長間ノ交換公文ニ依リ事件ハ玆ニ全ク落着シ、支那側参与員及随員ハ完全ニ去勢セラレタ形ニ於テ満州国ノ入国ヲ容認セラレタ。

（田草川稿）

225 昭和7年5月19日

※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員・馬占山会見に関するリットン
委員長の意向について

226 昭和7年5月19日

※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査委員の日程に関するリットン委員長
の内話について

ハルビン 5月19日前発
本省 5月19日前着

第五四九号（暗）

吉田ヨリ

第一四九号

十八日「リットン」内話左ノ通

齊々哈爾ニハ一日位滞在、奉天ニテハ総領事代理ニ幾多問ヒ度キ事項アリ軍司令官ニモ会見シ度ク六日許リノ後一週間ヲ大連ニ過シ北平ニテハ少クモ二週間滞在シ専門家ヲシテ主管ノ件整理セシメ、委員ハ大体ノ腹案ヲ得タル上渡日シ外相ト会谈シ度シ最後報告作成地未決定ナリ（本使ハ当方ノ北戴河ニ反対セルハ御承知ノ筈ナリト云ヒシニ）然

北平、奉天、齊々哈爾、長春ニ転電セリ

227

昭和7年5月19日

芳沢外務大臣より
在奉天森島總領事代理宛（電報）

連盟調査委員提出の質問書に対する我方回答
振りについて

本省 5月19日後8時40分発

第二七三号 暗、至急

連盟調査委員提出質問書回答振ノ件

貴電第七八二号ニ関シ

(一)質問事項一ノ(二)ニ付テハ大倉組ト学良政府ノ航空契約交渉ヲ援用セラレ差支ナシ

(二)質問事項四ノ(四)ハ貴電ノ通りナルモ別紙第二七四号当方作成ノ調書御参照ノ上回答アリタシ

(三)質問事項五ノ(一)及(二)ニ付テハ追電ス

(四)質問事項七ノ(一)ニ対スル当方ノ解釈ハ別電第二七五号ノ通り

(五)質問事項九ノ(一)ノ(a)共同調査報告交付ノ件ニ付テハ当時日支共同シテ該報告ヲ公表セムコトヲ奉天總領事ヨリ支那側ニ提議シタルモ支那側ニテハ当該官憲ノ責任逃レノ為メカ該報告ニ調印スルコト及之ヲ公表スルコトヲ肯セ

リ適宜説明セラルル様致度シ尚商租問題説明ノ参考上当方作成ノ調書「南満州ニ於ケル土地商租問題」一部併セテ送付シタルニ付可然御利用アリ度

228

昭和7年5月20日

※在ハルビン長岡總領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

満州問題解決案に関するアース連盟調査団事務長との内話について

ハルビン 5月20日後発
本省 5月20日後着

第五六〇号（暗）

吉田ヨリ

第一五四号

十八日塩崎「ハース」ト会談ノ節「ハ」ヨリ日本ノ政局ニ関シ言及シタルニ付内閣ノ變動如何ニ拘ラス満州ニ対スル日本ノ鞏固ナル決意ハ変ラサルヘク或ハ寧ロ今日以上ニ強クナルヤモ知レスト答ヘ委員ニ於テハ既ニ満州問題解決案ニ付具体的ニ考究セラレ居レリヤト聞キタルニ「ハ」ハ未タ委員会ニ於テ討議スルニ至ラスト答ヘタルヲ以テ塩崎ヨリ自分ノ私見トシテハ例ヘハ此問題ヲ日支等関係国ノ協

サリシ次第ナルカ其後本件ハ帝國議會ノ問題トナリタルニ拘ラス政府ハ前記経緯ニモ鑑ミ遂ニ該報告ノ公表ヲ行ハサリシ訳ナルニ付今更之ヲ委員側ニ交付スルコトハ困難ナリ但シ委員側ノ希望ニ応シ極秘トシテ該報告ノ内容ヲ御話スルハ差支ナシトテ我方ニ不利ヲ来ササル様可然説明シ置カレ度

(六)質問事項三ノ(四)ニ付テハ大正四年日支条約商租条項ヲ邦人カ如何ナル程度ニ利用シ居ルヤノ質問ニ対シテハ先ツ支那側カ一貫シテ邦人ノ商租妨害ノ方針ヲ執リ来レル為メ邦人ノ商租ハ渺々シキ増加ヲ見サルモ我方トシテハ右支那側ノ態度ニ不拘商租ノ成立シタルモノニ対シテハ一方的ニ認証ヲ与ヘ之ヲ保護シ来レル結果年々多少ノ増加ヲ見ツツアルノ実情ヲ説明シタル上各地ニ於ケル邦人商租ノ実況ニ付概説セラルルヲ可トスヘキ処貴電末段御申出ノ如ク在満各館ヨリ毎年本省ニ提出ノ商租調査報告ヲ一括提出スルコトハ事極メテ煩雜ニシテ急場ニ間ニ合ハサルノミナラス其ノ実益無キヤニ認メラルルヲ以テ右報告ニ基キ最近十箇年間各館管内別商租面積及投資額總計表ヲ作成シ別便ヲ以テ郵送スルコトトシタルニ付右ニ依

議ニ依リ決定スルカ如キ方法カ仮リニ可能ナリトスルモ満州国ノ同意スヘキ案ニ非サレハ実行スルコトヲ得サルヘク常ニ満州国ノ存在ヲ念頭ニ置キテ問題ヲ考究セラルルコト肝要ニシテ寧ロ委員会トシテハ具体案ヲ定ムルコトヲ避ケ日支問題ハ事態ノ推移ヲ注視シ時ヲシテ解決セシムルコトトスル方針ニテ進ムコト最モ賢明ナリト思考スト述ヘタルニ「ハ」ハ自分等ハ最モ困難ナル仕事ヲ引受ケタル次第ニシテ遣リ方如何ニ依リテハ日支両国ノ反対ヲ受クルニ至ルヘキヲ以テ慎重考究スルノ要アルコト承知シ居レリト述ヘタリ

支、奉天、長春、連盟へ転電セリ

229

昭和7年5月20日

※在ハルビン長岡總領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

馬占山との会見に連盟調査団よりコツツエ等
随員派遣の予定について

ハルビン 5月20日後発
本省 5月20日後着

第五六一号（暗）

吉田ヨリ

第一五五号

連盟調査委員ハ代表者ヲシテ馬占山ニ会见セシムル事ニナリタル処二十二日当地ヨリ齊々哈爾ニ向フ随員中「コッツエ」「ビドル」「アスター」及「モス」ヲシテ満州里ヨリ「チタ」經由黒河ニ向ハシムル事トシ露国総領事館ニ旅行券査証ヲ請求シタルモ莫斯科ニ請訓ノ為手間取り居ル由ニテ予定ヲ変更シ「コッツエ」等ハ齊々哈爾ヨリ奉天ニ向ヒ査証ヲ得ハ黒河（浦潮經由ナルヘシ）ニ向フ由ナリ露、奉天、齊々哈爾、長春、浦潮、武市ヘ転電セリ

230

昭和7年5月20日 ※芳沢外務大臣より
在ハルビン長岡総領事代理宛（電報）

連盟調査委員の馬占山との会見に反対の意向
表明について

本省 5月20日午後8時30分発

第二二二号（暗）

調査委員馬占山面会問題及報告起草地問題ニ関スル件

吉田大使へ

論ナルモ委員会カ態々云ハハ張学良ノ御膝下ニテ其ノ「インフルエンス」濃厚ナル北戴河ヲ選定スルカ如キハ例ヘハ東京又ハ南京付近ノ土地ヲ選フト均シク報告其ノ物ノ公平ヲ疑ハシムル因トナルヘクスノ如キハ委員側トシテ努メテ避クヘキ義ト存ス

三、就テハ委員側ニ対シ叙上我方ノ感想ヲ淡白ニ御説示相成リ此ノ際馬占山面会問題ヲ「ドロップ」セシムル様仕向ケラルルト共ニ報告起草地ハ何人ノ目ニモ公平ト認メラルヘキ青島ニ決定スル様篤ト御懇談相成度

支、北平、奉天、長春、連盟ニ転電シ支ヲシテ南京ニ転報シ連盟ヲシテ英米仏伊独露ニ転電セシム

尚ホ貴電第一四八号及第一五二号ヲ支那ヨリ南京ニ転報シ又連盟ヨリ英米仏伊独露（露ニハ第一四八号ノミ転電尚ホ露ニハ長春ヨリ長春来電第二四四号ヲ転電セシメタリ）ニ

転電セシメタリ
本電齊々哈爾ニ転電アリ度

231

昭和7年5月21日 在ソ連広田大使より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査団の馬占山と会見のための入ソ査証

第一五五号

貴電第一四八号及第一五二号ニ関シ
（二五文書）

一、帝國政府トシテハ委員会代表カ蘇領經由馬占山ト会见スルコトニ対シ肯否ヲ云フヘキ立場ニ非サルコト哈爾賓宛往電第一一七号ノ通りナルカ元来委員側ハ大局的見地ニ立チ調査ニ従事スヘキモノニシテ然ラサレハ其ノ使命タル極東和局ノ收拾方ニ貢献シ得サルモノト思考スル処我方トシテハ最近ニ於ケル委員側ノ遣リ方ハ余リ細事ニ捉ハレ過キ事ノ輕重大小ノ較量ヲ誤リ居ル様感シ居ル次第ナリ今回ノ問題ニ付テモ委員側ハ馬占山ニ面会セサレハ報告ノ公平ヲ保チ難シトノ趣旨ヲ主張シ居ル処委員側トシテハ日支兩國政府及滿州ノ新旧実権者タル長春政府当局及張学良ノ云分ヲ充分ニ聞ケハ夫レニテ報告ノ公平ヲ保チ得ル訳ニテ馬占山ノ如キ区々タル地方的小軍閥ニ過キスシテ而モ變転尽ナキ人物ニ種々無理ナル方法ヲ講シテ迄モ面会セムトスル委員側ノ態度ハ同委員会カ何等カノ undue influence ニ動カサレ居ルモノナルヤノ世間ノ疑惑ヲ生シ却テ報告ノ公平從テ其ノ価値ヲ疑ハシムルコトナルヘシ

二、次ニ報告起草地ハ委員会ノ決定スヘキモノナルコト勿

発給をソ連側拒否の情報について

付記 外務省作成「連盟支那調査団ノ滿州調査ト「ソ」側ノ態度」

モスクワ 5月21日後発
本省 5月22日前着

第三二九号

二十一日ノ新聞ハ「タス」發表トシテ「リットン」委員会ヨリ在哈爾賓総領事ヲ經テ蘇政府ニ対シ馬占山ト会见ノ為「ブラゴエ」經由黒河ニ赴ク為通過査証ノ発給ヲ求メタルニ対シ蘇政府ハ滿州ノ内政不干涉主義ニ反スルヲ望マス同委員会ノ請求ニ応スルコト能ハスト回答セシメタル旨掲載セリ

連盟、英、仏、米、独、哈爾賓ニ転電セリ
哈爾賓ヨリ長春、奉天ヘ転電アリタシ

（付記）

「連盟支那調査団ノ滿州調査ト「ソ」側ノ態度」

（一）國際連盟事務局長「ドラモンド」ハ昭和七年四月二十日付「リトヴィノフ」ニ宛書翰ヲ以テ「リットン」卿ヨリ在滿「ソ」側公人ヨリ情報等ノ供給ヲ受クルニ於テハ調

232 昭和7年5月22日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員一行の今後の日程について

奉天 5月22日後発
本省 5月23日前着

第八三四号(暗)

吉田ヨリ

第一六〇号

委員一行ノ今後ノ日程大体左ノ通

五月廿五日迄当地滞在、同日夜行ニテ大連ニ向ヒ同地ニテ
廿六日「リットン」ハ「ランプソン」ト会見、廿七日旅順
ニテ関東長官ト会見、廿八日満鉄総裁ト会見、三十日朝大
連発鞍山視察ノ上奉天着六月一日撫順視察、二日本庄司令
官ト会見、四日又ハ五日奉天発陸路途中錦州視察ノ上北平
ニ向ヒ約二週間滞在ノ上朝鮮經由日本ニ向フ
支、北平、遼陽、天津、長春、連盟へ転電セリ

233 昭和7年5月23日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

連盟調査委員の馬占山との会見に対する日本

政府の態度問合せについて

奉天 5月23日後発
本省 5月24日前着

第八三六号(暗)

吉田ヨリ

第一六二号

貴電第一五号接受前蘇連邦査証拒絶ノ為馬へ調査委員派出
(二二〇文書)

沙汰止ミトナリシニ付右貴電(一)ノ次第申入レハ次ノ機会ヲ
俟ツコト然ルヘシト認メ見合セ置キシニ二十三日「リ」ヨ
リ問合セアリ本使ハ事件終了セシ旨ナリト云ヒシニ「リ」
ハ其ノ通ナルモ日本政府ノ態度ヲ知り度シト云ヒシヲ以テ
本使ハ右日本政府ノ干与スル処ニ非ラサルカ如キ意味ノ電
報ニ接セシモ明瞭ニ了解セサリシ旨答ヘタルニ「リ」ハ委
員等切ニ回答ノ有無ヲ問ヒ居レルニ付東京ノ意見ヲ知り度
シト述ヘタリ事件終リシニ拘ラス尚日本政府ノ態度ヲ知ラ
ント欲スルハ最終報告書作成ノ必要上ナルヘク日滿両国ノ
連繫密接ナル証拠トセラレ我ニ不利ナル場合アルヲ虞ル就
テハ

(イ)前述本使挨拶ノ趣旨ニテカ又ハ(ロ)終了ノ事件ニ付テハ政

234 昭和7年5月23日 芳沢外務大臣より
在奉天森島総領事代理宛(電報)

南満州並びに東部内蒙古の地域および意義に
ついて

本省 5月23日後5時発

第二八五号 暗、至急

「リットン」委員会関係南満州並東部内

蒙古ノ意義ニ関スル件

貴電第七八二号ニ関シ
(二二一文書)

一、質問事項五ノ(一)及(二)ニ関シテハ左記ノ趣旨ヲ以テ応酬
セラレ度

南満州ト云フモ東部内蒙古ト云フモ共ニ漠然タル地理的
名称ニシテ要スルニ満州ノ南半分乃至内蒙古ノ東半分ト
云フ意味ナリ大正四年日支交渉当時ニ於テモ此等地域ノ
範圍ニ関シ日支間ニ一定ノ限界ヲ定メタルコトナク其後
モ右限界ニ付別段問題ヲ生シタルコトナキ次第ニテ自
分(森島)ノ承知スル限り authoritative official inter-

pretation ナルモノハナシト存ス尤モ自分ノ研究ニ依レハ滿州ノ南半分及内蒙古ノ東半分ノ範圍ヲ定ムル為メニハ左記ノ諸点ヲ考慮スルヲ要スヘシトシテ此等諸点ヲ可然説明スルコト

(イ)南滿州

(1)滿州南北兩端ノ中央ハ北緯四六度六分ノ線ナリ

(2)松花江本流及嫩江ハ滿州ヲ南北ニ分ツ重要ナル地理的根拠タルヘシ(右地域ハ行政的ニハ吉林、奉天ノ二省ニ該当スル処吉林省牡丹江沿岸方面ハ夙ニ朝鮮民族ノ定住セル所ニシテ大正四年日支条約締結當時之ヲ無視シタルモノト見ルコトヲ得ス)

(3)清朝初期ニハ現在ノ黑竜江省居住ノ滿人ヲ Ichu Manchou 伊徹滿(新滿)ト称シ奉天吉林省(殊ニ牡丹江沿岸)居住ノ滿人ヲ Fou Manchou 仏滿(老滿ノ意)ト称シタル事実アリ

(4)一八九八年東清鐵道会社統約第一条ニ哈爾濱ヨリ南下スル支線ヲ「南滿州支線」ト称シ居レリ

(ロ)東部内蒙古

(1)万里ノ長城以北ニシテ滿州ニ接壤セル地域ト解スルヲ

居住營業權アリヤ」ニ対スル応酬ニ當テハ此ノ点ヲ注意セラルルコトト致度(但シ以上ハ必要ニ依リ貴官ノ私見トシテ述ヘラレ度)

(ロ)質問書五ノ四ハ東支鐵道南部支線等ニ於ケル支那官憲ノ邦人借家妨碍事件ニ言及シ居ル処之等借家妨碍ハ我滿鐵付属地ト同様一般外人ノ居住ヲ認メラレアル東支鐵道付属地ニ於テ行ハレタルモノナリ尙 San-hsing 三姓ハ開港場ナルヲ以テ本邦人居住ノ權アルコト言フ迄モ無し(三姓及東支東部及南部線地方カ南滿州ニ屬スト解スルノ妥當ナルコトハ前述ノ通りナリ)

235

昭和7年5月23日

芳沢外務大臣より
※在奉天森島総領事代理宛(電報)

連盟調査団の解決案と我方の対策について

第二八六号(暗)

連盟調査員利導方ニ関スル件

吉田大使へ第一七号

調査委員カ北滿ニ至ル迄ノ調査ヲ大体終了シ將ニ最終報告ノ起草ニ着手セムトスル此ノ際右ノ調査ニ基ク彼等ノ感想並將來ニ対スル解決腹案ニ付キ出来得ル限り詳細ニ探知シ

妥當トス

(2)清朝時代ニ所謂内屬蒙古ハ(イ)内蒙東部四盟(ロ) Chahar 察哈爾部(ハ) Kukuhot 帰化土 Tuned 默特部及(ニ)内蒙西部二盟ニ分タレタルカ問題ハ右(ロ)(ハ)ヲ東西何レニ屬セシムヘキヤニ存スヘク少クトモ内蒙東部四盟即チ

Cherim 哲里木 Chauda 昭烏達 Chosotu 卓索圖 Silinghol 錫林郭勒ノ四盟カ『東部内蒙古』ニ屬スルコトハ疑ナカルヘシ(從テ現在ノ熱河省ノミナラス察哈爾省ノ一部ヲ含ムモノナリ察哈爾省ノ東半部ハ錫林郭勒盟ニ屬ス)

(尚本件ニ関連シ東三省官憲ノ本邦人居住營業妨碍殊ニ朝鮮人ニ対スル圧迫カ北滿ヨリモ南滿ニ於テ特ニ甚シカリシコトハ注意ヲ要ス)

二、質問事項五ノ(三)及(四)ニ関シ當方気付ノ点左ノ通

(イ)昔時内蒙古ニ屬シタルモ清朝末期以來開墾政策ノ進歩ニ伴ヒ次第ニ東三省ニ編入セラレタル地方アル処(例ヘハ洮南)如斯滿州政權ノ権力下ニ編入セラルル地方ハ大正四年ノ条約ニ所謂南滿州ニ屬スルモノト解スルコト至當ナルヘク質問書五ノ(三)即「東部内蒙古ニ於テ日本人ハ

右報告ノ内容ヲ我方ニ有利ニ導ク様各方面相呼応シテ万全ノ策ヲ講スルノ要アルコト申ス迄モナキ義ナルカ累次ノ貴電其ノ他ヲ綜合スルニ從來委員會側ニ於テ描キ居レル解決案ハ(イ)日支直接交渉ニ依リテ支那側ヲシテ日本ノ既得權尊重ヲ約セシメ滿蒙ニ対スル支那ノ統治權ヲ回復セントスル案(ロ)支那ノ宗主權ノ下ニ滿蒙ニ自治權ヲ認メムトスル案(ハ)國際的機關ニ依リ滿蒙ヲ管理スル案(ニ)九国条約關係国等ノ會議ニ依リ滿蒙問題ヲ決定セムトスル案等ニ存スル模様ナル処此ノ際問題ノ錯雜紛糾セルニ顧ミ解決ニ関スル意見ヲ後日ニ遷延セムトスル案ナラハイザ知ラス苟モ新國家ノ存在テウ現実ノ事実ヲ無視シテ滿蒙ノ統治ニ対シ依然トシテ支那ノ主權カ及フカ又ハ新ニ國際委員會等第三者ノ力ノ及フコトヲ認ムル案ハ帝國政府トシテ到底受諾シ難キ次第ナリ(五月十日付奉天宛往信並一機密合第四五六号ノ三月十二日閣議決定及奉天宛往電第二七〇号本庄司令官等応酬振参照)將又滿州問題カ歴史的ニ政治的ニ其他各方面ヨリ見テ極メテ複雑多岐ナルコト御承知ノ通りニテ該問題ノ円滿解決ニ資セムトスル委員會ノ調査報告ハ須ク大局の見地ニ立チ「ステーツマンシップ」ヲ發揮スル底ノモノナラサル

ヘカラサルニ拘ラス最近委員側ハ動モスレハ区々タル条約ノ解釈トカ交渉ノ細目トカノ詮議立ニ没頭シ居ル嫌アル処右ハ新事態ヲ善導シテ将来ノ平和維持ニ資スル所以ニ非スト存ス就テハ貴官ハ此ノ際一層委員側トノ接触ヲ密接ニシ此ノ上共先方ノ腹中ヲ探知スルト共ニ右我方ノ重キヲ置ク点ヲ機会アル毎ニ徹底セシメ其ノ結果随時電報アリ度目下当方ニ於テモ六月末委員会本邦再来ノ際ノ指導応酬振ニ付折角準備中ニテ貴方委員側トノ接触ノ結果ヲ参考トシ度考ナリ

支、北平、連盟ニ転電シ支ヲシテ南京ヘ又連盟ヲシテ英、伊、独ニ転電シ仏ニ転報セシム

236

昭和7年5月24日

※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査団の報告書起草地について

奉天 5月24日前発

本省 5月24日後着

第八三七号（暗）

吉田ヨリ

第一六三号

知ルヤ

「リ」、貴下ハ北戴河ニ行カサル積リナルヤ

本使、余知ラス

「リ」、最後通牒ヲ発スルハ不可ナリ

本使、貴下コソスル質問ヲ発スルナリ

「リ」卿モ余程窮セリト見エ「アルチメイタム」云々ノ言ヲ用ヒタルカ委員会ハ已ムヲ得ス北平ヲ同地ト変ユル下地ナルカ如シトノ情報アリ成行一応電報ス

237

昭和7年5月24日

※在長春田代領事より
芳沢外務大臣宛（電報）

アスター等のチチハル到着と我方応酬振りに

ついて

長春 5月24日後発

本省 5月24日後着

第二五二号（暗）

齊々哈爾濱本官宛電報

第一一号（廿三日後）

大臣ヘ転電アリ度シ

第八一号

往電第一五二号ニ関シ

二十三日委員ハ之カ為会合シ「リットン」ハ廿日付機密第八二号付属書中ノ第一点ニ関シ北戴河ハ却テ日支関係ノ調査ニ便ナリトシ米委員ハ既ニ知人ヨリ同地ニ別荘ヲ提供セラレ居リ伊委員ハ伊国首相ノ女婿同地ニ避暑スヘク其他随員中自己ノ都合ニ依リ同地ヲ希望スル者少ナカラサル趣ニテ本使ノ申入ハ本使自身ノ一種ノ「マニフェスタシオン」ニ過キスシテ政府ノ意思ニ非サルヘシ等言フ者アリ未タ決定ニ至ラサルモ青島説見込少シトノ内報ニ接セシヲ以テ本使ハ直ニ委員長ニ本件ニ付反対セヨトノ電訓ヲ受ケ居ル旨ヲ述ヘタル後左ノ問答アリ

「リ」、最後報告作成地ニテハ参与委員ニ相談スヘキ仕事少カルヘシ

本使、然ラハ本官ヲ作成地ニ伴ハサルヤ

「リ」、其意味ニ非ス

本使、去ラハ相談スヘキコトアリ得ルニ非スヤ

「リ」、「アセサー」ニ諮ルトモ本国ニ問合スヲ要スル大問題ナカルヘシ

本使、日本政府ニ問合ノ必要アリヤ否ヤハ本使以外何人カ

「アスター」「コッツェ」「ハイアム」「ビッドル」「モス」

及塩崎書記官ノ一行ハ廿二日午後四時半飛行機ニテ来齊午後五時半本官ヲ来訪シ質問ヲ開始セリ本官ハ廿一日朝林出書記官ノ持来レル

一、齊々哈爾占拠後ノ政情ノ変化官憲ノ更迭満州国ニ対スル態度各種ノ政治的輿論ノ変遷

二、各種官庁ノ改革及公共事業（郵便及税関ヲ含ム）ノ執行ニ関スル新国家ノ活動

三、白系露人ノ数及政治的活動

等ノ諸項ヨリ成ル一行ノ質問書ニ対シ予メ答弁書ヲ作成シ置キ之ヲ一行ニ手交スルト共ニ質問ノ大部分ハ満州国内政問題ニ属シ本官良ク之ヲ弁ヘサリシニ付昨夜満州国側ヨリ材料ヲ貰ヒテ答弁書ヲ急造セリ右予メ御承知置キアリ度シト付言セリ夫レヨリ五名ハ交々馬賊問題支那ノ条約違反行為省党部ノ活動中村事件蘇連邦ノ江省軍援助ノ有無馬占山ノ性行治安維持会ノ性質共產黨問題邦人顧問ノ採用手続及満州国ノ前途等約二時間ニ亘リ相当広範囲ノ質問ヲ為セルカ中村事件条約違反行為共產黨ノ活動及馬賊問題ニ関シテハ予メ作成シ置キタル英文調書ヲ手交シ其他ノ諸問題ニ

関シテハ適當ニ応酬セリ一行ハ満足ノ面持ニテ午後七時引取レリ

長春ヨリ公使、北平へ転電アリ度シ
奉天、長春へ転電セリ

238 昭和7年5月25日 ※在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

満州国と中国との関係などに関するアンジェ
リノ連盟調査団随員との内話について

奉天 5月25日後発
本省 5月26日前着

第八五〇号

吉田ヨリ

第一六七号

廿四日「ド・カッタ・アンジェリノ」トノ内話

「ア」、共產主義ノ発展ハ危険ナルニ付爪哇、新嘉坡、海防、西貢各地官憲互ニ密接ノ連絡ヲ有シ非常ニ有益ナル情報ヲ交換セルヲ以テ日本モ共同セハ便ナラン
馬占山会见ノ為ノ査証拒絶ニ関スル蘇連邦側回答ノ字句ハ巧妙ニ出来居リ第一連盟ハ満州国ニ干渉セルモノナルヲ暗

那本部ニ相当ノ援助ヲ与フルヲ辞セサルヘキコトと思フ而シテ現実ニ即セサル本件解決方法ハ到底日本ノ承諾セサル所ナリ

「ア」、日本ハ其ノ満州ニ有スル一切ノ權益ヲ保有スルモ満州国ト支那トノ關係ヲ兩國間ニテ決定スルニ対シ異議ナシトノ趣旨ヲ声明セハ世界ノ輿論ハ日本ニ好意ヲ寄セ

余ハ未タ委員ノ方針ヲ知ラサルモ最終報告中ニ共匪其ノ他支那本部自体ノ真相ヲ記述セハ別ト思フ余ハ本部ヲ八十省位ニ分チ以テ省長ノ権力ヲ薄クシ兵士ヲ土工ニ用ヒテ裁兵ヲ計ルコトヲ必要トス尚本使東支鉄道理事沈瑞麟ト過日哈爾賓ニテ懇談ノ節沈ハ（イ）国民党ハ撲滅スヘキモノナリ（ロ）其上ニテナラハ如何ナル支那政府トモ満州問題ニ付満州国ハ協定ヲ為シ得ルコトト堅ク信スト語レリ

支、北平、南京、長春、哈爾賓、連盟へ転電セリ

239 昭和7年5月25日 ※在ハルビン長岡総領事代理より
芳沢外務大臣宛（電報）

連盟調査団報告書の内容に関するモスの談話
について

示シ第二蘇滿兩國親交基礎ヲ作ラントスルモノト見受ケラル

満州事件解決案ニ関シ委員ヨリ未タ何等聞カサルモ余ハ溥儀ヲ終身満州ニ於ケル中華民國ノ「ハイ、コンミッシヨナ」ト為ス話付カハ便利ト思フモ満州国ハ基礎成リ来レル様ナルニ付此事不可能ナランカ

本使、支那本部ニテ支那側ヨリ（イ）溥儀ハ已ムヲ得ス執政トナリシニ付何時ニテモ引退シ度シト醇親王ニ内報シ同親王ハ之ヲ南京政府ニ内通セリトノ話ヲ聞カサレ怪ミ居リシト同時ニ（ロ）中華民國側ヨリ同国ハ満州ノ実権ハ之ヲ日本ニ与フヘキモ体面上同地方ニ總督カ何カラ任命スルコトシ度シトノコトヲ屢々内聞セシカ本使ハ長春ニテ溥儀カ満州国建設ニ最モ熱心ナルヲ知リタリ依テ余ハ支那ハ已ムヲ得サル場合ノ窮策トシテ（ロ）ノ方法ヲ執ラン為（イ）ノ計画ヲ為セルモノト思フ

「ア」、解決上困難トスル所ハ日本カ支那ニ与フヘキ何物ヲモ有セサルコトナリ

本使、我國ハ事変前ニ比シ何モ新ニ得ル所ナシ余ハ満州問題ヲ以テ日支關係ノ癌トセシ処満州事件解決セハ日本ハ支

ハルビン 5月25日後発
本省 5月25日後着

第五七五号（暗、部外秘）

齊々哈爾濱本官宛電報

第八五号

大臣へ電報アリタシ

第八三号

調査団一行中ノ「モス」ハ二十四日朝当地出發前本官ヲ別室ニ招キ自分ハ調査団ノ随員ノ首席ニ連リ何等勢力無キモノナルモ日本ノ立場ハ良ク之ヲ諒解シ居レリ自分ハ全然個人ノ立場ニテ貴下ノ意見ヲ聴キ度シト前提シ調査員ノ報告ハ第一段ハ満州事件ノ經過第二段ハ満州事件ノ既成現状第三段ハ解決方法ノ三段ニ分タルモノニ非サヤト考ヘラルル処第三段ニ付テハ自分ハ支那カ満州ニ於ケル主權ヲ回復シ其代リニ日本ノ特殊權益ヲ認ムルコトトシテハ如何カト思考ス其場合日本カ満州ヨリ撤退スル時ハ支那人ノ日本ニ対スル復讐甚シク為ニ日本人ノ土匪其他ニ殺害セラルルモノ少カラサヤト思考ス貴見如何ト尋ネタリ右ニ対シ本官モ個人ノ資格ニテ語ル旨述ヘタル上日本軍カ満州ヨリ撤退ス

ル時ハ日本人ハ勿論支那全国ヨリ引揚ケサルヘカラス何トナレハ支那ニ於ケル排日運動カ目下火ト為リ居ルハ支那カ主トシテ国際連盟ノ同情ヲ得ルコトニ努メ居ルニ依ルモノナル処若シ日本軍力撤退スル時ハ日本ハ連盟ヲ恐レテ撤退セルモノト為シ支那ハ日本ヲ侮蔑シ日本人ニ対スル排斥ハ以前ヨリモ熾烈ト成レハナリト答ヘ且満州問題ノ解決ニ付テハ満州国ノ出現ヲ考慮ニ入レサルヘカラス假令日本カ貴見ノ解決案ニ賛成スルコトアリトスルモ満州国力賛成スルヤ否ヤハ疑問ナリト付言シ置キタリ尚「モス」ハ本会談ノ際「スペシャルインテレスト」又ハ「エコノミカルインテレスト」ナル語ヲ用ヒタリ本官ノ得タル印象ニ依レハ右「インテレスト」トハ現存ノ我既得權益ノ外ニ支那ヲシテ或種ノ權益ヲ日本ニ与ヘシメントスルモノニ非サト思考ス

因ミニ「モス」ハ日本ニ生レ支那ニ三十年間在任シ支那ノ事情ニ通シ親日家ト認メラル

哈爾賓ヨリ公使、北平、奉天、長春ニ転電アリタシ

哈爾賓ヘ転電セリ

迄公平不偏ノ態度ヲ以テ其ノ任務ヲ遂行スヘキ同委員会ノ為メ採ラサル所ナリト云フニアリテ「リ」卿ノ貴大使ニ対シ応酬セル諸点ノ如キハ末葉ノ問題ニ過キス況ヤ貴電冒頭記載ノ如キ私的事情ノ如キハ委員会ノ任務ノ重大ナルニ比スレハ問題トナラサル筈ナリ

(二三〇文書)

就テハ往電第一二二一号ノ二及本電ノ趣旨御含ミノ上我方ノ北戴河ニ反対スル理由(即チ公平ノ問電ナリ)ヲ委員側ニ篤ト徹底セシムル様御懇談相成リ結果回電アリ度

貴電ト共ニ支、北平、連盟ニ転電シ支ヲシテ南京ヘ転報シ連盟ヲシテ英米仏伊独ニ転電セシム

241 昭和7年5月25日 芳沢外務大臣より
※在奉天森島総領事代理宛(電報)

連盟調査委員の馬占山との会見に対する我方態度について

第二九五号(暗)

馬占山会見及報告作成地問題

吉田大使へ第二〇号
(二三三文書)
貴電第一六二二号ニ関シ

本省 5月25日後8時35分発

240 昭和7年5月25日 芳沢外務大臣より
※在奉天森島総領事代理宛(電報)

連盟調査団報告書起草予定地北戴河に反対の意向について

第二九四号(暗)

調査委員報告書起草地ノ件

吉田大使へ第一九号
(二三六文書)
貴電第一六三三号ニ関シ

我方カ北戴河ニ反対スルハ委員側ニ於テ態々張学良ノ「インフルエンス」濃厚ナル土地ヲ報告書起草地トシテ選フハ同委員会カ何等カ不純ノ原因ニ依リ動カサレ居ルモノナルヤノ世間ノ疑惑ヲ生シ(仮ニ委員会カ鎌倉又ハ箱根ヲ起草地ニ選ヒタリトセハ支那側ハ必スヤ不公平ヲ叫フヘク其ノ反対ニ北戴河ヲ起草地トスルコトニ対シ日本国民カ如何ナル感シヲ持ツヘキヤ委員側トシテ想像ニ難ラサル所ナルヘシ尚ホ貴電末尾ノ意味明ナラサルモ若シ北平ヲ起草地トナス次第ナラハ一層不可ナリ)延イテハ報告書其ノ物ノ価値ヲ疑ハシムルコトトナルヘク右ハ日支両国民信頼ノ下ニ飽

242 昭和7年5月26日 在奉天森島総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

張作霖爆死事件に関する連盟調査団への説明について

第八五六号(暗)

往電第八四七号ノ一ニ関シ

先日来調査員随員「カット・アンゼリノ」ハ本官ニ対シ北

奉天 5月26日後発
本省 5月26日後着

平方面ニテハ支那側ハ調査員側ニ対シ張作霖ノ爆死ヲ以テ日本ノ東三省攪乱ノ予定計画ニシテ今次ノ満州事件モ其延長ニ過キストテ種々宣伝シ居タルニ付共同調査書ハ是非トモ發表方然ル可キ旨内話アリタルニ付二十五日「リットン」及「ヤング」來館ノ際ニハ本官ヨリ事件發生當時刺殺セラレタル二名ノ便衣隊員ノ所持セシ数通ノ手紙ノ写真ヲモ示シ其内容ヲ説明シタルニ「リ」及「ヤ」ハ南方方面ヨリ此種人物ノ入込ミ居タルコトハ注意スヘキ所ニテ益々怪事件タルヲ感スル旨洩ラシ居タリ前電補足旁々御参考迄支、北平へ転電セリ

243 昭和7年5月26日 芳沢外務大臣より
在奉天森島総領事代理宛（電報）

連盟調査委員側に吉敦長大線契約写交付に際しての注意について

本省 5月26日後8時発

第二九八号 暗、至急

吉敦長大線契約写交付ノ件

貴電第八四七号ノ二ニ関シ

一、吉敦線延長並ニ長大線新設ニ関スル契約ニ付テハ巷間

連盟調査委員会の報告書に関するアースの
話について

大連 5月29日前発
本省 5月29日前着

第一七三号（暗）

五月廿七日「ハース」ノ塩崎ニ対スル内話左ノ通

一、北平到着ノ上ハ調査材料ノ整理ヲナス要アリ之カ事務進捗ノ為事務局員及専門家ノ一部即チ「パスチホフ」

「ハイアム」等ハ北平ニ先行セシムル考ヘナリ

北平滞在二週間中ニ満州問題解決案ニ対スル委員会ノ意見ハ主義上ノミニテモ一応纏メ置ク要アルヘキヲ以テ委員ヲシテ之カ討議ヲナサシムルコト必要ナルヘク其上ニテ日本ニ赴キ日本政府ノ意向ヲ質スコトナルヘシ報告書ハ八月中旬頃迄ニ起草ヲ完了スル予定ナリ報告起草地ニ付テハ委員長ト吉田大使ノ間ニ意見交換中ナルカ自分トシテハ其決定ハ委員長ニ委スル外ナシ自分一己トシテハ起草ノ半分ノ仕事ヲ箱根辺ニテ行ヒ残りノ仕事ノ半ヲ支那ニ於テナスコトニモ異存ナキモ目下ノ処右ノ如キ案ハ委員ノ採用スル所トナラサルヘシ（右ニ対シ塩崎ヨリ

張作霖又ハ交通部総長ノ署名ナシ等ノ説ヲナスモノアルニモ鑑ミ（「ヤング」ノ Japan's special position in Manchuria 第二五一頁）此ノ際調査委員側ニ右契約ヲ提示シ置クコト有利ト思考スルモ元來當業者ノ契約ニシテ業務上ノ秘密ヲモ含ミ居ル斯種契約類ヲ政府側ニ於テ濫リニ提示シ得サルモノナルコト申ス迄モナキ儀ニ付調査委員側ニ対シテハ右ノ趣旨ヲ明確ニシ且今後ノ先例トナラサルコトヲ留保シタル上満鉄側ニ対シテハ委員側ニ本件契約交付スルニ当リテハ右交付ハ全ク会社ノ好意的措置ニシテ今後ノ先例トナラサルコトヲ明確ニ留保シ置ク様申聞ケラレ度

二、尚右契約ニ交通部総長ノ署名ナク交通部次長代理趙鎮署名調印シ居ルコトハ調査委員側ニ於テ問題トナルヤモ知レサル処右ハ當時交通部総長欠位、次長常蔭槐不在ノ為特ニ大元帥令ヲ以テ趙鎮ニ交通部ノ一切ノ事務ヲ専行スル權限ヲ与ヘタルニ基クモノナルニ付満鉄側ヨリ右写ヲ交付スルニ当リ右大元帥令ヲ挾出提示ノ上趙鎮カ正当ニ調印ノ權限ヲ有セン次第ヲ説明シ置ク様御取計相成度

244 昭和7年5月29日 吉田連盟調査委員参与委員より
齋藤外務大臣宛（電報）

北戴河ニ対シテハ日本政府ニ於テ強硬ナル反対アルコト既ニ御承知ノ通ナルヘシトテ貴電第一九号ノ趣旨ヲ敷衍シ且北戴河ノ如キハ理論ハ別トスルモ感情上日本国民ノ満足スル所ナラサルヘシト強調シ置キタリ（報告書ハ九月初旬寿府ニ到着スル様致シ度ク其上ハ何レ理事会ノ討議ニ上ルヘキ処報告ニ対シテハ日支両国政府ニ於テ意見ヲ提出スルコトアルヘク又理事国ニモ送付シテ予メ研究セシムル要アルヲ以テ自分トシテハ右理事会討議前約三ヶ月ノ猶予ヲ与フル事ヲ適當ト考ヘ居レリ從テ卑見カ採用セラルレハ委員会報告書ノ討議ハ十二月初メ頃トナルヘキモ理事国中是ニ反対シ速ニ討議ヲ求ムルモノアルヤモ計ラレス

二、満州問題ヲ考慮スルニ当リテハ昨秋ノ理事会決議以前ノ事態ノ変化特ニ満州国ノ出現ヲ無視スルヲ得サルヘシト思惟ス即チ現実ノ事態ニ立脚シテ問題ノ研究ヲナスヘキモノナルモ是ト同時ニ満州国及日本国ニ於テモ互譲妥協ノ態度ヲ取ラサレハ問題ノ解決困難ナルヘシ解決案中満州ニ於テ一種ノ国際行政制度ヲ設クルカ如キ事ハ適切ナラサルヘシ（右ニ対シ塩崎ヨリ満州ニ対スル外部ノ干

渉ハ如何ナル形式ニ依リ行ハルモ日本国民ハ同意セサルヘシト述ヘ置キタリ）又委任統治制度ノ如キモ問題トナラス又委任統治制度ハ発達セサル未開地域ニ対スル過渡の統治制度ナルカ故ニ既ニ連盟ノ一員タル国ニ属スル地域ニ対シ右制度ヲ実行セントスルハ理論上妥当ニ非ス右ハ舊ニ日支兩國ニ於テ異議アルヘキノミナラス連盟自身トシテモ賛成シ得ヘキ案ニ非ス而シテ自分ハ未タ解決案トシテ確信アル考案ニ遭遇セサルモ一応ノ私見トシテ例ヘハ一種ノ自治制度ノ如キハ一案ナラスヤトモ考ヘ居レリ蓋シ滿州ニ於テハ張作霖及學良時代ヨリ既ニ一種ノ「オウトノマス、レヂーム」存シタルヲ以テナリ、尤モ右ニ付自分ハ未タ深ク研究シタル次第ニ非ス又委員會ニ於テ採用スヘキヤ否ヤ全然知ラサルモ瑞西國ノ「カントン」ノ「コンフェデラシヨン」ニ対スル關係ハ調整セラハヘキ滿州國ノ支那ニ対スル關係ノ參考トナルヘシト思惟ス素ヨリ右案ハ日、支、滿三方面ニ於テ受諾セラルヘキモノナルコトヲ前提トスヘク若シ右三者ニ於テ受諾シ得ヘキモノナルニ於テハ具體的細目ハ支那及滿州兩國間ノ交渉ニ委スルコトヲ得ヘシ

（括弧内ハ本使ノ言）

三十日「ハース」内話

（一）委員等嘗テハ長春政府ヲ日本政府ノ傀儡ナリト考ヘ居リシ様ナルカ今ハ爾ク思ヒ居ラス

（二）（北平ニテ「リットン」ハ滿州國ハ日本ノ「コントロール」カ又ハ「アドバイス」セルモノナリトノ感想ヲ予ニ語リタリ往電第三四号）長春ニテ予大橋ト交渉中ニモ委員長ハ談判ノ困難ヲ虚偽ト信シ本庄司令官カ一言言ハハ直ニ纏マルト即断シ居リシモ其ノ後事情ヲ知了セリ

（三）滿州問題解決案ニ付委員ハ未タ曾テ真面目ニ協議セシコト無シ（現実ニ基カサルモノハ日本ノ承認シ得サル処ナリ）委任統治ハ不可能ニシテ支那モ同意セス國際管理トハ「インターナシヨナル、マシネリー」ノ意ナランカ之ハ問題ヲ紛糾セシムヘシ（支那ヨリ「ハイコンミッシヨナー」ヲ指名スル説アリ顏惠慶ヲトノ噂アルモ我ハ同意セス）此ノ事ハ予聞キシコト無シ兎ニ角本問題ハ非常ニ紛糾セルモノナレハ如何ニ之ヲ纏ムルカハ極メテ困難ニシテ委員會ノ報告モ短日月ニ解決スル方法無シト云フニアランヲ惧ル現状ニ即スル解決ナルヲ要ストアリテハ歐

三、尚馬占山トノ会見問題ニ関シ馬ハ眼ニ一丁字ナキ阿片吸飲者ニ過キサルコトヲ知レリ從テ代表者ヲ派遣シ馬占山ト会見セシムルコトモ重要視シ居ラサリシ処右代表者ニ対スル旅券査証ヲ露國ニ要求シタルモ右ハ拒絕セラレタリ尤モ右ハ何等連盟側ヨリ公式ニ求メタルニアラスシテ右代表者ノ所屬國ノ領事館ヨリ夫々露國ニ対シ旅行者トシテノ査証ヲ求メタルニ過キス斯シテ馬占山トノ会見ノ問題ハ全然「ドロップ」セラレタル次第ナリ

大臣ヨリ連盟ヘ転報アリタシ

支、北平、奉天、哈爾濱、長春ヘ転電セリ

245 昭和7年5月(31)日

※在奉天森島總領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

滿州問題解決案に関するアース連盟調査団事務長の内話について

奉天

本省 5月31日後着

第八七八号（暗）

吉田ヨリ

第一七六号

州諸國ハ本件カ先例トナランヲ惧ル（之ニ対シ大臣發達盟宛第一二五号）ノ通説明シ置キタリ

（四）（長春政府カ將來日本ニ反対スルコト可能ト思フモ滿州ニ重大ナル利害關係ヲ有スル日本ハ同政府ノ基礎固マラハ承認スル必要生スヘク蘇連邦ハ或ハ我ニ先ンスヘシ）予モ爾思フ

（五）支那カ新國家ヲ承認スルハ極メテ難シ（國民黨ノ政府ヲ占ムル間ハ兎ニ角絶対不可能ナルモ私見トシテハ早晚右兩國間ニ或ハ協定シ得ヘシ）

支、北平、長春、哈爾濱、連盟ヘ転電セリ

246 昭和7年6月2日

※在奉天森島總領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

連盟調査団報告書記草地上に関するリットンの書翰について

別電

同日在奉天森島總領事代理より齋藤外務大臣宛
第八九〇号

報告書記草地上に北戴河選定の理由について

奉天 6月2日後着
本省 6月2日後着

第ハ八九号(暗)

吉田ヨリ

第一八一号

(二四〇文書)
貴電第一九号ニ関シ

「リットン」ヨリ一日付別電第一八二号ノ書翰ニ接シタリ

右ニ対シ目下面会要求中ナルモ右不取敢電報ス

別電ト共ニ公使、北平、連盟ニ転電セリ

連盟ヨリ英、米、仏、伊、独ニ転報ブリタニ

(別電)

奉天 6月2日後発

本省 6月2日後着

第八九〇号

吉田ヨリ

第二八二号(別電)

I am sure you will agree that if our Report is to do full justice to Japan's case, we must present the events of the last nine months in their historical perspective, and explain the train of events that led to the action that was taken. As, therefore, a large section of our

Report will be historical, it is necessary that in writing it we should have ready access to the archives of our respective Legations, where alone the necessary information is to be found. The need to be near to the Legations, to whose archives we must refer and where our confidential papers are kept, necessarily limits the area of our choice.

We have not yet visited Peitaiho and we can not therefore say finally whether or not we shall find there conditions which will be acceptable to us, but as I have told you we intend to visit it on our return journey this week.

May I again assure you that our sole reason for favouring Peitaiho is the fact that it is the only Summer resort at which we could remain in close touch with our Legations. But as you have expressed so strong an objection to residing there, we might endeavour to meet your wishes by making Peiping our nominal head quarters and spending a certain amount

満州問題解決方法ニ関シ本使ノ問ニ対スル「リットン」内

話左ノ通

(二四八文書)

(一)本庄司令官ノ所説(往電第一八六号参照)ハ based on many illusions ナリ南京政府カ類似ノ言論ヲ為サハ余ハ反駁スヘシ將軍ハ個人トシテノ言ナリト云ハレシニ付余ハ何レ東京ニテ日本政府ト話スヘシ

(二)日支両国政府ノ受諾スル解決案アラハ好都合ナルモ斯卡ル案無クハ夫々応諾シ得ル日支両国家ヲ報告セン吾々ハ決定ヲ為シ得サルモノナレハ連盟ニテ討議スルノ外無シ
(三)蘇連邦ハ満州ニ接壤セルニ付日支間ニ或ハ為スヘキ協定ニシテ蘇連邦ノ支那ニ有スル權利ニ影響スルモノナラハ右協定ハ同国ノ承認ヲ得ルヲ要ス

往電第一八九号ノ通転電セリ

248

昭和7年6月3日

※在奉天森島総領事代理より
斎藤外務大臣宛(電報)

本庄軍司令官連盟調査委員との会見において

満州問題解決方法に関する私見開陳について

奉天 6月3日後発

本省 6月3日後着

of time there, while going away as may be convenient if the weather becomes unendurably hot as I have told you, I also hope to visit Tsingtao while I am in Peiping, in order to find out the accommodation and other conditions there.
I hope that you will convey to your Government the reasons which will actuate us in finally making our decision. I feel sure that they will not find it difficult to appreciate the importance of these considerations for the efficiency of our work.

247

昭和7年6月3日

※在奉天森島総領事代理より
斎藤外務大臣宛(電報)

満州問題解決方法に関するリットンへの話

つづ

奉天 6月3日前発

本省 6月3日前着

第八九九号(暗)

吉田ヨリ

第一九〇号

第九〇一号（暗）
吉田ヨリ

第一八六号

二日午前本庄司令官ハ軍司令部ニテ委員ト会見ヲ為シ之ヨリ述フル処ハ全然余ノ私見ニシテ必スシモ中央ノ意向ト合致セサルヘク特ニ軍事以外ノコトニ付テハ一個ノ本庄トシテ申上クルニ過キサルモノナルコトヲ前置シ大要次ノ趣旨ヲ述ヘタリ

一、満州ハ日本ニ取り絶対的生命線ニテ之カ完全ナル防護ハ国防上ノ主要条件ナリ

(イ) 経済的生存上満州ハ我治安維持ノ下ニ之ヲ包括セシメ完全ニ保護セサルヘカラス（日満ノ経済的關係ハ華盛頓會議當時ニ比シ著シク変化シ今ヤ兩者ハ不可分ノ關係ニ在リト説明ス）

(ロ) 満州ヲ我國防線内ニ包容シ外部ヨリノ侵略ニ対シ完全ニ防衛セサルヘカラス（今日ハ国防ノ第一線ハ黒竜江及興安嶺ニ置カサルヘカラス平時ノ四個師団ニ所要部隊ヲ加ヘタル現在兵力約三万ハ満州國軍カ信頼スヘキモノトナラサル限り存置シ置クヘキ最少限度ナリ又少

数ノ兵力ヲ以テスル關係上必要ナル交通網ヲ確保スルノ要アリト付加ス）

(ハ) 第三「インターナショナル」ノ赤化政策ニ対シ我國ノ為ノミナラス他ノ文明國ノ為ニモ満州ヲ前哨線トシテ防衛スルノ要アリ

二、⁽²⁾ 満州國ノ成立ハ我國防上好都合ニシテ其ノ出現ハ何等不自然ノモノニ非ス

(イ) 満州國ハ我國ノ立場ヲ正解シ密切ナル提携ヲ保チテ進マントスルモノナレハ之ヲ支持發達セシムル事ハ我生存上及国防上当然ナリ（新國家ハ王道主義ト民族共和トノ理想ヲ以テ進マントシ之ヲ我國カ支持スル事有利ナリト説明ス）

(ロ) 満州カ支那本部ヨリ分離独立スルハ不自然ニアラス（右ハ歴史上証明セラル又新國家ノ出現ハ張カ悪政ノ当然ノ帰結ナリ）

(ハ) 満州ハ將來自立ノ能力アリ（満州國ハ独立國タルノ諸要素ヲ具備ス武力ハ不充分ナルモ不完全ナル多數軍隊ヲ急増スルハ危険ナリ治安維持ハ日本軍之ニ当ル可シ）

(ニ) 満州ノ匪賊カ何時平定セラルルニ至ルヤ予想スル事ハ困難ナルモ敗兵及匪賊ノ大集團ハ本年中心ニ瓦解セシメ得可シ尤モ小集團及職業的馬賊ノ殲滅ハ五年乃至十年ヲ要ス可シ

三、⁽³⁾ 満州問題解決ニ関スル私見

満州ノ事態ヲ現実ニ即シテ確認スル事最モ必要ニシテ現状ヲ變更セントスル如何ナル方策モ解決ノ捷徑ニ非ス（満州ニ於ケル支那ノ主權ヲ認ムル時ハ満州國ハ存立ヲ失フ可ク日本ハ次第ニ事變前ノ危険状態ニ直面スルニ至ル可シ條約ニ依リ支那ヲシテ我要求ヲ保障セシメントスルモ支那ノ約束ハ当ニナラス

日本軍ヲ撤シテ支那軍ヲシテ満州ヲ保護セシムルカ如キハ論外ノ事ナリ名義上ノミ支那ノ宗主權ヲ認ムル事モ満州國ノ理想実現ニ悪影響ヲ与フル事明カナリ中央政府ノ代表ヲ簡派スルカ如キハ尚更不可ナリ

外蒙又（ハ）西藏ト満州トハ經濟的価値全ク異レリ寧ロ満州ニ平和郷実現セハ支那本部モ刺激セラレ反省スルニ至ラン

要スルニ満州ニ於ケル既定事実ノ確認ハ最良ノ平和的解

決手段ナル可ク満州國ハ既往ノ國際的義務ノ踏襲及今後機會均等、門戸開放ヲ約シ居レリ從テ列國ハ積極的ニ援助セストモ今後數年間満州ニ於ケル自然ノ推移ヲ靜觀シ然ル後現実ニ即スル適當ノ策ヲ樹立セハ正鵠ヲ失ハサル帰結ヲ得ルナラムカ）
尚右談話ハ絶対秘密ヲ守ラレ度シ
公使、北平、長春、連盟ヘ転電シ、連盟ヨリ英、米、仏、伊、独、露ヘ転電セシム

249 昭和7年6月3日 在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

スイス国新聞記者リントの動靜について

ハルビン 6月3日後発
本省 6月3日後着
第五九八号（暗）
本官発瑞西宛電報

第一号

貴信御来示ノ瑞西新聞記者「リント」博士（A.R. Lindt）ニ対シテハ当方面ニ於テ軍部並ニ当館ヨリモ種々便宜ヲ与ヘ居タル処五月廿七日頃当市ヲ去ル三ツ四ツ西方東支西部

線駅ヨリ駿馬ニテ（単独或ハ支那人案内人同伴セルヤ不明）戦況視察ノ為北行セル儘消息ヲ絶チ居リ奥地ノ不安状態ニ鑑ミ安否ヲ氣遣ヒツツアリ右当地特務機関ヨリノ依頼モアリ松井中将ニ御伝ヘアリ度シ
大臣ヘ転電セリ

250 昭和7年6月3日 ※在奉天森島総領事代理宛（電報）
齋藤外務大臣より

連盟調査団報告書作成地を青島とするよう折衝方について

本省 6月3日後9時20分発

第三二〇号（暗、大至急）

連盟調査員報告作成地ニ関スル件

吉田大使へ

貴電第一八一号ニ関シ
（二四六文書）

我方カ北平又ハ北戴河ニ反対スルハ右両地カ張学良ノ純然タル膝下ニテ同人ノ勢力極メテ濃厚ナルニ付（北戴河ハ通信等ノ關係上北平ヨリモ我方ニ取り一層不利ナリ）此等ノ土地ヲ起草地トスルトキハ自然報告書其ノ物ノ公平ヲ疑ハシムル結果トナル虞アリトナス次第ナルコト累次申進メノ

就テハ叙上ノ趣旨ニ依リ委員側ト篤ト懇談ヲ試ミラレ度支、北平、青島、寿府、米ニ転電シ支ヲシテ南京ニ転報シ寿府ヲシテ英、仏、独、伊ニ転電セシム

251 昭和7年6月4日 ※在奉天森島総領事代理宛（電報）
齋藤外務大臣より

顧維鈞等の渡日問題および連盟調査団調査範圍について

本省 6月4日後6時発

第九三三号（暗）

顧維鈞等渡日ノ件

吉田大使へ第二九号

貴電第一八八号ニ関シ

我方ニ於テハ顧維鈞一行カ調査委員会ノ一部トシテ本邦ニ渡来スルコトソレ自身ニハ異存ナシ又支那新聞記者一名カ委員一行ト共ニ来朝スルコトモ妨ナシ尤モ顧一行ニ対シテハ支那側カ貴大使一行ニ与ヘタルト大体同様ノ取扱ヲナスヘキニ付右委員側ニ申入レ置カレ度尚ホ「リットン」ハ日本政府ト交渉スルコト即チ調査ナリト申シ居ル次第ナル処我方ニ於テハ調査委員カ本邦ニ来リ帝国政府ノ意見ヲ聞ク

通ニテ（本邦新聞紙等ニハ支那側ハ調査委員会書記局ノ一部トノ間ニ我方ニ不利ナル策動ヲナシツツアリヤノ風説モアリ旁々報告書起草地ヲ張学良ノ膝下ニ選フコトハ我國民ニ対シ極メテ不良ナル印象ヲ与フヘシ「此ノ点淡白ニ「リットン」ニ内話セラレ度」尚ホ我方ニテハ前記風説ハ真実ナルヤノ疑惑ヲ抱キ居レリ右貴官限リ御含迄）委員側トシテ何物ヲ措キテモ最モ重キヲ置クヘキハ其ノ態度ノ公平不偏ニ付疑惑ヲ生セサラシムル点ニ存スル処ナルヲ以テ矢張り起草地ハ初メヨリ青島トスヘキコトニ決定セシムル様致度

尚ホ「リットン」来翰ニハ公使館記録ヲ利用スル要アリトカ委員会ノ秘密書類ヲ公使館ニ保存スル要アリトカ申シ居ル処満州問題其他日支關係ニ関スル重要書類ハ殆ト全部日支ノ所有スル所ニシテ外国公使館側ニ左シタル記録アリトハ考ヘラレス又外国公使館側ノ記録ヲ必要トスルカ如キ場合アリトスルモ其際ハ青島ヨリ「クローリエー」ヲ派遣スレハ其ノ目的ヲ達シ得ヘク（此ノ点青島ハ北戴河トハ五十歩百歩ノ相違ナリ）又秘密書類ノ保存ニ関シテハ青島ニハ英、米、独ノ領事館アルニ付之ヲ利用セハ可ナル訳ナリ

コトニハ固ヨリ反対ナキノミナラス大ニ歡迎スルモ本邦ヲ調査区域ニ含マシムルカ如キ考方ハ従来ノ経緯ニ反ス即チ委員会ノ調査ノ範圍カ支那及滿州ニ限ラルヘキモノナルコトハ十二月十日理事会決議成立ノ経緯ニ顧ミ極メテ明カニシテ現ニ同決議ノ五ニ to study on the spot トアルハ初メ in Manchuria トアリタルヲ in Manchuria and other parts of China ト改メ更ニ on the spot ト修正シタルモノナリ我方トシテハ本件ニ付委員側ト事々シク議論スル意向ハナキモ委員側ニ誤解ナカラムコトヲ希望スル次第ナルニ付此ノ点改メテ「リ」卿ノ注意ヲ喚起シ置カレ度支、奉天、長春、連盟ヘ転電セリ

252 昭和7年6月6日 ※在北平中山書記官より
齋藤外務大臣宛（電報）

連盟調査委員一行の北平着について

北平 6月6日前発
本省 6月6日前着

第二五三三号

吉田ヨリ

第二二〇〇号

連盟調査員一行五日着平セリ
公使、奉天、南京、長春へ転電セリ

253

昭和7年6月6日 ※在奉天森島総領事代理より
斎藤外務大臣宛(電報)

満州問題の解決に関する大橋司長とマッコイ
調査委員との会談について

奉天 6月6日後発
本省 6月6日後着

第九一九号(暗)
大橋司長ヨリ

四日調査団ヲ山海関迄見送り五日帰来セルカ車中「ブレークスリー」ノ要求ニ依リ「マッコイ」トノ会談要領左ノ通
(大)、日本ハ満州ヲ朝鮮ノ如ク併合スル場合ニハ朝鮮ノ例ニ照シ多額ノ失費ヲ要シ経済的ニ引合ハサルノミナラス労働者ノ移動ヲ制限シ満州生産品ノ日本品圧迫ヲ調整スルコトモ不可能トナリ更ニ支那人ヲ被征服者タル地位ニ置クニ於テハ如何ニ善政ヲ施スモ民心ヲ得ルコト能ハス旁併合ノ如キハ仮令国際政局上可能ナリトスルモ併合ヲ行フコトナカルヘシ

日本政府及関東軍ノ強烈ナル圧迫モアリシニ拘ラス満州政府ノ意向ヲ体シ敢然トシテ行動シタル様ノ次第ニシテ日本政府モ之ヲ「パベット」トスル意思無カリシ為実力ヲ以テ長春政府ヲ威嚇スルカ如キ暴挙ニ出テサリシコトト思考ス

(マ)、日本ノ政治家カ仮リニ爾ク考ヘ居ルトスルモ軍人ノ心理ハ之ト異ナリ自分等カ只今会见セル錦州ノ日本師団長モ頻リニ関内支那側ノ挑戦的態度ヲ云為シ居リ機会タニアラハ山海関ヲ乗越エ天津、北平ト果テシ無ク伸ヒル結果トナルニ非サヤト疑ハレ得サルニ非ス而シテ右ハ戦争ノミヲ念頭ニ置ク軍人トシテハ尤ノ考ニテ軍人タル自分ノ能ク了解シ得ル処ナリ

(大)、日本武士道ハ正義ニ基カサル武力ノ行使ヲ許サス世界歴史ニ於テモ不当ニ武力ヲ行使シタル国ハ一律悲惨ナル運命ニ遭遇セルコトハ日本軍人ノ知悉スル処ニシテ口実ヲ設ケテ無理ナル武力ヲ行使スルカ如キモノハ愛国心強キ日本軍人中ニハ居ラサルヘシ

(マ)、自分ノ恐ルハ将来ニ於ケル満州国ト支那トノ関係ニシテ此ノ儘ニテハ支那人ノ深キ怨恨ニ基ク治安紊乱

(マ)、自分ハ日露戦争当時「ルーズベルト」ノ侍従武官トシテ金子子爵ノ活動ヲ知り居ルカ其当時日本ハ朝鮮併合ノ意思ナキコトヲ力説シ且ツ爾ク真面目ニ考ヘ居タル模様ナルモ其後事態ノ変化ハ遂ニ併合ニ導キタルニ鑑ミ今仮ニ日本ニ其意思ナシトスルモ将来如何ニ発展スルヤ予想スルコト困難ナルヘシ

(大)、昔未開ノ時代野蛮ナル方法ヲ以テ他民族ヲ取扱ヒ得タル時代ナラハイザ知ラス今日ノ如キ時代ニ於テ多数ノ現住民族ヲ有スル土地ヲ併合スルカ如キハ経済的ニ引合ハス政治的ニ不得策ナルコトハ英国ノ印度統治カ行詰リ貴国ノ比律賓問題カ尖鋭化シ居ルニ鑑ミ明白ニシテ日本ニ常識アル政治家ノ存在スル間ハ左様ノ愚挙ニハ出テサルヘシ日本ハ何処迄モ満州人ニ依ル満州人ノ為ノ満州人ノ国ヲ支持セントシ内部ニ働キ居ル日本人ハ唯独立宣言並対外通牒ニ基キ長春政府ノ発達スル様之ヲ援ケツツアルニ過キス世間ハ長春政府ヲ以テ「パベット」、ガバンメントト称シ居ルモ之ヲ「パベット」トスルト否トハ日本人ノ意向次第ニシテ自分カ満州国ニ入レルハ日本カ左様ノ意思無シト見極ハメタル為ニシテ顧維鈞問題ノ際モ

ノ策謀之ニ対スル満州側ノ對抗策等ニ依リ極東ノ禍乱ヲ永續化スルコト無キヤノ点ナリ

(大)、支那人ハ極メテ「ヒステリカル」且「エモーショナル」ノ民族ニシテ一時ノ昂奮モ事態ノ変化ト共ニ一瞬ニシテ忘レ去ルコト二年前迄互ニ不倶戴天ノ仇敵視シ居タル汪精衛及蔣介石カ今日手ヲ握リ居ルニ依リテモ知り得ヘク満州政府内ノ支那人モ一樣ニ支那側ノ昂奮ハ一二年ニテ冷却スヘシト観測シ居レリ尚最近北平ヨリ来長セル予ノ友人タル某支那人ノ談ニ依レハ平津地方ノ支那人中ニハ北支那ニハ見切ヲ付ケ新国家ニ来リ働カントスル空氣濃厚ナリトコトナリ調査団ノ平津ニ於テ会见スヘキ支那人ノ多クハ一般民衆ノ敵タル官僚軍閥ノ一味ニシテ彼等ノ言ニ依リ一般民衆ノ意向ヲ知ルコト困難ナルヘク此ノ点予メ留意シ置カレタシ

之ヲ要スルニ満州問題ノ解決ハ満州国ノ独立ヲ承認シ外部ヨリ其ノ独立宣言並対外宣言ニ現ハレタル理想ヲ実行セシムル様声援スル以外方法無ク連盟其ノ他ノ第三者カ別個ノ案ニ依リ之ニ干渉セムトスルハ断シテ極東平和ヲ保ツ所以ニ非サルヘシ

(「マ」)、貴見ヲ聴クヲ得感謝ニ堪エス尚御話シタキモ貴下ノ北平迄同行シ得ラレサルヲ遺憾トス
支、長春、連盟へ転電セリ

254 昭和7年6月7日 ※在北平中山書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

中国紙掲載の同国新聞記者とリットンとの質問応答について

北平 6月7日後発
本省 6月7日後着

第二六〇号(暗)

吉田ヨリ

第二〇四号

四日北戴河ニテ支那新聞記者ヨリ「リ」卿ニ対シ書面ヲ以テ七ツノ質問ヲ出セルニ対シ「リ」卿ハ長時間考慮ノ後五日午後ニ至リ書面ヲ以テ回答セリトテ支那紙ノ掲載セル処左ノ如シ

一、東三省ニ至レル後ノ感想二、偽組織ニ対スル印象三、馬占山ニ面会シ得サリシ經過四、調査上多ク束縛ヲ蒙ムリタルニ対スル感想五、東北民衆ノ一行中ノ人ニ面会セルモ

査団第二段ノ事務ニ付テハ日支両国政府ニ於テ誠意ヲ以テ解決方法ヲ講セラレンコトヲ希望ス調査団ハ両国トモ此ノ誠意アルヲ信ス

支、奉天、長春、連盟へ転電セリ

北平へ転報セリ

255 昭和7年6月7日 ※在北平中山書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

顧維鈞等の渡日問題および連盟調査団の調査範囲について

北平 6月7日後発
本省 6月8日前着

第二六二号(暗)

吉田ヨリ

第二〇六号

貴電第二九号ノ趣旨七日「リットン」ニ申入レタルニ(支那新聞記者ノ件ハ後日ノコトトシ触レス)「リ」ハ自分ハ例ヘハ大阪ニテ「ボイコット」ニ付「エビデンス」ヲ得タル如ク何処ニテモ調査シ得ルモノト信スルモ御申入レノ次第モアリ何モ言ハサルヘシト答ヘタリ

ノ何レモ逮捕セラレタルカ之ニ対スル意見六、北戴河ヲ遊覧セル印象将来同地ヲ報告作製地トナスヤ七、東北義勇軍ニ対スル感想

右ニ対シ「リ」卿ヨリ一、調査団ハ四月二十日ヨリ六月四日迄六週間ノ事務ハ材料ノ蒐集ニアリ右ハ昨年九月十八日事変発生ノ經過状況現在ノ事態等ニ関スルモノニシテ連盟ハ此ノ種ノ材料ヲ得ハ一切明白ナルヘク調査団ノ意見ハ連盟ヘノ報告中ニ発表スヘシ目下調査団ハ尚材料ノ蒐集及研究中ニテ未タ意見ヲ発表スル能ハス二、調査団カ東北ニ赴ケル際日本政府及日本軍事当局ノ尽力ト援助ヲ得地方当局ノ招待ヲ受ケタルハ大体支那ニ於ケルト同様ナリ但シ東北ニ於テ幾多ノ困難ヲ感シタルカ右ハ日本政府及日本軍事当局ノ所為ニアラス第三者ヨリ受ケシモノニテ調査団ハ忍耐シテ之ニ応セシモ今ヤ一切ノ困難ハ過去ノコトナリタリ三、馬占山ニ面会シ得サリシ原因ハ當時恰モ激戦中ニテ馬ト面会セントセハ東三省地方当局及露国ノ援助ヲ得サルヘカラスカカル援助ヲ得ルコト不可能ナリ四、北戴河ノ風景甚タ可ナリ但シ将来ノ行動ハ未タ決定セス北戴河以外ニ尚多クノ地方ヲ視察セル後報告作製地ヲ決定スヘシ五、調

公使、奉天、長春、連盟ニ転電セリ

256 昭和7年6月8日 ※在北平中山書記官宛(電報)
齋藤外務大臣より

顧維鈞等の渡日中止方について

本省 6月8日後9時20分発

第九九号 暗、極秘扱

顧維鈞等渡日ノ件

吉田大使へ第三二号
往電第二九号ニ関シ
(二五二文書)

顧維鈞来朝ノ件ハ我国内ニ於テ漸ク問題視サレ来レル処元来調査団ハ本邦ニテ調査ヲ行フノ権限ヲ有セス其ノ本邦渡来ハ帝国政府ノ意見ヲ聞ク為メナルヘキコト冒頭往電申進メノ通りニテ調査団ニ於テ顧維鈞ヲ帯同スヘキ何等ノ理由モ必要モナキ答ト存ス(我方トシテハ貴大使カ調査団ト国民政府乃至張学良側トノ会見ニ参加サレサリシニモ鑑ミ我方ト調査団トノ意見交換ニ顧維鈞ヲ参加セシムル意向ナシ尚ホ我方ニ於テハ調査団ノ今回ノ来朝ニ際シテハ大体政府当局トノ意見ノ交換ノ外ハ長時ニ亙リ困難ナル旅行ヲ続ケタル委員連ヲ緩リ休養セシメ度キ考ニテ諸般ノ準備ヲナシ

居レリ）然ルニ貴電第二〇三号等顧維鈞ノ不謹慎ナル言動ハ（同人ハ激越ナル口調ニテ支那各新聞ニ反日談話ヲ掲載セシメ居レリ）其ノ本邦渡来ニ対スル我カ国内ノ反感ヲ益々刺激スヘシト思考スル次第ニテ（斯ノ如キ状況ノ下ニ一行ノ渡来ヲ見ルニ於テ其ノ身辺ニ対シ如何ナル不祥事ヲ発生スルヤモ測ラレサル次第ニテ実ハ当方ニテハ此ノ点ヲ特ニ懸念シ居ル訳ナリ右貴官限リ極秘含迄）旁々此ノ際際一行ノ来朝ハ中止セシムルコト可然ト存ス

就テハ叙上ノ趣旨ヲ体シテ「ハース」辺リト懇談ヲ遂ケラレ成ル可ク調査団ヲシテ顧一行ヲ帶同セシメサル様御取計相成度將又貴大使ノ御努力ニ拘ラス顧一行ノ本邦渡来中止方困難ナルニ於テハ冒頭往電ニ基ク貴大使申入ニ呼応シ「ハース」辺リヨリ新聞記者等ニ対シ「調査団ノ日本行ハ政府ノ意見ヲ求ムル為メニシテ日本ニ於テ調査ヲ行フ訳ニ非ルコト勿論ナリ」トノ趣旨ヲ明確ニ声明セシムル様致度（尤モ六日北平發連合ニ依レハ「ハース」ハ「自分ノ解釈トシテハ十二月理事会決議ニ依レハ日本ハ調査ノ範圍ニ入ラサルモノト思フ日本ヲ訪問スルハ意見ヲ問フ為メニシテ調査ヲ行フ為メニ非ス」ト述ヘタル趣ナル処我方トシテハ

謝外交総長ヨリリットン卿ニ宛タル電文

本月三日満州国外交部総長謝介石ヨリ左記事項ヲ發表セリ

記

國際連盟調査委員団一行離滿ニ際シ外交部総長代理トシテ大橋司長ヲ見送りノ為ニ二日午後四時三十分發列車ニテ錦州ニ派遣セルカ是ト同時ニ同總長ヨリ委員長リットン卿宛左ノ電報ヲ發セリ

満州国外交部総長 謝 介石

六月二日

國際連盟調査団リットン卿

貴調査団ノ当国滞在中ハ建国早々ノ事トテ諸事不自由アリシナラン更ニ御来邦ニ関連シ一、二紛糾ヲ生シ遺憾ニ感シタルモ幸ヒ格別ノ事ナク解決シ其後段々ノ御努力ニ依リ略御来邦ノ目的ヲ達セラレタル事ト思考シ慶賀ニ堪ヘス此ノ機会ニ申上ケ度キ事ハ我國家首腦者カ此後益々國礎ヲ培ヒ獨立宣言及對外通牒ニ示セル理想ヲ以テ三千万民衆ヲ水火ノ痛苦ヨリ救済シ東亞永遠ノ平和ニ貢獻セントスル何物ニモ動カサレサル決意ヲ有スルコトナリ依ツテ吾等ハ貴団カ御視察ニ基キ当國ノ誤ラサル実情ヲ世界ニ紹介セラレルト

「ハ」ニ於テ改メテ前記ノ如ク明確ナル声明ヲ為スコトヲ希望スルモ「ハ」カ右連合等ニ対スル談話ヲ理由トシ改メテ声明ヲ為スコトニ難色アルニ於テハ我方ハ国内ニ於ケル説明ノ為メ「ハ」ノ連合等ニ対スル談話ヲ援用スル事アルヘキ旨ヲ以テ其ノ了解ヲ取付ケ置カレ度

尚ホ本件ニ付テハ必要ニ応シ顧維鈞トモ懇談ヲ遂ケラレ同人ニ於テ自発的ニ本邦渡来ヲ思止ル様仕向ケラレ度支、奉天、長春、連盟ヘ転電セリ

257 昭和7年6月9日

林閣東庁警務局長より
有田外務次官、河田（烈）拓務次官
他宛

連盟調査団一行の離滿に際し謝外交部総長ヨリリットン宛電文について

関機高支第九一五二号ノ二（秘）

昭和七年六月九日

関東庁 警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿

同時ニ将来吾等ノ理想ヲ實現セントスル努力ニ対シ滿腔ノ声援アラント希望ス

玆ニ世界平和ノ為メ崇高ナル使命ヲ帶ヒテ来滿セラレタル貴団ノ視察完了ニ当リ蕪辭ヲ呈シ前途ノ万全ヲ祈ラント欲ス 以上

（編注） 関機高支第九一五二号ノ一は見当らない。

258 昭和7年6月10日

※在北平中山書記官より
斎藤外務大臣宛（電報）

山海関における日本軍活動に関する何柱国のリットン宛陳情について

北平 6月10日後発
本省 6月10日後着

第二六六号（暗）

吉田ヨリ

第二〇八号

七日「リットン」ハ本使ニ対シ過日来平ノ途次錦州ニ於テ日本側ヨリ支那軍活動ノ状況ヲ聞キタルカ山海関ニ入ルニ及ヒ何柱国ハ

（一）日本軍コソ侵略的ニシテ河北省ノ境界ハ長城ノ東方三哩

ナルニ日本軍ハ侵入シ

(二)日本軍ハ協定ニ依ル予報ナクシテ夜間演習ヲ為シ実弾射撃ヲ行ヒタリ

(三)日本軍ハ山海関ニテ占領区域ヲ定ムル境界標ヲ動カシ其ノ区域ヲ拡メ居レリ

トテ委員側ニ対シ訴ヘタル処其ノ真相ヲ承知セサルモ若シ事實ナラハ兩軍ノ關係切迫シ何時(脱?)勃発スルヤモ計リ難シ連盟ハ支那ヨリ訴ヘタラハ当然我々ニ調査ヲ命ジ来ルヘク委員ハ此ノ渦中ニ投スルヲ欲セサルニ付相成ルヘクハ日支兩國陸軍官憲ニ於テ何等協定ニ達セラレンコトヲ切望スト述ヘタリ

依テ本使ハ支那コソ本庄司令官ノ示シタルカ如キ任官辞令ヲ土匪等ニ与ヘテ日本軍ヲ攻撃シ居リ其ノ他何柱国ノ言フ処事實ナリヤ疑ナキヲ得ス孰レ事情取調ヘノ上回答スヘキ旨ヲ述ヘ置キタリ

公使、天津、奉天、長春、錦州へ転電セリ

259 昭和7年6月10日 在天津桑島総領事より 齋藤外務大臣宛(電報)

連盟調査団報告書作成地として青島を不適当

第二九七号

満州国政府ハ八日外交総長ノ名ヲ以テ「リットン」卿ニ宛左ノ要旨ノ質問電報ヲ発シタル趣ナリ

五日大公報所載ノ顧維鈞隨員ノ為シタル当国ニ対スル罵詈及最近顧ノ為シタリト称スル誹謗の声明ニ対シ貴下ニ注意ヲ喚起ス我等カ顧ノ入国ヲ喜ハサリシ理由ノ一ハ彼ノ過去ノ言説ニ示サレタル当国ニ対スル不当ノ態度ニシテ其ノ入国ニ付セントシタル最初ノ条件ハ右不都合ナル言説ノ取消ニアリタリ我等ハ貴下ノ参与員タル名譽ト保障ニ信賴シ特ニ「顧博士カ適當ナル機会ニ不当ナル声明ヲ訂正スヘキコトヲ信ス」ナル文句ヲ五月六日ノ書翰中ニ挿入スル条件ヲ受諾シタルモノニシテ當時ノ交換公文ハ貴下カ親シク書下シタル事情ニ鑑ミ支那参与員今回ノ行動カ貴団ニ依リ阻止セラレサルヲ怪ムト共ニ右行動ハ交換公文ノ明文及精神ニ違反セサルヤ又右行動ヲ看過シテ差支ヘナシト思考セラルルヤ茲ニ質問スル次第ナリ云々

在支公使、北平、天津、奉天ニ転電セリ

261 昭和7年6月11日 在青島川越総領事より 齋藤外務大臣宛(電報)

とする張學良の運動について

天津 6月10日前発
本省 6月10日前着

第二三八号(暗)

北平発青島電報第七号ニ関シ

極メテ確實ナル情報ニ依レハ學良ハ沈鴻烈ノ歸青ヲ命スルト共ニ青島官憲ニ対シ調査員ノ歡迎振リヲ指示シ尚民衆代表ヲシテ客年ノ民国日報事件等ニ付陳情セシメ青島カ日本側ノ勢力濃厚ナルヲ理由トシ報告作成地トシテ不適当ナルコトヲ充分印象セシムル様手配スヘキ旨命令セリ尚王正廷モ本件ニ相当關係シ居ル趣ナリ

北平ヨリ吉田大使へ転報アリ度シ

支、北平、南京、奉天、青島へ転電セリ

260 昭和7年6月10日 在長春田中領事代理より 齋藤外務大臣宛(電報)

顧維鈞の満州国に対する誹謗的声明に關し謝外交部総長のリットンあて質問電報について

長春 6月10日後発
本省 6月10日後着

顧維鈞の満州視察中の束縛および満州における中国人の圧迫等に関する同人の談話記事について

第一〇三号

青島 6月11日前発
本省 6月11日後着

漢字紙ノ報道ニ依レハ顧維鈞ハ十日往訪ノ地方支那新聞記者団ニ対シ外ノ問題ハ兎ニ角東北問題ニ関シテハ重複ヲ顧ス更ニ諸君ニ真相ヲ伝ヘ以テ各般ノ注意喚起方ヲ願ハサルヲ得スト前提シテ大要「自分カ調査団一行ト共ニ東北ニ赴キタル節ハ保護ニ名ヲ藉ル日本ノ嚴重ナル監視ヲ受ケ一挙手一投足総テ自由ヲ束縛サレタリ元来自分ハ親シク我同胞ト面談シ実状ヲ取調ヘ度キ意向ナリシモ自分ト会談セシ同胞ハ翌日ハ直ニ逮捕サル有様ナリシヲ以テ遂ニ其ノ意ヲ得シテ終レリ今ヤ三千万ノ同胞ハ五万ノ日本兵ノ為ニ圧迫サレ手モ足モ出ス其ノ苦惱察スルニ余リアリ然モ其ノ同胞ノ大部分ハ山東人ナリ諸君ハ速ニ法ヲ設ケテ之カ解放救済ヲ計ラサルヘカラス」云々ト語リタル趣(ナリ)又青島各界代表八名ハ同日「リットン」卿ヲ往訪青島大学校長

楊振声ヲ代表トシ口頭ヲ以テ当地市党部事件、本邦人ノ禁制藥品密売事実等ヲ報告シ報告作成上ニ考慮ヲ求メタル趣ナリ

支、北平、南京、天津、濟南、奉天へ転電セリ

支ヨリ上海へ転報アリタシ

262 昭和7年6月11日 齋藤外務大臣より
※在北平中山書記官宛(電報)

連盟調査団の調査地域に関するリットンの声

明取調について

本省 6月11日後8時30分発

第二〇四号(暗)

連盟委員調査地域ニ関スル件

吉田大使へ

貴電第二〇六号末尾ニ関シ
(二五五文書)

「リットン」ハ調査地域ノ問題ニ付テハ何モ云ハサルヘシト申シ居ルニ拘ラス十日青島發連合ニ依レハ「リ」ハ連合記者トノ「インタヴュー」ニ於テ十二月十日理事会決議ノon the spot ハ日本ヲ含ムモノト解スト述ヘタル趣ナル処(二五二文書)
(右 on the spot ハ支那ノミニ限ルコト往電第二九号申進

講セサルニ起因ス

二、東北青年学生ハ意氣沮喪シ全ク日本学生ニ圧倒セラレシ觀アリテ活躍ノ機會ヲ得ルコト困難ナリ日本軍侵略ハ徹底的ニテ学校ハ占領シ其欲スル儘ニ課目ヲ變更シ東北青年ヲ惡導セントス

三、東北ニ於テハ馬占山其他ノ軍人ハ全然孤立無援ナルニ拘ハラス組織アル敵軍ニ對抗シ居レルニ依リ其没落ハ時間ノ問題ニテ民衆ハ之ヲ援助セントスルモ言論ハ封セラレ行動ニ自由ナシ吾人ハ彼等ニ対シ絶大ノ援助ヲ与ヘサルヘカラス

四、東北ノ政治機關ハ名義上ハ中国人ニ司ラシメ日本人顧問ヲ置ケルカ大權ハ全ク彼等ノ掌中ニ在リ

五、日軍ハ軍事上ノミナラス政治財政上ニモ積極的ニ進出し完全ニ東北ヲ中国ヨリ分離セシムルノミナラス更ニ關内進出ノ危険アリ若シ東北ヲ完全ニ失フニ至ラハ東北四省ノ外西北、西南地方モ同様ノ危険ニ曝サルヘシ

六、中国ハ現時ノ難局ニ処スルニ対内的ニモ対外的ニモ統一ヲ欠キ全ク不健全ナル状態ニ在リ国民ハ朝野ヲ論セス国難ニ蹶起セサルヘカラス

メノ通りニシテ此ノ点ハ理事会ニ於ケル討議ノ経緯ニ通スル「ハース」等ニハ充分明ナル所ト存ス」「リ」ニ於テ前記ノ如キコトヲ輕々シク口走ルハ無益ニ本邦輿論ヲ刺激シ甚タ面白カラサル次第ナリ就テハ本件「インタヴュー」ハ果シテ事実ナリヤ御取調ノ上回電アリ度尚ホ右事実ナラハ可然「リ」ノ注意ヲ喚起シ置カレ度

公使、青島、連盟ニ転電セリ

263 昭和7年6月13日 在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

滿洲の現状に関する顧維鈞の談話について

北平 6月13日後発
本省 6月14日前着

第二七四号

往電第二五八号顧維鈞ノ談話ニ関シ十三日当地京報ハ之ヲ逐条的ニ報道セルヲ以テ重複ナカラ更ニ電報ス

一、東北民衆ノ痛苦ハ関内ノ人民ノ想像シ得ル処ニ非ス彼等ハ到ル処ニ圧迫ヲ受ケ居レルカ其愛国心ハ決シテ関内人ニ劣ラス又東北民衆団体ハ能力ヲ發揮スルヲ得サルカ右ハ平時ニ於テ国家カ民衆ト合作シ之ヲ誘導スルノ途ヲ

公使、奉天、長春へ転電セリ

264 昭和7年6月13日 在南京上村総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

顧維鈞一行の溥儀等に関する談話記事について

南京 6月13日後発
本省 6月13日後着

第四五八号
往電第四五七号ニ関シ

十三日ノ新聞ハ顧維鈞ト共ニ帰京セル游弥堅ノ談トシテ一行カ東北ニアル間一人ニ付三、四人ノ日本人探偵尾行シ全ク自由ヲ束縛セラレシ旨並ニ溥儀ニハ七人ノ日本人監視ヲ為シ其言行ヲ記述シ又溥儀夫人ニハ五人ノ日本人付添ヒ且室内ニ「ラヂオ」ヲ取付ケ私室ニ於ケル一語一音迄聞取り居リ溥儀ハ全ク自由ヲ有セサル旨ノ記事ヲ掲ケ居レリ切抜郵送ス

冒頭往電ノ通り転電セリ

265 昭和7年6月13日 在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

馬占山との会見に関するリント記者の情報について

ハルビン 6月13日前発
本省 6月13日後着

第六〇九号(暗)

往電第六〇八号ニ関シ

(二四九文書参照)

昨夜「リント」ハ滝川ニ対シ同人及「スチール」ハ途中反吉林軍ノ保護ヲ受ケツツ北行、海倫西北方ノ僻村ニ於テ馬ト会见三日間同人ノ許ニアリテ種々情報ヲ与ヘラレタルカ馬ハ従来通り通電其ノ他ニ依リ声明セルカ如キ反日、反滿的宣伝ヲ為セル外支那ハ如何ナル場合ニモ国際連盟ヲ脱退スルコトナキモ連盟カ滿州問題解決ニ何等為シ能ハサル場合ハ支那ハ対日宣戦ヲ布告スルコトナク飽迄滿州ニ於テ対日抗争ヲ続クヘク尚連盟調査委員来哈前報告ノ為人ヲ齊齊哈爾方面ニ派シタルモ失敗ニ終リタリトシ蘇連トノ関係ニ付テハ全然之ヲ否定ノ上共產主義ノ害毒ヲ説キ蘇ハ恐日病ニ罹リ居リ仮令日本軍カ浦潮ニ進出スルモ何等為ス処ナカルヘク馬トシテハ寧ロ蘇ヲ憎ミ居リ今ハ唯米國ノ援助ヲ期待スト述ヘ自分ノ兵力ハ目下三万(騎)一万六千、歩一万五

千)ノ外一万五千ノ民兵ヲ有スト称シ居リタリト語りタル趣ナリ

尚「リント」ハ同人等ト馬占山トノ会见ニ付右ハ単ニ新聞記者的好奇心ニ依ルモノニシテ連盟調査員ト何等関係ナキ旨明言セル由ナルモ當時ノ危険状態ヲ冒シテ之ヲ敢行セル点其ノ他ニ鑑ミ多大ノ疑問アリト存ス

前電ノ通り転電セリ

266 昭和7年6月13日 在天津桑島総領事より
齋藤外務大臣宛(電報)

顧維鈞等の渡日反対輿論醸成のため新聞特派員らに対する措置について

天津 6月13日後発
本省 6月13日後着

第二四七号(暗、極秘)

顧維鈞及隨員カ滿州ヨリ帰来後各地ニ於テ新國家並ニ我方ヲ誹謗スル如キ談話ヲ發表シツツアルコトハ公平ナル立場ニ在ル調査団構成分子トシテ甚タ不謹慎ナル次第ナルカ右ニ対シ内地ノ反対輿論ヲ高メ同人等ノ日本行ヲ側面ヨリ阻碍スルコト有利ト認メ吉田大使トモ打合ノ上朝日、毎日、

連合及電通特派員ニ対シ可然措置方申聞ケ置ケリ
支、北平、南京へ転電セリ

267 昭和7年6月13日 在天津桑島総領事より
齋藤外務大臣宛(電報)

何柱国のリットンへの陳情について

天津 6月13日後発
本省 6月13日後着

第二四八号(暗)

(二五八文書)

北平発大臣宛電報第二六六号ニ関シ

何柱国ノ「リットン」ニ為シタル陳情中

(一)ハ絶対右様ノ事無ク

(二)ノ実情ハ往電第二三七号等ノ通ニシテ又事実ニ相違ス

(三)ハ山海關守備隊ニ於テ兵營付近ニ支那軍隊近ツキ誤解ノ發生スルヲ懸念シ緩衝地帯ノ意味合ニテ或ル限界内ニ支那軍カナルヘク立入ラサルコトヲ希望スル旨ヲ明ニシ新ニ標識杭ヲ樹テタル事実アルモ一般内外人ノ交通ヲ阻止スルモノニ非ス從テ占領区域ヲ拡張シタル誤合ニハ非ス又右ハ支那側モ諒解済ナル由ナリ(前記区域ハ主トシテ兵營ヨリ鐵道寄ノ方面ニシテ從來ノ占領地トハ反対ノ方

角ニアリ)

委細ハ駐屯軍參謀北平ニ出張シ吉田大使ヘ説明ノ筈ナリ
北平ヨリ吉田大使ヘ転報アリタシ

公使、奉天、長春、錦州、北平へ転電セリ

268 昭和7年6月14日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

報告書作成地問題に関する連盟調査団の決議について

別電 同日在北平矢野参事官より齋藤外務大臣宛第二七六号
報告書作成地について

北平 6月14日前発
本省 6月14日後着

第二七五号(暗)

吉田ヨリ

第二一二号

委員ハ十三日午前會議ヲ開キ最終報告書作成地問題ニ付協議シタルカ青島ニモ反対説出テ結局「ドロップ」セラルルニ至リ同日午後委員長ヨリ別電第二一二号ノ如ク決議ヲ為

they are ready.

シタル旨本使宛通告シ越セリ不取敢
別電ト共ニ支、奉天、天津、青島、長春、哈爾濱、南京、
連盟ニ転電シ、連盟ヨリ英、仏、独、伊及米ニ転電セシム

(別電)

北平 6月14日前発
本省 6月14日後着

第二七六号(暗)

(別電)

吉田ヨリ

第二一三号

The final report of the Commission will not be written entirely or continuously in any one place. The work will be begun in Tokyo, and completed in Peiping, where alone all the relevant documents are available.

Only part of the work will consist in drafting, and only a small number of persons can be engaged in drafting at any one time. The Members of the Commission will work wherever it suits them, but they will meet period I call for to discuss drafts as soon as

269 昭和7年6月14日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

連盟調査団の調査地域に關しリットンとの会
談についで

北平 6月14日前発
本省 6月14日後着

第二七七号(暗)

吉田ヨリ

第二一四号

北平宛貴大臣発電報第一〇四号ニ關シ
(二六三文書)

十三日午後本使「リットン」ニ会見ヲ求メ右事実ヲ質シタル処「リ」ハ文句ハ記憶セサルモ或ハ連合電報ノ如キ事ヲ言ヒタルヤモ知レスト答ヘタルニ付本使ハ理事会ノ「ミニュット」中芳沢理事ノ「ステートメント」ノ箇所ヲ示シ同理事会ハ調査ハ滿州及支那本部タルヲ条件トシテ決議ヲ承諾セシモノナリ大阪ニ於ケル実業家トノ会見ノ如キハ欧州ニテ研究ヲ為ス場合ト同様決議中ノ on the spot ニ當ラル旨ヲ論シタルニ「リ」ハ此ノ点ニ於テハ支那側ニ異議

第二七八号(暗)

吉田ヨリ

第二一五号

往電第二〇八号ニ關シ
(二五八文書)

有リタリト述ヘタルニ依リ其箇所ヲ示サレ度シトテ議事録ヲ渡セシニ「リ」ハ之ニ答ヘスシテ漢口行ハ支那ノ苦情有リシニ拘ラス本使ノ提議ニ依リシ趣ヲ語リシニ付本使ハ同地ハ支那本部内ナレハ当然ノ事ナリト答ヘタルニ「リ」ハ何故貴下ハ喧嘩ヲ欲スルヤト放言セリ依テ本使ハ左ニ非ス貴下ノ注意ヲ喚起スルノミト駁シタル処「リ」ハ日本ハ内政上ノ機微ナル關係ヲ調査セラルルヲ欲セラレサル意見ナルヤモ知レサルカ余ハ日本ニテ調査スル意思ヲ有セス政府ト協議スルノミナリト述ヘタリ

「リ」ハ真正直ナルモ我儘ニシテ其理屈立タサル時ハ逆上シ現ニ往電第一六三号議論ノ結果「リ」ハ持病ヲ発シタル位ナリ

支、奉天、連盟ヘ転電セリ

270 昭和7年6月14日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

山海關問題に關するリットンとの会談についで

北平 6月14日前発
本省 6月14日後着

「リ」ハ英、伊ノ区域擴張ヲ知レル様子ナリキ

次テ参謀ヨリ支那ハ日本軍ニ對シ策動シ居リ乍ラ静觀シ居レル我軍ニ關シ逆宣傳ヲ為セルナリト説明シタルニ「リ」ハ玆ニ二ヶ月間ハ無事ナルコトヲ希望スト述ヘタリ

公使、奉天、天津、長春、錦州へ転電セリ

271 昭和7年6月14日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

調査団一行の来日経路について

北平 6月14日前発
本省 6月14日後着

第二八〇号(暗)

吉田ヨリ

第二一七号

委員側ハ二十二、三日頃当地発ノ予定ニテ出来得ル限り早ク東京ニ着ク目的ヲ以テ経路研究中ナルカ第一案ハ二十二日当地発奉山線ニ依リ奉天一泊ノ上安奉線、朝鮮經由(安東ハ通過京城ハ二三時間滞在)二十七日朝東京着第二案ハ二十四日当地発塘沽ヨリ乗船大連ニテ「ウラル」丸ニ乗替ヘ神戸上陸第三案ハ二十二日当地発塘沽ヨリ直接神戸ニ向ヒ二十七日東京着更ニ別案トシテ青島經由及上海經由海路日本ニ向フ案ヲモ考究シ居レリ当方トシテハ朝鮮ヲ見セル為第一案ヲ勸メ置キタリ
尚日本滞在ハ大体三週間位ノ予定

273 昭和7年6月14日 在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州国側の顧維鈞等の言動に対する反応について

長春 6月14日後発
本省 6月14日後着

第三一三三号(暗)

本官発北平宛電報

第二号

吉田大使へ

大臣宛電第二一七号ニ関シ
(二七一文書)

満州国側ハ顧維鈞及其ノ随員カ平津、上海、南京等ニ於テ為セル不都合ナル言動ニ対シ非常ニ憤慨シ居ル為調査団カ第一案ニ依リ満州国内ヲ通過シ顧等モ同行スル場合ハ顧等ノ入国ヲ拒絶ス可シトノ強硬ナル態度ナルニ付右一応御合置相成度シ
大臣、支、南京、奉天へ転電セリ

274 昭和7年6月15日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

公使、奉天、安東、長春、青島、天津、南京、関東庁、朝鮮総督府ニ転電セリ

272 昭和7年6月14日 在南京上村総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

中国政府筋に対する顧維鈞の報告および同人の言動について

南京 6月14日前発
本省 6月14日後着

第四五九号

往電第四五七号ニ関シ

林森及各部々長、中央委員等ハ十三日汪精衛官邸ニ会合シ顧維鈞ヨリ満州視察ノ報告ヲ聴取シタル後長時間ニ亘リ今後ノ対策ヲ協議シタル模様ナルカ顧維鈞ハ十四日飛行機ニテ廬山ニ赴キ蔣介石ニモ報告スル趣ナリ
尚顧ハ新聞記者ニ対シ同人ノ知ル処ニ依レハ青島ハ報告書作成地トシテ不適当ナル模様ニ付調査団ハ近ク適当ナル場所ヲ決定スヘキ旨並ニ同人ハ東北ニ於テ精神的ニ非常ナル苦痛ヲ感シタルニ付恐ラク日本ニハ赴カサル旨語り居レリ
支、北平、奉天、長春、九江へ転電セリ

連盟調査団の動向および満州国承認問題等に関するペパンの申出について

北平 6月15日後発
本省 6月16日前着

第二八五号(暗、極秘)

吉田ヨリ

第二二一号

「ペパン」ノ申出左ノ通り

一、南京政府ノ閣員二名ハ顧維鈞ト共ニ今週末北平ニ来リ同政府ノ意見ヲ委員会ニ述フヘシ(此ノコトハ委員中ニモ未タ知ラサル者有リ)我方ハ先ツ其ノ内容ヲ知ルヲ要スルニ付日本政府ハ委員ノ東京着前ニ政府ノ方針発表ヲナスヨリモ其ノ到着ヲ待ツ方然ルヘシ

二、我方ハ往電第二二一号最後報告起草地ニ関スル委員会

(二六八文書参照)

ノ決議ニ故障ヲ今言ハサルコト然ルヘシ蓋シ(イ)北平ニテハ報告中日支紛争ノ沿革ノ部分ヲ作成(而シテ日支兩國委員ハ書記局ト協力シ得ヘシ)スルモ最肝要ナル他ノ部分ヲ日本ニテ討議スヘキヲ以テ實際上我ニ便利ナリ右ノ次第ハ支那側トノ関係上委員ヨリ公然我方ニ申出テ難キ

モ何等カ其ノ内委員ヨリ挨拶アル模様ナリ(四)最終報告我ニ不利ナル場合ニ我外務省ニテ初メテ右決議ニ故障ヲ起シ我参与委員ノ支那行ヲ拒絶スルコトヲ得ヘシ

三、現在委員会密議ノ様子ニ顧ミ日本カ直ニ満州国ノ承認ヲ為ササルコト然ルヘク乍然要ハ議會カ政府ニ右承認ヲ勧告シ之ニハ政府ハ適當ノ時機ヲ選フヘシトノ決議ヲナサハ委員等ハ困ルヘキモ我ニ有利ノ結果ヲ齎ラスヘシ

四、委員ハ日本カ同国ヲ直ニ承認スルコトアリ得ヘシトノ報道ヲ寿府ニ電報セリ

275 昭和7年6月15日 在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者と連盟調査委員との
關係に関する馬占山の電報について

ハルビン 6月15日後発
本省 6月15日後着

第六一二号(暗)
往電第六〇九号ニ関シ
軍側カ奉天ニ於テ傍受セル十日付馬占山發万福麟宛電報ニ「調査団ヨリ既ニ「リント」「スチール」ヲ派遣シ来リ必要

ニ拒絶スト敦圀キ居レリ
支、北平、奉天、天津へ転電セリ

277 昭和7年6月15日 齋藤外務大臣より
※在北平矢野参事官宛(電報)

ペバン帰朝方要請について

本省 6月15日後8時発

第一一二号(暗)

「ペバン」帰朝ノ件

吉田大使へ

貴電第二二〇号ニ関シ

当方ニ於テハ六月一日付「ペバン」意見書中ニモアルカ如ク関東軍提出ノ資料カ調査委員予備報告ノ作成ニ尠カラサル影響ヲ与ヘタル様認メラルルニモ顧ミ(注 意見書四Bニ参照)同委員会東京再来ノ場合本大臣等ノ応酬ト併行シテ我方ノ立場ヲ闡明セル書物ヲ交付シ度キ意向ニテ右準備ノ為メ至急同人ノ帰朝ヲ希望シ居ル訳ナル処叙上ノ如キ当方ノ考慮ニ拘ラス貴方ニ於テ「ペ」ヲ必要トセラルル格別ノ事情アル次第ナルヤ若シ右格別ノ事情ナクハ至急同人ヲ出発セシメラルル様致度

ナル材料ニ付協議セルヲ以テ之ヲ手交シ一切ヲ詳述セリ」トアル由右ニテ両記者ト連盟調査委員トノ關係明白トナレル次第ナリ

冒頭往電ノ通転電セリ

276 昭和7年6月15日 在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

顧維鈞の言動に関するリットン電報に対する
満州国側の反応について

長春 6月15日後発
本省 6月15日後着

第三一五号(暗)
往電第二九七号ニ関シ

十四日夕刻謝介石ハ「リットン」卿ヨリ「九日ノ貴電接到御来示ノ次第団員ト討議シタル処顧博士カ参与員トシテノ行動ニ慎重ナラサリシトハ信スルノ理由ナク同人ノ抱懷スル個人的意見及同人カ満州訪問ノ前後ニ於テナセル報告或ハ声明ニ関シテハ調査団ハ責任ナク又責任ヲ負ヒ難シ」トノ趣旨ノ電報ヲ接受シタル由ニテ満州国側ハ其ノ不都合ヲ極度ニ憤慨シ今後ハ支那側参与員及其ノ隨員ノ入国ハ絶対

278 昭和7年6月15日 齋藤外務大臣より
※在北平矢野参事官宛(電報)

顧維鈞の来日に関し同人の言動制御方委員側
に注意喚起について

本省 6月15日後9時15分発

第一一三号(暗)

顧維鈞渡来ノ件

吉田大使へ

貴電第二一八号ニ関シ

一、我方トシテハ調査団ノ本邦渡来ハ調査ノ為メニ非スシテ政府ノ意見ヲ聞ク為メナルコトニ付委員側ニ誤解ナキ以上支那参与員ヲ同行スルコトニハ異存ナキモ唯タ顧維鈞ノ不謹慎ナル言動ニ顧ミ同人ノ渡来ハ好マシカラストナス次第ナルニ付(特ニ同人身辺ノ危険ヲ懸念シ居ルコト前電申進メノ通りナリ御含迄)其ノ言動等ニ於テ我方輿論ヲ刺激スル虞ナキ穩当ナル人物ヲシテ之ニ代ラシムレハ其ノ渡来ニハ異存ナシ尚ホ隨員モ其ノ言動ヲ慎ム以上ハ渡来方差支ナシ(今日迄ノ所支那側隨員ノ言動ハ本邦ニ於テ別段問題トナリ居ラサル次第ナルカ愈々本邦ニ

渡来スルニ当リテハ益々其ノ言動ヲ慎重ニスルヲ要スヘシ)

二、將又顧維鈞ハ其後引続キ新聞記者等ニ対シ不謹慎極マル談話ヲナシ居ル模様ナル処同人カ本邦ニ渡来スルト否トニ拘ラス前記ノ如キハ其ノ参与員タルノ地位ニ顧ミ甚タ不都合千万ニシテ委員側ニ於テ之ヲ放任シ置クニ於テハ調査団自身ノ信用ニモ係ハル次第ナルニ付顧維鈞ノ放恣ナル言動ヲ制スル様委員側ノ注意ヲ喚起シ置カレ度貴電通り転電セリ

279 昭和7年6月16日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

ペパンの帰京についで

北平 6月16日後発
本省 6月17日前着

第二九〇号

吉田ヨリ

第二二五号

「ペパン」十七日発滿鮮經由東京へ直行ノコトニ取計済ミ

280 昭和7年6月16日 在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

ウォルター・ヤングより同人に関する日本新聞等の中傷記事に関し抗議について

北平 6月16日後発
本省 6月17日前着

第二九二号(暗、部外極秘扱)

六月三日北平発「ジャパン・テレグラフ・サービス」(四日奉天、大阪毎日等ニ掲載)ニ学良ハ「ウォルター、ヤング」ニハ北戴河ニ於ケル別荘ヲ又同夫人ニハ金製花瓶ヲ贈呈セル旨ノ記事アリトテ「ヤング」ハ八日付本官宛書翰(写郵送ス)ヲ以テ訛伝ハ自分ノ妻ノ名譽ニ係ルヲ以テ通信社ニ対シ取消及謝罪ヲ要求スヘク尚自分ノ属スル連盟調査団ヲ誹毀スルモノニシテ日本ノ為ニ採ラス右ノ次第通報旁本件ニ関シ採ルヘキ措置ニ付本官ノ意見ヲ求ムル旨申来レリ

「ヤ」ハ在平中ノ連盟随員渡大佐及当館付永津補佐官ニモ同様申送レル由ノ処其後「ヤ」ハ渡大佐ニ対シ彼ノ件ハ其ノ儘トシ何等ノ措置ヲ採ラサル事トセリト語レル趣ナリ

冒頭情報ハ当地ヨリ出テタルモノニ非ス奉天ニ於テ軍側カ「ヤ」夫人ヨリ主人へ宛テタル書翰ノ通信検閲ニ依リ知り得タルモノラシク(写真版ニ取りアリト云フ)中央ニテハ右御承知トハ存スルモ「ヤ」近々間島出発ノ関係モアリ為念電報ス

公使、奉天、天津、間島ニ転電セリ

281 昭和7年6月16日 在上海村井総領事より
齋藤外務大臣宛(電報)

上海における顧維鈞の動静について

上海 6月16日後発
本省 6月16日後着

第七八四号

顧維鈞ハ十五日午後五時半張学良ノ「フォード」機ニテ学良ノ顧問「ドナルド」及劉崇傑等ト共ニ南京ヨリ来滬同夜九時自邸ニ於テ新聞記者団ニ対シ廬山會議ノ概要及東北実地調査ノ苦心談ヲ為シ連盟調査団ト日本ニ赴クヤノ問ニ対シ既ニ渡日スルコトニ決定シタル旨答ヘ次テ滬中ノ國務主席林森ヲ訪問シテ滿州視察ノ結果ヲ報告シタル趣ナリ(林森ハ同夜夜行ニテ帰寧ス)尚今十六日ハ午後一時銀行

俱樂部ニ於ケル國際問題研究会並ニ二、三ノ慰勞宴ニ臨ミ夜ハ中国青年會ニ於ケル吳鉄城司會ノ講演會ニ出席シ十七日朝北上ノ予定ナリト

支へ転報シ、北平、奉天、天津、南京へ転電セリ

282 昭和7年6月16日 在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者の馬占山との会見文書に関する滿州国側の処置について

ハルビン 6月16日後発
本省 6月16日後着

第六一六号(暗)

往電第六一二号ニ関シ

十五日夕滿州国側特務警察管理署ハ「リント」ニ対シ任意出頭ヲ求メ仏國領事立會(当地ニハ瑞西領事駐在セス)ノ下ニ同夜深更ニ至ル迄取調ヘタル処同人ハ同人等ト連盟ト何等關係無シト称シ又馬ヨリ受取リタル支那文報告書ハ目下米國總領事館ニ於テ英訳中ナルモ「スチール」トノ共有物ナルカ故ニ同人ノ承諾ヲ得ハ提供スヘシト供述シタル趣ナルカ右取調ト同時ニ「ホテル、テデルン」内同人室内搜

査ヲ為シタルモ在支瑞西公使ヨリ張學良宛紹介状其他二、三ノ外別段重要ナル証拠物件ヲ発見スルニ至ラス

一方昨夜半当地交渉員ヨリ米國總領事館ニ対シ「スチール」取調承諾方ヲ希望セル処總領事「ハンソン」不在ノ故ヲ以テ回答方猶予ヲ乞ヒタルモ「ス」ハ目下米國總領事館内へ逃避シ居ルコト略々確實ナリト認メラレ交渉員ハ中央民政部長ニ宛テ本件今後ノ処置振電請シタル趣ナリ尚右両記者ニ対シ馬占山カ交付シタル由ナル材料カ何等カノ方法ニ依リ調査委員ノ手ニ入ルヘキコト必定ナリトハ存セラルルモ斯ノ如キ滿州國ニ対スル反逆的ナル行動ヲ第三國人ニ看過スルノ慣行ヲ馴致スルニ於テハ新國家ノ秩序維持上重大ナル禍根ヲ貽ス虞アルヘク此ノ際本件ニ関シ滿州國側ニ於テ相當徹底的措置ヲ執ル必要アルヘク將又支那ニ對スル治外法權ハ從來外國側ニ取リ有利ナル様極度ニ広汎ニ解釈セラレ居ルヤニ認メララルモ滿州國ニ関スル限り嚴重ナル解釈ニ從フノ慣行ヲ作ル氣構ヘ必要ナリト存ス冒頭往電ノ通電セリ

オ」ニ関スル件ハ全然虚構ニ属スル由ナリ
寿府ヨリ在欧各大使ニ暗送アリタシ
米ヨリ紐育、市俄古、桑港、加奈陀ニ転報アリタシ

284 昭和7年6月16日 齋藤外務大臣より
※在北平矢野参事官宛（電報）

調査委員一行の渡日期日および新外相との接見日について

本省 6月16日後9時30分発

第一一四号 暗、極秘至急

調査委員一行渡日期ニ関スル件

吉田大使へ第三四号

往電第三三三三号ニ関シ

(一)内田伯専任外相ニ内定セル処（此点ハ任免大権ニ関スル次第ニテ若シ御親任前外部ニ漏洩スルニ於テ重大ナル問題トナル虞アルニ付委員側ニ於テモ嚴重秘密ヲ保ツ様堅ク念ヲ押シ置カレ度）同伯ハ二十一日当地発一旦滿州ニ赴キ七月十二日帰京ノ筈ナルニ付外務大臣ノ調査団接見ハ同日以後ニ行ヒ度意向ナリ

(二)然ルニ貴電第二一七号第一案又ハ第三案ノ如ク調査団ノ

283 昭和7年6月16日 齋藤外務大臣より
在シネネーッ沢田連盟事務局長、在米國出淵大使宛（電報）

滿州国執政溥儀の近況について

合第一三四二号（暗）

支那側ハ從來ヨリ日本カ滿州国執政溥儀ヲ監視シ行動ノ自由ヲ束縛シ居ル旨宣伝シ居ル処十三日ノ南京新聞ハ顧維鈞ト共ニ帰寧セル連盟調査団支那側隨員游弥堅（Yu Mi-chen）ノ談トシテ日本人七名溥儀ヲ監視シ其言行ヲ記述シ溥儀夫人ニモ日本婦人五名付添ヒ居ル外室内ニ「ラデオ」ヲ取付ケ一言一語迄聞取り居ル旨ノ記事ヲ掲ケタルカ在長春領事代理ヨリノ電報ニ依レハ右ハ事實ニ相違シ執政府ニハ工藤侍衛、小平内務官、中島諮議ノ外三人ノ邦人事務官勤務シ居ルモ何レモ從來ヨリ執政ト縁故アル者ニテ（工藤ハ宗社党首領升允、小平ハ肅親王、中島ハ張勳關係ノ人物ナリ）現ニ誠心誠意輔導ノ任ニ當リ居リ執政ハ毎日午前七時起床、九時ヨリ三時迄國務ヲ処理シ其以後ハ戶外運動等ニ興セラレ其行動束縛等ノコト全然ナク内外人ノ謁見モ毎日二、三回アリ殊ニ外國新聞記者ニ對シテハ簡單ナル手續ニテ謁見ヲ許サレ居ル由ニテ又溥儀夫人及「ラヂ

本邦着カ二十六、七日頃トナルニ於テハ冒頭往電申進メノ「プログラム」ヲ逆ニシ初メノ十日間ヲ關西地方及箱根ノ遊覽ニ費シ次ノ十日間ヲ東京地方滞在ニ當ツルコトトスルモ委員一行ノ東京入りハ七月六、七日頃トナルヘク即チ外務大臣就任ト調査団接見迄ニハ四、五日位乃至一週間ノ開キヲ生スル次第ナリ

(三)就テハ委員一行ノ東京入りヲ七月十二日以後トスル為其ノ本邦着ヲ七月二日頃トシ初メノ十日間ヲ關西地方及箱根ノ遊覽ニ費サシムルコトト致度キ処（尤モ委員側ニ異存ナケレハ前記關西地方等ノ遊覽期間ヲ数日間延ハスコトトスルモ差支ナシ）其ノ辺ニ對スル委員側ノ都合至急回電アリ度

285 昭和7年6月17日 齋藤外務大臣宛（電報）
※在北平矢野参事官より

委員会一行の渡日に関し、人員、経路、日取および本邦滞在期間等について

北平 6月17日前発
本省 6月17日前着

第二九三号（暗、至急）

吉田ヨリ⁽¹⁾

第二二七号

貴電第二七号及第三三三号ニ関シ

「ハース」ノ塩崎ニ対スル談話左ノ通

一、委員当地出發ノ経路日取及本邦滞在期間等ハ容易ニ決定セサル為確報ノ運ヒニ至ラサリシ処一兩日前委員会ハ陸路東京ニ直行スル事ニ傾キシ処其後出来得ル限り速ニ日本ニ行ク趣旨ヲ以テ青島ヨリ海路神戸ニ向フ案即チ上海二十二日發ノ Rajputana 号又ハ二十四日發ノ President Coolidge 号ヲ日本ニ回航シ得ルヤ否ヤ研究中ニテ未タ決定ニ至ラサルモ委員側ハ成ル可ク青島廻リヲ取リ度キ希望ナリ(塩崎ヨリ右ハ顧維鈞ノ問題ヲ考慮ニ入レタル結果ナリヤト問ヒシニ「ハ」ハ顧ノ日本行キニ付テハ「オフィシアリー」ニハ未タ何等承知セサルモ新聞ニ依レハ彼モ同行スル由ニテ果シテ然ラハ陸路ニテハ満州国トノ間ニ問題ヲ生スルヲ虞ルト答ヘタリ)何等日本側ニテ朝鮮及安奉沿線ヲ見ルヲ希望セハ帰平ノ際右経路ヲ取ルヤモ知レス

右ノ如ク委員ハ出来得ル限り速ニ東京ニ赴キ度キモ日本

意見ヲ聴クニアリ尤モ当局以外ノ政治上ノ有力者例ヘハ西園寺公ト会见スルヲ適當トスルヤ否ヤハ日本政府ノ指図ニ從フヘシ從テ東京滞滞期間ハ確定セサルモ日本政府ノ必要トセラルル期間ハ滞留ヲ要スヘシ而シテ右滞在中委員ハ相当多忙ナルヘキニ付宴会等ノ社交ハ成ルヘク避ケ度シ(右ニ対シ貴電第三三三号ノ趣旨ヲ説明シ外相其ノ他二、三ノ招待ハ差支無カルヘシト言ヒタルニ外相ノ宴会ノ如キハ政治上ヨリ云フモ受クルヲ適當ト考フト答フ)

尚本邦滞在中ノ遊覧ニ付テハ貴電ニハ東京滞在ヲ十日位ト為シ居ルモ右ニテハ充分ナラサルヲ以テ本邦及東京ノ滞在期間ヲ明言セシテ貴電ノ計画ヲ申入レシニ「ハ」ハ本件ハ出来得レハ東京着後決定シテ頂キ度キモ兎ニ角委員ニ相談スヘシト答ヘタルカ当方ヨリ日程ニ付テハ成ルヘク日本政府ニ一任セラレ度キ旨申入レ置キタリ

支、奉天、長春ハ転電セリ

286

昭和7年6月17日

※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者の馬占山との会見と

政府ニ於テ委員ノ出發ヲ遅ラス方好都合ナリトノ意見ナラハ委員トシテハ日本政府ノ指図ニ從フモ可ナルニ付日本政府ノ意見ヲ尋ネラレ度シ(塩崎ヨリ右ハ外務大臣就任ノ事ヲ考ヘ居ル次第ナリヤト問ヒシニ其ノ事ヲ「メンション」セラルルヲ欲セサルモ其ノ点モ考ヘ居レリト答ヘタリ就テハ右ノ点大至急御回電ヲ請フ)

二、東京ニ赴ク者ハ五委員ノ外「ハース」夫婦、「ブレイクスリー」、「アスター」、「ジュブレール」、「ビッドル」、「バストホフ」(同人ノミ一週間位遅ル)「ペルト」、「デネリー」、「ドルフマン」(此ノ三人ハ東京ニ於ケル用務済ミ次第「ペルト」ハ多分満州ニ赴キ長春政府当局ヨリ財政問題ニ関スル意見ヲ聴取ノ上、「ドルフマン」ハ上海ニ赴キテ「ボイコット」問題ヲ研究ノ上、「デネリー」ハ直接ニ夫々帰平ス)「ヤング」(東京ノ用務済ミ次第帰路多分朝鮮ニ赴キ満州国側ニ異議無クハ間島ヲ視察ス)「ジャレール」其ノ他「ステノグラフィアー」一、二名等ナリ

三、東京ニ於ケル委員会ノ任務ハ報告ノ結論ニ相当スル政治問題ニ付テノ日本政府当局即チ総理、外相、陸相等ノ

調査委員との関係について

北平 6月17日前発
本省 6月17日前着

第二九六号(暗)

吉田ヨリ

第二三〇号

哈爾濱貴大臣宛電報第六〇九号ニ関シ^(二六五文書)

「スチール」及「リント」ノ件ニ関シ塩崎ヨリ「ハース」ニ質シタルニ「ハ」ハ調査委員カ彼等ニ馬占山ニ会见方依頼シタル事全然無ク「馬」カ外部ニ其旨電報ヲ出シタリトセハ右ハ根拠無キ宣伝ナリト答ヘタリ

支、哈爾濱、瑞西、奉天、長春、齊齊哈爾、「ブラゴベシチエンスク」ニ転電セリ

287

昭和7年6月17日

※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

連盟調査団一行の渡日期日について

第二九八号(暗、大至急)

北平 6月17日後発
本省 6月18日前着

吉田ヨリ

第二三二号

往電第二二七号及貴電第三四号ニ関シ
(二八五文書)

委員ハ出来得ル限り早ク報告作成ヲ希望シ之カ為日本政府ノ都合付キ次第第一日モ早ク東京ニ著シ政府当局ト会见セント欲シ居ル関係モアリ往路関西地方等ノ遊覧二十四日モ費スコトハ委員側ノ同意ヲ得ルコト殆ト不可能ナルヘク(現ニ過日「リットン」ハ本使ニ対シ朝鮮經由ノ場合金剛山見物ノ為数日ヲ費スコトハ困ルト述ヘタルコトアリ)此ノ際貴電ノ趣旨ヲ申入ルルニ於テハ結局委員側ニ於テハ事務ヲ差繰リ来月十二日頃東京ヘ直行シ得ル様当地出發ニ變更スルコトトナルヘキヲ惧ルル処一方顧維鈞ハ汪精衛等文官ト共ニ明十八日来平ノ由ナルカ予定ノ期日以上委員ノ出發ヲ延期セシムルコトハ支那側ト委員トノ面談ノ機ヲ多クシ其ノ策動ノ機會ヲ与フルコトトモナルヲ以テ右ハ成ル可ク避クルヲ可トスト思料セラル就テハ前記往電「ハース」ノ間合ニ対シテハ日本政府ニ於テハ委員側ノ都合ニ從ヒ来邦セラレ差支無キ旨回答シ置キ委員着京ノ上ハ総理、陸相等ノ会见ヲ行ヒ其ノ間休養ノ為箱根等ニ案内スルコトモ一方法

289

昭和7年6月18日

在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

スチール記者の馬占山との会見文書に関する
満州国側の検閲にニューヨーク・タイムズの
アベンド抗議申入れについて

上海 6月18日後発
本省 6月18日後着

第九七〇号(暗)

本官発哈爾賓宛電報

第三号

大臣宛貴電第六〇五号ニ関シ

「アベンド」本十八日本官ヲ来訪シ大ニ昂憤セル態度ニテ紐育「タイムズ」特派員「スティール」ハ全ク新聞種ノ為ニ危険ヲ冒シテ馬ニ会见シ馬ノ軍隊ノ実状及伝ヘラルルカ如キ露国軍隊トノ連絡関係ノ有無等調査ヲ為シタルニ止マリ馬ノ間諜トナリ其ノ秘密文書ヲ公表セントシツツアルカ如キ事実全然無キニ拘ラス今般蒐集セル「ニュース」材料ヲ満州国官憲ニ依リテ検閲セラレタルカ同人ハ曩ニ「ア」ヨリ本庄司令官及大橋次長ニモ紹介セルコトアリ何等日本

カトモ思考セラルルモ右ニテモ尚日数ニ余裕ヲ生スルヲ以テ前記ノ事情御考量ノ上何分ノ儀大至急御回電相成度シ

288

昭和7年6月18日

在ジュネーヴ松平軍縮全權より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント記者の馬占山との会見に関する署名記事について

ジュネーヴ 6月18日後発
本省 6月19日前着

軍第一二六号

十八日「ジュネーヴ」ハ「リント」署名十七日付来電ヲ記載セルカ要旨左ノ如シ

十六日午後日本官憲ハ予カ馬占山及張学良並「リットン」委員会ト関係アル廉ニ依リ逮捕セラルヘキ旨ヲ通報シ来リタルカ間モ無ク六時間ニ亘ル訊問ヲ受ケ午前二時ニ至リ釈放セラレタリ他方予ノ居室ハ予ノ不在中仏国領事ノ立会無ク捜査セラレタルカ馬占山トノ会见ハ満州国ニ対スル侮辱ヲ構成スト云フニアリ云々
哈爾賓ヘ転電セリ

ニ対シ惡意ヲ有スルコト無キ人物ナレハ満州国側ニ於テ同人ヲ信頼シテ同人ニ対スル態度ヲ緩和セラレ度シト申述ヘタリ

右ニ対シ本官ヨリハ右ハ満州国内ノ出来事ニモアリ何等関知セサルカ(態ト斯克言ヘリ)予メ満州国側ノ了解モ取付ケス疑問ノ人物ト会见シ支那文ノ記録等迄持参セルコトハ疑ヲ招ク原因タリシモノト思ハル「ス」ニ於テ斯ノ如キ行動ヲ慎ム以上問題無カルヘシトノ趣旨ヲ談シ置ケリ
齊々哈爾、武市ヘ転電アリ度シ

大臣、連盟、北平、奉天ヘ転電セリ

本電冒頭貴電ト共ニ米、紐育ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

290

昭和7年6月18日

在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

アベンドよりスチール記者の保護方依頼について

上海 6月18日後発
本省 6月18日後着

第九七一号(暗)

本官発哈爾賓宛電報

第四号
往電第三号ニ関シ
(二八九文書)

「ア」再ヒ本官ヲ来訪シ(脱?) 辞退後「ス」ヨリ到着セル電報ニ依レハ事態ハ更ニ悪化セル模様ニテ満州国側ニ於テ一旦検閲シタル「ニュース」材料ヲ「ス」ニ返還セス其儘取上ケントシ居リ又哈市日本新聞ハ米國領事館カ「ス」ヲ庇護シタリトテ之ヲ攻撃シ且「ス」ハ反滿州国的新聞記事ヲ用意シ居リテ間諜タル疑アリ退去ヲ命セラルルニ至ルヘシトノ記事ヲ掲ケタリ

斯ノ如キ記事ニ依リテ刺激セラレタル日本人ハ或ハ「ス」ニ危害ヲ加フルニ至ルヤモ知レス憂慮ニ堪ヘスト述ヘ本官ニ援助ヲ求メタルヲ以テ日本人カ「ス」ニ危害ヲ加フルカ如キコト有リ得スト思フモ為念貴官ニ何等依頼スヘシト話シ置ケリ其際「ア」ハ本件報道カ紐育ノ新聞ニ載セラルルニ於テハ大ナル「センセイション」ヲ起スヘシト述ヘ居タリ為念

前(電)ノ通り転電アリタシ

答ヘタリ

尚本使ノ問ニ対シ「ハ」ハ顧維鈞行カサル場合ニ於テ支那側隨員数名日本ニ同行スルヤ其辺ノ事ハ今考ヘ居ラスト答ヘタリ貴電(二)ニ関シテハ「ハ」ハ委員長ハ日本政府力ヲ正式ニ申入ルル意味ナラハ顧維鈞ニ交渉スルニ先立チ日本政府カ如何ナル文句ニ故障ヲ言ハルル次第ナルカヲ承知シタシトノ事ナリシニ付我申入ハ非公式又ハ「プライベートル」トモ云フヘキナリ、本使ノ指摘シ得可キ文句ハ多々アルモ日本政府ノ不都合トセル文句ニ就テハ東京ヘ問合ササルヘカラス然シナカラ此ノ点ニ付一々委員長カ承知セントスルナラハ日本政府ハ如何ナル「インプレッション」ヲ得ルカヲ知ラス我方ニシテ別ニ顧維鈞ノ言ヲ取消サシムル趣意ニ非サレハ日本政府ノ反対セル文句ヲ知ラストモ委員長ヨリ将来ニ対シ顧ニ注意ヲ与ヘ得ル事ト信スト述ヘシニ「ハ」ハ承諾ノ上右「リットン」ニ通報スヘシト述ヘタリ就テハ本電ノ内容外間ニ洩レサル様御配慮ヲ請フ支、奉天、長春、連盟ヘ転電セリ

292 昭和7年6月18日

在ハルビン長岡総領事代理より
斎藤外務大臣宛(電報)

291 昭和7年6月18日

※在北平矢野参事官より
斎藤外務大臣宛(電報)

顧維鈞の言動制御方連盟調査委員側に注意喚起について

北平 6月18日後発
本省 6月18日後着

第三〇〇号(暗、至急、極秘)
吉田ヨリ

第二三二号

北平宛貴電第一一三三号ニ関シ
(二七八文書)

十七日「ハース」ニ対シ御訓令ノ趣旨申入レ置キタル処十八日同人委員長ノ命ヲ受ケテ来訪

貴電(一)ニ関シ「ハ」ハ「リットン」ハ之ヲ委員会ニ諮リシ事無キモ本使ノ申入ニシテ「プライベートル」ナラハ自分ハ顧ヲシテ日本行ヲ断念セシムル事ヲ努ムヘキモ日本ニシテ此ノ申入ヲ公表セラルルニ於テハ本件何トモ致シ様無シトノ事ナリト語リシニ付本使ハ本件ハ政府ヨリ「ハ」ニ懇談ヲスル様トノ事ナリシニ顧ミ(貴電第三二二号)正式ノ申入ニ非スト思考スルモ為念此ノ事ヲ政府ニ電報シ置ク可シト
(二五六文書)

スチール、リントの馬占山との会見文書に關し満州国側の米國総領事への抗議について

ハルビン 6月18日後発
本省 6月18日後着

第六二〇号(暗)

往電第六一六号ニ関シ
(二八二文書)

哈爾濱勤務トナリ当地ニ滞在中ナル外交部杉原ノ内報ニ依レハ同人ハ特警管理署側ト打合セノ上昨十七日朝米國總領事ヲ往訪シ往電第六一二号馬占山發万福麟宛電報ノ事実ヲ挙ケ「スチール」及「リント」カ彼等ノ馬占山訪問ハ連盟調査委員ト無關係ナルコトヲ完全ニ立証シ得サルニ於テハ満州側トシテハ何等カノ手段ヲ執ルニ至ルヤモ測ラレス就テハ「ス」等ヲシテ右立証ヲ為サシムル様取計方助力ヲ得度シト申入レタルニ總領事ハ自分ニ於テ其無關係ヲ玆ニ声明スヘク夫ニテ充分ナラスヤ或ハ更ニ連盟委員側ニ電報ニテ問合スモ可ナリト答ヘタルヲ以テ杉原ハ「ス」等カ馬占山ヨリ受取り来レル書類(馬占山トノ会見録馬發調查員宛陳情書及宛名ナキ馬ヨリノ陳情書等支那文書類三種ニシテ右ハ十六日夜ニ至リ「ス」「リ」兩人ヨリ特警署ハ木顧問

ニ提出シタリト言フ)ノ英訳方米國總領事館ニ於テ引受ケタルハ不都合ナリト難詰シタルニ總領事ハ翻訳方依頼ハアリタルモ事務多忙ヲ口実トシテ拒絶シタリト称シタル由ナリ
冒頭往電ノ通転電セリ

293 昭和7年6月18日 在長春田中領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチールの馬占山との会見資料報道
に關し滿州國側の抗議について

長春 6月18日後発
本省 6月18日後着

第三二八号(暗)

哈爾濱發閣下宛電報第六一六号ニ関シ
(二八二文書)

大橋ノ内話ニ依レハ滿州國ハ「リント」等カ馬占山ヨリ得タル資料ヲ報道シ或ハ連盟委員ニ交付スルカ如キ行為ハ看過シ能ハサル所ナルニ依リ之等資料ハ全部滿州國ニ提供セシメ又之ニ関スル新聞報道ヲ為ササル様大橋ヨリ哈爾濱米國總領事ニ嚴重申入レ本件ヲ急速ニ解決セント考ヘ居ル趣ナリ御参考迄

第一二二号 暗、極秘

連盟調査員本邦再来日取ノ件

吉田大使へ第三八号

貴電第二三二二号ニ関シ
(二八七文書)

内田伯ハ七月五日帰京ノコトナリタルニ付調査団ハ予定通り北平ヲ出發シ二十六日頃本邦着ノ上初メノ十日間ヲ關西及箱根ノ遊覽ニ費シ七月六日頃入京スルコト致度(尤モ都合ニ依リ右遊覽期間ヲ短縮シ内田伯帰京ヨリモ二、三日前ニ入京シ居ルコトスルモ可ナルヘシ)尚ホ調査団ノ東京滞在期間ヲ十日以上トスルコト(貴電第二二七号末尾)差支ナシ就テハ右ノ趣旨ニ依リ「ハース」ニ回答ノ上本邦ニ於ケル警備ノ手配等ノ關係モアルニ付旅程確定セハ直ニ電報アリ度

296 昭和7年6月20日 在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者問題に關する新聞記事について

上海 6月20日後発
本省 6月20日後着

奉天、哈爾濱へ転電セリ

294 昭和7年6月18日 齋藤外務大臣より
在北平矢野参事官宛(電報)

顧維鈞の渡日問題について

本省 6月18日後8時20分発

第一二一号 暗、至急

顧維鈞渡日問題

議會ニ於ケル滿州承認問題決議ノ経緯ノ引続キトシテ調査団本邦滞在中承認促進国民大会開催ヲ計画スル向アリ而シテ右大会ノ際ニハ顧維鈞渡来ノ件モ問題トセラルル虞アル次第ナル処(右様場合顧維鈞身辺ニ付危惧セラルル次第御含迄)

北平宛往電第一一三号顧渡日問題其後ノ成行折返回電アリ
(二七八文書)

タシ

295 昭和7年6月18日 齋藤外務大臣より
※在北平矢野参事官宛(電報)

連盟調査委員一行の渡日日程について

本省 6月18日後8時30分発

第九七九号

本官發奉天宛電報
(哈爾濱カ)

第六号

二十日ノ当地新聞ハ哈爾濱ニ於ケル「ステイル」及「リント」事件ノ大要ヲ掲記シ(右ハ「アペンド」ヨリ出テタルコト確實ト認メラル)其ノ最後ニ「ア」カ本官ニ十九日抗議セリト付記シアリタルヲ以テ「ア」ニ対シ滿州國ニ起リタル事件ニ付テ我方ニ於テ抗議ヲ受クヘキ筋合ニ非ス本官ハ昨日ノ談合ハ単ニ友人トシテノ意見ヲ交換セルモノト了解ストノ趣旨(ヲ)伝ヘ置ケリ
前電ノ通転電セリ

297 昭和7年6月20日 在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者問題に關するニュー
ヨーク・タイムズの抗議について

上海 6月20日後発
本省 6月20日後着

第九八一号(暗)
本官發哈爾濱宛電報

第七号
往電^(二九六文書)第六号ニ関シ

「アベンド」ヨリ更ニ本二十五日付書面ヲ以テ十九日本官ニ対スル申入ハ紐育「タイムス」ノ正式ノ抗議ナリ滿州国官憲ニ対スルモノハ大橋次長ニ申入済ニシテ本官ニ対スルモノハ滿州ニアル日本軍隊ノ不当措置ニ関スルモノナリ米國ハ滿州国ヲ承認シ居ラス從テ滿州ニ於テ米國人ノ治外法權ハ尊重セラレサル可カラストノ趣旨申入レ来レリ右ニ対シテハ「ア」ノ「エクセントリック」ナル性格ヲ刺激シ愚ニモ付カヌ宣伝等ヲ行ハルコト無キヲ保シ難シト考ヘ「ア」ノ申出ノ次第ハ哈爾賓ニ通報シアリ何レ事情詳細報告シ来ルモノト思ハルト伝フルニ止メ正式ノ抗議ナラハ外交上ノ手續ニ依ルヘントノ趣旨等返答スルコトヲ避ケタルカタ刻更ニ電話ヲ以テ本日北平ニ於テ「リットン」「ステイル」等ヲ使用シタルコト無シト「ステートメント」ヲ發シタル旨電報アリタリト報シ次テ右「ステートメント」ノ前文ニ「ス」カ調査団ノ手先ナリトナスハ日本側ノ作リ事ナリトノ趣旨ヲ付言セル私信ヲ送り来レリ
前電通り転電セリ

298 昭和7年6月20日 在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者問題解決に關シスイ
ス総領事の斡旋について

上海 6月20日後発
本省 6月21日前着

第九八二号(暗)
哈爾賓宛往電^(二九七文書)第七号ニ関シ

二十日夕刻瑞西總領事本官ヲ来訪シ「アベンド」ト協議ノ結果カト思ハル)本國政府ヨリハ何等訓令(請訓ニ対シ)ニ接セサルモ出来ルナラハ本件ヲ速ニ外交手段等ニ訴フルコト無ク解決シ度キ意向ヲ以テ(書キ物ヲ持参セサルハ之カ為ナリト説明セリ)来訪セリト前提シ「リント」カ瑞西有数ノ記者ニシテ其通信ハ同國ニテ歡迎セラレ居ル処ナルカ同人カ特種ヲ得ントシテ危地ニ(馬賊ノ略奪ニ遭ヘル由)赴キタルハ単ニ新聞記者トシテノ任務ヲ果サンコト以外ニ他意無キモノナルニ不拘之ヲ召喚及訊問シ且同人ノ弁明ニ耳ヲ藉スコト無ク家宅ヲ搜索シテ其新聞材料ヲ沒收シタルハ仏國領事ノ治外法權の保護下ニ在ル瑞西人ニ不当

299 昭和7年6月20日 在上海守屋書記官より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者に關する取調べ振り
実狀問合せについて

上海 6月20日後発
本省 6月20日後着

第九八三号(暗)

本官發哈爾賓宛電報

第八号

往電^(二九七文書)第七号及大臣宛往電^(二九八文書)第九八二号ニ関シ

紐育「タイムス」側及瑞西總領事ニ応酬スル上ニ於テ必要ナルニ付「リ」及「ス」ニ対スル召喚尋問及家宅捜査ノ実情並仏國領事其他ヨリノ協議ノ顛末(從來ノ電報ニテ明カナラサル処アリ)ト共ニ本件其後ノ成行「リ」ノ蒐集セル新聞材料ヲ返還スルコトヲ得サルモノナリヤ否ヤニ関スル觀察ヲモ含ム)至急御回電アリタジ
前電ノ通転電セリ

連盟、米、紐育、哈爾賓、長春、奉天、北平へ転電セリ
(置キタリ)

300 昭和7年6月20日 在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

連盟調査委員等の入京期日および経路について

北平 6月20日後発
本省 6月21日後着

第三〇五号 (暗、極秘)

吉田ヨリ

第二三八号

貴電第三八号ニ関シ
(二九五文書)

十九日午後「ハース」ニ対シ日本政府ニ於テハ委員カ七月六日(又ハ二、三日前)頃入京スル事ヲ好都合ト考ヘ居ル趣ニテ右ハ專任外相就任ノ事ヲ考慮ニ入レ居ルモノト推測セラル(貴電第三四号(一)内田伯外相内定ノ議ハ連盟委員側随員等多数ノコトニテモアリ機密漏洩ヲ絶対ニ防止スル事保障シ難キニ付内話スル事ハ避ケタリ御承知ヲ請フ)ト述ヘ貴電第三八号入京前遊覧旅行ノ件ヲ申入レタル処「ハ」ハ日本政府ノ御都合右ノ如クナラハ青島經由ニテ急キ渡日ノ要モ無カルヘク又入京前十日間モ遊覧ニ日時ヲ費ス事ハ六ケ數カルヘキヲ以テ或ハ満鮮經由トスル方可ナラスヤトモ考ヘラル何レ委員長ニ相談ノ上御返事スヘシト述ヘタリ

事項3 リットン調査団の動向

(欠)ナリ「ス」ハ単ニ新聞種ヲ得シカ為ニ馬ト会見セルモノニテ右委員ト何等關係無シ自分ハ調査委員ニ対シ右兩者間何等關係無カリシ旨(欠)ヲ発スル様電報シタリト通告シ来レル由

二、満州国側ニテハ往電第六一六号關係支那文書類ヲ押取シ且其ノ内容ヲ絶対ニ發表セシメサル条件ニテ本件ヲ解決スル為本二十日午前施履本、米仏領事ヲ往訪セル処米國總領事ハ早速之ヲ承諾セルモ仏國領事ハ廿四時間ノ猶豫ヲ得度シト答ヘタル趣ナリ

三、閣下宛軍縮全權發往電第一二六号ニ関シ右ハ十六日特務機關百武中佐ヨリ「リ」ニ対シ本件ハ目下満州国側ニ於テ嚴重手段ヲ講スヘク攻究中ナリトノコトナルカ自分(百武)カ各方面ヨリノ照会モアリシニ依リ貴下(「リ」)ニ便宜供与シ居タル關係上總テ自分(百武)ニ告白スルニ於テハ何等カノ斡旋ヲ為スヘキ旨好意的ニ忠告セルニ過キサル趣ニテ本件ニ関シテハ當館ハ勿論軍部ニ於テモ何等表面的ニ「タッチ」シ居ラス為念

本省ヨリ在米大使、紐育ニ転電アリ度シ
瑞西ヨリ連盟ニ転電アリ度シ

依ツテ塩崎ヨリ満鮮經由トセハ顧維鈞問題ヲ如何ニスルヤト問ヒタルニ未タ確定セサルモ自分ノ得タル印象ニ依レハ彼ハ行カサルヘシ尤モ支那側隨員王広圻等數名ノ旅行ニ対シテハ満州国モ別段異議無カルヘシト語レリ旅程確定ノ上ハ電報スヘキモ右不取敢
(二八五文書)

301 昭和7年6月20日 在ハルビン長岡總領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者問題と特務機關百武
中佐との關係について

ハルビン 6月20日後発
本省 6月20日後着

第六二四号(暗)
往電第六二〇号ニ関シ
(二九二文書)

一、米國總領事「ハンソン」ハ交渉署長施履本宛十七日付公文ヲ以テ本件嫌疑ハ連盟調査委員並「ス」ニ対スル

支、北平、奉天、長春、齊々哈爾、瑞西ヘ転電セリ

302 昭和7年6月20日 在ハルビン長岡總領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者問題と米國宣教師との關係について

ハルビン 6月20日後発
本省 6月20日後着

第六二六号(暗)
十八日付東京電通ハ当地在住米國宣教師(欠)ハ「スチール」ノ依頼ニ依リ「ス」等カ馬占山ヨリ得タル書類ヲ連盟委員ニ伝達スヘク当地ヲ出發シタリト報シ居レル由「レ」ハ約一週間前至急大連經由芝罘ニ赴キタキモ旅券ハ目下山東ニ在ル同人妻所持シ居ル趣ヲ以テ當館ヨリ無旅券旅行ノ証明ヲ得度キ旨願出テアリタルカ連盟調査委員当地滞在中同人宅ニ於テ馬占山ノ代表者ト「マッコイ」ト会見セル旨相當信スヘキ情報アリ(「ハンソン」カ本日滝川ニ「レ」ハ馬占山ト知合ヒノ間柄ニアル支那人ト会見セル趣ナリシヲ以テ斯ル行為ハ誤解ヲ招キ易キ故差控フル方可ナルヘシト申付ケ置キタル旨漏シタルニモ鑑ミ右ハ事実ナルヘシ)旁

右願出ヲ一応拒絶シタルモ其後米国総領事ヨリ公文ニ依ル
依頼アリシヲ以テ右証明書ヲ与フル一方途中満州国官憲ヲ
シテ取調ヘシムル手配ニ付軍側ト打合せ置キタルモ同人出
発ノ前日「リント」取調事件アリ「レ」ハ出発ヲ見合セタ
ル模様ナリ
支、北平、奉天、長春へ転電セリ

303 昭和7年6月21日 在米出淵大使より
齋藤外務大臣宛(電報)

中国政府の満州問題処理に関するニューヨー

ク・タイムズの記事について

ワシントン 6月21日後発
本 省 6月22日前着

第三五九号

二十日上海発紐育「タイムズ」「アペンダ」通信ニ拠レハ
南京政府ハ日本カ満州国ヲ承認スル前ニ満州国ノ地位ヲ決
定スル目的ノ下ニ日支両国間ニ直接交渉ヲ開始スル様連盟
調査委員ノ斡旋ヲ依頼シタルカ右ノ目的ノ為ニ汪精衛、顧
維鈞及羅文幹等政府ノ主要人物ハ表向ハ南京行ト称シ實際
ハ北平ニ向ケ飛行機ニテ上海ヲ出発セリ支那側ノ申出ハ(一)

日本軍ヲ満州へ移シタルハ事態ヲ悪化スルモノナリト強
調セリ依テ余ハ満州へノ増兵ハ認メラレタルモノナル事
ヲ席上紙片ニ認メ「リットン」ニ内示セシカ「リ」ハ右
ハ否認モ拒絶モセラレシモノニアラスト書返セリ

本使、日本カ其ノ軍ヲ本国ヨリ派スルトモ上海ヨリスルト
モ我カ随意ニシテ支那ハ故障ヲ言フ地位ニ在ラス

「ク」、然リ右ハ単ニ支那ノ口実ニ過キス一体土匪ト其他ト
ノ區別ハ付カサルモノナリ

彼等ハ明白ニ言ハサリシモ日本カ上海軍ヲ満州ニ移セハ
南京政府ハ国民運動タル「ボイコット」ヲ制止スル能ハ
ストノ意ヲ仄メカシタルニ付余ハ地方ニ依リテハ排日ノ
事実無シ之ニ依レハ「ボイコット」ヲ以テスル運動ト云
フ可カラサル旨ヲ述ヘ天津山東ノ事例ヲ暗示シタルニ彼
等ハ困リシ模様ナリキ

本使、上海ニテハ余ハ交通部ノ排日ノ命令書ヲ委員ニ提示
シタリ

「ク」、然リ委員ハ此ノ書ヲ南京政府ニ提示シタルニ彼等ハ
参リタリ

本使、尚他ニ奉天ニテ中央政府カ排日運動ヲ命シタル密令

溥儀政府ノ代リニ支那国旗ヲ掲揚スル満州自治国ヲ建設シ
東京、南京両政府ノ承認ヲ得タル支那人官吏ヲ採用スルコ
ト(二)支那側ハ二十一箇条要求ヲ含ム日本ノ各種ノ条約上ノ
権利ヲ承認保障スルコトナルカスノ如キ支那側申出ノ動機
ハ連盟調査委員ノ報告カ余リ支那側ニ有利ニアラサル模様
ナルノミナラス南京政府カ内政改善ノ為全力ヲ注ギ得ル為
ニハ先ツ満州問題ヲ解決スルコト必要ナリト南京側要人ニ
於テ観測シ居レルニ依ルモノナリトノコトナルカ右通信ハ
相当注意ヲ惹キ居レリ

304 昭和7年6月21日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州国に関するクロウデルの内談について

北平 6月21日前発
本省 6月21日前着

第三一一号(暗、極秘)

吉田ヨリ

第二四一号

二十日「クロウデル」將軍ノ内談左ノ通

「ク」、南京政府ノ閣僚ハ十九日我々トノ会見ニ於テ上海ノ

ヲ委員ニ提示シタリ(トテ張景惠受領ノ文書ニ付語り置
キタリ)噂ニ依レハ委員側カ書記局カ満州ニテ個人又ハ
団体ヨリ受領シタル書面ヲ計算比較シテ人民一般カ満州
国ニ賛成ナルヤ否ヤヲ知ラントシ居ルトノ事ナルカ

「ク」、否然ラス委員長ハ満州人ハ日本人カ勢力ヲ及ホセル
満州国ヲ好マス軍閥ノ帰来ヲ喜ハス南京政府モ好マス又
国民党ヲモ嫌ヘリト考ヘ居レリ乍然日本人カ新国家ヲ助
クルハ当然ナリ

本使、満州国ハ成立シタル許リナレハ「パナマ」其ノ他ノ
例ノ通外国ノ援助ヲ要スルハ勿論ナリ

「ク」、然リ仏国ハ同様ノ問題ニ付テハ遠ク慮リ万全ノ策ヲ
講シタリ兎ニ角満州ニテハ自治ヲ行ヒ漸次ニ支那ノ主權
ヲ脱スル事トセハ如何

本使、満州国ノ成立ニハ我政府ハ何等關係ナシ日本ハ早晚
同国ヲ承認スヘント思フ

「ク」、支那ハ一、前記派兵二、帝國議會ノ満州承認議決ニ
対シ怒リ居リ兎ニ角主權ニ付テハ最も熱心ト見受ケタリ
南京ニテハ彼等ノ態度總和トナリシニ北平ニテハ強カリ
居レリ之ハ支那ノ常套手段ニシテ多分「ブラフ」ナラン

支、奉天、長春、南京へ転電セリ

305 昭和7年6月21日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

調査委員入京期日および顧維鈞の渡日問題について

北平 6月21日後発
本省 6月21日後着

第三一四号(暗)

吉田ヨリ

第二四四号

廿一日委員会開催、本使ノ出席ヲ求ム

一、委員入京ノ件ニ関シ委員長ヨリ日本政府ニ於テ委員入京ノ時日延期方ヲ希望セラルル事情ヲ質問セルニ付往電^(三〇〇文書)第二三八号前段ノ趣旨ヲ敷衍説明シタルニ入京ノ途次觀光ニ時日ヲ費ス余裕無キヲ以テ或ハ直ニ当地ニテ報告ノ起草ニ取掛カル様事務ノ変更ヲ為ス必要アリトモ思考シ居ル処(一)日本政府ニ於テ来月六日頃ニ入京ヲ希望セラルル事情ヲ的確ニ知リタク(二)右期日ヨリ数日前ニ着京シ總理大臣等ト会谈ヲ始ムルコト出来間敷キヤ日本政府ノ意

見ヲ問合サレタシト申出テタリ就テハ(一)ノ点至急御回電相成度シ尚(一)ノ点ニ付テハ極秘ノ含ミトシテ内田伯外相内定ノコトヲ(二)ト同時ニ内話スル心算ナリ

二、顧維鈞渡日ノ件ニ関シ委員長ハ自分ハ顧維鈞ニ対シ同氏ノ渡日ニ対シ日本ニ於テ反対スル旨ヲ語リタルニ顧ハ日本ニ於テ acceptable ナラサルニ於テハ渡日セサルヘシト述ヘタルカ日本政府カ此入国ニ反対セラルル理由如何ト聞キタルニ付北平宛電第一^(二七八文書)一三三号前段ニヨリ説明ヲ加ヘ置キタリ

306 昭和7年6月21日 在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者問題に関する満州国側の措置について

ハルビン 6月21日後発
本省 6月21日後着

第六三二号(暗)

在支代理公使発閣下宛電報第九八四号ニ関シ

「リ」及「ス」ニ対スル満州国側ノ処置ハ将来満州国内ニ於ケル外国人ノ反満州国の策動ヲ防止セントスル趣旨ニ出

テタルモノノ如ク假令連盟調査委員ト無関係ナリトスルモ

(代理公使発本官宛電報第七号調査委員ノ声明ハ本官発閣下宛往電第六^(三〇一文書)二四号第一項当地米国総領事ノ請求ニ基クモノナルカ如ク之ヲ以テ必スシモ兩者ノ無関係ヲ即断スルヲ

得ス)兩人カ満州国力調査委員ニ対シテサヘ反対意思ヲ表示セル馬占山トノ会见ヲ敢テセルノミナラス(尚當時ノ奥地ノ危険状態ニ顧ミ途中ノ安全ニ付馬占山側ト事前ノ打合アリタルハ疑ノ余地無シ)調査委員宛陳情書及宛名ヲ記載セサル疑問文書ヲ持帰ヘリタルハ満州国ノ治安ヲ攪乱スル頗ル不謹慎ナル行動ナリト云フ可ク之ニ対シテ満州国側ニ於テ適當ナル手段ヲ講スルハ当然ナリ而モ「ス」ニ対シテハ直接何等ノ措置ヲ執ラス正々堂々米国総領事ニ対シ正当ナル申出ヲ為シタルモノナリ(閣下宛拙電第六^(二九二文書)二〇号及第六^(二九三文書)二四号参照)又「リ」ニ対シテハ任意出頭(出頭後「リ」ノ態度不遜ナリシ為逮捕ノ形式ニ中途変更セル由)ニ依ル取調並ニ家宅搜索ハ緊急措置トシテ為サレタルモノニシテ別段満州国側ニ不法行為アリト謂フヲ得ス尚米国総領事ニ於テモ同人等ノ行動不謹慎ナリシコトヲ認メ居レリト思ハルル節モアリ閣下宛拙電第六^(二九二文書)二〇号杉原ノ申出ニ対シテモ

同人ハ妥協的態度ヲ持シ居タル趣ナリ

然レトモ「アベント」等ノ従来ノ親日態度並ニ「リ」ノ從來ノ欧州宛情報ハ欧州人ヲシテ満州ノ正確ナル認識ヲ得シムルニ貢献セル点等ニ鑑ミ本問題ハ前記往電第六^(二九二文書)二〇号杉原ノ米仏領事ヘノ申出条件ノ「ライン」ニテ至急解決スル方適當ナリト思考セラルルモ満州国側ヨリ陳謝ノ意ヲ含メル何等カノ挨拶ヲ為スハ其必要無キノミナラス却テ将来ニ禍根ヲ遺スモノト存ス

支、北平、奉天、長春、連盟、米へ転電シ連盟ヨリ瑞西へ米ヨリ紐育へ転電アリタシ

307 昭和7年6月21日 在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者問題とハルビン総領事館との関係について

ハルビン 6月21日後発
本省 6月21日後着

第六三三号(暗)

本官発支宛電報

第三四九号

貴官発大臣宛電報第九八二二号並本官宛電報第七号ニ関シ
(二九八文書)
 瑞西総領事並「アベント」カ本件ニ関シ我方ニ対シ抗議の
 態度ニ出テントスルカ如キハ筋違モ甚シキモノニシテ当館
 並当地軍側ハ何等本件ニ「タッチ」シ居ラス右ハ当地米、
 仏領事ヨリ当館ニ対シテ何等申出アリタル事無キ事実ニ見
 ルモ明カナリ（只米國総領事「ハンソン」ヨリ瀋川宛私信
 ヲ以テ「アベント」ノ從來ノ態度ニ鑑ミ其下ニアル「スチ
 ール」カ反満若ハ反日的タル事ハアリ得ヘカラサルコトヲ
 情報トシテ特区警察顧問八木並杉原ニ伝ヘラレ度旨依頼越
 シタル事アルノミ）殊ニ「アベント」カ在満州日本軍隊ノ
 不当措置ヲ云為シ瑞西総領事カ当館警察官カ本件ニ干与セ
 リト為スカ如キハ全然事実無根ニシテ「ブラフ」ヲ以テ我
 方ヲ誣ヒントスルモノナリ（外国側トシテハ我方ト満州国
 トノ從來ノ関係並ニ本件ニ係ハリ居ル満州国人物ハ主トシ
 テ日本人系満州国官吏タル事実並未タ満州国ヲ承認シ居ラ
 サル關係上之ト直接交渉スルヲ避ケンカ為本件ヲ我方ニ結
 ヒ着ケ解釈セントスルハ必スシモ無理ナラサルモ好意的幹
 旋ヲ依頼シ来ルナラハ兎ニ角夫レ以上ノ要求ヲ為スハ正当
 ナル認識ヲ欠キ居ルモノナリ）

意出頭シ次テ十時頃仏國領事ハ本件ニ關係スルヲ欲セサ
 ルモ職責上來レルモノナリトテ立会ヒタルカ「リ」ハ任
 意出頭ナラハタ食後來ルヘシトテ不遜ノ態度アリシヲ以
 テ警察側ニテハ十時過逮捕ノ形式ニ變更セル趣ナリ尚取
 調ニ対シテハ「リ」ハ大約大臣宛拙電第六〇九号ノ内容
(二六五文書)
 ヲ陳述シ馬占山トノ会見録ハ目下米國総領事館ニ英訳依
 頼中ニテ「スチール」ノ同意アルニ於テハ明日提出スヘ
 シト回答シ午前二時取調終リタリ然ルニ翌十六日午後十
 一時頃「リ」「ス」ノ兩名任意ニ警察ニ出頭前記会見録
 ノ外往電第六二〇号支那文書類（本書類ニ付テハ「リ」
(二九二文書)
 ハ取調ノ際自白セス）ヲ八木顧問ニ提出ハ木ハ一覽ノ上
 之ヲ兩名ニ返還セリ
 二、右取調中証拠湮滅ノ虞アリシニ依リ緊急措置トシテ警
 察側ハ三名ノ露人警官ヲ「モデルン、ホテル」ニ派シ
 「ホテル」主人立会ノ上三、四〇分ニ亘リ家宅搜索ヲ為
 シ通信文等ヲ押収セリ
 三、「ス」ニ対シテハ警察側ニ於テ何等訊問其他ノ直接手
 段ヲ講シタルコトナシ
 四、仏領事ヨリ協議ノ顛末並本件ノ成行別電ス

尚「リント」ハ瑞西公使ヨリ当館ヘノ紹介アリ又軍縮全權
 松井中将ヨリノ当地特務機関紹介アリシニ依リ從軍其他
 ニ付我方ヨリ種々便宜ヲ供与シ居リタルモノニシテ満州国
 側ノ同人取調直前百武中佐ヨリ若シ誤解アルニ於テハ滿州
 國側ニ対シ出来得ル限りノ幹旋ヲ為スヘキヲ以テ同人ニ事
 實陳述方ヲ好意的ニ忠告セルヲ「リ」ハ日本軍側カ本件ニ
 付滿州國側ヲ「リード」シ居ルカ如ク誤解セルヤニ思ハル
 ルニ付此点特ニ瑞西總領事ニ対シ御説示願度シ
 大臣、北平、奉天、長春、連盟、米ヘ転電セリ
 連盟ヨリ瑞西ヘ転電アリタク、米ヨリ紐育ヘ転電アリタシ

308 昭和7年6月21日 在ハルビン長岡總領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

滿州国警察におけるリントの取調べについて

ハルビン 6月21日後発
 本 省 6月21日後着

第六三四号（暗）
 本官発支宛電報第三五〇号
(二九八文書)
 貴電第八号ニ関シ

一、十五日午後八時頃「リ」ハ特区警察ノ申入レニ依リ任

前電ノ通転電セリ

連盟ヨリ瑞西ヘ、米ヨリ紐育ヘ転電アリタシ

309 昭和7年6月21日 在ハルビン長岡總領事代理より
齋藤外務大臣宛（電報）

リント、スチール問題解決に関する米仏領事
 の斡旋条件について

ハルビン 6月21日後発
 本 省 6月22日前着

第六三五号

代理公使宛往電第三五〇号ノ四ニ関シ
(三〇一八文書)

大臣宛拙電第六二四号二十四時間ノ猶予ヲ求メタル仏國領
 事ハ本二十一日午前交渉署ヲ来訪シ本件ヲ左記条件即チ

一、書類ハ二週間ノ期間ヲ以テ滿州國側ニ提供ス

二、右期間後ハ返還スヘキモ兩通信員ハ何レノ政府ニモ之
 レヲ絶対ニ交付セサル事ヲ約ス但シ必要ノ場合ハ其ノ内
 容ヲ漠然ト発表スル事アルヘシ

三、家宅搜索ノ押収品ハ返還スヘシ

四、滿州國側ハ「リント」ニ陳謝スヘシ

五、本件解決ノ上兩名ハ調査員ト關係アルヤノ嫌疑ハ晴レ

タル旨発表スベシ

ニテ解決シ度シト申出テタルカ交渉側ハ過般申出ノ要求ハ中央ノ訓令ニ基ク最少限度ノモノニシテ一步モ譲リ得ス且米國總領事ハ既ニ右要求ヲ承諾シ居ルニ貴方ノミ自説ヲ固持スル理由ナシト指摘ノ上強硬ナル態度ヲ持セルニ對シ仏國領事ハ一応「リ」及米國總領事トモ相談ノ上何分ノ回答スヘシト辭去間モナク滿州國側要求ハ之ヲ容認シ書類ハ明二十二日当局ニ提出スヘキ旨電話ニテ回答シ來レル趣ナリ

尚滿州國側ニ於テハ押収品ハ解決条件トハ別ニ用済ミニ付必要ナキモノトシテ明日之ヲ返還シ一方連盟調査委員トノ關係ノ確証ハアリタルモ米仏領事ノ友誼的斡旋ニ依リ当方ノ要求ヲ容レ解決セル旨「インタービュー」ノ形式ニ於テ警察ヲシテ発表セシムル管

往電第六三二二號ノ通電セリ
(三〇六文書)

連盟ヨリ瑞西ヘ米ヨリ紐育ヘ転電アリ度シ

310 昭和7年6月21日 在長春田中總領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者に対する滿州國側の

内話について

北平 6月22日後発
本省 6月23日前着

第三二二號(暗)

⁽¹⁾吉田ヨリ

第二四五號

廿二日「マッコイ」来訪内話要旨左ノ通

一、委員会ハ日本ノ滿州承認問題ニ付テモ討議セシカ右ハ日本政府カ其ノ政策上決定ス可キモノニシテ實ハ委員會ノ容喙シ得ル問題ニ非ス何レ我々ハ東京ニテ政府当局ヨリ聞ク事トナル可キ処委員會ヨリ寿府ニ報告提出前承認ノ事アリ得可シト思ヒタル委員アリ

之レニ對シ余ハ日本政府ハ非常ニ礼儀ニ厚キニ付斯カル事万無カラシ免ニ角此ノ事ヲ余ハ吉田ニ告ケント提議シ議長ノ承認ヲ得タリ就テハ我々ハ希望ヲ述ヘルニ非サルモ委員カ a fine frame of mind ニ於テ報告ヲ作成シ居ル最中ニ滿州承認既成事実トナリ之ニ直面セサル可カラサル事トナリテハ困ル可シ

二、委員會ニテ支那カ滿州ニテ其ノ權力ヲ再ヒ樹立シタル

措置について

長春 6月21日後発
本省 6月21日後着

第三四一號(暗)

本官發支宛電報第四號

哈爾賓宛貴電第八號ニ関シ
(二九九文書)

廿一日大橋ノ内話ニ依レハ「リ」及「ス」ノ処置ニ関シ滿州國政府ハ在哈爾賓米總領事及仏領事ニ對シ兩名ノ蒐集シタル材料ヲ全部滿州國側ニ提供シ今後此レニ関スル新聞報道ヲナサシメサル様保証スヘキコトヲ要求シ若シ肯カサレハ兩人ニ退去ヲ命スル等相当措置ニ出ツル方針ヲ決定シ二十日施履本特派員ヨリ兩國領事ニ申入レタル処米總領事ハ之レヲ快諾シ仏領事ハ二十四時間ノ猶予ヲ得度キ旨申出テ本件ハ円滿解決ノ見込アル旨二十一日施履本ヨリ報告アリタル趣ナリ御参考迄

外務大臣、北平、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

311 昭和7年6月22日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

日本の滿州國承認問題等に関するマッコイの

時同國カ如何ナル措置ヲ採ラントスルカ又同地方ニ於ケル新事態ノ發生ヲ如何ニ見ルカニ付南京閣僚ヨリ意見ノ開示アリタリ⁽²⁾「マ」ハ之以上語ラス依テ本使ハ汪兆銘、沈亜細亞司長等ノ南京ニテ本使ニ為シタル内話ノ要点ヲ語リ high commissioner 案ハ新國家成立前ニハ考慮ノ余地或ハアリシナランモ今日ニアリテハ不可能ナル旨答ヘタル旨ヲ語リタルニ之ニ對シテモ「マ」ハ批評セス

三、自分カ先年「ウッド」比律賓總督ニ随伴シテ故田中大將ト面談シタルニ「グアム」島要塞問題ヨリ台灣防備ニ及ヒ大將ハ日米兩國人トモ reasonable ニ付衝突ノ惧無キヲ説キ轉シテ滿州問題ニ入リタル時大將ハ同地方ニ関スル日本人ノ利害關係ニ関シテハ米人ハ誤解シ居レリトテ國防其ノ他ノ關係ヨリ日本ハ早晚直接行動ニ出ツルノ要有ル可キヲ語リ其ノ場合ニ米國ニ「ショック」トナラサル様種々説明セリ本庄司令官ハ其ノ最後ノ会見ニ於テ意見ヲ述ヘラレタルカ奇妙ニモ殆ント同意見ニテ余ハ興味ヲ以テ聴キタリ

支、奉天、長春、連盟ヘ転電セリ

312

昭和7年6月22日

※在平矢野参事官宛（電報）
齋藤外務大臣より

連盟調査委員一行の渡日日期および経路につ

いて

本省 6月22日後7時発

第一二八号 暗、極秘

連盟調査員本邦再渡来ニ関スル件

吉田大使へ第四二二号

貴電第二四四号ノ一ノ(二)ニ関シ
(二〇五文書)

内田伯ハ出来得ル限リ速ニ帰京ノ筈ニテ或ハ七月五日前着
京ノコトトナルヤモ知レサル一方調査団カ専任外相トノ会
見前首相等トノ会談ヲ始ムルコトハ差支ナキニ付七月六日
ヨリ数日前入京方異存ナシ(尚ホ調査団ハ内田伯ト同行シ
テ渡来スル希望ヲ有シ居ルヤニモ聞キ及ヒ居ル処右ハ面白
カラサルニ付同伯ニ於テ之ヲ避ケラルル様致度思考シ居ル
次第ナリ就テハ調査団ノ来路ヲ出来得レハ青島經由トセハ
好都合ト存ス)

313

昭和7年6月23日

※在ジュネーブ松平駐英大使より
齋藤外務大臣宛（電報）

リント記者の取扱いに関し意見具申について

ジュネーブ 6月23日後発

本 省 6月24日前着

第二号（暗）

(二八八文書)

往電軍第一二六号ニ関シ

(七太郎、在スイス国公使)
矢田ヨリ

二十三日寺崎ヲシテ「ゴルジエ」ヲ瑞西代表部ニ往訪セシ
メ全ク非公式ニ「リント」ハ渡満ニ先立ち在「ベルン」公
使館ニ出頭シ視察ニ関シ便宜供与方願ヒ出タルニ依リ矢田
公使ヨリ在満各公館ニ然ル可ク通報スルト共ニ松井全權ニ
モ軍側ニ同趣旨打電方ヲ依頼シ同人着満後我方ノ好意ニ感
謝シツツアル旨ヲ仄聞シ且同人通信モ今日迄ノ処我方ニ不
利ナラサリシニ依リ同公使ニ於テモ喜ハレ居リシ次第ナル
カ其後同人行方不明次テ同人逮捕ノ新聞記事アリシニ依リ
当該公館ニ問合セタル処前ノ場合ニハ同人馬占山ト会見ノ
為不在ナリシ事又後ノ場合ニ就テハ事滿州国内部ノ事ニ属
シ詳細ヲ知り難キモ米仏兩國領事モ斡旋中ニテ近ク解決ス
ヘキ由聞キ及ヘルニ付右矢田公使ノ命ニ依リ内報スト述ヘ
シメタルニ対シ同人ハ「リ」ハ初メ自分(「ゴ」)カ日本ニ

瑞西へ暗送セリ

314

昭和7年6月23日

※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛（電報）

連盟調査委員一行滞京中の宴会について

北平 6月23日後発

本省 6月24日前着

第三二五号（暗）

吉田ヨリ

第二四八号

貴電第四三三号「リ」ニ申入レタルニ「リ」ハ委員カ日本滞
在中上海ノ宴会日程表発表セラレシヲ以テ一英人ヨリ貴下
等ハ遊ヒニ来リシヤトノ書面ヲ受取り迷惑セリ依テ一応催
シ一切謝絶ノコトトシタルカ日本ニ到着ノ上話合ヒニ依リ
催シニ招カルコトハ差支ナキモ宴会前ニ其事公表セラレ
サルヲ希望ス孰レ二十四日ノ委員会ニテ協議ノ上御返事ス
ヘキモ秩父宮殿下御召ノ御宴ハ参列ノ光榮ヲ有スヘク外務
大臣ノ宴会モ同様ニテ此ノ二件ハ自分限リニテ今直ニ御受
ケスト答ヘタリ尚実業家其他ノ名士ニハ宴会ニ関係ナク会
談ノ機ヲ得度シトノコトナリ

滞在セシ事アルヲ聞キ相談ニ来タレルニ付、日本公使館ニ
照会スヘシト還シ其後当人ヨリ何等話無ク最近「ジュルナ
ル・ド・ジュネーブ」記事ニテ始メテ想起(シタ)ル程ニシ
テ貴方今日迄ノ御好意ノ程ハ充分了解セルニ依リ直ニ「ベ
ルン」ニ通報シ置ク可シト言ヘル趣ナリ

卑見ニ依レハ本件ノ要点ハ同人等ト馬トノ会見カ「リッ
ン」委員会ノ差金ナルヤ否ヤノ点ヨリモ寧ロ(彼等カ馬ト
ノ会見ニ於テ「リ」委員会ト了解アルカ如キ口吻ヲ弄ヒテ
馬ノ腹ヲ探ラントスルカ如キハ新聞記者ノ常套手段ナルヘ
シ)当人等ヲシテ如何ニ満州ノ実状ヲ我ニ有利ニ欧米ニ報
道セシムルカノ点ニアリト存セラルル処若シ右ニシテ成功
センカ当方ニテ種々苦心シツツアル新聞操縦ニ比シ勞セス
シテ功多キ結果ヲ得ル事トナルヘク從テ満州国側ニ於テ強
硬手段ヲ取ラサルヲ得サル事情ハ諒トセラルルモ情報材料
差押乃至箝口令ノ如キハ当人一度国外ニ出ツレハ実効ナキ
事実ニ鑑ミ寧ロ此際寛大ノ態度ヲ示シ将来深刻ナル日本嫌
ヒノ新聞記者ヲ作ルカ如キ不利ヲ避ケラルル方大局上却テ
得策ナルカト存セラル

本省ヨリ然ル可ク転電アリ度シ

315

昭和7年6月23日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)
日本の満州国承認問題その他に關しリットン
との内談について

北平 6月23日後発
本省 6月24日前着

第三二六号(暗、極秘)

吉田ヨリ

第二四九号

(三二文書)
貴電第四二号ノ趣廿三日「リットン」ニ申入レ(内田伯カ

連盟委員ト同行スヘシト語リシ新聞記事アリシモ委員側同
行ノ希望アリトノコトハ聞キシコトナシ)タルカ其ノ節内
談ノ要旨左ノ通り

「リ」、委員カ日本政府当局ト会見スルハ日本ノ目的(aims)
ニ付争フ為ニアラス該目的ヲ如何ニシテ達成スルヤヲ研究
セント欲スルナリ然ルニ日本政府カ満州国ヲ承認スルニ於
テハ支那ハ「ボイコット」ヲ行ヒ兩國間ノ平和ハ望マレス
我等ノ期スル処ハ實際的恒久平和ナリ

本使、議會ニ於ケル決議ハ全国民ノ要望ト認メラル(トテ

詳細説明ス)

「リ」、右能ク承知シ居レリ然レトモ政府ハ国际上ノ責務及
世界ノ輿論ニ合致スルヤ否ヤヲ確ムル必要アリ委員ハ連盟
ノ代表者トシテ来レルニ付此ノ点ヲ重要視ス

本使、日本カ承認セハ國際義務ニ違反スルト言ハルルカ

「リ」、現行条約ニ違背スルト思フナリ

本使、我政府ハ然カ考ヘス

「リ」、勿論ナリ、然ラサレハ日本政府ハ承認セントハ欲セ
サルヘシ我々ハ日本ニテ此ノ点ヲ政府当局ト討議スル積リ
ナリ何レカ之ヲ承服セシムルヤヲ知ラス

本使、貴下ハ時カ事件ヲ解決スルト思フカ

「リ」、時ノ經過ト共ニ好クナル見込アラハ宜シキモ左モナ
クハ不可ナリ

本使、南京閣僚ヨリ満州問題ニ付提案アリシカ

「リ」、別ニ具体案ナカリシモ支那ハ満州ニ於ケル「ジビル」、
アドミニストレイション」ノ計画ニ付語リ若シ

(イ)主權ヲ失ハス

(ロ)関稅ノ如キ問題ハ南京政府ノ直轄トスル

ナラハ満足スヘシ

本使、(南京ニテノ政府要人トノ内話ヲ説明シタル上)支
那ヨリ「ハイ、コンミッシヨナー」ヲ提議シタリヤ

「リ」、其ノコトナカリシ兎ニ角適當ノ案ナラハ委員カ支那
ヲ承諾セシムルコト困難ナラスト思フ今回ノ内閣ハ政民兩
党ノ支持ヲ受ケ居ルニ付政府カ同意セハ兩党首領其他ニモ
面談シ度キモ左モナクハ何人トモ会見スルヲ欲セス
支、南京、漢口、奉天、長春、哈爾濱、連盟ヘ転電セリ

316 昭和7年6月23日

在ハルビン長岡総領事代理より
齋藤外務大臣宛(電報)

リント、スチール両記者問題解決方に関し
國領事と満州国側との論議について

ハルビン 6月23日後発
本省 6月23日後着

第六四四号(暗)

(三〇九文書)
往電第六三五号ニ関シ

昨二十二日午前仏國領事ハ「リ」及「ス」ヲ同伴(一)連盟委
員宛陳情書(二)宣伝的文書(馬ヨリ出セル一種ノ公開状ニシ
テ既報宛名無キ文書ヲ指スモノノ如シ)(三)会见問答速記録
(四)会见記録(実物ヲ見サルヲ以テ判明セサルモ会见ニ関ス

317

昭和7年6月24日

※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

連盟調査委員と南京閣僚との会談に関する内

ル馬側ノ一方的記述ナルカ如シ)ノ四支那文書ヲ持参交渉
署ヲ来訪セルヲ以テ施署長ハ先ツ自発的ニ押収品ヲ手交シ
タル後右書類ノ交付ヲ求メタル処仏領事ハ(一)及(二)ヲ提供シ
タルモ(三)及(四)ニ付テハ写ヲ貰ヒ受クルニアラサレハ提供シ
得スト称シ且返還押収品中不足分アリトテ之カ返還ヲ求メ
更ニ「リント」ノ家宅無断捜査ニ関シ、何等カ自分ノ面子
ノ立ツ方法ヲ講セラレ度シト恣意シタルニ付施ハ仏領事ノ
食言ヲ責メ(同領事ハ電話ニ依ル承諾ヲ「コンファーム」
スル趣旨ノ「メモ」ヲ持参シ来リ居リタリト云フ)三時間
ニ互リ論議ノ末結局未解決ノ儘別レタル趣ナリ
右ニ関シ本官ハ施及杉原ニ対シ本件ハ本筋ノ問題ハ大体手
際好ク片付キタルモノト見得ル次第ナルカ仏國領事ノ食言
ハ満州国トシテ相当重大視スル価値並ニ必要アル可キ旨説
示シ置キタリ
連盟ヨリ瑞西ヘ、米ヨリ紐育ヘ転電アリ度シ
冒頭往電ノ通転電セリ

話について

北平 6月24日後発
本省 6月24日前着

第三三二号(暗、極秘)

吉田ヨリ

第(脱)号

往電第二二二二号ニ関シ

「バ」氏廿四日内話左ノ通り

一、委員ハ南京閣僚ト三回会談セリ、一回ハ(イ)満州ニ於ケル civil administration 第二、第三回ニハ(ロ)同地方ニ於ケル armistice 及(ハ)顧ノ渡日問題ヲ議シ宋子文時ニ発言セシモ汪兆銘主トシテ之ニ当リ羅文幹、顧維鈞ハ一言モ言ハス

(イ)ニ関シテハ満州ノ各省ニハ local officials ヲ入レ満州ノ中央政府ヘハ南京ヨリ人ヲ派スル積リナルカ又ハ満州自体ニモ其他ノ官吏ヲ以テ満足スル意味ナルカ委員ニハ了解シ兼ヌル趣ニシテ彼等ハ何等確定案ヲ有セス

(ロ)ニ関シテハ日本軍其他ト土匪等トノ間ニ敵対行為ヲ中止セントスル意ニテ顧維鈞ノ策ナル由ナルモ委員ハ実行

不可能トス

二、日本ノ満州国承認ニ関シ委員ノ意向ハ解ラス数回会合アリ或者ハ発言スレトモ沈黙者モアリ自分ハ右ハ条約違反ニ非スト考フ蓋シ(イ)支那ニ於ケル self-determination ヲ禁スルナラハ之レ支那ノ主權ノ侵害ナリ(ロ)条約ハ主權ヲ respect スルト謂フモ guarantee スルトハ謂ハサレハナリ尤モ連盟ハ条約違反ニ非ストモ本件ヲ討議シ得可シトノ立場ヲ採ラン

三、「リットン」ハ報告書ハ九月初ニ至ラスハ完成セストノ意見ナリ

四、報告書中ニハ満州国成立ノ事ハ言及ス可キモ之ヲ承認セヨトノ事ハ勿論言ハサル可シ

五、(本使、南京要人ハ支那ハ連盟ヲ頼ム可カラス自力ニ頼レト唱ヘ居レルカ如シ連盟ハ彼等ニ何等「ヒント」ヲ与ヘシカト問ヒシニ)左ル事無シ

318 昭和7年6月24日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

日本訪問連盟調査委員の人名について

北平 6月24日後発
本省 6月25日前着

第三三三三号

吉田ヨリ

第二五二号

日本行人名左ノ通り

(連盟側)「リットン」、「アルドロヴァンディ」、「クロードル」、「マッコイ」、同夫人、「ジュネー」、「ハース」、同夫人、「ジャレール」、「ビッドル」、「ジュエヴレ」、「ブレイクスリー」、「アスター」、「デネリー」、「ヤング」、同夫人、「タイピスト」、男女各一名(以上十八名)外ニ支那人「ボーイ」二名(「マッコイ」及「ハース」付)

(日本側)吉田、塩崎、森、森山、貴布根、中沢、木村、陳、木島、早崎(以上二人女「タイピスト」)、渡大佐、澄田中佐、久保田大佐、金井(満鉄)、岩村(連合記者)、「ブロンソンリー」、「キニー」(以上十七名)

尚林出領事及満鉄山口、角田ハ奉天迄同行ス
奉天、安東、長春、天津、公使、関東庁、朝鮮総督ヘ転電セリ

319 昭和7年6月27日 ※在北平矢野参事官より
齋藤外務大臣宛(電報)

満州国の承認問題等に関するクロードルとの

内談について

北平 6月27日後発
本省 6月28日前着

第三四一号(暗、極秘)

(イ)文書
吉田ヨリ

第二五七号

廿七日「クロードル」トノ内談左ノ通

本使、日本ノ満州国承認ニ対スル各委員ノ態度如何

「ク」、「マッコイ」ハ承認ヲ最モ惧レ居レリ米國ハ千万人ノ失業者等ノ事情ニテ内政上非常ニ困難セリ故ニ日本カ之ヲ為サハ同國ハ面子ヲ失フト考ヘ居ルモノノ如ク「マ」ハ此ノ件ニ付テハ貴下ニ申入タリト委員会ニテ語りタリ

(三)「文書」
(往電第二四五号)「リットン」ハ法律家的見地ヨリ慎重ニ考慮シ伊國委員ハ自國ノ事ノミ又独ハ同國ノ商業発展ノミニ注意セリ余ハ何等訓令ヲ受ケ居ラス bon sens ニテ判断スルノミ「ウイルデン」モ命令ニ接セス

本使、英国ヨリハ東京ニテ「デマルシュ」アリタルモ米国ヨリハナシ前者ハ後者ノ依頼ニ依リシヤモ知レス
 「ク」、然ラン寿府ニテハ英、米間ニ屢々斯様ノ事アリ
 本使、「エリオール」氏ハ長岡大使ニ対シ満州問題ニ必要アラハ援助スヘシト内話セリ（在仏大使発大臣宛電報第五二〇号）

「ク」、之ハ大イニ面白シ

本使、委員会ハ承認問題ニ付決議セシカ

「ク」、屢々協議セシモ何等決定セス唯東京ニテ討議ノ準備ヲ為シタルノミ伊、仏ノ如キ沈黙シ米ハ確乎タル見解ヲ主張セサルモ盛ニ発言セリ

本使、討議ノ要点如何

「ク」、何レノ箇条ト云フコトナキモ例ヘハ九ヶ国条約第七條ノ如シ

本使、右ハ充分隔意ナキ交渉ヲ約シタルニ止リ夫レ以上何等ノ義務ヲ負フモノニ非ス承認カ同条約ニ違反ストノ箇条ハ何レカ

「ク」、同条約第一条主権尊重ノ点ナリ

本使、自ラ独立シタル支那ノ一部ヲ承認スルハ条約違反ニ

本使、「ソヴィエット」ノ方先ツ承認ヲナスヤモ知レス

「ク」、カ之ヲナス利益アルカ

本使、東支鉄道関係等ノ為ナリ鉄道問題ニ付テハ露支協定アリシモ奉天ハ反対シ内容同一ナル露奉協定ヲ結ヒタリ
 「ハバロフスク」協定モ奉露間ノモノナリ

本使、過日委員会ニテ王以哲カ奉天事変後一万余ノ兵ヲ率ヒ九列車ニ分乗シテ吉林ニ赴キ次テ奉天ノ北十五軒ヨリ迂回シテ其ノ南方ニ出テ待チ合セタル八列車ニ分乗シ錦州ニ移リタリト説明シタリトコトハ真ナルカ

「ク」、余ハ其話ノ始マル前退席セシカ後ニテ之ヲ聞ケリ委員等ハ悪キ印象ヲ得タリ

尚「ペバン」ニモ内話シ度キニ付神戸辺ヘ来リ呉ルレハ便ナリ

320

昭和7年6月28日

※在北平矢野参事官より
 斎藤外務大臣宛（電報）

満州国の承認問題等に関するリットンとの内

談について

北平 6月28日午後
 本省 6月28日午後

非ス同条約ハ尊重ト云フモ保障ト云ハス

「ク」、要ハ主権ノ点ナリ満州ヲ主権ノ細糸ニテ支那ト結ヒ置キ適當ナル時期ニ之ヲ切ラハ好都合ト思フ九月十八日ノ事変ト満州国ノ独立ヲ一ツニ考フルト又別ニ見ルトノ二説アリ一ハ日本カ同地ヲ支那ヨリ離ス為右事変ヲ起セシト思フモノト該事変後三月ニ同国独立シ全ク別個ナリト見ルモノト之ナリ

本使、右事変ハ支那ノ攻撃ニ依リ始マリシナリ

「ク」、斯ク思ハサルモノモアリ

本使、日本ハ委員会ノ到着前又ハ日本滞在中承認ヲ為サハ委員会ハ怒ルカ

「ク」、右ハ政府間ノ問題ニシテ委員会ノ干与スルコトニアラス我々ハ調査研究スルノミナリ余ハ常ニ現実ヲ先ツ考ヘテ後 *formule* ヲ作ルヘシトス之ヲ顛倒スルハ不可ナリ

本使、承認ヲ最終報告作成後トノ希望アル処之ト相容レサル如キ報告ナラハ日本ハ甚タ迷惑スヘシ

「ク」、満州国ヲ改善シ立派ナルモノニシ徐ロニ列国ヲシテ満足セシムルコトトセハ可ナラン

第三四七号（暗、極秘）

吉田ヨリ

第二六〇号

本使ノ来訪ヲ求メタル「リットン」ト二十八日内話ノ要領左ノ通

「リ」、唯今連合通信社員ハ内田伯外相就任後直ニ満州国ヲ承認スルコトニ決定アリシト極秘ニ本社ヨリ電報アリタリトテ「ペルト」ニ内話セリ

本使、此ノコト毫モ承知セス、過日日本ノ承認ハ条約違反ナリト言ハレシカ其ノ根拠如何

「リ」、九国条約締約国ハ支那統一、領土の行政的保全ヲ尊重シ従テ「デイスインテグレーション」ニ関与セサル義務アリ依テ日本カ満州国ヲ承認セントセハ同条約第七条ニ依リ関係締約国ト交渉ヲ為スヘキモノト信ス右ハ英国政府モ同様ノ見解ナリトコトニテ現ニ米国力支那関税ニ関シ他國ハ協議セスシテ処置ヲ執リタルニ対シ英國政府ハ右ノ見解ヲ採リタリトコトナリ、尤モ日本カ其ノ所見ヲ異ニシタル場合ニハ致方ナキモ意見ノ交換前ニ承認ヲ与フルニ於テハ委員会ハ何等仕事ナキコトナルヘシ

本使、交換トハ関係国政府トノ意味ナルカ
「リ」、否、委員会トナリ（同氏ハ此ノ点ニ於テ第七条ヲ曲解ス）委員カ東京ニテ日本政府ト意見ヲ交換シタル後ニ於テ日本政府カ満州国ヲ承認スルコトニ決定セハ吾々ハ何等之ニ対シ言フヘキコトナケレ共吾々ノ東京ニ到着頃ニ右様ノコトアリテハ実ニ困難ス
支、奉天、長春へ転電セリ

321 昭和7年6月29日 有田外務次官より
久保田鉄道次官宛

連盟調査委員一行に対し便宜供与方依頼について

半公信

国際連盟支那調査委員一行ニ対シ便宜供

与方依頼ノ件

拜啓陳者国際連盟ヨリ派遣ノ支那調査委員一行六月二十八日北平発七月三日朝下ノ関着四日午前東京着ノ予定ニ有之候ニ付貴省関係当局ト協議ヲ遂ケ一行ノ為ニ一等寝台車三輛、食堂車、展望車及手荷物車各一輛ヲ以テ編成スル臨時列車ヲ下ノ関東京間ニ運転スルコトノ御諒解ヲ得居候処本

見透シ其ノ儘ト為シタリ政府カ此ノ挙ニ出テサリシハ大失態ナリ

二、吾々ノ最モ恐ルル処ハ将来満州国軍カ日本人ノ努力ニ依リ強大トナリ南下スル事ナリ支那ハ三百万ノ兵ヲ有スルモ土匪ト選フ処ナク從テ同国ニ敵対スルヲ得サルナリ支、北平、南京、奉天、長春へ転電セリ

322 昭和7年7月4日 広瀬（久忠）三重県知事より
山本内務大臣、斎藤外務大臣宛

連盟調査委員神宮参拝勧告国民大会開催企画について

高秘発第一〇三〇九号

昭和七年七月四日

三重県知事 広瀬 久忠

内務大臣 山本 達雄殿

外務大臣 斎藤 実殿

連盟調査委員神宮参拝勧告国民大会開催

企画ニ関スル件

本籍 三重県志摩郡鳥羽町

住所 三重県宇治山田市二俣町

件調査委員一行ハ特ニ帝国ニトリ重大ナル利害関係ヲ有スル任務ヲ帯ヒ来朝スルモノニ有之從テ帝國政府ニ於テモ一行ニ対シ国賓ノ待遇ヲ供与致居ル次第ニ有之ニ付本件臨時列車運転ニ関シテモ特ニ右事情御諒察ノ上之カ為ニ要スル経費等一切ハ特ニ貴省ニ於テ御負担相成様特別ノ御詮議相仰度此段得貴意候 敬具

322 昭和7年6月30日 ※在安東米沢領事より
斎藤外務大臣宛（電報）

満州問題に関する北平大学総長蔣夢麟の内話について

安東 6月30日後発
本省 7月1日前着

第一四四号（暗）

吉田ヨリ

第二六一号

二十七日北平大学総長蔣夢麟来訪ノ節同氏内話要領左ノ通一、支那カ国際連盟ニ訴フルノミニテハ不可ナリトテ胡適ヨリモ日本ト内密直接交渉方南京政府へ進言スル様依頼アリタレトモ余ハ同政府ニ於テ右意見採用不可能ナルヲ

自称 政友会院外団員

大川 亮太

右者從來政治方面ニ対シ趣味ヲ有シ選挙時等ニ際シテハ政友候補者ノ為メ相当運動シツ、アルガ今般国際連盟調査員「リットン」卿一行再度来朝ノ報アルニ際シ此機ヲ利用シ卿ニ神宮参拝ヲ勧告シ親シク神威ニ浴セシメ以テ我國民性ヲ反映セシムベク本月上旬宇治山田市ニ於テ国民大会ヲ開催シ「連盟調査委員神宮参拝勧告決議文」ヲ作成シ一行ノ下関上陸ニ際シ之ヲ「リットン」卿ニ手交セムト企画シ之ガ発起人タラシムベク別紙ノ如キ趣意書ヲ以テ同市内有力者ヲ歴訪セムトスル模様アリ其ノ行動専ラ注視中ナルモ不取敢
及申報告候也

（別紙）

趣意書

危路ニ立ツ我帝國ノ更生ハ満州問題ノ解決ニアリ満州問題ノ和平的解決ノ道ハ一ツニ認識不足ノ国際連盟ニ我ガ公明正義ヲ知ラシムルニアルハ言ヲ俟タザル所ニシテ連盟調査員リットン卿一行ガ再度ノ来朝ヲ期トシテ帝國全土挙ゲテ

我國ノ公正ト皇道ノ御威光ヲ宣揚スベキナリ玆ニ於テ先ヅ
来朝ノ一行ヲ伊勢神宮ニ参拝セシメ正純ナル国民ノ姿ヲ知
ラシムルハ千言ノ勞ヨリ得ル処大ナリト確信シテ疑ハザル
ナリ

此ノ機ニ於テ神都ニ調査団一行ヲ迎フベク国民大会ヲ開催
スル事ハ正ニ緊要ノ事ト確信ス

諸賢此ノ未曾有ノシカモ有意義ナル国民大会開催ニツキ其
ノ發起人トシテ御賛同アラントヲ

昭和七年六月二十九日

324

昭和7年7月7日 ※内田外務大臣より
※在ジエネーヴ沢田連盟事務局長宛
(電報)

連盟調査団の報告内容予想並びに満州国承認
の時期などについて

本省 7月7日後11時発

第二四六号(暗)

連盟調査委員及満州国承認ニ関スル件

長岡大使へ谷局長ヨリ

一、満州問題ニ関シ「リットン」委員会カ如何ナル案ヲ有

ノナリ)ヲ趣旨トスヘク就中満州国成立ノ事実ヲ無視ス
ヘカラス然ルニ前記(一)乃至(五)ハ何レモ右(イ)(ロ)ノ趣旨ニ合
致セスト論駁シ尚前記(四)ニ付テハ満州国ハ九国及不戦二
条約ノ当事国ナラサルニ付同国ニ関スル問題ヲ九国条約
又ハ不戦条約当事国間ノ協議ノ題目トスヘキニ非ルコト
ヲ付言シ殊ニ日本ハ満州国併合ノ意図ヲ有セサルコト及
満州国成立ノ今日ニ於テハ満州ノ処分ニ付日支直接交渉
ヲ行フノ不可能ナルコト等ヲ説明シ結局帝國政府トシテ
ハ満州国ヲ承認シ之ヲ守リ立テ行ク外ナシト思考シ居ル
旨ヲ告クルト共ニ(承認ノ時期ニ付テハ今直チニ明言シ
難シ)連盟側ニ於テハ暫ク事態ノ成行ヲ見送ラレムコト
(連盟側カ現実ノ状況ニ合セサル解決案ヲ出スコトハ却
テ事態ヲ悪化スヘシ)望マシト存ス」

三、尚ホ満州国承認問題ニ関スル我方ノ意向ハ議會ニ於ケ
ル応酬及英國大使等トノ折衝ニ関スル累次ノ往電及前記
二ノ次第ニ依リ御想像相成ルヘキ通リニテ外務大臣ノ御
考ハ帝國政府ハ満州国承認ノ決意ヲ有シ且出来得ル限り
速ニ之ヲ実行シ度キモ唐突ニ行ハムトスルニ非スシテ諸
般ノ關係影響ヲ注意シ充分ナル準備ノ下ニ之ヲ行フヘシ

スルヤ未タ不明ナルモ(調査委員ト日本政府側トノ實質
的会談ハ十一日頃ヨリ開始ノ筈ナリ)各種ノ情報ヲ綜合
スルニ委員側ノ有スル案ハ左記ヲ出テサルヘシト想像セ
ラル

(一)支那ハ日本ノ既得權益尊重ヲ誓約シ滿蒙ニ對スル統治
權ヲ回復スル案

(二)支那ノ宗主權ノ下ニ滿蒙ニ自治權ヲ認ムル案

(三)連盟ニ責任ヲ負フヘキ滿蒙國際行政案

(四)九国条約又ハ不戦条約關係列国会議ニ依リ滿蒙問題ヲ
決定スル案

(五)決定ヲ後日ニ延ハシ暫ラク滿州国ノ事態ノ推移ヲ見極
ムル為メ常設的滿蒙委員會ヲ設置スル案

二、右ニ對スル我方應酬振ハ外務大臣ノ御考ニ依ルコト勿
論ナルカ大体左記趣旨ニ則ラルコトト思考シ居レリ
『滿蒙問題ノ解決方法ハ(イ)永久的性質ヲ有スヘキコト(ロ)
将来ニ對スル禍根ヲ排除スヘキコト(例ヘハ排日支那ノ
権力カ如何ナル形式ニ於テモ滿州ニ復帰スルコトハ将来
ニ對スル重大ナル禍根ヲ残スモノニシテ又國際行政案及
滿蒙委員會設置案モ事態ヲ不確定ニシ從テ禍根ヲ残スモ

ト云フニ存スルモノト存ス然ルニ貴電中我方カ「リット
ン」報告ノ提出前ニ承認ヲ実行セハ連盟方面ハ蜂ノ巢ヲ
突ツキタルカ如キ形勢トナルヘシト予想セラルトアル処
右ハ如何ナル事態ヲ想像セラレ居ル次第ナルヤ例ヘハ連
盟側ニ於テ何等積極的措施ニ出ツルコトナルヘシト思考
セラルル訳ナルヤ將又承認カ「リットン」報告提出前ニ
行ハルト提出後ニ行ハルトニ依リ連盟ニ与フル影響
ニ多大ノ差異アリトノ御見込ナルヤ等ノ点前記當方準備
ノ参考ニ資シ度キニ付御電報相煩度
御見込ニヨリ關係大使ヘ転電アリタシ

325

昭和7年7月9日

連盟調査委員と荒木陸軍大臣との会談について

極秘

(昭和七年七月九日於大臣官邸)

國際連盟調査委員ト陸軍大臣トノ会談要
旨

参列者

通訳 川崎 寅雄氏

陸軍省側

大臣、次官(小磯閣内)

山岡軍務局長、山下軍事課長

古城新聞班長、鈴木貞一中佐、鈴木宗作中佐

参与委員側

吉田大使、塩崎書記官、渡大佐、久保田大佐、澄田中佐

委員側

アルドロバンデ伯、クロードル將軍、マッコイ將軍、ジュネー博士、アース、ヤング、ジュヴレー、ビドル、アスター、ノックス嬢

大臣 長途ノ旅行ヲ継続セラレ各位ニ於テハ別ニ御変リアリマセンカ本日委員長タルリットン卿カ病氣ノ為御出ニナリマセンノハ残念ニ思ヒマス

委員 リットン卿ニ就キ御言葉ヲ得マシタコトハ有難ク存シマス今朝ノ状況ハ非常ニヨロシクアリマスカラ速ニ恢復セラルコトト存シマス御安心ヲ願ヒマス

大臣 今日ハ御忙シキ所ヲワザワザ御出テ下サイマシテ有リ難ク存シマス

委員 我々トシテモ今朝会谈ノ機会ヲ与ヘラレマシタコト

権ニ就テ

即チ第一ノ問題ハ此三者カ綜合セラレナケレハナラナイノテアリマス

大臣 先ツ第一ノ点テアリマスカ此前一度御話シタ通り我日本カ国ヲ為シ民族ヲ形ル以上一ツノ遠大ナル理想ヲ持ツテ居ルモノテアリマス即チ人類トシテ立チ自然ニ培レタル環境ヲ加ヘココニ我々ノ道德ノ基礎ヲ置キ日本ノ精神文化ヲ生シテ居ルノテアリマシテ我々ハ如何ニモシテ之ヲ完全且円満ニ発達セシメナケレハナラナイ即チ其内容ハ人類一般ノ博愛正義公明ノ諸道德テアリマシテ之ハ我々カ生存スル以上閑却スルコトノ出来ヌ否益々之ヲ発展セシムルノカ我々日本国民ノ使命テアリマス而シテ之ヲ実行スルニ強キ意思ト実力トヲ必要トスルノテアリマシテ日本軍隊ノ存立ノ理由カココニアリマス

日本ノ長キ歴史ノ間ニ發展シタ此精神及文化ハ三百年ノ鎖国ヲ破リ國際の新天地ニ躍リ出テ先ツ第一ニ東洋ノ大陸及海上ニ於テ之ヲ確立スルヲ必要トスルニ到リ日本民族ハコノ理想ヲ実現スヘク先ツ東洋ニ安固タル平和ノ確立ヲ求ムルノテアリマス是レ實ニ見逃スヘカラサル日本

ヲ非常ニ喜ンテ居リマス閣下ヨリイロイロ御伺ヒ致シ度イ事カアリマスカラ大ナル期待ヲ以テ御意見ヲ拝聴スルコトト致シ度イノテアリマス

大臣 何テモ宜シクアリマスカラ御尋ネ下サイ率直ニ御答ヘ申シ上ケマス

委員 本朝会見ノ際御話ノ要領ニ関シテハ既ニ紙片ニ記述シテ戴イテ居リマスアノ事ニツキ御伺ヒスレハ結構テアリマス

大臣 説明ハ書テ差シ上ケテナイノテアリマスカ委員 ナイ

大臣 色々詳シイ事ハ書物テ申シ上ケルコトカアルダロート思ヒマスカ第一ノ問題「日本帝國ノ国防ト滿州トノ關係」ニツキマシテハ大体左ノ三ツノ点ニツキ申上ケ度イト存シマス

第一 前ニモ一度申シ上ケタ通り日本ノ建国ノ精神ニ基ク日本自体ノ使命ニ就テ

第二 滿州ニ関スル過去ノ歴史並現在ノ事態ニ対スル国民ノ總意識ニ就テ

第三 實質問題トシテ日本民族生存ノ問題ヨリ来ル自衛

民族ノ要望テアリマシテ滿州ニ対スル日本国民ノ関心カココニ繫テ居ルコトヲ觀察シナケレハナリマセヌ

第二ノ点ニ就テ遠キ昔ノコトハ略シ近キ明治維新後ニ於テモ第一ニ述ヘマシタ理想ヲ實現スヘク國際のニ發展ヲ期シマシタル所多クノ艱難ニ遭遇シタノテアリマス即チ滿州ニ関スル限リニ於テモ日清戦争前ニ於ケル支那ノ状態ハ不幸ニシテ我國ヲシテ戦争手段ニ訴ヘシメサルヘカラサルニ到ラシメ又其後ニ於テ更ニ前述ノ理想ニ基キ東洋ノ天地ニ平和ヲ確立センコトヲ期シマシタカ露國ノ事情ハ再ヒ日露戦争ヲ惹起セシメマシタ然ルニ此二度ノ戦争ヲ經過シマシタニ拘ラス其主權國タル支那ノ状態ハ遺憾ヲ旧態依然タルモノアリ中華民國成立シテヨリ既ニ二十年猶今日国内ニ於テ争乱断ユル所ナク非道惡虐ヲ繰リ返シ東洋ノ平和ヲ為ニ確立スルトキナク日本ノ自衛上ヨリ見ルモ遺憾此上ナク我カ居留民ハ幾度カ危險ニ曝サレメス朝ニタニ我權益ハ犯サレ特ニ朝鮮人ニ対スル压迫甚シク此状態ヲ繰リ返スハ日本国民トシテ堪エ難キ所當ニ前ニ述ヘタル理想ヲ具現シ難キノミナラス我國ノ自衛ス

ラ危険ニ陥リコロニ満州事変カ勃発シタ次第テアリマス
現在ニ於テモ御承知ノ如ク兵匪ニ依リ治安ノ維持容易ナ
ラス之ヲ援助シ平和ヲ乱サントスルモノ存シ昨年末日本
カ国際連盟ニ於テ保留シタル匪徒討伐權ヲ使用シ自衛上
已ムナク武力ニ訴ヘテ匪徒ノ討伐ニ從事シ大体其目的ヲ
達シツアリマスカ尚此等匪賊蠢動ノ源泉カ支那本国ノ
内部又ハ滿州ノ北方ニ存スル關係上未タ平和ノ確立ヲ見
ルニ到ラス我々ハ飽ク迄之ヲ戦ツテ行カネハナラヌノテ
アリマスカ此間ニ滿州國ノ出現ト為リ日本ノ理想ヲ行フ
ニ適スル状態ヲ見ルニ到ラントスル有様テアリマス過去
ニ於テ日本ニ對スル侮辱、居留民ニ對スル圧迫特ニ日本
正規軍人ノ虐殺、朝鮮人ニ對スル過酷ナル取扱等滿州官
憲ノ行ヒタル堪エ難キ苦痛等ハ日本民族ヲシテ曾テ見サ
ル興奮状態ニ入ラシメタル結果ハ今回ノ滿州國ノ出現ヲ
歡迎スル心情トナリ曩日ノ議會ニ於テハ各政党ヲ通シ無
産党スラ参加シ滿場一致ノ決議ニ依リ滿州國即時承認ヲ
要求スルニ到ラシメタノハ国民意志ノ一ノ現ハレテアリ
マシテ此辺ノ実情ハ各位ノ深く觀察セラレナケレハナラ
ナイ所ト思ヒマス

ト第二ニ日本ノ理想ヲ實現シ得ル状態ニアラシムルコト
ニシテ國際場裡ニ遲レテ進出シタル日本ノ事ナレハ此間
不慣レノ為或ハ過失ト認メラルヘキ部分モアツタコトト
思ヒマスカ一方抜クヘカサル理想ヲ有スルノテアリマ
スカラ改ムヘキコトハ改メ主張スヘキコトハ主張シ以テ
我獨特ノ文化ニ依リ國際のニ寄与セント考ヘテ居ル次第
テアリマス

大臣 第一ノ問題 a 「滿州交通網（鐵道共）ニ對スル帝國
國防上ノ要求」ニ就キマシテハ國防上滿州ノ治安維持ヲ
第一ニ必要ト致シマスカラ其治安ヲ維持シ東洋ノ平和ヲ
確立スル為責任ヲ有スル日本カ其滿州國內ノ交通網ヲ自
由ニ運用シ得ルコトカ必要テアリマシテ今日マテノ交通
網ハ各々局地的ノ勢力カ勝手ニ施設シタ為全部ノ統制カ
トレテ居リマセヌ夫故之ヲ統制シ万一發生スルコトアル
ヘキ平和ノ紊亂ニ際シテ滿州國ヲ防護スル為遺憾ナク之
ヲ運用シ得ル如ク期シナケレハナラナイト思ヒマス
今日猶馬賊匪徒横行シ交通線ノ安泰ヲ期シ難キヲ以テ此
等ノ脅威ニ對シ武力ヲ以テ之レカ安固ヲ期スルノ必要ハ
猶存在シテ居リマス

第三点ノ自衛權ニ就キマシテハ我カ同胞タル朝鮮人ヲシ
テ其民族ニ適スル文化ヲ發展セシメンカ為ニモ又日露戰
後得タル關東州ニ於ケル我居留民ノ為ニモ其他地理的關
係上及國內ノ一般的關係即チ日本民族ノ生存上ヨリ觀察
スルモ滿州ナル地域ノ平和ヲ確立スルコトハ日本ノ為絶
對的必要ノ事項テアリマシテ此地ニ平和ナクシテ日本ノ
自衛ハ保タレナイノテアリマス即チ滿州ヲ失ヒテハ日本
ノ國防ハ存立セス所謂特殊地域トシテ世界列國カ之ヲ認
メタル所以コロニ存シ日本ノ平和ハ一ニ滿州ノ平和ニヨ
リテ保持セララルノテアリマス故ニ自衛上國防上滿州ヲ
以テ特有ノ一地域トスル觀念ハ軍部トシテモ深キ信念ヲ
以テ主張スル所テアリマシテ極東平和保持ノ為日本ト不
可分ノモノテアリマス

其他經濟、産業、生活上ノ問題トシテモ滿州ハ日本ノ為
重要ナル地域ニシテ正ニ國防ノ第一線タリ日本ノ生命線
タル所以カコロニ存スルノテアリマス

以上三点ヨリ見テ國防上日本ト滿州トノ關係カ如何ニ重
要且密接テアルカヲ明ニセラレタ事ト思ヒマス之ヲ要ス
ルニ我々ノ望ム所ハ滿州カ第一ニ治安ノ維持セララルコ

次ニ b 「外部ノ脅威ニ對スル日滿兩國協同ノ対策」ニ就
テハ已ニ述ヘタルカ如ク日本ハ何処マテモ滿州ノ平和ヲ
確立セサルヘカサル責任ヲ有シテ居リマスカラ之ニ對
スル脅威ノ原因カ内ニアルト外ニアルトヲ問ハス又縱令
日本人ニアリトスルモ何処マテモ武力ヲ以テ之ヲ鎮定ス
ルノ必要カアリマス從テ斯クノ如キ平和ノ脅威ニ對シテ
日本ハ滿州國ト協力シテ之ニ當ルコトヲ否ミマセヌコレ
獨リ軍部ノ意見ノミナラス國民ノ熱望テアルコトヲ信シ
マス

第二ノ問題 a 「滿州ヨリ撤兵ノ能否」及 b 「撤兵後滿州
治安維持ノ組織」トヲ同時ニ説明シマス即チ「滿州治安
恢復ニ對スル帝國ノ方針」ニ關シマシテハ過去ニ於テ滿
州ノ治安ハ支那又ハ露西亞ニ託セラレ其後張作霖及學良
ノ手ニ委セラレタノテアリマスカ遂ニ目的ヲ達セス暴虐
圧迫常ニ止マス今日ノ滿州國出現トナリシニ顧ミマスレ
ハ遺憾乍ラ自衛上日本自ラ之ニ當ラナケレハナラナイノ
テアリマス

滿州國カ日本ト同様ニ東洋ノ平和ヲ憂ヒ治安ノ維持ヲ欲
シ且其實力ヲ有スルニ於テハ之ニ託シ得ヘキモ今日ノ状

態ニ於テハ未タ安心シテ之ニ託スルコト不可能テ自己ノ力ニ依リ平和ヲ求メネハナラナイノテアリマス以上ノ關係カラ考ヘマシテ過去ニ於テ日本軍ハ関東州及付屬地内ニノミ配兵セラレテ居リマシタカ今日テハ状況カ一変シテ居リマスカラ滿州ヨリ直ニ撤兵スルコトハ考ヘラレナイノテアリマス

滿州国ニシテ内外ノ状勢平靜ニ帰シ治安維持ノ能力完備シタル上ハ或ハ之ニ託シテ原駐地ニ帰ルコトヲ得ルカモ知レマセンカ目下ノ状況ニ於テハ到底之ヲ予期シ得ラレス唯平和カ回復セラレ立派ニ政府国家カ發育シ十分ナル能力發生シタル上ニ於テ始メテ考慮セラルヘキモノト考ヘマス今ヤ滿州国ハ明確ニ支那本部ヨリ離レ滿州ニ相応スル国家ヲ建設シ三千万民衆ノ為中華民國ト全然根本思想ヲ異ニスル理想ヲ以テ立国シタル以上之ヲ發達セシメ之レヲ助長シテ以テ撤兵ノ時機ノ来ルヲ待ツ次第デアリマス

第三問題「滿州国ノ将来及之ニ対スル帝国軍部ノ態度」ニ就イテハ前ニ述ヘシ如ク滿州国ニ対シテハ我ハ何処マテモ国際正義ノ上ニ立テ日本ト同シク東洋平和ノ理想ト

其精神ノ躍動ハ實ニ正義理想ノ抱負即博愛、公明、断行ノ精神ニ基クモノニシテ今後必スヤ国際的ニ其光ヲ放ツヘキヲ十分看取セラレン事ヲ望ム我等ハ今後必スヤ世界ニ対シ日本ソノモノノ価値ヲ發揮シ各位ニ十分認識セシムルニ到ルヘク滿州国亦滿州国トシテ立派ニ中華民國ヨリ分離シテ全然異レル理想ノ下ニ發展スヘク從テ滿州ノ地域ヲ昔日ノ如ク中華民國ノ主權下ニ復セシメ或ハ国際管理トナスカ如キコトハ我等ノ到底堪エ得サル所ニシテ此ノ如キ考ハ必スヤ東洋ヲ再ヒ禍乱ノ巷トナスニ到ルヘキヲ恐ルル次第デアリマス各位ハ何卒此点ヲ世界ニ紹介セラレンコトヲ望ム次第デアリマス

諸君カ之迄出先軍部ト御会見ノ模様ニ関シテハ夫々報告ヲ受ケテ居リマス本日ノ会見ニ於テモ尚意ヲ尽サナイ点カアルコトト存シマス故ニ以上述ヘマシタ外猶御疑問ノ点又ハ今日マテ御觀察ノ結果ニ就テ御質問等ノコトアラハ書物ヲ以テシテモ御答ヘ致シ得ルコトト思ヒマスカ御遠慮ナク御尋ネヲ願ヒマス

委員 今朝来御繁忙ナル時間ヲ御割キ下サイマシテ非常ニ調査上有益ナル資料並重要ナル問題ニ対スル御意見ヲ拜

極東文化ノ發達維持トヲ使命トシテ永遠ニ發展スル国家タラシメンコトヲ期シ又斯クナルヘキモノト信スル次第デアリマススカ建国未タ新シク從テ万般ニ亘リ不完全ノ点カ多々アルノデアリマスカ之ヲ改善シ之ヲ是正シ以テ健全ニ發達セシムルコトヲ必要ト考ヘマス而シテ滿州国ハ過去幾十年ニ亘リ内部的ニ紊レ動モスレハ東洋ノ平和ヲ攪乱シ加之我々ノ尤モ恐ルヘキ共匪赤化ノ魔手ニ靡キ易キ中華民國ヨリ全然分離シテ別個ノ国家タランコトヲ期シテ居ルノデアリマスカラ軍部トシテモ我日本国民ノ要望ニ照シ最後ノ能力ヲ尽シテモ此目的貫徹ニ努メ度イト思フノデアリマス

終リニ臨ンテ今回各方面ニ亘リ十分御觀察ヲナサレシ各位ニ対シ更ニ付言シテ置キタキコトハ今回ノ紛争ノ原因ヲ深く研究セラレ多年隱忍ニ隱忍ヲ重ネ燃ルカ如キ熱烈ナル思想ヲ有セシ国民カ支那ノ当事者ノ非道惡虐見ルニ忍ヒサルニ到リ勃然トシテ起チ鬱積シタル国民精神ココニ爆發シテ今回ノ事變力起ツタノデアツテ其進ム所水ヲモ火ヲモ辞セス尽ク之ヲ焼キ尽サントスルニ到リシ真相ヲ明ニシ今日マテ世界列国ノ日本ニ対スル誤解ヲ一掃シ

聽シ特ニ軍部側ノ第一人者タル閣下ノ御感想ヲ明瞭且完全ニ伺ヒ得ラレタコトヲ厚ク感謝致シマス

殊ニ疑問ノ存スル所ヲ書物テ御答ヘヲ頂クコトヲ幸ト致シマスカ私ノ有スル疑問ニ就テ一二御伺ヒシ猶他ノ委員カラモ質問スルコトヲ許シテ頂キ度イノデアリマス

大臣 ドーゾ

委員 第二ノ問題ノbニ属スル事項デアリマスカ撤兵後滿州治安維持ノ組織ニ就キ今少シク御意見ヲ伺フコトカ出来マセヌカ

大臣 滿州国力将来果シテ治安維持ノ力カ出来ルヤ否ヤ疑問デアリマスル今日撤兵其事ハ考ヘラレマセヌ故ニ撤兵後ノコトハ目下具体的ニ申スコトハ出来マセヌ少クモ当分ノ間平和維持ノ為現状ヲ維持シ特ニ鉄道線ノ保護ハ日本軍隊ヲ以テシナケレハナラナイト思ヒマス又既ニ滿州国現出セシ以上之ト十分隔意ナキ協調ヲ為シ日本ノミニテ決スルコトハ不可能デアリマス

委員 今日ノ状態ハ明瞭デアリマスカ撤兵サレタトシテ後ノ組織ニ関シ御考ヘニナツタコトハアリマセヌカ
大臣 撤兵ソノ事カ既ニ考ヘラレマセヌ故ニ其後ノ事ハ考

ヘタコトカアリマセヌ

委員 満州国ノ対外関係特ニ債務ソノ他面倒ナル問題起ルヘキヲ以テ各方面ト協調ヲ要スルコトカ多カラウト思ヒマス

大臣 ソノ通りテアリマス

委員 閣下ノ述ヘラレタル如ク日本建国ノ理想タル東洋ニ平和ヲ招来シ且其存立権確保ノ為満州政策ヲ持続セラルルニ於テハ支那本國トノ関係力悪化シテ戦争トナルコトハナイテシヤウカ

大臣 然ラン而シテ如何ナル政策ヲ行フモ支那人カ十分覚醒シテ人道ヲ重シ正義ヲ愛スルニ到ラサレハ日支ノ関係ハ根本的ニ好転スルコトハ望ミ得ナイト思ヒマス故ニ支那人ノ正義觀ヲ喚起スルコトカ必要テアルト思ヒマス特ニ蔣介石氏ノ歴史ヲ見ラレヨ随分日本ヨリ形而上下ノ援助ヲ得タ事カアルニ拘ラス更ニ好感ヲ起サシメシ事ナク且又曾テ露國ヨリ多大ノ援助ヲ得テ今日広東方面ニ恐ルヘキ赤化ノ勢ヲ養ヒ得タ事実ヲ見ラルルナラハ此間ノ消息ヲ看取セラルルコトト思ヒマス猶今日ノ支那ノ状態勢カ真ノ国家民族トシテノ体系ヲ為サス大ナル人口、

事項3 リットン調査団の動向

報告ヲ作成提出シ使命ヲ完了スルヲ切望シ居ルナルヘシ然ルニ今若シ「リットン」報告提出前ニ日本カ承認ヲ敢行セラレタリトセハ満州問題ニ対スル過去ノ歴史的事実ノ列挙説明ハ別トシ将来ニ対スル解決進言ノ余地無キニ至ルヘク或ハ匙ヲ投出シ報告作成ノ要ヲ見ストノ理由ノ下ニ報告提出ヲ見合スニ至ルヤモ知レス此ノ場合連盟ノ感スヘキ不滿ハ想像ニ難カラス茲ニ日本トノ正面衝突ヲ来スヘキコトモ避クヘカラサル処ナリ然ルニ一旦報告提出セラレタル後ニ於テハ仮令承認アリトモ又多クノ人ハ實際日本ノ承認ヲ時期尚早ナリトシテ之ヲ好マサルニセヨ日本ノ唱道セル「リットン」委員会ノ職責完了セラレ世人亦満州ノ事態ヲ公平ナル材料ニ依リ判断スル機会ヲ得タル後ノコトナレハ事前ノ場合トハ一般ニ与フル刺激同一ナラス勿論此ノ場合ニモ理論一点張ノ連中ハ随分日本ヲ攻撃スヘキモ日本側ハ種々ノ「ジャスチフィケーション」ヲ見出し得ヘケレハ兩者ノ議論ハ結局五分五分トナリ得ヘシ又「リットン」報告中ニ満州ノ将来ニ関スル意見加ハリ居ルト假定シ而シテ此ノ意見カ承認是認論ニ傾ク場合ニハ問題無ク之ニ反シ承認否認ヲ勧奨スル場合ニハ日本ハ之ニ拘ラス「リットン」ノ

領域、経済力ヲ有シ而モ国家トシテノ本態ヲ存セサル支那ノ本質ヲ十分検討セラレ世界トシテ今後如何ニ之ニ処セサルヘカラサルヤヲ究ムルコトカ各位ノ重大ナル任務テアルト思ヒマスコレ実ニ過去幾十年ニ亙ル日本ノ悩ノ存スル所テアリマス

委員 最後ニ更ニ先刻ノ御礼ニ付加致シタイ事カアリマス委員一行カ満州ニ於テ到ル処便宜ヲ与ヘラレ特ニ本庄閣下及其幕僚カ真ニ打ち解ケテ真情ヲ吐露セラレ貴重ナル資料ヲ与ヘラレタルコトハ委員ノ大ニ幸福ニ感スル所テアリマシテココニ重テ御礼ヲ申ス所テアリマス

326

昭和7年7月12日

在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛(電報)

日本の満州国承認問題に関する連盟事務局
の見解について

ジュネーヴ 7月12日後発
本 省 7月13日前着

第(脱)号(暗、極秘)

十一日佐藤大使事務局日支事件主任官ト会谈ノ機会ニ於テ満州国承認問題ニ言及セル処同人ハ「リットン」ハ無事ニ

指摘スヘキ理由ヲ反駁シテ自己ノ立場ヲ擁護シ得ヘク何レニスルモ報告提出後ナラハ日本ノ立場ハ公正タルヲ得ヘシト述ヘ更ニ「リットン」ハ其ノ報告ニ満州問題解決方法ニ関シ献策ヲ為スヘキヤ否ヤ全ク不明ナルモ支那側ハ少クトモ「リットン」進言全部ノ受諾ヲ余儀(ナク)セラルヘシトテ「リットン」カ解決案ニ言及スルコトニ恐レヲ抱キ居ル模様ナリト内話セル趣ナリ
巴里連盟ヘ転電シ、仏ヘ転報セシム

327

昭和7年7月16日

内田外務大臣より
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在
米田出淵大使他宛(電報)

連盟調査委員との会談について

別電

同日内田外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米田出淵大使他宛合第一五四八号、
合第一五四九号
七月十二、十四日における連盟調査委員との会談要旨

合第一五四七号(暗)
今般連盟調査委員再ヒ来朝セルニ際シ本大臣十二日及十四日ノ両回之ト会谈シタルカ其ノ大要別電合第一五四八号及

合第一五四九号ノ通ナリ

(寿府宛ニハ「別電ト共ニ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電アリ
タシ」支宛ニハ「別電ト共ニ南京ニ転報アリタシ」奉天
宛ニハ「別電ト共ニ長春ニ転報アリタシ」ト各付記ノコ
ト)

(編注) 本電報ならびに別電は、在中国公使館、北平、奉天
にも發電された。

(別電)

(一)

合第一五四八号(暗)

十二日会談要旨

一、先ツ「リットン」ヨリ満州ニ関スル日本ノ要求ハ支那
ノ満州ニ於ケル權利ト「リコンサイル」セシムルコトヲ
得サルヘキヤ閣下カ満鉄總裁タリシトキ大連ニ於テ受領
シタル閣下ノ覚書中ニ満州問題解決案トシテハ満州国ノ
承認カ最良ノ方策ナリト述ヘラレアルカ自分ノ考ニ拠レ
ハ満州国ノ承認ニハ(一)客年九月満州ニ於テ支那側ヨリ日
本ニ対シ侵略行為アリタルコト(二)満州国ハ人民ノ自決ニ
依リ成立シタルコトノ二前提ヲ必要トス若シ此ノ二点ニ

更ニ関シ日本ハ関係国ト討議スル必要ナキヤト問ヒタル
ニ付本大臣ハ満州国ハ満州人ニヨリ自発的ニ創成セラレ
タル国家ニシテ右ニ対シ九国条約カ適用セラルモノト
ハ思考セス從テ之カ承認ハ同条約ニ抵触セス又之ニ付関
係国ト討議スル必要ヲ認メスト答ヘタリ

三、次イテ米仏伊委員相次イテ発言セルカ「マッコイ」ハ
日本ハ満州国ハ国防上重要ナリト云ハルモ其ノ点ハ支
那及露国ニ取リテモ同様ナルヘシ満州国ノ承認ハ連盟規
約、九国条約、不戦条約ト抵触ストノ意見列国方面ニア
リ承認ノ結果ハ日本ヲ世界輿論ニ対シ道德上不利ナルノ
立場ニ置クヘキヲ虞ル自分等ハ輿論ヲ代表セルモノト考
フトノ趣旨ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ吾人ハ固ヨリ世界ノ
輿論ヲ無視シ又ハ条約ニ違反セントスルモノニ非サルモ
帝國ノ安全ヲ要求ス満州カ日本ノ国防ニ対シ有スル重要
性ハ支那乃至露国ノ夫レニ対スル関係ノ比ニ非スト答ヘ
タリ

四、「クロードル」ハ満州問題ノ解決ハ現実ヲ考慮ニ入レ
スシテ考フコトヲ得サル所満州国ノ存在ヲ基礎トシツツ
支那国トノ間ニ何等カノ bonds ヲ残ス一方日本ニ対シ

付証明ヲ得サレハ承認論ハ其根拠ヲ失フヘシ今日自分ハ
日本政府カ満州国承認ヲ決意セラレタリヤ否ヤ又若シ日
本政府カ他ノ解決案ヲ考ヘ居ラルレハ其レモ伺ヒタシト
述ヘタルニ付本大臣ハ其後研究ノ結果モ曩ニ大連ニ於テ
述ヘタル私見ヲ變更スヘキ何等ノ理由ヲ見出スコトヲ得
ス本問題ノ唯一ノ解決策ハ満州国ヲ承認スルニ在リ尤モ
若シ貴委員等ニ於テ他ノ「オルタナチブ」アラハ喜ンテ
伺フヘシト答ヘタルニ「リ」ハ芳沢大臣ハ日本ノ權益カ
擁護セラルルニ於テハ満州ニ於テ如何ナル政府存在スル
モ日本ハ大ナル関心ヲ有セスト述ヘラレタリト謂ヘルニ
付本大臣ハ右ハ満州国成立前ナルカ故ナルヘク満州国ノ
存在ハ現実ノ事実ニシテ之ニ依リ全般ノ事態一変セリ吾
人ハ此事実ヲ無視スルコトヲ得スト答ヘタリ

二、次ニ「リ」ハ満州国ノ範圍如何ヲ質問セルニ付本大臣
ハ満州国カ主張スル如ク東北四省及蒙古ヲ指スモ蒙古ノ
範圍ハ必スシモ一般ニ明確ニ了解セラレ居ラスト答ヘタ
ルニ「リ」ハ地理的區域カ明カナラサレハ承認ハ困難ナ
ルヘシト述ヘタル後承認ト九国条約トノ關係如何ヲ訊ネ
又満州ハ支那ノ一部ナルヲ以テ之カ「ステータス」ノ變

其ノ重大ナル利益ヲ擁護スル為十分ナル「コントロー
ル」ヲ与フルコトモ一案ナルヘシト述ヘタルニ付本大臣
ハ満州国ト支那トノ間ニ何等 bonds ヲ残セハ支那ハ之
ヲ利用シ更ニ將來ノ紛糾ノ原因トナルヘキコト必然ナル
ヘキヲ以テ唯一ノ方法ハ満州国ヲ承認シ支那モ満州国ヲ
善隣トシテ認ムルニ在リト述ヘタリ

五、「アルドロバンヂ」ハ満州国人ハ支那人種ニシテ満州
人種ハ右支那人種ノ中ニ融ケ込ミタルコト又日本ノ解決
案ニテハ満州ニ関スル日支ノ紛争ヲ軽減スルコトナカル
ヘキコト等ヲ指摘シ原状回復ハ日本ニ採リ不満足ナルコ
トハ承知スルモ全然原状回復トナラサル解決案アルヘク
支那政府代表者ハ極ク漠然ト旧制度ト異ナリタル「オー
トノミー」ヲ満州ニ与フルノ考案ヲ陳述シタリト述ヘタ
ルニ付本大臣ヨリ満州ニ多数ノ支那人種アルモ彼等ハ既
ニ満州国人ニシテ満州国ニ忠誠ナリト信ス要スルニ自分
ハ承認以外ノ他ノ「オルタナチブ」ヲ見出スヲ得ス支那
ノ反対アルモ致方ナシ然レ共支那モ結局ハ自ら既成ノ事
實ニ「アダプト」スル道ヲ見出スニ至ルヘシト述ヘ尚
「クロードル」ノ質問ニ答ヘ日本ハ満州国ヲ承認スルモ

機会均等主義ヲ尊重スルハ勿論ナル旨ヲ述ヘタリ

(一)

合第一五四九号 暗、極秘

十四日会談要旨

一、先ツ本大臣ヨリ満州国ノ地理的範圍ニ関シ三月十二日満州国ノ對外通告中ニ奉天、吉林、黒竜江、熱河、東省特別区並ニ蒙古各旗盟ノ民衆獨立政府ヲ組織シ云々トアリ右ノ中蒙古各旗盟ノ地理的範圍ハ必スシモ明確ナラス又山海關方面ニモ同様不明ノ個所アルコト事實ナルモ国境ノ不明確ナル例ハ他ニモ存スルコト例ヘハ「ヴェルサイユ」条約第八七条ニ依レハ波蘭ノ国境ハ未決定ナリシコトヲ指摘シ次イテ「リットン」ノ質問ニ応シ満州国ニ傭聘セラレ居ル日本人ハ日本政府ト何等關係ナキコトヲ説明セリ（現役軍人タル顧問等ニ付テハ追加説明ノ筈）

二、次ニ一般問題ニ移リ「リットン」ハ仮リニ日本政府ニ於テ前回承リタル方策ヲ決定セラルトシテ是カ実行ニ当リ手続乃至方法ノ問題アル処之ニ付テハ先ツ世界大戰ノ結果樹立セラレタル平和機關即チ国際連盟ノ存在ヲ考慮スヘキモノニシテ他ノ連盟國ハ右平和機關カ無視セラ

三、次テ各委員ノ議論ニ応酬シテ満州問題ハ此儘放任スル方解決ニ資スル所以ニテ今日紛糾ノ主要原因ハ支那カ連盟其ノ他第三者ノ干渉ヲ期待シ居ル点ニアリ自分ハ連盟カ good office ヲ用ヒ支那ニ対シ問題ノ解決ノ為此上連盟ニ倚頼スヘキモノニ非スト言ハレシコトヲ希望ス尚満州國ノ成立ハ現実ノ事態ナルヲ以テ此事實ヲ基礎トシテ判断セラルヘキモノト思考ス要スルニ前ニモ述ヘシ如ク満州問題ハ日本ノ生死ノ懸ル問題ニシテ同問題ハ日本ノ「ヴァイタル、インテレスト」及極東ノ恒久的平和ノ見地ヨリ解決セラルヘキモノナリ連盟モ単ニ規約ノミナラス現地ニ於ケル現実ノ必要（「ネセッシティー」）ヲ考慮ニ入ルヘキモノナリト述ヘ置キタリ

四、「リットン」ハ転シテ満州ニ如何ナル政府カ樹立セラルルモ日本側ニ於テ鉄道問題ニ関シ之ト協定ノ必要アルカ如キ処満州国政府ニ対シ何等提議セントスル意向アリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ旧政権時代ニ於テハ鉄道問題紛糾シタルカ満州国政府トナリテ困難ナル問題消滅シ満鉄ハ満州国側ノ希望ニ依リ技術者ヲ派遣シ四洮及其以北ノ線、吉長及吉敦線、吉林海竜奉天線ヲ經營シ又吉林省

レサルヘキコトヲ希望ス又前記日本ノ方策実行ハ少ク共三個ノ多数國間ノ条約ニ關係スル処日本カ右等条約上ノ義務ヲ一方的ニ解釈シ關係國側ト予メ相談スルコトナクシテ行動セラレサラムコト希望ニ堪エスト述ヘ米仏伊委員亦交々意見ヲ述ヘタルニ付本大臣ハ自分ハ国際連盟ノ平和機關トシテノ重要性ヲ認識スルニ吝カナルモノニ非ルモ連盟ハ未タ發達ノ途中ニアリ從テ總テノ國際問題ヲ規律スルコトヲ得スト思考ス又日本ハ条約上ノ義務ヲ無視セムトスルモノニ非ルモ満州國ノ承認ハ九國条約ニ抵触スルモノニ非スト認ム尚ホ日本ハ嘗テ満州問題ニ付支那ト交渉セムトスル態度ヲ執リタルモ満州國獨立後ハ最早右直接交渉ノ余地アリトモ思惟セスト述ヘタルニ「リ」其他ハ日本カ關係國側ト相談スルノ要アルコトヲ執拗ニ繰返セルニ付本大臣ハ満州問題ハ日本ノ「ヴァイタル、インテレスト」及自衛權ニ關係スルモノニシテ日本ハ該問題ニ付關係國ト相談セサルコトアルヘシ他ノ國モ同様ノ場合ニハ同様ノ態度ヲ執リ来レリト強調スルト共ニ日本ハ条約ヲ無視セムトスルモノニ非ス又条約違反ヲ敢テスルモノトモ思ハスト告ケ置キタリ

長ハ敦化ヨリ朝鮮國境ニ至ル線及長大線ノ建設ニ関シ金銭上及人員上ノ援助ヲ滿鉄ニ要求シ来レリ其他ノ線ニ付テモ滿鉄ハ満州國側ノ要求ニ応シ必要ノ援助ヲ与フヘク右ニ依リ鐵道網發達スルニ至ラハ同國ハ今日以上更ニ開發セラルルコトナルヘキ旨説明シタリ

五、最後ニ「リットン」ハ日本ハ一九〇五年ノ条約及一九一五年ノ条約ニ関シテ特定ノ問題ニ付満州國ト協定セラルル必要ナキヤト尋ネタルニ付満州國ハ既ニ既存条約ヲ尊重スルコトヲ声明シ居リ從テ満州國ト之等ノ条約ノ効力更新方ニ関シ協定ヲ為スコト一方法ナルヘキモ亦必スシモ右ノ如キ方法ヲ執ル必要ナカルヘシト述ヘタルニ「リットン」ハ更ニ右ニ条約中ノ条項ニシテ日支兩國間ニ何等殘存スヘキモノアリヤト尋ネタルニ付右ハ複雑ナル条約上ノ關係アルヲ以テ研究ノ上返事スヘキ旨答ヘ置キタリ

328

昭和7年7月16日 藤沼（庄平）警視總監より
山本内務大臣、内田外務大臣宛

經濟四団体の連盟調査委員に提出せるステートメントについて

外秘第一八八六号

昭和七年七月十六日

警視總監 藤沼 庄平

内務大臣 山本 達雄殿

外務大臣 内田 康哉殿

經濟四団体ノ連盟調査委員ニ提出セル

「ステートメント」ニ関スル件

管下所在、日本經濟連盟會、日本商工會議所、日本工業俱樂部、日華實業協會ノ四団体ハ這回入京中ノ連盟調査団一行ヲ招待シ、席上「ステートメント」ヲ調査委員ニ手交スヘク協議中ナリシカ、該委員一行ハ旅程ヲ繰上ケ急遽支那ニ向ケ退京スルコト、為リタルヲ以テ招待ヲ取止メ別添ノ如キ「ステートメント」ノ英訳ヲ一昨十四日、日本經濟連盟會理事高鳥誠一カ四団体ヲ代表シテ、リットン卿以下各委員五名ニ対シ手交セリ

右及申報候

(別紙)

「リットン」卿及連盟各調査委員ニ提出スヘキ「ステートメント」

へ、調査団一行ノ考慮ヲ促シタイト思フ次第デアリマス
現下兩國繋争ノ重点ハ申迄モナク滿州問題デアリマスカ之カ解決ニ当リテハ、吾々ハ已ニ設立サレタル新滿州国存在ノ事實ヲ無視スル如キ如何ナル解決ニモ全然同意スルコト能ハサルト共ニ、如斯ハ結局時局ヲ最悪ノ結果ニ導クモノテアルコトヲ強ク申述フルデアリマス

滿州国ノ現状ニ対シテハ種々ノ批判ヲ有セラル事ト思フモ、新國家力創設ノ困難ニ堪へ、庶政力整頓サル迄ニハ相当ノ時日ヲ要スルノハ当然デアリマシテ、吾々ハ新國家力將來其ノ豊富ナル資源ヲ利用シテ充分國家トシテ存立シ得ヘキ事實ヲ有スルモノト思惟シ居リ、現ニ新國家力確固タル決意ノ下ニ徐々ニ健全ナル発達ヲ遂ケツツアルニ対シ多大ノ希望ヲ懸ケ同情ト援助ヲ惜マナイノデアリマス
將來同地方カ新國家統制ノ下ニ支那本部ト異リ、継続的ニ不統一無秩序ノ状態ニ置カルコトナク、治安カ維持セラレ、平和ト繁榮ノ安住地トナルヘキコトカ東洋平和ノ為メニモ絶対ニ必要テアルト信スルノデアリマス

上海事件ニ関シテハ曩ニ同地友好國代表者斡旋ノ下ニ、日支兩軍ノ間ニ幸ニ停戰協定成立シ、次テ吾政府ハ全力ヲ

調査団一行各位カ長日月ニ互リ、極東平和ノ為メ重要ナル使命ヲ帶ヒテ、支那並ニ滿州各地ヲ旅行サレ視察ヲ遂ケラレタル事ヲ深く感謝スル次第デアリマス

日支兩國紛争ノ平和的根柢解決、其他支那現状ニ関シテハ、前回ニモ意見ヲ申述ヘマシタカ、支那カ過去二十年余間内亂殆ント絶ユル時ナク、軍閥依然トシテ各地ニ割拠シ、共匪及土匪ハ到ル処ニ瀰漫シテ良民ハ塗炭ノ苦ニ陥リ、事實上國家的機構ヲ形成セス、之カ為メ産業ハ振ハス、交通ハ阻礙サレ、通商貿易及ヒ企業ハ非常ニ惡影響ヲ受ケツツアル実状ハ、今回具サニ視察ヲ遂ケラレタル事ト思ヒマス

支那カ如斯継続的ニ不統一無秩序ノ状態ニアルコトハ、實ニ極東ノ平和カ常ニ脅カサルノミナラス、現下世界ヲ拳ケテ悩ミツツアル經濟不況ヲ一層深カラシムルモノデアリマシテ、之ヲ現状ノ儘ニ放任スル事ハ、日支兩國ノミナラス、世界ノ為メニモ、又人道上ヨリモ不幸デアリマシテ、世界カ協力シテ、之カ再建ニ援助ヲ与フル事カ必要デアルト思ヒマス

要之支那現状改善カ極東平和ノ根本対策テアルコトヲ申述

内地ニ帰還セシメタノデアリマスカ、同地方ニ於ケル排日運動ノ風潮ハ今尚終熄ヲ見サル現状ハ非常ニ遺憾デアリマス

吾々ハ本年二月ノ連盟理事會決議ニ由ル円卓會議カ速カニ開始サレ、之ニ依リ上海付近ノ恒久的安全平和カ實現サルンコトヲ切ニ望ム次第デアリマス

一九三二年七月

日本經濟連盟會

日本商工會議所

日本工業俱樂部

日華實業協會

329

昭和七年七月十九日

在濟南西田總領事より
内田外務大臣宛(電報)

顧維鈞の濟南における新聞記者に対する談話
について

濟南 7月19日後発
本省 7月19日後着

第一八五号

調査団一行出迎ノ為十八日北平ヨリ当地通過赴青セシ顧維

鈞ハ停車中往訪ノ中国新聞記者ノ質問ニ対シ日本ニ於ケル調査団ハ同国朝野ノ態度強硬ナルヲ看取シ日本ハ武力ヲ以テ占領セル東北ハ何等一般輿論ヲ顧慮スルノ要ナク斷シテ拋棄セサル意ヲ表示シタルモノノ如キモ吾人トシテハ現有領土ヲ寸尺ト雖拋棄スル能ハサレハ更ニ準備ヲ嚴重ニシ方ヲ講シテ回収セサルヘカラス其方法ハ多種アランモ外交ト軍事ハ政府ノ責任ニシテ經濟ノ制裁ハ全国民衆ノ与フル処ナレハ大イニ民意ヲ喚起シ相手方ノ注意ヲ促スヘク換言セハ即チ日貨抵制ヲ実行スルニアリ日本ノ五月中ニ於ケル對華貿易ハ東南各省百分ノ十五ヲ減シタルニ河北ハ却テ百分ノ二十六ヲ増加セリ之日本カ東北ヲ占領後河北ノ日貨購買力盛トナリシ結果ニシテ調査団モ此点ニ付中国人カ東北回収ニ充分注意セサルヤニ疑ヘルカ如シ右ニハ全国一致スヘキハ勿論ナルモ商界同胞ハ目前ノ小利ヲ顧ミテ日貨ヲ販賣スルモ一旦国家滅亡セハ生命財産ノ安全ヲ保シ難ク要スルニ救國ハ自己ヲ救フニアルヲ思ハサルヘカラス現在武力ニ於テハ諸國ニ敵セサレハ将来ニ俟ツヘキモ經濟方面ニ付テハ諸君ハ一致シテ民衆ノ思想ヲ領導シ相手方ノ覺悟ヲ促スト共ニ諸國ヲシテ中国自身自救ヲ計レルヲ知ラシメ然ル

支ヨリ上海へ転報アリ度シ

支、北平、青島、奉天、天津、南京へ転電セリ

331 昭和7年7月21日

※在北平矢野参事官より
内田外務大臣宛(電報)

満州国承認問題に関するアルドロバンディの

内話について

北平 7月21日後発
本省 7月21日後着

第三七五号(暗)

吉田ヨリ

第二六七号

十四日「アルドロバンディ」日光ニテノ内話為念左ノ通報
告ス

一、日本ハ満州国承認問題ニ関シ国内ノ事情ヲ考慮スルヲ
要ス可シ

二、連盟ニテ支那調査委員ノ報告ヲ討議シタル後日本政府
ニ対シ各種意見ヲ聴キタルモ考慮ノ上承認ヲ為ス事ニ決
セリトテ独立ヲ為サハ止ムヲ得サルモ連盟ニテノ討議以
前ニ之ヲ為サハ世界ハ日本ニ反対ス可シ

後他人ノ援助ヲ希望スヘシト述ヘ露支復交問題ニ付テハ目
下進行中ナルモ慎重考慮ヲ要スヘシト答ヘ熱河、山海関方
面ノ状況ニ関シテハ目下平靜ニシテ平津方面モ亦事無ク有
ラユル謠言ハ皆々相手方カ我國民ノ人心ヲ擾乱セシメント
スル謠言ニ外ナラスト答ヘタル趣ナリ、御参考迄
支ヨリ上海へ転報アリタシ
支、北平、青島、奉天、天津、南京、漢口、広東へ転電
シ、芝罘へ暗送セリ

330

昭和7年7月20日

在濟南西田総領事より
内田外務大臣宛(電報)

連盟調査委員一行の濟南着および北平行につ
いて

濟南 7月20日前発
本省 7月20日後着

第一八七号

連盟調査団一行ハ本二十日午前七時当地著「リットン」卿
仏国代表「クロードル」及顧維鈞ハ直ニ飛行機ニテ其ノ他
ノ委員等ハ特別列車ニテ午前八時四十分当地発孰レモ北平
ニ向ヘリ

三、日本ハ承認ヲ延期スルトモ其間ハ満州ニ於テ此迄通り
ノ行動ヲ取り得ルニ付差支無キ次第ナリ

四、本件ハ「リットン」ノ面目問題ニテモアリ

五、日本議會十二月ニ開会ナサハ其時迄承認ノ猶予アラハ
連盟ノ會議モ濟ミ居リ便利ナラン委員ハ日本政府ニ二回
訪問セシモ南京ヘハ一回ニ付支那政府ハ我々ヲ招キ居レ
リ若シ日本カ満州ヲ承認セサル事ナラハ委員ハ南京ト協
議シ得可キ委員ノ考慮ス可キ二大問題ハ満州事変及「ボ
イコット」ナリ過日帰平ノ節汪精衛ハ宗主權ノ事ヲ語ラ
サリシモ此話或ハ其他ニ何トカ便法(独語ノ様ニ inter-
national control ト小声ニテ言ヒタリ)ヲ講シ得可キモ
日本カ承認ヲ決行ス可シトナラハ南京トハ交渉ノ仕様無
シ

六、若貴下カ内密ニ日本ハ満州國ヲ当分承認セスト自分ニ
御通知呉レハ私見ニ過キサルモ委員ハ南京ト交渉シ得
可シト思フ

支、長春、奉天、連盟へ転電セリ

332

昭和7年7月21日

※在北平矢野参事官より
内田外務大臣宛(電報)

満州国承認問題に関するマッコイとの内話について

北平 7月21日後発
本省 7月22日前着

第三七八号（暗、極秘）

吉田ヨリ

第二七〇号

十九日「マッコイ」トノ内話左ノ通

「マ」、満州問題ニ関シ世間ハ事実ヲ知ラス知リテノ上ナラハ宜シキモ然ラスシテ日本カ独断ニテ処置セハ説明ノ元来着クコトニテモ世間ハ承服セサラン Time can heal many things.....日本ハ承認ヲ遅クスルコト然ルヘシ委員ハ日本ハ strategic railway ヲ持ツヘキモノトセリ本使、該鉄道トハ

「マ」、吉敦線ノコトナリ併シ日本カ荒木陸相芳沢外相及先年田中大将カ語リシ通り現在ノ満州政策ヲ継続スルナラハ「ソビエット」トノ戦争ハ免カレサルヘク支那ハ蘇ニ結フヘク是最モ危険ナリ

本使、日本カ軍略上ノ鉄道ヲ左右シ得ヘクハ蘇連邦ハ日本

スルハ撞着ナリト難シタルヲ以テ本使ハ之ヲ説明シ置ケリ公使、南京、奉天、長春、連盟ヘ転電セリ

333 昭和7年7月21日

※在北平矢野参事官より
内田外務大臣宛（電報）

満州問題に関するカット・アンジェリノの内話について

北平 7月21日後発
本省 7月22日前着

第三八〇号（暗、極秘）

吉田ヨリ第二七二号

二十一日「カット・アンジェリ」ノ内話左ノ通

一、満州ニ於テ最モ緊要ナルハ治安維持ナリ現在ノ日本兵力ヲ以テシテハ義勇軍匪賊ヲ速ニ平定スルコト難カランサスレハ善民ハ満州国ヲ有難カラス張学良ノ悪政ヲ慕フニ至ラン軍費大ナリト雖モ大兵ヲ以テ速ニ鎮定ヲ為スコト必要ナラン

二、余ハ報告書中ニハ南京政府ノ革命外交カ英ヲシテ一九二七年蘇連邦ヲシテ一九二九年行動セシメ続ヒテ昨年日支事件ヲ起シタルモノニシテ之皆南京政府ノ責任ナル旨ヲ書

ニ戦ヲ挑ムコトヲ得サルヘク從テ其ノ危険無カラシ

「マ」、錦州ニテ西師団長ヨリ地図ニ就キ義勇軍等活動ノ状況ヲ聞キタルカ之等ニ対シ日本カ勘忍シ切レサルニ至ルヲ惧ル「アルサス、ローレンヌ」ニテ独逸ハ善政ヲ布キシモ隣接仏国側ヨリ常ニ指嗾アリ人民ハ仏国ニ結合ヲ欲シタリ「トレンチノ」亦然リ関東州ニテ日本ハ見事ナル政治ヲ行ヘルモ之ニ拘ラス在留支那人ハ中国ノ配下ニ居ルヲ希望スルコトヲ詰リ満州国ハ独立スル為人民ハ中華民國トノ結合ヲ欲シ面倒ノ絶間無カルヘシ日本ハ九国条約ニ依リ他ノ締約国ト協議ヲ為ス義務アリ（之ニ対シ本使弁駁セリ）

尚「マッコイ」ハ米国ノ玖馬墨西哥ヘノ出兵ハ其ノ国ノ希望ニ依リシモノナルコトヲ述ヘシニ付巴奈馬如何ト反問シ日本ノ鉄道守備兵駐屯ハ条約上ノ權利ニ基クモノナルコト及鉄道付属地ノ範圍ハ巴奈馬運河付属地ノ範圍ト異リ治安維持上大差アルヲ述ヘシニ「マ」ハ日本ハ満鉄付属地ヲ沿線両側各五哩ニ拡張スル条約ヲ結ハハ可ナラント苦笑ヲ以テセリ將又同將軍ハ日本ハ日支条約ヲ支那カ一方的ニ解釈スルヲ不都合トシ乍ラ九国条約ノ解釈ヲ日本一箇ニテ決定セント

入レタシ尤モ最近数十年ノ間諸外国ハ強ヒテ支那ノ門戸ヲ開カシメ各種ノ特權ヲ得タルモノナレハ支那人ヲ惡シ様ニ言ヒ過キサルヲ良シトス

三、支那若シ満州ヲ失ハハ復讐ノ為必ス蘇連邦ト提携シ共產党ノ勢力加ハリ世界ノ平和ニ大危険ヲ生スヘシ之ニ対シ本使ハ共匪ノ問題ハ支那ニトリ満州事變ヨリ重大ナリ日本ハ物質的ニモ之迄支那ヲ援助シ一方ニ借款額ニテモ日本ヨリノ分最大ニシテ将来ト雖モ日本ハ支那本部ニ対シ助力ヲ為スニ躊躇セサルヘシ而シテ仮ニ満州問題カ全然支那ノ希望通りニ解決シタリトスルモ共匪ノ危険ノ切迫ハ其速度ヲ異ニスル外全然同一ナリト弁明シタルニ同氏ハ首肯セリ支、南京、奉天、長春ヘ転電セリ

334

昭和7年7月22日

内田外務大臣より
※在北平矢野参事官宛（電報）

連盟調査委員への談話要旨送付について

別電 同日内田外務大臣より在北平矢野参事官宛第一五一号

外務大臣の調査委員への談話要旨

第一五〇号（暗）

吉田大使へ

別電第一五一号ノ本大臣談話要旨ニ別電第一五二号ノ「カ
バーリング、ノート」ヲ付シ貴参与委員ヨリ調査委員ニ交
付セラレ度(別電「ナキスト」念ノ為メ郵送セリ)別電ハ
共ニ寿府、米、支、奉天へ転電シ寿府ヨシテ士ヲ除ク在歐
各大使ニ転電シ支ヲシテ南京ニ奉天ヲシテ長春ニ転報セシ
メタリ

(別電)

第一五一号

1. Some time ago at Dairen I had occasion to state frankly to your Excellencies my personal views based upon my experience in connection with Manchuria, acquired in varied capacities during the past quarter of a century. Today as Minister for Foreign Affairs I can discover no ground whatsoever for modifying those views on any essential point.

2. All the international disputes which have occurred in recent years in the Far East may be chiefly attributed in the first place to the fact that China, disunited and

ration for, or the prevention of, damage to their interests was effectuated by foreign Powers upon their own account.

4. Japan, as a country more intimately connected with China, both historically and geographically, than any other, and possessing by far the greatest interests in China, has had to suffer more than other countries from the anomalous situation in China as I described above. As far as Japan was concerned, she naturally hoped to see China experience a rebirth and come to realise her true rôle in maintaining the peace of the Far East. For more than twenty years, especially as a sequel to the Conference of Washington, we have exercised the greatest patience and self-control, but conditions in China have failed to show any trace of improvement; on the contrary, they grew notably worse. It was at a moment when the feeling of our people was running high in face of the ever-increasing Chinese provocations, that in Manchuria, Japan's first bulwark, where, staking

destitute of control, does not taken as a whole, constitute a duly organized state, and in the second place to the revolutionary foreign policy of the Nationalist Government, strongly influenced as it is by communist doctrine imported from abroad. And it is not Japan alone, but all the Powers which possess important interests in China, that must suffer from such state of affairs now existing in China.

3. Unfortunately extreme difficulties are encountered in any attempt to repair the injuries thus sustained by the various Powers, through any appeal to the Covenant of the League of Nations, the Nine Power Treaty, the Anti-War Pact, or any other existing treaty intended for the maintenance of international peace. In fact, it has been the practice among the principal Powers to rely upon their own resources whenever their rights and interests in China were actually, or were in danger of being, seriously impaired. The recent history of China is full of examples of such cases, in which repa-

the fortunes of our country, we fought two great wars with China and with Russia in order to repel their aggressions and where our country's vital interests on the Continent of Asia are centered, the sudden incident of September 18 occurred.

We had no other course than to take decisive measures of self-defence.

5. As a consequence of Japan's action, the power of General Chang Hsueh-liang in Manchuria was extinguished. Influential people of Manchuria, who had long chafed under the misrule of the Changs and were opposed to their policy of dragging Manchuria into the turmoil of Chinese civil war south of the Great Wall, seized the opportunity to set up an independent state.

Manchuria is a country quite apart from China proper, geographically and in psychological characteristics. The population, though mostly of Chinese origin, is composed largely of those Chinese, who, driven out

of their homes in China proper by famine and flood, by tyranny and oppression, fled to Manchuria seeking to start a new life in that land where they could enjoy comparative security and abundance owing to Japan's vigilance and enterprise. Moreover, historically viewed, Manchuria has never constituted a purely integral part of China. Especially during recent decades has it been demonstrated on innumerable occasions that the authority of no government in China proper extended to Manchuria.

The founding of Manchukuo was only an outcome of the subterranean revolutionary movement of many years' standing which happened to come to the surface as a sequel to Japan's actions of self-defence, and which proved successful owing to the peculiar characteristics which separate Manchuria from China proper. The independence of Manchuria, should, therefore, be regarded as essentially a phenomenon of the political disintegration in China.

would not consent to a plan which would utterly defeat their ideal and aspirations.

I believe that any plan which might be formulated, in which no account is taken of the existence of Manchukuo as an international State, will fail to bring order and stability to Manchuria and tranquility to the Far East.

7. The recognition of a new State or Government is not a matter for the exercise of the choice or fancy of other States. It is a step imposed upon them by the necessities of international intercourse. It is rightly felt intolerable that a country should be compelled for any length of time to regard the government which actually controls its nearest neighbour as devoid of all substantial authority and title, and as incompetent to represent it abroad. As Manchukuo is the outcome of a local movement of self-determination on the part of the inhabitants, who have undoubtedly been much oppressed in the past, as above observed, there can be

6. There may be more than one plan for the solution of the Manchurian problem. The Japanese Government believe that the problem should be solved with the aim in view of ensuring the security and stability of Manchuria as well as the permanent peace of the Far East, and that at all events the mistake should not be made of rendering the situation uncertain and so perpetuating occasions for future disputes. It would be intolerable if, as the result of any temporizing measure of expediency or compromise, there should be resuscitated in Manchuria conditions analogous to those that prevailed there prior to the incident of 18 September last. In that sense, I cannot agree to any plan which would contemplate the inauguration of the rule of an anti-Japanese and disorganized China over Manchuria.

Moreover, the authorities of Manchukuo, who have repeatedly declared their intention completely to separate themselves from the corrupt and foul politics of China proper and to set up an honest and able government,

no question, in recognizing its existence, of any inconsistency with the Nine-Power Treaty of Washington, whose provisions Japan is most anxious to observe. The object of the Treaty was not to exempt that region from the usual and normal operation of the Law of Nations, which legitimizes *de facto* governments, nor to perpetuate an integrity of discord. It would be directly contrary to its terms to hold that China must forever seeke in anarchy and that no part of the ancient Chinese territory can ever be allowed to erect itself as an island of peace and security, but must be forced down into the morass of discord and disorganization by eight civilized Powers. In short, the Nine Power Treaty does not forbid Chinese in any part of China to establish of their own free will an independent state, and it does not, therefore, constitute violation of the Treaty to accord recognition to a new state so founded.

There is no doubt that Manchukuo, if given a fair and untrammelled opportunity by Japan and other

Powers, will quickly develop into a strong and stable nation, and so give a much needed lead to the establishment of strong and stable government in China.

335 昭和7年7月23日 児玉(友雄)朝鮮軍参謀長より
真崎参謀次長宛(電報)

満州国問題に関するヤングの觀察について

7月23日午後1時50分発
7月24日午前0時38分着

朝参報第五二七号(其一二) 秘

ヤングト同行セル総督府通訳官カ對話中ノ觀察次ノ如シ、
参考迄

- 一、張学良、顧維鈞等ニ非常ナル同情ヲ有シ総テノ問題ヲ彼等ニ有利ナル如ク解釈シツツアリ
- 二、満州国ニハ大反対ニシテ彼等ハ日本ノ傀儡ニシテ案山子ニ過キスト解シアリ
- 三、日本ノ満州ニ対スル決意ノ堅固ナルハ如何トモナシ難ク内田外相新渡戸博士間ノ聰明ナル人迄カ如此決心ヲナスニ至リシハ遺憾ナリ
- 四、朝鮮人ハ自立ノ能力無キ国民ナルヲ以テ鮮人ヲ満州ニ

第一五七号(暗)

本省 7月23日後9時発

満州国応聘現役軍人ニ関シ連盟調査員ニ

回答ノ件

吉田大使へ

十四日本大臣連盟委員ト会談ノ際満州国応聘現役軍人ニ関スル説明ヲ保留シ置キタル処本件本大臣回答トシテ別電第一五八号ノ通り委員側ニ御伝達アリタシ

(別電)

第一五八号(暗)

本省 7月23日後8時発

満州国応聘現役軍人ニ関シ連盟調査員ニ

回答ノ件

The Japanese officers on the Active List of the Army, whose services have been engaged by Manchukuo, attend to the task of effecting liaison between the Manchukuo Army and the Japanese Army in cases where it is necessary for the two Armies to co-operate for the attainment of the purpose of restoring peace

移住セシムルハ徒ニ日満両国間ニ面倒ナル問題ヲ惹起スルヲ以テ何等ノ利害無シ

五、日本人ヲ満州ニ移住セシメントスルハ日本人ノ国民性ニ鑑ミ失敗スルコト明瞭ニシテ徒ニ金ヲ費スノミナリ

六、日本ハ武力ヲ以テ満州ヲ獲得シタルモ将来ハ満州人殊ニ支那本部ヨリ移住シタル支那人ニヨリ経済的勢力ヲ把握セラルルコトハ明瞭ニシテ宛モ今日迄ノ満州付属地ニ於ケルト同様ナルヘシ

七、満州国ハ支那本部ヨリノ移民ヲ制限シツツアルモ之ハ大ナル誤ナリ、宜シク山東方面其他方面ヨリ随意ニ移民シ得ル如クセサルヘカラス、又スクスルコトカ満州地方ノ発達スル要素ナリ

336 昭和7年7月23日

内田外務大臣より
※在北平矢野参事官宛(電報)

満州国応聘現役軍人に関シ連盟調査委員への回答について

別電 同日内田外務大臣より在北平矢野参事官宛第一

五八号

右回答について

and order, and of subjugating bandits and other lawless elements, in Manchukuo. For the said purpose they also assist in the organization and training of Manchukuo Army. They receive their salaries from Manchukuo, and are under its Army command. (With the exception of these military officers on the Active List, none of the Japanese who are at present in the service of the Manchukuo Government belong to the Government Services of Japan. All these Japanese have as private individuals accepted the offer of appointments from the Manchukuo Government and have no relation with the Japanese Government.)

337 昭和7年7月25日

児玉朝鮮軍参謀長より
真崎参謀次長宛(電報)

ヤングの間島地方における朝鮮人問題調査に ついて

7月25日午後0時1分発
7月25日午後1時0分着

朝参報第五三三三号 秘

ヤングハ二十一日午前間島総領事ト会見シ間島ニ於ケル鮮人ニ対スル日本ノ政策、鮮人ノ日本官憲ニ対スル態度、間島ヲ将来特殊地域トスル考アルヤ又之ヲ必要トスルヤ、間島協約ニ依ル鮮人ノ土地所有權ノ解釈、鮮人ノ土地所有面積等ニ就キ質問シ総領事ハ之ニ対シ歴史的事実及統計的數字ヲ挙ケテ説明セリ、午後ハ鮮人代表者ヨリ陳情セルカヤングハ被害者ヲ調査シ尚必要ナルモノハ写真ヲ撮影セリ尚彼ハ予定ヲ變更シ局子街行ヲ中止シ支那側及派遣隊トモ会见スルコトナク二十三日午前十一時竜井発飛行機ニテ長春ニ向ヘリ

338 昭和7年7月26日 内田外務大臣より
※在北平矢野参事官宛(電報)

満州国の領域について

第一六四号(暗)

満州国領域ニ関スル件

吉田大使へ

十四日調査委員ト会见ノ際委員側ノ表示セル希望ニ基キ満州国側ニ同国領土ノ境界ヲ問合セ置キタル処同国領域ハ南

カ御承知ナルカ

本使、特派大使ニ付知レルモ(トテ北平宛電合第一六〇四号ヲ説明ス)其ノ他ノ事ハ新聞記事以外何等知ラス

「ア」、然ラハ右方針ハ唯確定セルモノニテ未タ実施スルニ至ラサル訳ナルカ

本使、内田大臣ヨリ委員ニ説明アリシ通り政府ハ研究中ナルモ未タ決定セシコトハ特派大使以外ノ事ハ何等公報無シ(トテ同大使ノ官制及先例ヲ説明セリ)

「ア」、武藤大将ハ軍司令官ニハ既ニ任命アリシカ
本使、八月ハ陸軍ノ大異動期ニ付任命アルカモ知レサルモ此ノ任命アリシトテ同時ニ必スシモ統一方針ノ実行セラルルモノトハ思ハス

「ア」、外相ノ言ハレタル通り右ハ国内問題ナルモ何等御聞込ノ節ハ御通報ヲ請フ参議府ニハ水町、筑紫等日本ノ名士三人入ルヘシトノコトナルカ事実カ

本使、之モ予ハ未タ知ラス併シ参議府ニ外国人ノ入ルヘキコトハ満州国概観ニテ御承知ナラン

「ア」、然リ

本使、御感想如何

ハ長城ヲ以テ境トシ所屬蒙古旗盟ハ呼倫貝爾、哲里木盟、昭烏達、卓索圖ノ各盟及付屬旗(右各盟ハ新国家成立当時ノ東北四省中ニ包含セラレ居ルモノナルカ新国家設立ト同時ニ其辺境地帯ヲ以テ興安省ヲ新設セリ)ナル旨回答アリタルニ付右調査委員側ニ通告相成度
右渡大佐ヘモ御伝ヘアリタシ
以上陸軍側ト打合済

339 昭和7年8月2日 内田外務大臣宛(電報)
※在北平矢野参事官より

満州国承認問題その他に關シアースとの内談について

北平 8月2日後発
本省 8月3日前着

第四〇四号(暗)

吉田ヨリ

第二八五号

「リットン」ノ命ニ依ルトテ「アース」二日来訪内談要旨
左ノ通

「ア」、満州ニ於ケル四頭政治ノ統一及大使任命問題ニ付何

「ア」、右様ノ人物カ満州国ニ入ラハ現在満州ニ在ル日本人トハ大分様子異ナルヘキモ他方之等ノ名士ハ現在ノ人ヨリモ日本ノ政策ヲ熟知シ居ルニ付日滿ノ關係ハ密接ヲ加フルニ至ルヘシ

本使、彼等ハ日本ノ為働クニ非ス満州国ノ為働クナリ

「ア」、予ハ両国ノ關係ハ英国、埃及ノ如クナルヘシト思フ予ハ満州国ハ独立国ト云フヨリモ保護国トナルヘシト思フ本使、日本ハ之ヲ保護国トセントスルニ非ス之ヲ一国家トシテ承認スルハ外相説明ノ通りナリ

「ア」、日本ハ承認ヲ与ヘサルヘカラサルニ付之ヲ為スヘキモ其ノ際種々ノ点ニ付条約締結其ノ他ノ方法ニ依リ満州国ヨリ保障ヲ得テ仮令法律的ニハ保護国ト称シ得ラレサルヘキモ事実上ハ斯ノ如キモノトナラント思フ右参議任命ニ関シ公報アラハ御通報ヲ請フ

本使、諾、満州国建国小史ニ対スル御感想如何

「ア」、説明佳ナリ

公使、奉天、連盟ヘ転電セリ

公使ヨリ南京へ、奉天ヨリ長春へ転報アリ度シ

340 昭和7年8月(8)日 ※在北平中山書記官より
内田外務大臣宛(電報)

連盟調査団報告書提出問題に関するリットン
との会談について

第四二五号

吉田ヨリ

第三〇一号

七日「リットン」トノ内話要領左ノ通

「リ」今朝「コツツエ」へ寿府「デュフル」来電ニ依レ
ハ連盟事務局ハ通常総会九月二十五日ヨリ十月半迄トシ
各国代表ノ便宜ヲ計リ最後報告書審議ノ為引続キ臨時会
ヲ同月末頃迄開クコトヲ考ヘ居レリ

本使、右ハ我等ニ取り非常ニ不便ト存ス第一ニ該書類ハ完
成前内示ヲ受クルカ

「リ」否

本使、完了セハ一部渡サルルカ

「リ」否理事会ニ提出スヘキモノナリ

本使、欧州ヨリ極東ヘ書類ノ送付ニハ少クトモ二週間ヲ要
ス故ニ委員ハ北平出発前日支参与員ニ右交付方承認ヲ寿

341 昭和7年8月11日 ※在北平中山書記官より
内田外務大臣宛(電報)

連盟調査団最終報告書に関する委員長代理ア
ルドロバンディとの内話について

北平 8月11日後発
本省 8月12日前着

第四四九号(暗、極秘)

吉田ヨリ

第三一〇号

十日委員長代理「アルドロバンディ」伯トノ内話左ノ通

「ア」日支参与員ヨリ提出ノ印刷物ヲ最終報告書ノ付属書
トシ度キニ付テハ其中相談スヘシ

「本使」委員ハ勧告ヲ記載スル積リナルカ

「ア」自分ハ全会一致ニテ日支問題ヲ永久ニ解決スル方法
ヲ考ヘ度シ両国ヲ強制セサル案ヲ得テ橋ヲ架シ度シ

「本使」日本カ渡ラントスルモ渡リ得サル現実ヲ離レシ案
ハ承諾シ得ス

「ア」夫レハ支那モ同様ナリ

「本使」故ニ両国トモ渡リ得サル橋ナラハ架ササルニ如カ

府ヨリ得ヘキモノト思フ

「リ」然リ

本使、第二ニ若シ支那側ノミノ言分ヲ聴キ我ヲ無視シタル
場合ニハ我方ハ駁論スヘク其無視ノ程度ニ依リ反駁書作
成ニモ時ヲ要スヘシ

「リ」委員ハ報告ヲ為シ又解決方法ヲ研究スルニハ時日ヲ
要ス

本使、得ラレタル命令ハ事情ノ報告ニアリト思料ス解決法
提出ノ命令アルカ

「リ」然リ

本使、無シト思フ

「リ」理事会カ解決スルヲ委員カ助クヘキモノナリ

本使、外相トノ御会見ノ感想如何

「リ」(蒼白ノ顔俄ニ真赤)余ハ之ヲ忘レントシ居リシナ
リ

本使、卿ノ対日感情変ラサルヲ望ム

「リ」請フ安ンセヨ

支、長春、奉天、連盟ヘ転電セリ

342 昭和7年8月16日 ※在北平中山書記官より
内田外務大臣宛(電報)

連盟調査団最終報告書の審議に関しパスチュ
ホフの内話について

ス連盟ヲ満州ニテ活動セシムル御意見ナルカ例ヘハ或種ノ
職權ヲ与ヘントスルカ
「ア」否(ト云ヒ乍ラ空虚ナル回答ヲ為シタリ)
「本使」斯ル案ハ日本ノ受諾セサル処ナリ
十一日同伯ノ内話ノ大要左ノ通
「本使」満州国ノ存在ヲ否認スルカ如キ報告ハ到底我方ノ
応セサル処ナリ

「ア」新聞所報ニ依レハ日本ハ二三年間後ニ之ヲ承認スル
トノコトナリ貴見如何

「本使」右ハ全然虚報ナリ何時ヤルヤモ知レス
蘇連邦ハ哈爾濱ニテ委員ノ査証ニ応スル旨回答アリタリ
支、奉天、長春ヘ転電セリ

第四八〇号

北平 8月16日後発
本省 8月17日前着

吉田ヨリ

第三二二号

「パスチホフ」ハ塩崎ニ対シ内密ノ話トシテ最近寿府ヨリ「ハース」ニ対シ調査委員会ノ最終報告書ノ討議ハ其連盟ニ於テ受領シタル後約一ヶ月後ナルヘキ旨通報アリタルヲ以テ恐ラクハ通常總會ノ会期終末頃ニ審議セラルルモノト推測セラル右ハ通常總會ノ継続トシテ行ハルルモノノ如ク特ニ臨時總會開催方ニ付当方ニハ情報ナシ而シテ七月一日規約第十二条第二項ノ期間延長ニ関スル決議ノ趣旨ヨリスルモ（同決議末項参照）最終報告ハ十月中旬過ヨリ同月末前迄ニ理事会又ハ總會ノ議ニ上ルモノト思料セラルト語レリ尚「ハース」ハ右寿府ヨリノ通報云々ノ点ニ付言明ヲ避ケ居ルモ報告書ハ九月中旬過ニハ寿府ニ到着スル予定ナルヲ以テ印刷等ノ為一週間ヲ要ストシテ其後研究ノ為三週間位ノ間隔ヲ置キテ審議セラルコトナルヘシト述ヘ居レリ支、奉天、長春、連盟ニ転電セリ

343

昭和7年8月(17)日 在米出淵大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

連盟調査団に関するキャッスル國務次官の談

第四八四号(暗)

吉田ヨリ

第三二四号

当地新聞ハ顧維鈞接近者ノ言トシテ顧ハ来月五日上海出帆ノ船ニテ委員一行ト共ニ渡欧シ連盟總會ニ出席スルコトトナル可シト説キ居レルカ伊太利委員ニハ浦塩經由スルヤモ知レスト告ケシ由尚最近顧ハ委員ニ提出セル二十数箇ノ覚書ノ結論ニ該当スヘキ総括的覚書ノ作成ニ着手シ居ル趣ナリ
公使ニ転電セリ

345

昭和7年8月(20)日 内田外務大臣ヨリ
※在北平中山書記官宛(電報)

連盟調査団の所定任務に關し日本政府の見解

表明について

第一九七号

リットン委員会所定任務ニ関スル件

一、帝国政府ハ貴委員会ニ於テ其ノ連盟理事会ニ対スル報

話について

第四二二号(暗)

十六日「キャスル」ニ面会ノ際滿州問題ニ付所見ヲ交換シタルニ先方ヨリ連盟調査委員会ニ言及シ委員会調査進行ノ模様等ニ付テハ各方面ニ於ケル米國官憲ヨリ報道ニ接シ居ル処「マッコイ」少将ハ連盟ヨリ派遣セラレ居ルニ顧ミ米國政府ニ於テ其行動ヲ指揮シ居ルカ如キ事實絶対ニ之無シト説明スルト共ニ世上該委員会ハ連盟ニ向テ日支問題解決上何等カ「レコメンデイション」ヲ為スヘシト認メ居ル向アルカ如キモ米國政府ノ承知スル処ニテハ委員会ハ連盟ノ参考ニ供スル為事實ニ関スル報告ヲ為スニ止メ建築カマシキコトハ絶対ニ為ササル方針ナリト確信スル旨ヲ内話セリ何等御参考迄ニ
英ニ転電シ英ヲシテ土ヲ除ク在歐各大使及巴里並寿府連盟ニ転電セシム

344

昭和7年8月18日 在北平中山書記官ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

顧維鈞の渡欧說その他動靜について

告中ニ日支紛争ノ解決ニ関スル「レコメンデイション」乃至「サゼッジョン」等ヲ掲載セムトスル意向ヲ有シ居ラルルヤノ感シヲ有スル処果シテ然リトセハ帝國政府ハ此ノ際貴委員会ノ所定任務ニ対スル帝國政府ノ見解ヲ表明シ以テ貴委員会ノ注意ヲ喚起スルノ要アリト思考スルモノナリ

二、我方カ支那調査委員会ノ設置ヲ提議シタルハ理事会ヲシテ支那ニ関スル正確ナル智識ヲ得シムル為支那全般ニ瀰漫セル特殊且異常ノ事態ヲ調査セシムルコトヲ目的トセルモノニシテ前記ノ如キ勧告等ヲ作成提出セシムルヲ目的トセルモノニ非ス右ノ趣旨ハ當時我方ニ於テ連盟側ニ対シ充分説明シ置キタル所ナルノミナラス又現ニ客年十一月二十一日ノ理事会ニ於ケル該委員会設置方提議ニ関スル芳沢理事ノ演説中ニモ

So as to be able to pursue our efforts usefully on the basis of Article 11 of the Covenant and of the resolution of September 30th, it is essential that we should have a clear view of realities, and I think that everyone will agree in desiring to obtain impartial infor-

mation on the situation. Accordingly, the Japanese Government considers that the essential condition of a fundamental solution of the question is a real knowledge of the situation as a whole, both in Manchuria and in China itself. It is for this reason that it proposes that the League of Nations should send a Commission of Enquiry to the spot.

トアリ又支那調査委員会ノ設置並ニ其ノ所定任務ヲ定メタル客年十二月十日ノ決議ヲ見ルモ第五項ニ「国際関係ニ影響ヲ及ホス日支両国間ノ平和又ハ平和ノ基礎タル良好ナル了解ヲ攪乱セムトスル虞アル一切ノ事情ニ関シ実地ニ就キ調査ヲ遂ケ理事会ニ報告センカ為五名ヨリ成ル委員会ヲ任命スルニ決ス」トアルノミニテ何レモ勧告等ヲ作成提出スヘキ旨定メ居ラサル次第ナリ

三、抑モ調査委員会ノ活動力其ノ所定任務ノ範圍ヲ出ツル能ハサルコト例ヘハ所定調査事項以外ニ互リ調査スルヲ得サルコト又ハ勧告等ノ作成ヲ命セラレ居ラサル場合ニハ之ヲ作成提出スル能ハサルコトハ法理上当然ナルノミナラス連盟ノ設置セル此ノ種調査委員会ノ前例ニ徴スル

モ疑ナキ所ナリ例ヘハ一九三一年一月二十二日理事会ニ於テ「リベリヤ」奴隸問題調査委員会ノ報告ヲ審議シタル際「リベリヤ」国代表ハ該報告カ自国ノ一般政策(the policy of my Government)ニ論及シ居ル点ヲ以テ越権行為ナリトシ吾人ハ自国ノ政策ノ論議セラルルニ同意セスト述ヘタルコトアリ(別紙第一号参照)又前記委員会一九三〇年十月ノ阿片問題調査委員会、一九二五年十月ノ希勃紛争実地調査委員会及一九二四年九月ノ「トルコ、イラク」国境画定問題調査委員会ノ報告中ニハ何レモ勧告ヲ包含シ居ル処右諸委員会ハ何レモ其ノ所定任務ニ特ニ勧告ヲ提出スヘキ旨定メ居ルヲ以テ之ヲ提出セルモノナリ要スルニ調査委員会カ勧告ヲ提出セル場合ハ何レモ其ノ所定任務中ニ特ニ勧告ノ作成提出方ヲ定メ居ル次第ニシテ支那調査委員会ノ如ク其ノ所定任務中ニ勧告ノ作成ヲ提出スヘキ旨特ニ定メ居ラサル場合ニハ右ノ如キ権限ヲ有セサルモノナルコト明ナリ

四、即チ支那調査委員会ノ任務ハ其ノ設置ノ趣旨ニ顧ミルモ亦其ノ所定任務ニ徴スルモ単ニ連盟ノ支那問題審議ニ資スル為事実ヲ調査報告スルニ在リ自ラ日支紛争ノ解決

ニ関スル勧告等ヲ作成提出スルカ如キ権限ヲ有スルモノニ非サルナリ

(編注) 本電は、吉田大使宛第六〇号、八月二十日、第一九七号と推定される。

346 昭和7年8月24日

内田外務大臣より
在上海矢野代理公使、
在奉天森島総領事代理他宛(電報)

連盟調査団報告書作成に対し申入れについて

別電

同日内田外務大臣より在上海矢野代理公使、在奉天森島総領事代理他宛合第一七二七号

右申入れ案

合第一七二六号(暗)

北平宛往電第一九六号ニ関シ

吉田大使ヨリ此ノ際北平宛往電第一九七号其ノ儘ヲ申入ルルコト面白カラサルニ付之ニ代ヘ別電合第一七二七号(北

平来電第五〇一号)ノ如キ申入ヲナスコト可然旨稟申ノ次第アリタルニ対シ北平宛往電第二一〇一号及第二一〇二号ノ通リ回電シタル次第ナリ

(三四七文書)

(三四七文書)

支ヨリ南京ニ奉天ヨリ長春ニ又巴里連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ニ転報アリ度

北平ニ転電シ吉田大使ニ転達セシム

(編注) 本電報、別電は連盟事務局、米国にも發電された。

(別電)

合第一七二七号(暗)

北平発本大臣宛電報第五〇一号

No. 501 (暗)

From Yoshida.

No. 335

⁽¹⁾ J'ai l'honneur de vous accuser réception de votre lettre en date du 20 août, par laquelle vous voulez bien me demander entre autres chose, si le Gouvernement japonais désire proposer à l'étude de la Commission, avant la clôture de ses travaux quelque question spéciale qui n'aurait pas été soulevée par les documents remis par mes soins.

Je vous remercie de cette communication, et tout en réservant pour mon Gouvernement le droit d'user encore éventuellement de cette faculté jusqu'au moment de l'achèvement des travaux de la Commission, je suis

chargé aujourd'hui de vous transmettre certaines informations, susceptibles d'aider la Commission dans la rédaction finale de son rapport et d'attirer votre attention sur certains points que mon Gouvernement pense n'y avoir pas été négligés.

1. Le Gouvernement japonais a adressé le 16 août au Secrétaire général de la Société des Nations la note suivante :

"The Japanese Empire has long recognized the necessity for the creation of an appropriate organ to coordinate the various Japanese institutions in Manchuria. It seeks to unite all Japanese institutions and organizations such as the Consular service, the general administrations of the Kwantung Forces under a single head. Therefore General Muto has been named Commander-in-Chief of the Kwantung Forces and simultaneously Ambassador Extraordinary and Minister Plenipotentiary on a special mission to Manchuria and named at the same time Governor General of the Kwantung Peninsula.

The nomination is based on the Imperial Decree of 1917. General Muto is sent to Manchuria to settle necessary affairs such as the coordination of the work of the Japanese Consulates in Manchuria, taking measures in accordance with the real state of affairs in Manchuria at the present time. He carries no credentials to any Government the nomination being made by one country unilaterally".

⁽²⁾ 2. Un traité fondamental, concernant l'établissement des relations amicales entre le Japon et le Mandchoukouo, est en cours de négociations. Ce traité, qui comportera reconnaissance formelle du nouvel Etat, sera après ratification, présenté à l'enregistrement au Secrétariat de la Société des Nations.

Les principales questions que les négociations actuelles ont en vue de régler et que le traité, en rappelant les principes de la porte ouverte et de l'égale opportunité, consacrera, seront les suivantes :

Reconnaissance par le Mandchoukouo des droits de

jure et de facto et des intérêts que le Japon possède sur son territoire ;

Maintien de la paix et de l'ordre sur le territoire du Mandchoukouo ;

Dispositions visant la sécurité extérieure et toute agression éventuelle.

Mon Gouvernement a estimé utile de porter ces indications à la connaissance de la Commission, afin qu'elle puisse les utiliser pour son rapport et éviter de présenter au Conseil sur ces points certaines considérations qui risqueraient de ne plus être en harmonie avec la situation, car le Gouvernement japonais espère qu'après la conclusion de ce traité, un certain nombre des sujets de différends entre la Chine et le Japon auront disparu et qu'aussi certains des intérêts vitaux de Japon auront été reconnus.

3. Il n'a certainement pas échappé à la Commission combien les événements récents de la Chine sont venus illustrer la thèse maintes fois présentée par Japon au

sujet de l'instabilité du pouvoir politique en Chine. Le Gouvernement du Japon ne doute pas que la Commission exposera dans son rapport ces faits, ainsi que sans doute les progrès communistes au cours de la dernière campagne et la constitution d'une cour suprême autonome à Canton, constitution qui accentue le courant de désintégration de la soi-disant unité chinoise.

J'ose espérer que ces informations ou indications permettront à la Commission de présenter au Conseil suprême un rapport dans lequel, sans avoir, comme il avait été entendu devant le Conseil de la S. d. N., à formuler de recommandation, elle pourra du moins constater le dernier état de la situation au moment de l'achèvement de ses travaux.

347 昭和7年8月24日 内田外務大臣より
※在北平中山書記官宛(電報)

連盟調査団の注意喚起のため日本政府の見解
申入れについて

別電 同日内田外務大臣より在北平中山書記官宛第一

二、右小官ノ意見ニハ反對ヲ述フル向多ク委員ハ「サジエ

スシヨ」ノ為ス義務ナキモ権利ハアリ若シ今何等カノ方法ニテ「サジェスシヨ」ヲ為ササレハ寿府ニテハ東洋ノ事情ニ全然通セサル議論ヲ為シ其見地ヨリ勧告ヲ為スナラシ之ヲ防クコト必要ナリトノ意見多シ

三、調査団カ如何ナル勧告ヲ為スヤハ情報ヲ取ルコト殆ト不可能ナルカ或委員ノ極秘トシテ洩ラス所ニ依レハ日本ト支那トノ間ニ種々ノ問題ニ付話合ヲ為サシムル為 Series of conferences ヲ勧告スルナラン（尤モ大体ソウ云フ意味トナルニハアラサルカト云フ程度ノモノナリ）

四、報告書ヨリ勧告ヲ除カシムル方法ニ付最モ親日的ナル「エキスパート」ノ小官ニ語ル所ニ依レハ此ノ際日支両国間ニ満州ニ於ケル何等カノ問題ニ付交渉ヲ開始スルヲ得ハ十二月十日ノ決議ニ従ヒ此ノ際勧告ヲ為サストモ可ナリトノ意見ニ委員会ヲシテ傾ケシムルコトヲ得ヘント言ヘリ此ノ点ニ関シ有吉公使^(明)ノ上海行ハ重大視セラレ居レリ

五、委員会ノ報告書ハ大体終了ニ近ツキ目下結論ハ「リットン」ト「ハース」トニテ書キ居レルカ如シ右カ委員会ノ同意ヲ得レハ出発スル筈ナリ出発ハ九月二日ヨリ多少延期セラルヘントノ意見多シ

吉田大使へ

貴電第三五二号ニ関シ

石本事件等ニ付回答セラルト同時ニ熱河ハ満州国ノ一部ニシテ之カ治安維持ハ満州国ノ内政問題ナルト共ニ同方面ノ治安擾乱セラルル場合ハ満蒙全般ニ対シ重大ナル影響アルヲ以テ目下事実上満蒙ノ治安維持ニ付重要ナル役目ヲ務メ居ル我方トシテハ熱河ノ事態ニ関シ無関心ナルヲ得サルモノアル点ヲ委員側ニ対シ印象セシムル様申入レ置カレタシ

350 昭和7年8月30日 ※在南京上村総領事代理より
内田外務大臣宛（電報）

顧維鈞、連盟調査団の委員と同行渡欧について

第六〇二号（暗）

矢野ヨリ

三十日外交部員ノ内話ニ依レハ顧維鈞ハ顔徳慶、錢泰、王卓然、戈公振四名同伴九月五日上海発伊国船ニテ連盟調査

南京 8月30日後発
本省 8月31日後着

六、報告書ハ西比利亞經由ニテ何人カカ寿府ニ持行キ九月下旬夫カ提出セラルル頃日支両国ニ正式ニ交付セラルルコトナルヘシ日本ハ距離遠キニ付早ク示サレテハ如何ト言ヒタルニ或委員ハ日本ニ示スニ於テハ新聞ニモ出ツルナラシカ其保障ナキ以上示シ得スト答ヘタリ

七、報告書カ寿府ニ着カハ九月ノ總會ヨリ議論ヲ始メントスルナラントノ説アリ
或親日ノ委員ハ今ヨリ斯ルコトナカラシムル様方法ヲ講スルコト必要ナルヘント注意シ呉レタリ
小官ハ右印象ヲ得タルニ付二十六日発直接帰京スヘク詳細ハ帰京ノ上申上クヘシ

349 昭和7年8月26日 ※在北平中山書記官宛（電報）
内田外務大臣より

熱河問題に關シ連盟調査委員に対する申入れについて

第二〇六号 暗、至急 本省 8月26日後8時10分発
熱河問題ニ関シ調査委員ニ対スル申入ノ件

団ノ委員ト同行渡欧スル由支、北平へ転電セリ

351 昭和7年8月31日 ※在北平中山書記官より
内田外務大臣宛（電報）

連盟調査委員等の渡欧状況について

北平 8月31日前発
本省 8月31日前着

第五四〇号（暗）

吉田ヨリ

第三六〇号

英、米、伊三委員ハ四日朝飛行機ニテ上海ニ赴キ五日発ノ「ガンジ」号ニテ渡欧、仏、獨兩委員ハ四日当地発五日ノ塘沽発カさん丸ニテ大連經由十二日満州里発ノ列車ニ乗込ムコトナレリ報告書ハ仏獨委員一行携行ノ由ナルニ付寿府到着ハ予定ヨリ約一週間遅レテ二十四日頃トナルヘシ尚「ハース」及「ペルト」ハ二週間後発西比利亞經由「パスチュホフ」ハ書類整理ノ後之ヲ携行シ九月中旬上海発ノ船ニテ印度洋經由帰欧ノ趣ナリ
支、奉天、長春、哈爾賓、連盟へ転電セリ

352

昭和7年8月31日

※在北平中山書記官より
内田外務大臣宛(電報)

吉田参与委員の独仏委員見送りおよび帰朝に
ついて

第五四三三号(暗)

吉田ヨリ

第三六三三号

往電第三六〇〇号ニ関シ
(三五二文書)

本使ハ独仏委員ト同行五日塘沽発ノ船ニテ大連ニ向ヒ同地
ニテ一行ヲ見送りタル上帰朝ノ予定
奉天、長春へ転電セリ

353

昭和7年9月4日

在北平中山書記官より
内田外務大臣宛(電報)

吉田参与委員ら一行の北平出発について

北平 9月4日発
本省 9月5日前着

第五六六号

往電第五四三三号ニ関シ
(三五二文書)

吉田大使、久保田大佐、澄田中佐、中沢、木村、四日当地
ヲ出発セリ

354

昭和7年9月14日

内田外務大臣より
在パリ沢田連盟事務局長、在米国出
淵大使他宛(電報)

リットン報告書の内容に關し内報について

別電

同日内田外務大臣より在パリ沢田連盟事務局
長、在米国出淵大使他宛合第一八三三三号、合第
一八三四号、合第一八三三五号
リットン報告書の内容について

合第一八三二二号

「リットン」報告書ノ内容ニ付我参与委員側ニ於テ内密ニ
探知シ得タル情報別電第一八三三三号第一八三四号及第一八
三五号ノ通りナルカ右ハ報告書発表迄絶対極秘扱トシ外部
ニ漏ルコトナキ様特ニ御留意相成度

本電宛先 支、米、巴里連盟

別電ト共ニ巴里連盟ヨリ英独伊白ニ転電シ仏ニ転報アリタ
シ

(別電)

(一)

合第一八三三三号 暗、極秘

報告書ノ構成ハ(一)支那ノ歴史的關係(二)満州ノ歴史的關係(三)
満州ニ於ケル日支紛争問題(四)九月十八日事変及其後ノ軍事
行動(五)上海事件(六)満州国(七)「ボイコット」(八)日支間ノ経済
的關係(九)現在ノ事態ニ対スル検討(十)結論ノ十章ヨリ成リ右
ノ外付属トシテ専門家ノ起草シタル鉄道問題(ハイアム)
満州ニ於ケル移民問題(デンネリー) 満州ニ於ケル日本ノ
経済的利益(デンネリー)「ボイコット」(ヘルト) 満州ニ
於ケル財政問題(ドルフマン) 満州ニ於ケル貨幣問題(ド
ルフマン) 満州ニ於ケル商租権問題(ヤング) 朝鮮人問題
(ヤング)ノ八個ノ調査付加シ居レル趣ナリ

(二)

合第一八三四号 暗、極秘

(注)
(森書記官持参ノ書類)

(編注)

本電の内容見当らず。

森喬は連盟調査委員参与委員随員である。

(三)

合第一八三五号 暗、極秘

(北平発本大臣宛電報第五七二二号)

第五七二二号(至急極秘)

森ヨリ

絶対ニ外部ニ知ラサル約束ノ下ニ(電報ヲ出ササル事サ
ヘ希望セリ)最終報告書ノ主要部ニ関シ左ノ通内報ヲ得タ
リ

一、第九章ノ表題ハ Principles of Settlements ニテ其ノ
内容ハ大体左ノ如シ

(A) General explanation of the complexity of the
problem.

(B) Description of conditions of Manchuria which
unparalleled elsewhere.

(C) Diversity of interpretation of the case by both
parties.

(D) It is not possible to come back to stipulation
but the present situation is unsatisfactory too. The
Commission suggests to the Council ten principles of
solution of the conflict:

1. Compatibility must be safeguarded between Japan and China.
2. Some consideration of Russian interests must be borne in mind.
3. Conformity with the international treaties.
4. Recognition of Japanese interests in Manchuria.
5. Establishment of new treaties between Japan and China. (Non-aggression, mutual assistance, commercial, conciliation etc.)
6. Effective provisions of the settlement of disputes. (Board of Conciliation, Court of Arbitration.)
7. Autonomy of Manchuria.
8. Internal security against external aggression. (Gendarmes organized in international way with foreign advisers.)
9. Encouragement of economical approachments between Japan and China.
10. International co-operation to the Chinese reconstruction.

⑤ 一' 緒十華へ Preface には It is not the function of the Commission to submit directly to Japan and China the recommendation
と致す次は十二月十日の決議文の「第一條」に用ひ
Commission gives only an illustration of the way (definite conclusion へ理事會は直接に對し) と雖も次に even if the recognition of Manchukuo takes place, she thinks that its work will have some value and the Council will find certain suggestion which can be helpful for its recommendation. For this reasons, the Commission bearing in mind the international treaties has not overlooked the existing reality. It is to the Council whatever may the eventualities and in the interest for the world peace to decide how the suggestions may be applied and extended to events which are changing every day
と雖も次に conclusion へは十條の原則を以て要する
⑥ The advisory conference must be summoned as soon as possible. This has to be composed of representatives

- of Japan, China and Manchurian population.
- (十條 conference へ direct negotiation へは在り in case of failure the points on which agreement was not reached, have to be referred to the Council へは在り)
- 而して十條 advisory conference には致す次は左の原則を以て居る
1. Chinese Government have to make a declaration of autonomy of Manchuria (international guarantee must be given to this declaration.)

2. Chino-Japanese new treaties must be signed.
3. Provisions to be made for the demilitarization, for the protection of minorities, for some means for the Manchurian population to express its wishes, for the settlement of railway questions, for the Board of Conciliation, for the Court of Arbitration, for the rights of extraterritoriality, for the land lease settlement, for foreign Councilors of which the substantial part must be Japanese.